

秋田県文化財調査報告書第275集

家の下遺跡(2)

旧石器時代編

-県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ-

1998・3

秋田県教育委員会

いえのした 家の下遺跡(2)

旧石器時代編

-県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ-

1998・3

秋田県教育委員会



旧石器出土範囲全景（南→）



構造土検出状況（L S・LT 67周辺、南→）



接合個體 1



接合個體 2



接合個體 4



接合個體 7



接合個體 13



接合個體 14



接合個體 21



接合個體 29



ナイフ形石器（A群Ⅰ・Ⅱ類）



ナイフ形石器（A群Ⅲ類）



ナイフ形石器（A群VI類）



ナイフ形石器（B群）

序

秋田県には、豊かな自然に育まれた文化遺産が数多く残されております。これら先人の大いなる足跡は、埋蔵文化財として大地に刻まれ、現代に生きる我々のもとに伝えられております。

近年、県内では道路建設、は場整備等の開発事業が進められておりますが、それに伴い多くの市町村において埋蔵文化財の発掘調査が行われております。

平成6年度、琴丘町ではは場整備事業が実施されましたが、その対象区域内に家の下遺跡が含まれていたため、県教育委員会では工事に先立って発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することにしました。

その結果、縄文時代の集落跡とともに2万年を遡る旧石器時代の石器が見つかりました。1万8千点を超す石器群は、多くの母岩から連続的に生産されたもので、氷河期における寒冷の痕跡を残したままの状況で出土しております。

旧石器の整理作業は、平成7年度から開始し、本年度まで継続してまいりました。この作業を通じて旧石器時代の石器生産の技術的基盤が明らかになり、当時の人々の知恵を垣間見ることができました。

本書はこの成果をまとめたものであります、文化財に対する御理解と歴史研究の上でいささかでも役立てば幸いと存じます。

最後に、発掘調査から本書の刊行にいたるまでご指導、ご協力下さった秋田県農政部山本農林事務所・琴丘町教育委員会ならびに関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺 清

例　　言

- 1 本書は県営ほ場整備事業琴丘地区に係る家の下遺跡の発掘調査報告書の第2冊目である。
- 2 本書では主として旧石器時代の調査の記録を報告するものである。
- 3 本書の挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1989年版』を使用した。
- 4 本書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行50,000分の1「森岳」である。
- 5 第230図に使用した秋田市下堤G遺跡の平面・垂直分布図は秋田市教育委員会から提供を受けた座標値を基に、作図したものである。
- 6 本遺跡の調査ならびに報告書刊行にあたり、次の方々よりご指導、ご教示をいただいた。記して謝意を表する。

藤本幸雄 栗山知士 麻生 優 畑 宏明 麻柄一志 山下秀樹 岡本東三 白石浩之 麻生敏隆
小菅将夫 立木宏明 永瀬福男 大野憲司 菅原俊行 西谷 隆 安田忠市 和泉昭一 木村将来
(順不同)
- 7 『第4章 自然科学分析』はパリノ・サーヴェイ株式会社に業務委託した分析報告書を収録したものである。
- 8 本書の執筆・編集は高橋 学および五十嵐一治がおこなった。
- 9 本遺跡調査において出土した資料、整理作業で生じた各種のデータ類は全て秋田県埋蔵文化財センターで一括保管してある。活用されたい。

凡　　例

- 1 本書に収載した遺跡実測図に付した方位は磁北である。
- 2 土層註記は基本層位にローマ数字を用いた。
- 3 旧石器に係る凡例は次のとおりであり、ここに掲載以外の事項は、47頁にまとめている。
 - ① 挿図・石器属性表の遺物番号は取り上げ番号をそのまま使用している。なお10,001～は第IV層出土であり、30,001～はI～III層、縄文期遺構、層位不明などIV層以外での出土である。
 - ② 挿図・石器属性表の器種の略号は以下に示すとおりである。

K A	ナイフ形石器A群	K B	ナイフ形石器B群
K C	ナイフ形石器C群	E S	搔器
S S	削器	G R	彫器
N O	抉入石器	P T	礫器
B	石刃	R F	二次加工剝片
K B O F . .	小形貝殻状剝片	C O	石核
F	剥片	C	碎片
G C	削片	P E	礫

目 次

卷頭図版

序

例言

凡例

目次

第1章 はじめに	1
第1節 発掘調査に至るまで	1
第2節 調査要項	1
第2章 遺跡の概要	2
第1節 遺跡の位置と立地	2
第2節 歴史的環境	2
第3節 調査・整理の方法と経過	8
第3章 旧石器時代の調査の記録	10
第1節 基本層序	10
第2節 出土遺物の概要	13
1 遺物の出土状況	13
2 出土遺物	17
3 個体分析	46
第4章 自然科学的分析	295
第5章 まとめ	303

挿 図 目 次

第1図 家の下遺跡と周辺の遺跡	3	第26図 出土石器 (18) 磨器 (敲石・磨石)	39
第2図 遺跡周辺の表層地質図	3	第27図 出土石器 (19) 写真 (1)	40
第3図 秋田県における旧石器時代遺跡一覧	7	第28図 出土石器 (20) 写真 (2)	41
第4図 遺跡調査区と旧石器器種図	11	第29図 出土石器 (21) 亨穴 (3)	42
第5図 基本土層図	11	第30図 出土石器 (22) 写真 (4)	43
第6図 旧石器分布図	14	第31図 出土石器 (23) 亨穴 (5)	44
第7図 ブロック図	15	第32図 出土石器 (24) 写真 (6)	45
第8図 構造土平面・断面図	16	第33図 石器展開図凡例	47
第9図 出土石器 (1) ナイフ形石器A群 (1)	22	第34図 個体別資料 (1) 個体1 (1)	48
第10図 出土石器 (2) ナイフ形石器A群 (2)	23	第35図 個体別資料 (2) 個体1 (2)	49
第11図 出土石器 (3) ナイフ形石器A群 (3)	24	第36図 個体別資料 (3) 個体1 (3)	50
第12図 出土石器 (4) ナイフ形石器A群 (4)	25	第37図 個体別資料 (4) 個体1 (4)	51
第13図 出土石器 (5) ナイフ形石器A群 (5)	26	第38図 個体別資料 (5) 個体1 (5)	52
第14図 出土石器 (6) ナイフ形石器A群 (6)・B群 (1)	27	第39図 個体別資料 (6) 個体1 (6)	53
第15図 出土石器 (7) ナイフ形石器B群 (2)	28	第40図 個体別資料 (7) 個体1 (7)	54
第16図 出土石器 (8) ナイフ形石器B群 (3)	29	第41図 個体別資料 (8) 個体1 (8)	55
第17図 出土石器 (9) ナイフ形石器B群 (4)	30	第42図 個体別資料 (9) 個体1 (9)	56
第18図 出土石器 (10) ナイフ形石器B群 (5), 小形貝殻状剥片 (1)	31	第43図 個体別資料 (10) 個体1 (10)	57
第19図 出土石器 (11) 小形貝殻状剥片 (2)	32	第44図 個体別資料 (11) 個体1 (11)	58
第20図 出土石器 (12) 小形貝殻状剥片 (3)	33	第45図 個体別資料 (12) 個体1 (12)	59
第21図 出土石器 (13) 小形貝殻状剥片 (4)	34	第46図 個体別資料 (13) 個体1 (13)	60
第22図 出土石器 (14) 搗器、削器 (1)	35	第47図 個体別資料 (14) 個体1 (14)	61
第23図 出土石器 (15) 削器 (2)、彫器、抉入石器	36	第48図 個体別資料 (15) 個体1 (15)	62
第24図 出土石器 (16) 石刃	37	第49図 個体別資料 (16) 個体1 (16)	63
第25図 出土石器 (17) 石核	38	第50図 個体別資料 (17) 個体1 (17)	64

第 51 回	個体別資料 (18)	個体 1 (18)	65	第 116 回	個体別資料 (83)	個体 14 (4)	134
第 52 回	個体別資料 (19)	個体 1 (19)	66	第 117 回	個体別資料 (84)	個体 15 (1)	135
第 53 回	個体別資料 (20)	個体 1 (20)	67	第 118 回	個体別資料 (85)	個体 15 (2)	136
第 54 回	個体別資料 (21)	個体 1 (21)	68	第 119 回	個体別資料 (86)	個体 16 (1)	137
第 55 回	個体別資料 (22)	個体 1 (22)	69	第 120 回	個体別資料 (87)	個体 16 (2)	138
第 56 回	個体別資料 (23)	個体 1 (23)	70	第 121 回	個体別資料 (88)	個体 17 (1)	140
第 57 回	個体別資料 (24)	個体 2 (1)	72	第 122 回	個体別資料 (89)	個体 17 (2)	141
第 58 回	個体別資料 (25)	個体 2 (2)	73	第 123 回	個体別資料 (90)	個体 18 (1)	142
第 59 回	個体別資料 (26)	個体 2 (3)	74	第 124 回	個体別資料 (91)	個体 18 (2)	143
第 60 回	個体別資料 (27)	個体 2 (4)	75	第 125 回	個体別資料 (92)	個体 19 (1)	144
第 61 回	個体別資料 (28)	個体 2 (5)	76	第 126 回	個体別資料 (93)	個体 19 (2)	145
第 62 回	個体別資料 (29)	個体 2 (6)	77	第 127 回	個体別資料 (94)	個体 19 (3)	146
第 63 回	個体別資料 (30)	個体 2 (7)	78	第 128 回	個体別資料 (95)	個体 20 (1)	148
第 64 回	個体別資料 (31)	個体 2 (8)	79	第 129 回	個体別資料 (96)	個体 20 (2)	149
第 65 回	個体別資料 (32)	個体 2 (9)	80	第 130 回	個体別資料 (97)	個体 21 (1)	150
第 66 回	個体別資料 (33)	個体 2 (10)	81	第 131 回	個体別資料 (98)	個体 21 (2)	151
第 67 回	個体別資料 (34)	個体 2 (11)	82	第 132 回	個体別資料 (99)	個体 21 (3)	152
第 68 回	個体別資料 (35)	個体 2 (12)	83	第 133 回	個体別資料 (100)	個体 21 (4)	153
第 69 回	個体別資料 (36)	個体 2 (13)	84	第 134 回	個体別資料 (101)	個体 21 (5)	154
第 70 回	個体別資料 (37)	個体 2 (14)	85	第 135 回	個体別資料 (102)	個体 21 (6)	155
第 71 回	個体別資料 (38)	個体 2 (15)	86	第 136 回	個体別資料 (103)	個体 22 (1)	156
第 72 回	個体別資料 (39)	個体 2 (16)	87	第 137 回	個体別資料 (104)	個体 22 (2)	157
第 73 回	個体別資料 (40)	個体 3 (1)	88	第 138 回	個体別資料 (105)	個体 22 (3)	158
第 74 回	個体別資料 (41)	個体 3 (2)	89	第 139 回	個体別資料 (106)	個体 23 (1)	160
第 75 回	個体別資料 (42)	個体 3 (3)	90	第 140 回	個体別資料 (107)	個体 23 (2)	161
第 76 回	個体別資料 (43)	個体 4 (1)	91	第 141 回	個体別資料 (108)	個体 23 (3)	162
第 77 回	個体別資料 (44)	個体 4 (2)	92	第 142 回	個体別資料 (109)	個体 24 (1)	163
第 78 回	個体別資料 (45)	個体 4 (3)	93	第 143 回	個体別資料 (110)	個体 24 (2)	164
第 79 回	個体別資料 (46)	個体 4 (3)	94	第 144 回	個体別資料 (111)	個体 24 (3)	165
第 80 回	個体別資料 (47)	個体 4 (4)	95	第 145 回	個体別資料 (112)	個体 25 (1)	166
第 81 回	個体別資料 (48)	個体 5 (1)	96	第 146 回	個体別資料 (113)	個体 25 (2)	167
第 82 回	個体別資料 (49)	個体 5 (2)	97	第 147 回	個体別資料 (114)	個体 27 (1)	168
第 83 回	個体別資料 (50)	個体 5 (3)	98	第 148 回	個体別資料 (115)	個体 27 (2)	169
第 84 回	個体別資料 (51)	個体 5 (4)	99	第 149 回	個体別資料 (116)	個体 27 (3)	170
第 85 回	個体別資料 (52)	個体 6 (1)	101	第 150 回	個体別資料 (117)	個体 28 (1)	172
第 86 回	個体別資料 (53)	個体 6 (2)	102	第 151 回	個体別資料 (118)	個体 28 (2)	173
第 87 回	個体別資料 (54)	個体 6 (3)	103	第 152 回	個体別資料 (119)	個体 28 (3)	174
第 88 回	個体別資料 (55)	個体 6 (4)	104	第 153 回	個体別資料 (120)	個体 28 (4)	175
第 89 回	個体別資料 (56)	個体 7 (1)	105	第 154 回	個体別資料 (121)	個体 29 (1)	176
第 90 回	個体別資料 (57)	個体 7 (2)	106	第 155 回	個体別資料 (122)	個体 29 (2)	177
第 91 回	個体別資料 (58)	個体 7 (3)	107	第 156 回	個体別資料 (123)	個体 29 (3)	178
第 92 回	個体別資料 (59)	個体 7 (4)	108	第 157 回	個体別資料 (124)	個体 29 (4)	179
第 93 回	個体別資料 (60)	個体 8 (1)	109	第 158 回	個体別資料 (125)	個体 29 (5)	180
第 94 回	個体別資料 (61)	個体 8 (2)	110	第 159 回	個体別資料 (126)	個体 29 (6)	181
第 95 回	個体別資料 (62)	個体 8 (3)	111	第 160 回	個体別資料 (127)	個体 30 (1)	182
第 96 回	個体別資料 (63)	個体 9 (1)	112	第 161 回	個体別資料 (128)	個体 30 (2)	183
第 97 回	個体別資料 (64)	個体 9 (2)	113	第 162 回	個体別資料 (129)	個体 30 (3)	184
第 98 回	個体別資料 (65)	個体 10 (1)	115	第 163 回	個体別資料 (130)	個体 30 (4)	185
第 99 回	個体別資料 (66)	個体 10 (2)	116	第 164 回	個体別資料 (131)	個体 31 (1)	187
第 100 回	個体別資料 (67)	個体 10 (3)	117	第 165 回	個体別資料 (132)	個体 31 (2)	188
第 101 回	個体別資料 (68)	個体 11 (1)	118	第 166 回	個体別資料 (133)	個体 31 (3)	189
第 102 回	個体別資料 (69)	個体 11 (2)	119	第 167 回	個体別資料 (134)	個体 32 (1)	190
第 103 回	個体別資料 (70)	個体 11 (3)	120	第 168 回	個体別資料 (135)	個体 32 (2)	191
第 104 回	個体別資料 (71)	個体 11 (4)	121	第 169 回	個体別資料 (136)	個体 33 (1)	192
第 105 回	個体別資料 (72)	個体 11 (5)	122	第 170 回	個体別資料 (137)	個体 33 (2)	193
第 106 回	個体別資料 (73)	個体 12 (1)	123	第 171 回	個体別資料 (138)	個体 34 (1)	194
第 107 回	個体別資料 (74)	個体 12 (2)	124	第 172 回	個体別資料 (139)	個体 34 (2)	195
第 108 回	個体別資料 (75)	個体 12 (3)	125	第 173 回	個体別資料 (140)	個体 35 (1)	197
第 109 回	個体別資料 (76)	個体 12 (4)	126	第 174 回	個体別資料 (141)	個体 35 (2)	198
第 110 回	個体別資料 (77)	個体 13 (1)	128	第 175 回	個体別資料 (142)	個体 36 · 37 ·	199
第 111 回	個体別資料 (78)	個体 13 (2)	129	第 176 回	個体別資料 (143)	個体 38 ·	200
第 112 回	個体別資料 (79)	個体 13 (3)	130	第 177 回	個体別資料 (144)	個体 39 · 40 ·	202
第 113 回	個体別資料 (80)	個体 14 (1)	131	第 178 回	個体別資料 (145)	個体 41 · 42 ·	203
第 114 回	個体別資料 (81)	個体 14 (2)	132	第 179 回	個体別資料 (146)	個体 43 · 44 ·	204
第 115 回	個体別資料 (82)	個体 14 (3)	133	第 180 回	個体別資料 (147)	個体 36 · 44 分布圖	205

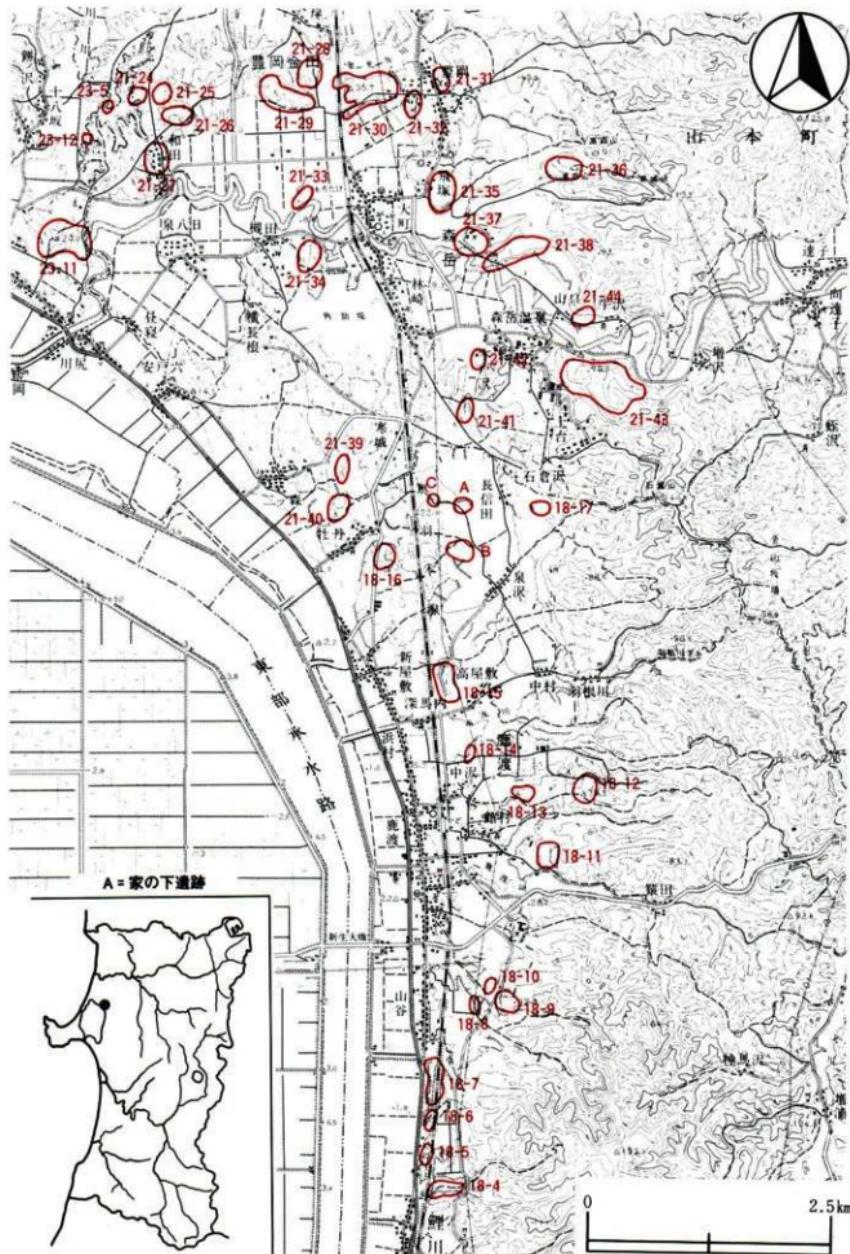
表目次

第181図	個体別資料 (148) 個体45-----	207
第182図	個体別資料 (149) 個体46-----	208
第183図	個体別資料 (150) 個体47・49-----	209
第184図	個体別資料 (151) 個体48-----	210
第185図	個体別資料 (152) 個体50-----	212
第186図	個体別資料 (153) 個体51~53-----	213
第187図	個体別資料 (154) 個体54・56-----	215
第188図	個体別資料 (155) 個体56~55-----	217
第189図	個体別資料 (156) 個体57-----	218
第190図	個体別資料 (157) 個体58-----	219
第191図	個体別資料 (158) 個体59・61-----	220
第192図	個体別資料 (159) 個体62-----	222
第193図	個体別資料 (160) 個体63・64-----	223
第194図	個体別資料 (161) 個体65・66-----	224
第195図	個体別資料 (162) 個体67・68-----	226
第196図	個体別資料 (163) 個体69~71-----	227
第197図	個体別資料 (164) 個体70-----	228
第198図	個体別資料 (165) 個体72~74-----	230
第199図	個体別資料 (166) 個体75~79-----	232
第200図	個体別資料 (167) 個体76~77・83-----	233
第201図	個体別資料 (168) 個体80~82-----	235
第202図	個体別資料 (169) 個体45~48分布図-----	236
第203図	個体別資料 (170) 個体49~52・53~55分布図-----	237
第204図	個体別資料 (171) 個体51~54・56~51・65分布図-----	238
第205図	個体別資料 (172) 個体57~59・67分布図-----	239
第206図	個体別資料 (173) 個体59~63分布図-----	240
第207図	個体別資料 (174) 個体62~66分布図-----	241
第208図	個体別資料 (175) 個体68~69分布図-----	242
第209図	個体別資料 (176) 個体70~74・76分布図-----	243
第210図	個体別資料 (177) 個体75~77・79~83分布図-----	244
第211図	個体別資料 (178) 個体114~99・85-----	246
第212図	個体別資料 (179) 個体118~104~115・110~117-----	247
第213図	個体別資料 (180) 個体120~103~105~87~116~249-----	
第214図	個体別資料 (181) 個体111~92~100~98~88-----	251
第215図	個体別資料 (182) 個体89~91~121~123~107~252-----	
第216図	個体別資料 (183) 個体96~97~119~123-----	255
第217図	個体別資料 (184) 個体84~113~95~93~109-----	256
第218図	個体別資料 (185) 個体102~106~108~112~101~96~94~124-----	257
第219図	個体別資料 (186) 個体84~124接合写真-----	258
第220図	個体別資料 (187) 個体84~90分布図-----	259
第221図	個体別資料 (188) 個体91~98分布図-----	260
第222図	個体別資料 (189) 個体99~102~104~106分布図-----	261
第223図	個体別資料 (190) 個体103~107~113~116分布図-----	262
第224図	個体別資料 (191) 個体114~115~117~119~122~123分布図-----	263
第225図	個体別資料 (192) 個体120~121~124分布図-----	264
第226図	構造上の発達 (南アルプス鳳凰山での観察)-----	303
第227図	蝶の産着凍上 (模式図)-----	303
第228図	IV層における水平・垂直分布図-----	304
第229図	此掛図Ⅱ 遺跡のII石器出土水平・垂直分布図-----	305
第230図	下掛G遺跡のII石器出土水平・垂直分布図-----	306
第231図	石器・目的削片 (種類別) 平面分布図-----	310
付図	家の下道路における旧石器資料分布図-----	

写真 1	土取りにより削平された箇所-----	9
写真 2	土坑底面に見える砂礫層 (S.K.F64D)-----	9
写真 3	L.S.-MA66ライン土層 (第8回断面A-B間)-----	10
写真 4	遺跡全景航空写真-----	12
写真 5	御神体として祀られている貢岩 (泉沢地内)-----	12
写真 6	古絵図に見る遺跡の位置と立地-----	21
写真 7	遺物出土状況 (L.T67グリッド)-----	34
写真 8	遺物出土状況 (L.S67グリッド)-----	38
写真 9	調査風景-----	39
写真10	調査風景-----	45
写真11	調査風景 (F-1・3ブロック)-----	66
写真12	調査風景 (Dブロック)-----	167

自然科学的分析目次

図 1	鉱物組成-----	300
図 2	試料番号2 (3 INS LS67IVa層) のX線回折図-----	301
表 1	鉱物分析結果-----	300
表 2	リン酸吸収係数-----	297
図版	鉱物-----	302



第1図 家の下遺跡と周辺の遺跡

第1章 はじめに

第1節 発掘調査に至るまで

琴丘町は秋田県の沿岸北部に位置し、かつて日本第2の広さを有した八郎潟残存湖の東部に隣接している。

今回、秋田県農政部により町内におけるほ場整備事業（琴丘北地区・琴丘南地区）が計画された。これは農業の近代化すなわち大規模経営を目指したもので、農地の大区画整理とともに農道・用排水路網の整備を進め、農地の集団化により農家経済の安定向上を目指したものである。

本事業の計画地域内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、秋田県農政部から文化財保護法に基づきこの事実確認と今後の対応について秋田県教育委員会に調査と指導の依頼があった。秋田県教育委員会はこれを受けて平成4年度に計画地域内の遺跡分布調査を実施し、事業計画地域に係る埋蔵文化財包蔵地と推測される地区を1箇所（長信田家の下地内）発見し、今後範囲確認調査が必要であることと、範囲確認調査の結果、記録保存が必要な場合には発掘調査を実施すべきことを回答した。

その結果、平成5年度に家の下遺跡の範囲確認調査を実施し、平成6年度には家の下遺跡の発掘調査を実施することになったものである。

第2節 調査要項

遺跡名称	家の下遺跡	遺跡略号 3INS
所在地	秋田県山本郡琴丘町鹿渡字長信田家の下1-5外	
調査期間	平成6年5月16日～11月25日	
調査面積	6,500m ²	
調査主体者	秋田県教育委員会	
調査担当者	高橋 学（秋田県埋蔵文化財センター調査課学芸主事） 五十嵐一治（秋田県埋蔵文化財センター調査課学芸主事） 栗澤光男（秋田県埋蔵文化財センター調査課文化財主任）〔現文化財主査〕 藤澤 昌（秋田県埋蔵文化財センター調査課学芸主事）	
総務担当者	藤肥良清（秋田県埋蔵文化財センター総務課主査） 佐藤広文（秋田県埋蔵文化財センター総務課主任）〔現秋田県教育庁生涯学習振興課主任〕 佐藤幸嗣（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事） 須田輝樹（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）	
調査協力機関	秋田県農政部山本農林事務所 琴丘町教育委員会生涯学習課 琴丘町鹿渡土地改良区	

第2章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と立地

遺跡の所在する琴丘町は、八郎湯残存湖の東部に隣接し、出羽丘陵の北西辺に位置する。残存湖に沿って平野部が広がるが、耕作地の確保のための大規模地形改変が繰り返され、今日に至っている。農業用水確保のため各所に残された堤は旧来の沢すじを堰き止めて作られており、それを追いながら原地形を復元することができる。

遺跡は琴丘町長信田集落の西部水田中に取り残された低丘陵上に立地する。大規模な区画整理により原地形は失われているが、集落の人々の話や古絵図等によると、遺跡は小さな沢に張り出した舌状の地形であったものと推測される（写真6参照）。標高は23~25mであり、丘陵と水田面との比高は2~3mである。

本遺跡の基盤となる層（基本層序V層）は、森岳段丘の構成層である砂層・砂礫層である。森岳段丘構成層は温暖な環境下における沿岸性堆積物と考えられており、層厚は5m以上とされている^(註1)。下位の段丘面である金光寺野段丘構成層から降下火山灰（Toya）が検出されていることから、その上下関係により南関東における下末吉段丘に相当するものと考えられる^(註2)。

V層の上には、IV層とした黄褐色粘土・シルトが最大2m程度堆積している。IV層も3層に細分できるが、上下関係にあるIII層・V層に対する漸移的な変化であり、明確な層序として区分したものではない。このIV層は段丘構成層であるV層の風化生成物あるいは風成塵と考えられてきたが、本遺跡におけるIV層土壤の珪藻分析結果で、風成土である可能性が示唆された。また今回実施した土壤分析結果では、III・IV層とともに風成塵の堆積によって形成された土壤である可能性が高いことが示唆された（第4章参照）。

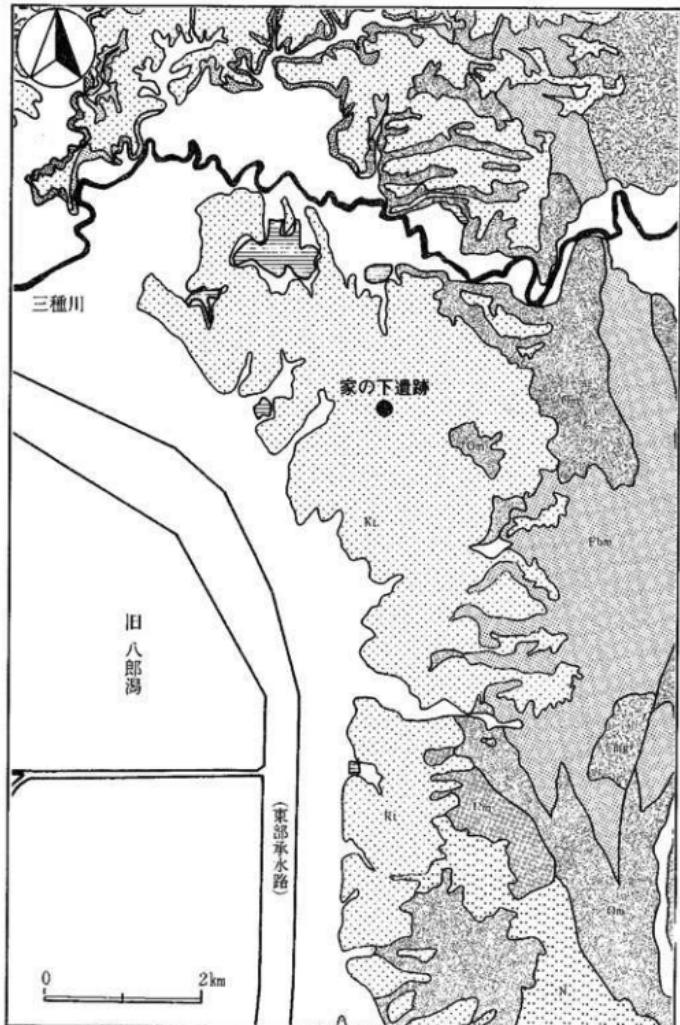
第2節 歴史的環境

秋田市から能代市にかけての日本海沿岸には砂丘および海成段丘がよく発達し、また米代川・雄物川の2大河川およびその支流による河岸段丘の発達も著しい。これらの段丘上には旧石器時代の遺跡が数多く見つかっており、出土遺物等から概観してみる。

米代川流域の河岸段丘上に立地する遺跡では、能代市館下I遺跡、二ツ井町竜毛沢館跡・上ノ野遺跡が知られる。また沿岸部の海岸段丘上に立地する遺跡では、能代市此掛沢II遺跡、山本町・能代市逆川遺跡、八竜町鴨子台遺跡・館の上遺跡、および八森町土井遺跡が知られている。これらの遺跡では発掘調査が実施されている。また調査は実施されていないものの、能代市の大野I・落合・古館・鳥形・小土、山本町外岡からは旧石器時代遺物が採集されている。

米代川流域では、館下I遺跡で杉久保型のナイフ形石器2点が、また竜毛沢館跡では調査区内の盛土巾からナイフ形石器1点と剝片が11点出土している。また上ノ野遺跡でも平成9年度の調査でナイフ形石器、搔器を始め1,000点を超す遺物が出土している。海岸段丘上の遺跡では、八森町土井遺跡で彫刻刀形石器が1点出土している。

此掛沢II遺跡はナイフ形石器・米ヶ森型台形石器や石斧を含む直径15mの遺物集中地点が検出され、その他に石刃・石核など1,750点あまりの石器が出土している（第229図参照）。此掛沢II遺跡の出土遺物は、本



(参考文献1の「表層地質図」をトレース)

第2図 遺跡周辺の表層地質図

遺跡出土の遺物と共に通する部分が多く、同様の技術的基盤をもとに當まれた遺跡であると考えられる。

逆川遺跡は昭和56年度に実施された範囲確認調査において石刀・石核等が出土した。鳴子台遺跡では4箇所の遺物集中地点があり、2個縁加工のナイフ形石器をはじめ、搔器・彫器・石刀・石核・剝片など、1,000点あまりの石器が出土している。館の上遺跡では平成3年の範囲確認調査において、ナイフ形石器1点が出土している。

一方、秋田市近郊では雄物川の1支流、岩見川下流の河岸段丘上で旧石器時代遺跡が数多く調査されている。これらは岩見川右岸および左岸の標高40~50mの段丘上に立地している。

岩見川左岸に位置する河辺町の通称七曲台地では、風無台Ⅰ遺跡・風無台Ⅱ遺跡・松木台Ⅱ遺跡・松木台Ⅲ遺跡が知られる。

風無台Ⅰ遺跡では230m²の遺物集中出土地点から、ナイフ形石器・搔器・台形様石器・石斧および石刃560点など6,200点を数える石器が出土している。風無台Ⅱ遺跡では直径12mの遺物集中出土地点から、台形様石器・搔器・ハンマーストーンなど5,000点を超える石器が出土している。松木台Ⅱ遺跡では直径12~13mの遺物集中出土地点から、台形様石器・搔器など1,200点を超える石器が出土している。松木台Ⅲ遺跡ではナイフ形石器・搔器・削器・彫刻刀形石器など3,200点あまりが出土したが、インボリュージョンと呼ばれる化石周氷河現象の影響により、出土レベルが大きく動いている。これは松木台・風無台を含む七曲台地上の遺跡に普遍的に見られる現象で、本遺跡においても同様の現象が確認されている。また七曲台地よりやや下流の左岸段丘上に立地する駒坂袋Ⅰ遺跡でも、搔器および石刃が11点出土している。

七曲台地より下流の岩見川右岸に位置する秋田市の御所野台地でも、数多くの旧石器時代遺跡が知られている。

地蔵田A遺跡では1,150m²から尖頭器など900点あまりの石器・剝片が出土した。地蔵田B遺跡（国指定史跡）は弥生時代の柵列をともなう集落として有名であるが、ナイフ形石器・抉入石器・磨製石斧など3,400点あまりの旧石器も出土している。下堤A遺跡ではナイフ形石器および礫器が出土している。下堤D遺跡ではナイフ形石器・彫器・削器のほか、細石刃などが出土している。

下堤G遺跡は能代市此掛沢Ⅱ遺跡と非常に似通った器種組成をもつ遺跡で、土坑および砾群のほか、ナイフ形石器と多量の米ヶ森型台形石器が、東西約15m、南北約11mの遺物集中地点から出土している（第230図参照）。下堤G遺跡もまた、本遺跡と同様の技術的基盤の上に當まれた遺跡と考えられる。

狸崎B遺跡では2,900点あまりの石器が出土し、14箇所の遺物集中地点が台形様石器を中心とするグループと細石刃を中心とするグループに分類されている。秋大農場南遺跡では180m²から340点の剝片が出土し、二次加工のある剝片が1点出土している。坂ノ上下遺跡では剝片1点が、古野遺跡ではナイフ形石器1点がそれぞれ出土している。その他県内における旧石器時代の遺跡を第2図にまとめてある。

なお第1図は、家の下遺跡と周辺遺跡の位置を「秋田県遺跡地図（中央版）」を基に示しているものである。地図番号も同地図に記載しており、18-1は琴丘町、21-1は山本町、23-1は八竜町の遺跡であることを指す。詳細は「家の下遺跡（1）」を参照いただきたい。

註

(1) 内藤博夫「秋田県能代平野の段丘地形」『第四紀研究』第16巻第2号 1977（昭和52年）

(2) 裕山知士「広域テフラからみた能代平野南部の中位段丘区分」『秋田地学』46 1996（平成8年）

(3) 註(1)と同じ

【参考文献】

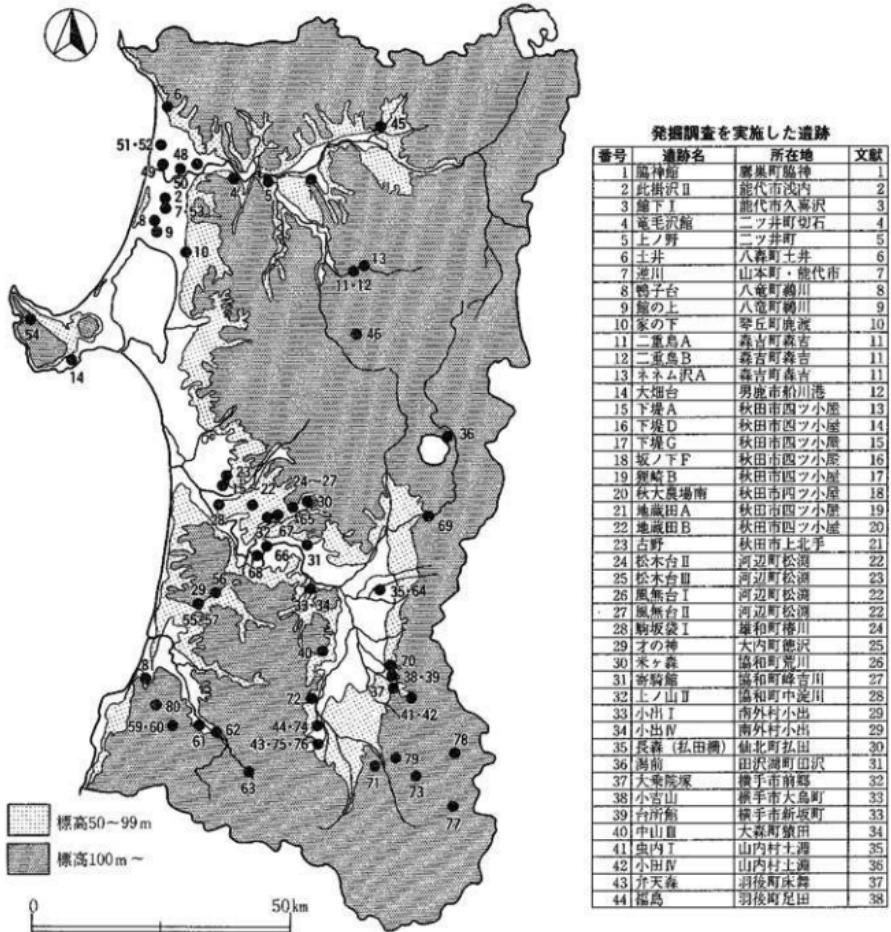
- 秋田県農政部農地整備課『土地分類基本調査 森岳・羽後浜田』1984（昭和59年）
- 小島尚ほか「ひがし北海道の化石周水河現象とその古気候学的意義」『第四紀研究』第12巻第4号 1974（昭和49年）
- 小島尚『山を読む』自然景観の読み方3 岩波書店 1991（平成3年）
- 郷土と科学編集委員会『北海道5万年史』1980（昭和55年）

旧石器出土遺跡（第3図） 出典文献

- 1996年、秋田県埋蔵文化財センターで発掘調査
- 秋田県教育委員会『此掛沢II遺跡・上の山II遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第114集 1984（昭和59年）
- 秋田県教育委員会『館下I遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第62集 1979（昭和54年）
- 秋田県教育委員会『竜毛沢館跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第188集 1990（平成2年）
- 1997年、二ツ井町教育委員会で発掘調査
- 秋田県教育委員会『上井遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第111集 1984（昭和59年）
- 秋田県教育委員会『逆川遺跡』『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第93集 1982（昭和57年）
- 秋田県教育委員会『鶴子台遺跡』『一般国道7号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第230集 1992（平成4年）
- 小林恵美子「八竜町館の上遺跡出土のナイフ形石器について」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第7号 1992（平成4年）
- 秋田県教育委員会「家の下遺跡（1）」『県営ほ場整備事業（琴丘地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第256集 1995（平成7年）
- 秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第267集 1996（平成8年）
- 若美町教育委員会『横長根A遺跡』1984（昭和59年）に引用
- 秋田市教育委員会『下堤A遺跡』『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1988（昭和63年）
- 秋田市教育委員会『秋田市下堤D遺跡発掘調査報告書』1982（昭和57年）
- 秋田市教育委員会『下堤G遺跡（先上器時代）発掘調査概報』『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1983（昭和58年）
- 秋田市教育委員会『坂ノ上F遺跡』『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1985（昭和60年）
- 秋田市教育委員会『猩崎B遺跡』『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1992（平成4年）
- 秋田市教育委員会『猩崎B遺跡』『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1993（平成5年）
- 秋田市教育委員会『秋大農場南遺跡』『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1992（平成4年）
- 秋田市教育委員会『地蔵山A遺跡』『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1994（平成6年）
- 秋田市教育委員会『地蔵山B遺跡』『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1986（昭和61年）
- 秋田県教育委員会『古野遺跡』『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第253集 1995（平成7年）
- 秋田県教育委員会『七曲台遺跡群発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第125集 1985（昭和60年）
- 秋田県教育委員会『松木台III遺跡』『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第150集 1986（昭和61年）
- 秋田県教育委員会『駒坂袋I遺跡』『秋田県立中央公園スポーツゾーン地域内遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第92集 1982（昭和57年）
- 秋田県教育委員会『才の神遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第71集 1980（昭和55年）
- 協和町教育委員会『米ヶ森遺跡発掘調査報告書』1977（昭和52年）
- 1996年、秋田県埋蔵文化財センターで発掘調査
- 秋田県教育委員会『上ノ山II遺跡』『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第166集

1988（昭和63年）

- 29 秋田県教育委員会「小出I遺跡・小出IV遺跡」『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅷ』秋田県文化財調査報告書第206集 1991（平成3年）
- 30 秋田県教育委員会「第105次調査」『弘前橋跡－第103－106次調査概要一』秋田県文化財調査報告書第266集 1996（平成8年）
- 31 1996年、秋田県埋蔵文化財センターで発掘調査
- 32 大和久義平「秋田県横手市大桑院塚遺跡」『日本考古学年報』11 1962（昭和37年）
- 33 横手市教育委員会『横手市遺跡詳細分布調査報告書』1986（昭和61年）
- 34 〔旧阿美多地遺跡〕横山英介・千葉英一『秋田県平鹿郡阿美多地遺跡』1973（昭和48年）
- 35 秋田県教育委員会『虫内I遺跡』秋田県文化財調査報告書第274集 1998（平成10年）
- 36 秋田県教育委員会「小田IV遺跡」『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書X』秋田県文化財調査報告書第243集 1994（平成6年）
- 37 羽後町教育委員会『弁天森遺跡発掘調査報告書』1996（平成8年）
- 38 羽後町教育委員会『福島遺跡ほか発掘調査報告書』1993（平成5年）
- 39 大館市教育委員会『大館の歴史』1992（平成4年）
- 40 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（県北版）』1991（平成3年）
- 41 豊島昂「先土器文化」『秋田県の考古学』1967（昭和42年）
- 42 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（中央版）』1990（平成2年）
- 43 大槻久馬「能代市周辺の遺跡について」『秋田考古学』第32号 1975（昭和50年）
- 44 秋田県立博物館『秋田県立博物館収蔵資料目録 考古』1982（昭和57年）
- 45 水瀬福男「旧石器時代」『山本町史』1979（昭和54年）
- 46 大和久義平「無土器文化」『秋田県史 考古編』1960（昭和35年）
- 47 小松正市・小松正夫「町内の主な遺跡」『大内町史』1990（平成2年）
- 48 大野憲司「東由利のあけぼの」『東由利町史』1989（平成元年）
- 49 富樫泰時「旧石器時代の石器二例」『秋田考古学』第42・43合併号 1993（平成5年）
- 50 柏倉亮吉・加藤稔・佐藤禎宏・佐藤鎮雄「鳥海山麓の考古学的調査－石器時代を中心に－」『鳥海山・飛島』1972（昭和47年）
- 51 富樫泰時「秋田県」『旧石器時代の東北』東北歴史資料館 1981（昭和56年）
- 52 協和村教育委員会『協和村郷土史』1968（昭和43年）
- 53 武藤康弘「協和町下淀川字車田出土の旧石器」『秋田考古学』第33号 1976（昭和51年）
- 54 伊藤攻「坊台遺跡出土の旧石器について」『秋田考古学』第45号 1996（平成8年）
- 55 〔旧中沢遺跡〕協和村教育委員会『協和村郷土史』1968（昭和43年）
- 56 〔旧横手高校裏山遺跡〕富樫泰時「秋田県横手市発見の彫刻器」『若木考古』63・64号 1962（昭和37年）
- 57 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（県南版）』1987（昭和62年）
- 58 雄物川町郷土史編纂会『雄物川町郷土史』1980（昭和55年）
- 59 大野憲司「先史時代の増田」『増田町史』1997（平成9年）
- 60 豊島昂・富樫泰時「秋田県羽後町土館新成発見の石器について」『七代文化』33 1963（昭和38年）
- 61 羽後町鈴木俊男氏の教授による
- 62 富樫泰時「羽後町五把手山発見の石器について」『秋田考古学』第22号 1963（昭和38年）



遺物が採集されている遺跡

番号	遺跡名	所在地	文献	番号	遺跡名	所在地	文献
45	松下高能平	大館市	39	64	夷山	仙北町弘田	52
46	戸島内	阿仁町戸島内	40	65	岸船	雄和町境	53
47	(不明)	二ツ井町	41	66	牛田	雄和町下瀬川	54
48	大野」	能代市南八田	42	67	坊台	雄和町上瀬川	55
49	落合	能代市落合	43	68	柿ノ木	雄和町小穂	56
50	古船	能代市朴瀬	43	69	黒石	田沢湖町亭山	44
51	鳥形	能代市坂形	43	70	越谷地	横手市跡成	57
52	小上	能代市磐	44	71	東山寺墓地上	鳥沢市西金櫛沢	58
53	外岡	山木町外岡	45	72	新造I	雄物川町大沢	59
54	八重台	男鹿市戸賀	46	73	大畠	増田町飯平内	60
55	若鶴河原	大内町北福山	47	74	新成	羽後町足田	61
56	谷地	大内町高尾	47	75	坂の下	羽後町床舞	62
57	菊屋敷	大内町新沢	47	76	五把出山	羽後町西男音内	41
58	(不明)	東山利町	48	77	大柳沼	東成瀬村大柳	41
59	桃野I	矢島町城内	49	78	穴穂	東成瀬村岩井川	41
60	花前梨平	矢島町	50	79	八色野	福川町大合	41
61	城内上ノ平	矢島町城内	50	80	四角井戸	西日町西日	63
62	興原	島瀬町下川内	51	81	新林	西日町出戸	63
63	田見	島瀬町上川内	51				

第3図 秋田県における旧石器時代遺跡一覧

第3節 調査・整理の方法と経過

1 野外調査

発掘調査はグリッド法を採用した。調査区の設定方法は、調査区内の任意の1点（工事用杭BM2-8）を選定し、これを原点（MA50）とした。この原点から磁北方向に基準線を設定し、この基準線に直交する4m×4mのグリッドを設定した。また5箇所の杭を水準測量してレベル原点とした。グリッド杭には東から西に向かって東西方向を示す…L S・L T・MA・MB…というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す…48・49・50・51…の2桁の数字を組み合わせた記号を記入し、4m×4mの方眼杭の南東端をグリッドの名称とした。

II層以下出土の旧石器時代遺物については、グリッドの東南隅を原点とするX座標（東→西）・Y座標（南→北）・Z座標（標高値）を遺物の座標値として台帳に記録し、出土層位・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。座標の測定は、遺物集中部分ではメジャーおよび自動レベルを使用して人手でを行い、周辺の散布部分ではトータルステーションによる光波測距によった。調査の記録は座標値の記録および図面・写真によった。写真撮影は35mmのモノクロとリバーサルフィルムを中心とし、適宜ネガカラーフィルムを交え使用した。

2 室内整理

室内における整理では、遺物は洗浄・註記の後に接合および実測図の作成、写真撮影を行った。接合個体は個体ごとに写真撮影（一部外部委託）し、その写真をもとに接合状況の実測図を作成した。台帳およびトータルステーションに記録した座標値は、パーソナルコンピュータを使用して表計算ソフトウェアで統合し、CADに展開して遺物分布図を作成した。また作成した座標値一覧表をもとに個体・器種・計測値などのデータを入力し、遺物属性表を作成した。

3 調査・整理の経過

野外の調査は平成6年5月16日に開始し、同年11月25日をもって終了した。この間、旧石器時代に関する調査は、10月11日から縄文時代の遺構精査と並行して調査区北部の上部平坦面において実施している。18日には、旧石器時代遺物の出土範囲南限はほぼ65ラインまでであることがほぼ確定した。28日、本日にて縄文時代遺構の精査終了し、引き続き旧石器時代の調査へ専念する。11月1日、旧石器時代遺物の出土数は5,000点を超える。2日、掘下げがIVa層に達したころから、白い固めの土が散見されるようになってきた。これらは分布にうねりを持つことが断面から観察され、同時に遺物もその付近に集中しているようである。インボリューションなどの周氷河活動と思われる。14日、初雪を観測。吹雪が舞う中、出土した旧石器時代遺物は10,000点を超えた。17日、MA66グリッド北東端の部分（1m四方）では、10cm掘り下げるうちに300点以上の遺物を取り上げた。

以上旧石器時代に係る調査は、実働28日間で精査・掘り下げ要員、延784人（一日平均28人）、地点測量・取り上げ要員、延126人（一日平均4.5人）であった。

室内整理は、野外調査の終了後、平成6年12月に開始し、縄文時代の遺構・遺物の資料整理を先行実施した。平成7年3月に報告書「家の下遺跡（1）」を刊行し、旧石器時代の資料整理は同年4月より取りかかった。平成7年度は石器の洗浄・註記の後に接合作業に終始した。接合作業は、平成7年5月30日～平成8年3月29日まで、実働195日、延1011人（一日平均5.2人）を要した。平成8年度は、報告書に掲載予定の定型的石器（非接合個体）の選別から始め、石器の実測に入る。7月には接合個体の写真撮影を委託で実施し、

引き続き原寸に引き延ばした写真を基に実測も行う。12月より石器・接合個体のトレース開始、平成9年1月から石器の属性データをパソコンに入力、3月末には石器の実測を完了する。平成9年度は、石器のトレースと接合個体を再分割しての石器写真撮影も実施する。6月でトレースは終了し、レイアウトを考慮しながら台紙に図を貼りつける作業に移行する。11月いっぱいではほぼ出来上がり、以後はパソコンに入力した各種データのチェック等を行い印刷に備えた。



写真1 土取りにより削平された箇所 (I区北東端部、北西→)



写真2 土坑底面に見える砂砾層 (SKF64D)

第3章 旧石器時代の調査の記録

第1節 基本層序

遺跡の立地する段丘は砂層ないし最大径6cm程度の水平層理の発達した砂礫層で構成され、その最上部2mほどは風化生成物による黄褐色粘土～砂混じり粘土となっている。これらはそれぞれ本遺跡における基本層序のIV層・V層（地山層）に相当する。

調査区の大部分は開田時やその後の土取り等（写真1）により大きく削平され、元地形を留めていたのはI区の北部（主たる旧石器時代遺物出土区）およびII区の一部（北東部）のみであった。表土下のII層は10～15cm程度の層厚を呈する縄文時代の遺物包含層である。一部では後世の擾乱を受け、旧石器時代遺物も散見される。III層は層厚30～40cm程度の漸移層であり、縄文時代遺構の確認面でもある。III層以下の地表面（IV層・V層）で確認された遺構も、本来的にはこの層位から掘りこまれた可能性が高いと考えられる。IV層は地山の黄褐色粘土～シルト層である。層厚は最大150cm以上にもおよぶが、辛うじて原地形をとどめるI区北部においては、西側の上部平坦面から東部の遺構密集区にかけて地形が傾斜していく。この部分は旧来の沢筋に面し、その傾斜に呼応するようにIV層の層厚は薄くなり、LM72グリッド（SKF64D付近）では完全に消滅する。つまり斜面下部においては、腐植土（I～II層）が直接V層を覆っている。

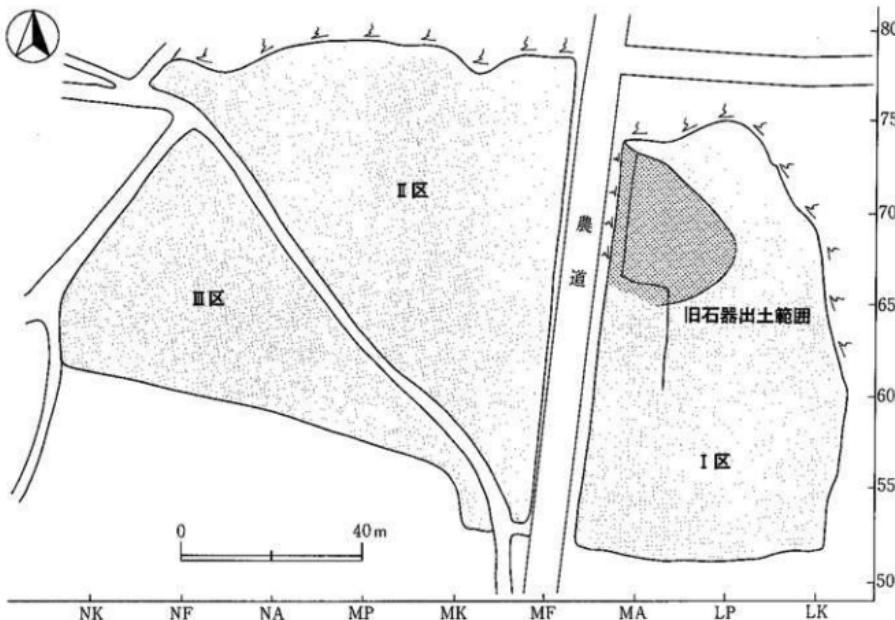
旧石器時代遺物はIII層およびIVa～IVb層から出土する。またIVa層において白みがかった土層のちぎれ・うねりが観察され（IVa'層）、旧石器遺物の集中する傾向が見られた。V層は段丘の基盤である砂層である。上部は平行ラミナのよく発達した砂礫層であるが、層厚1mを超える下部では固結する。

本調査においてV層を2m程度掘り下げ、5層に細分した。1.5m以下の部分では砂層の一部が固結しており（LS73グリッド付近）、径数cmの円礫を含む平行ラミナの発達した砂礫層となっている（写真2参照、SKF64D底面）。沢へ張り出す舌状地形の先端部にあたるI区北東部では、V層が砂層から砂礫層へと変化していく過程を追うことができる。

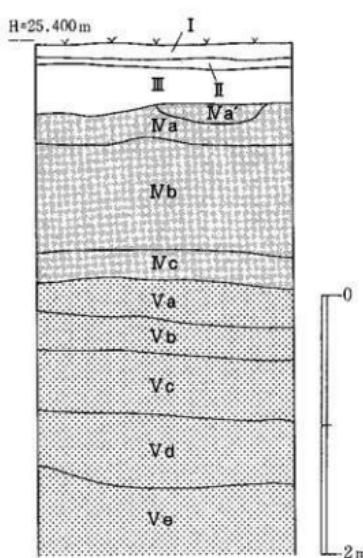
本遺跡の基本層序は次頁のとおりである。層序・層厚はI区北端部LS73グリッドの断面を基準とした。



写真3 LS～MA66ライン土層（第8回断面A-B間）



第4図 遺跡調査区と旧石器範囲図



第5図 基本土層図

- I層 黒褐色シルト (10YR2/3) 地山粘土中粒中量含む：表土・耕作土
- II層 黒褐色シルト (10YR2/3) 地山粘土小粒中量、炭小粒少量含む
- III層 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山粘土大粒中量、炭小粒少量含む：地山漸移層
- IVa層 黄褐色粘土 (10YR5/6) 粒径15mm程度に風化、固くしまる
- IVa'層 IVa層に細粒白色土を中量含み、極めて固くしまる
- IVb層 黄褐色粘土 (10YR5/6) やや粘性あり、固くしまる、IVa層との層境不明瞭
- IVc層 明黄褐色砂質粘土 (2.5Y6/8) V層砂を少量含む、よくしまる
- Va層 明黄褐色粘土質砂 (2.5Y6/6) IV層粘土を少量含む、固くしまる
- Vb層 にぶい黄色細粒砂 (2.5Y6/4) 固くしまる
- Vc層 灰オリーブ色細粒砂 (5Y5/2) ラミナ発達、固くしまる
- Vd層 灰オリーブ色細粒砂 (5Y5/3) 固くしまる
- Ve層 浅黄色中粒砂 (5Y7/3) 一部砂岩化、極めて固くしまる



写真4 遺跡全景航空写真



写真5 御神体として祀られている貢岩（泉沢地内）

第2節 出土遺物の概要

1 遺物の出土状況

(1) 遺物の出土層位

旧石器の出土層位は、地山Ⅳa層を中心とし、地山漸移層であるⅢ層下部から地山Ⅳb層上部にまで及ぶ。一部でⅠ・Ⅱ層・Ⅲ層上部出土の石器も確認できたが、これは耕作等に伴う後世の二次的移動によるものと前述の凍結融解作用によるものの両者を想定しておく必要があろう。とりあえずⅠ～Ⅲ層出土の石器を除外してⅣ層出土の石器を抽出してみても垂直分布は、60～70cmの上下幅をもち、最大は110cm幅（L P 68グリッドでの計測）であったことが判明している。

旧石器時代の遺物と判断した資料は、18,305点であり、うちⅣ層出土は15,072点、Ⅰ～Ⅲ層出土は2,750点（出土層位不明を含む）となる。その他、本調査前年の範囲確認調査時出土57点、縄文時代の遺構埋土出土426点も含まれている。

(2) 平面分布（第6図）

旧石器時代の遺物は、遺跡北東部（I区北部）に偏在しており、その範囲は南北32m、東西25mの楕円状を示し、その面積は約550m²となる。しかしこの範囲は、当時の石器分布の全体を映しているものではなく、まとまりの全周・四方とも農道建設・開田・土取りによる削平を受けていることも確認しておきたい。ただ分布の粗密から推測すると、西限を除く他限はほぼ分布時の状況（範囲）と見なしても大過ないであろう。西限については、農道建設により掘削され推測するすべもないが、農道西側の調査区（II区）において確認できた旧石器はⅡ層出土の1点のみであったことから、基本的にはII区には及ばず、東西長については38mを超えるものではないことは確かである。

一方、石器の接合関係および視覚的なまとまりを基にブロックを設定すると、石器群は径3～5m程の比較的小なまとまり（小ブロック）の集合体と見ることができる。接合した石器（個体）のうち構成点数の少ないものは小ブロック内で完結するが、原石から分割を繰り返し剥片剝離の回数が多い個体等については、複数の小ブロックに跨って分布を見せる事例も存在する。この小ブロックの集合体を大ブロック（A～Fブロック）と仮定すると、大ブロック間は基本的に排他的な分布を示す傾向があるようにも見える。もちろん例外も存在するが、本書ではこのブロック分けを採用して記述を進めたい。

①Aブロック 分布域北西端、L T71・72グリッドを中心に、径6m程の円形の範囲に約1,400点分布する。その中央、径約3m内が特に集中を見せる。

②Bブロック Aブロックの南東側、LR・LS 70グリッドを中心に分布する。A・C・Fブロックと隣接するが、その境界は比較的明瞭に識別できる。本ブロックは2つの小ブロックに分離する。なお同ブロック内には縄文時代の土坑（SK28A・28B・47・72）が構築される。

B-1ブロック：長径5m、短径3.5mの東西に長い楕円形の範囲に約1,100点分布する。

B-2ブロック：径3m程の略円形の範囲に約250点散漫な分布を見せる。

③Cブロック 分布域中央、LS・LR 67～69グリッドを中心に比較的広域に分布する。Aブロックを除く4大ブロックと隣接し、その境界は対Dブロック以外は比較的明瞭に識別できる。本ブロックは4つの小ブロックに分離する。

C-1ブロック：径5mの円形の範囲に約3,000点分布する。特にその北西側に集中を見せる。同ブロック内には縄文時代の土坑（SK08）が構築される。

図6 図 田石器分布図

(垂直尺:水準尺:水平尺=1:50:200)



H=26,000 m

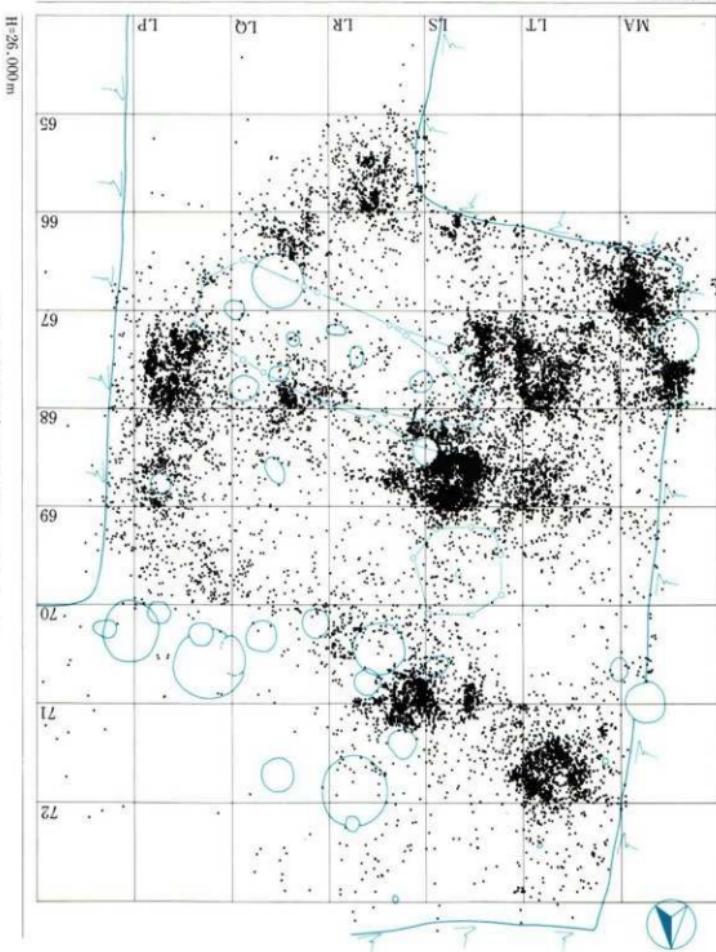
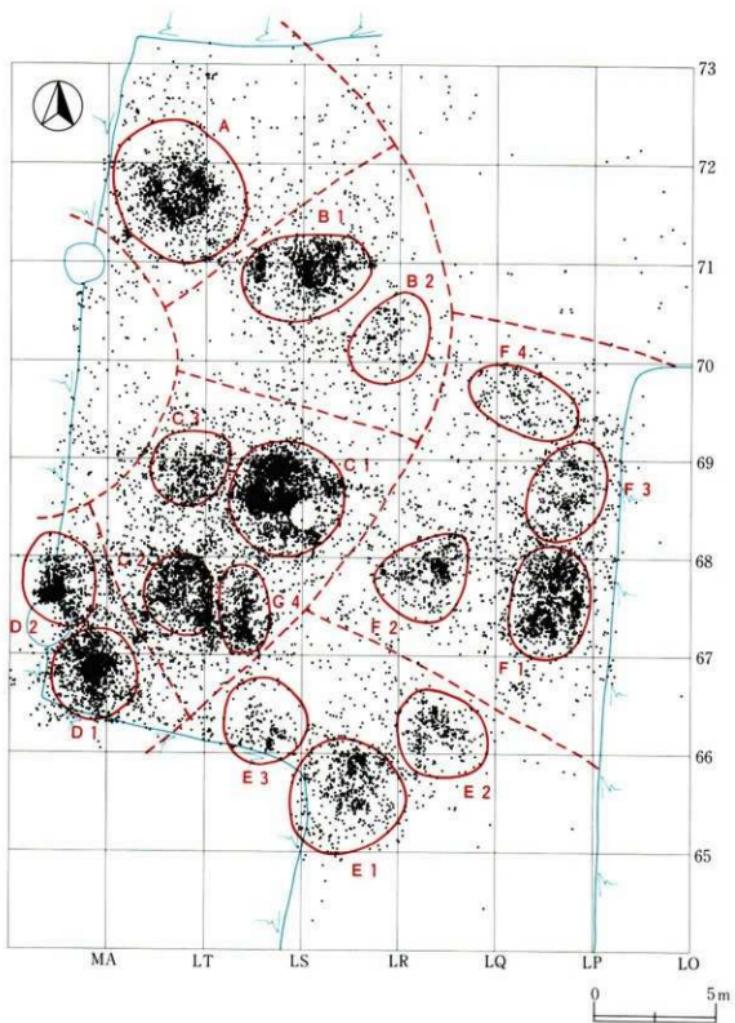
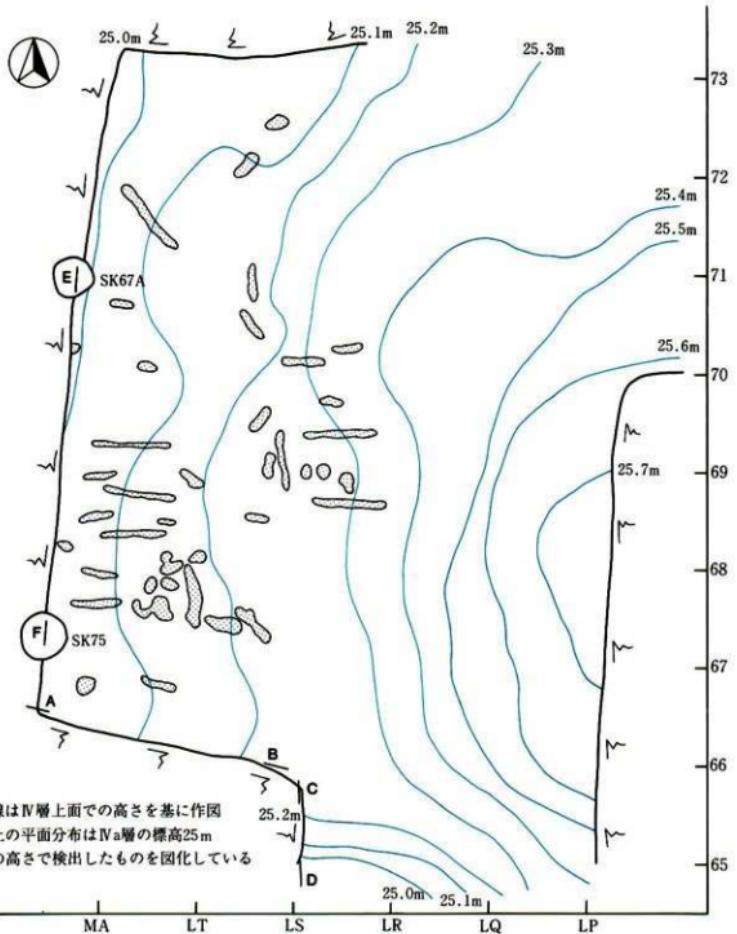


図3 事 田石器時代の遺物分布図



第7図 ブロック図



第8図 構造土平面・断面図

C-2 ブロック：径3mの円形の範囲に約1,100点分布する。

C-3 ブロック：径3mの円形の範囲に比較的約500点散漫な分布を示す。C-1 ブロックに隣接する。

C-4 ブロック：長径3.5m、短径2mの梢円形の範囲に約800点分布する。C-2 ブロックに隣接する。

④D ブロック 分布域南西端、MA66・67グリッドを中心に分布する。C ブロックと隣接するが、その境界は視覚的には判然としない。本ブロックは2つの小ブロックに分離する。なお小ブロックの間には縄文時代の土坑（SK75）が構築される。

D-1 ブロック：径3.5mの円形の範囲に約1,700点分布し、特に中央部分径1m程の範囲は密集している。

D-2 ブロック：径3mの円形の範囲に約900点分布する。

⑤E ブロック 分布域南端、LQ～LS65・66グリッドを中心に分布する。分布密度は6大ブロック中最も散漫である。C・F ブロックに隣接し、その境界は比較的明瞭に識別できる。本ブロックは3つの小ブロックに分離する。

E-1 ブロック：径4.5mの略円形の範囲に約700点分布する。本ブロックの中では最も集中する。

E-2 ブロック：径3mの略円形の範囲に約300点分布する。

E-3 ブロック：径2.5mの略円形の範囲に約230点分布する。最も散漫な分布を示す。

⑥F ブロック 分布域東端、LO～LQ67～69を中心に分布する。B・C・E ブロックと隣接しており、その境界は比較的明瞭に識別できる。本ブロックは4つの小ブロックに分離する。

F-1 ブロック：長径4m、短径3mの南北にやや長い梢円形の範囲に約1,500点分布する。本ブロックの中では最も集中する。

F-2 ブロック：径3.5mの略円形の範囲に約500点分布する。

F-3 ブロック：長径4.5m、短径3mの南北にやや長い梢円形の範囲に約500点分布する。

F-4 ブロック：長径4.5m、短径2.5mの梢円形の範囲に約260点分布する。F-3・4とも散漫な分布である。

2 出土遺物

(1) 石器組成と点数

旧石器時代の遺物は18,305点であり、自然砾1,326点（7.24%）を除く16,979点が石器・剝片等の人工遺物となる。また熱を受けた石器・剝片は、448点確認された。

定型的な石器の器種と点数は次のとおりである。

①ナイフ形石器708点、（うち石刃・縱長剝片素材のナイフ形石器328点、小形貝殻状剝片素材のナイフ形石器379点、横長剝片素材のナイフ形石器1点）、②獣器21点、③削器34点、④彫器4点、⑤抉入石器16点、⑥礫器3点である。その他⑦石刃446点、⑧小形貝殻状剝片658点、⑨石核713点、⑩二次加工をもつ剝片279点を確認している。なお石斧の類は未検出である。

(2) 石器石材

石器・剝片の石材については、確認総数のうちの僅か9点（0.05%）が火山岩の黒曜石であり、他は珪質の泥岩・頁岩・チャートといった堆積岩で占められる。後者の岩石は、男鹿半島南岸の女川付近を標式地とする新第三系の女川層を構成するものと判断される。女川層は、遺跡の近辺では南東約1kmの泉沢地内で表層地質として観察でき、更にその東方から北では、山本町石倉山～森岳温泉～能代市松山等にかけて広く分布している。なお泉沢では集落の東方に位置する神社（柏前堂）に、高さが1mを超す大形の頁岩の原石を

御神体として祀っている（写真5左参照）。

石器石材の主体をなす珪質の泥岩・頁岩・チャートは、本書においては次のように規定し表記する。すなわち頁岩は、「層理面に平行に葉（層）理、剥離性が発達した泥岩質堆積岩」であることを再確認し、ここでは平行葉理（ラミナ）・化石等の碎屑物（斑点状を呈する）を挟む岩石に対し、「珪質頁岩」と呼ぶ。一方、組織的には頁岩と同質であってもラミナの介在しないほぼ均質な珪質岩については、「珪質泥岩」とする。また泥岩・頁岩より珪質分に富み脂肪光沢を放つ玉髓質の珪質岩を「チャート」として表記する。その他、特徴的な性質を有する場合にはその都度記す。また珪質頁岩・泥岩中に介在している斑点状の碎屑物は、海綿骨針化石のSagarites chitanii MAKIYAMAであり、以下では「海綿骨針化石」と表記する。このように分類を行うと、チャートと判断されるものは287点（1.6%）であり、残り98.4%は珪質泥岩・頁岩となる。

（3）定型的石器

①ナイフ形石器（第9図—第18図152）

基本的に縦長指向の剝片、すなわち石刃、縦長剝片、寸づまり縦長剝片、あるいは小型の剝片を素材とし、側縁部に刃溝し加工を施す石器である。目的剝片の形状、剥離技術から大きくA・Bの2群に分け、各群は二次調整（加工）の手法・部位、打面の有無などで類別する。また1例のみ横長剝片を素材とする石器が認められ、これをC群とする。なお本書においては縦長剝片のうち、長さが5cm未満の剝片を寸づまり縦長剝片と呼ぶ。

a) ナイフ形石器A群：石刃、縦長剝片を素材とするものである。328点確認した。その剝片素材の形状をほとんど変えることなく加工する石器（I～V類）が圧倒的に多く、折断等による形状の変更の認められるもの（VI類）は少ない。

石質は1点（32）のみが黒曜石、その他は珪質泥岩・頁岩であり、チャートを素材とするものはない。

I類：2側縁調整の石器であり、打面をそのまま残す類である。主に基部調整の石器が多く、先端部の形状と調整の部位により細別する。

I a類（1・2）：やや幅広の素材を選択し、先端部が尖る石器である。調整部位が基端から器長の半分ほどに達し、中央部分に最大幅をもつ。調整は急角度調整であり、基部の形状は逆台形様を呈する。

I b類（3～18）：基端からの調整が器長の半分以下のいわゆる基部調整石器である。先端部が尖り、最大幅・重心はa類より基端側に移行する。調整は急角度調整のもの（3～8）、12・13・18等のように軽い調整のもの、9・10は錯向剝離である。

I c類（19～26）：先端部が尖らずにやや幅広のヘラ状を呈する石器である。先端ほど薄くなる傾向にある。急角度調整の部位、最大幅はI a類の技法に酷似する。19は火熱を受けている。

I d類（27～31）：先端部にも調整が加わる。同一側縁でも基部と先端部に調整が分かれるもの（27～29）、基部から先端近くまで連続して調整されるもの（30・31）が見られる。

II類：2側縁調整のものであり、打面・基端にも調整が加わる類である。基端部の調整手法で細分する。

II a類（32～34）：基端部に主要剝離面側より調整が加わるが、打面の一部は残置する。

II b類（35～37）：剝離あるいは部分的な折断により打面が完全に除去される。

III類：1側縁のみを調整する石器であり、打面をそのまま残す類である。主に基部調整の石器が多い。先端部の形状、調整の部位により細別する。

III a類（38～44）：基部調整石器のうち、先端部が尖る。

III b類（45・46）：基部調整石器のうち、先端部が尖らずにヘラ状を呈する。

III c 類：1側縁ほぼ全体に調整が加わるもので、先端部は尖る。

III d 類（47～50）：先端部にも調整が加わる。

IV 類：1側縁のみを調整する石器であり、打面・基端にも調整が加わる類である。II 類同様細別する。

IV a 類（51・52）：基端部に主要剝離面側より調整が加わるが、打面の一部は残置する。

IV b 類（53・54）：剝離あるいは部分的な折断により打面が完全に除去される。

V 類：先端部に調整の認められる石器であり、基部側は未調整のままである。調整位置の性質上、先端が尖らずに刃を有するものが多く、その幅（長さ）は狭い。なお打面は、ごく僅かの例を除きそのまま残されている。

V a 類（55～60）：先端の刃にのみ調整が加えられる。

V b 類（61）：先端の刃とこれに連続する側縁にも調整がなされる。

V c 類（62・63）：先端の刃は未調整であり、これに接続する側縁に調整が施される。先端が尖り、先端よりの側縁に調整が認められる石器も含まれる。

VI 類：石刃・縱長の目的剝片を折断後に急角度調整を施す石器である。一般に I～V 類より小型で形状も長方形・台形を示す。折断の部位で細別する。

VI a 類（64～72）：打面に相対する縁（先端部）を折断する。

VI b 類（73）：打面側と先端部の両端を折断する。

VII 類：折損その他で分類不能のものを一括してまとめる。

以上、ナイフ形石器 A 群の類別毎の出土点数は次のとおりである。I a 類 3 点、I b 類 57 点、I c 類 15 点、I d 類 11 点、II a 類 5 点、II b 12 点、III a 類 63 点、III b 類 20 点、III c 類 2 点、III d 類 10 点、IV a 類 4 点、IV b 類 4 点、V a 類 38 点、V b 類 15 点、V c 類 22 点、VI a 類 27 点、VI b 類 9 点、VII 類 11 点の計 328 点。

b) ナイフ形石器 B 群：小形貝殻状の剝片を素材とするものである。いわゆる米ケ森技法により生産された目的剝片を素材とする石器もここに含まれる。379 点確認した。本群は一般には大きな平坦打面を残し、末端がヒンジフラクチャーで終わり、形態・法量においては規格性が強い共通性をもつ。A 群同様、素材剝片の形状をほとんど保つもの（I・II 類）と、折断加工を伴う例（III 類）が存在する。調整は薄手の剝片を利用しているため、急角度調整を残す例は多くなく、微弱で限定的な調整が主体を占める。

石質は 2 点（103・126）が黒曜石、5 点がチャート、その他が珪質泥岩・頁岩である。

I 類：目的剝片の基部を中心に調整を施した石器である。調整の部位で細別する。

I a 類（74～78）：2 側縁基部調整のもの。

I b 類（79～82）：1 側縁基部調整のもの。

I c 類（83～88）：基部及び先端部にも調整が加えられるもの。基部加工には打面に調整がなされる資料も含む。この場合の調整方向は、いずれも背面側より加工されている。

I d 類（89～102）：1 側縁の基部から先端部まで連続して調整されるもの。急角度の調整を施す例が多い。また、102 は 1 側縁と刃部基部にも調整が入る。

II 類（103～143）：剝片の先端（末端）のみに二次調整を施し、基部側は未調整の石器である。狭義の米ケ森型台形石器である。136・137 は火熱を受けている。

III 類：目的剝片の一部を折断し、その後に調整を加える石器である。折断は刃部の反対側縁になされる場合が多いが、刃部側基部を折断する例も少数認められる。折断後の調整部位で細別する。

III a 類（144～146）：I 類同様、基部を中心に調整が施されるもの。

Ⅲ b類（147～150）：Ⅱ類同様、先端のみに調整が施されるもの。

Ⅲ c類（151・152）：基部と先端部に調整が施されるもの。

以上、ナイフ形石器B群の類別毎の出土点数は次のとおりである。I a類9点、I b類35点、I c類34点、I d類14点、II類234点、III a類6点、III b類43点、III c類4点の計379点。

c) ナイフ形石器C群：横長剝片を素材とした石器であり、1点のみの確認である。

本例は接合資料（個体32、第167図30685）に含まれる石器であり、打面再生剝片を利用したものであることが判明している。石器は打面を左側に位置させた場合の右側縁に微細ではあるが意図的な刃溝し加工が施され、先端部が尖る形状を示す。また左側縁には、浅い抉り込みも認められる。

この石器をナイフ形石器の範疇で把えて良いのか否かについては、本遺跡石器群における組成・保有個数の上では、否定的とならざるを得ないが、ここではナイフ形石器A群Ⅲ a類に見られる1側縁基部調整のナイフ形石器を意図して製作されたものと解したい。

②搔器（第22図213～217）

比較的分厚い剝片の長軸端部に刃部を作出する石器である。21点確認した。剝片の形状は、バラエティに富む。216は礫皮面除去に伴う剝片を利用したもののようにある。石質はいずれも珪質泥岩・頁岩である。

③削器（第22図218～第23図230）

各種形態を示す剝片の周縁あるいは側縁に二次加工を施して刃部を作出する石器である。35点確認した。石質はいずれも珪質泥岩・頁岩である。素材剝片の形状により類別する。

I類（218～225） 縦長指向の剝片を素材とするもの。29点出土している。

II類（226～230） 小形貝殻状の剝片を素材とするもの。6点確認した。すなわちナイフ形石器B群の目的剝片を素材とし、この刃部ほぼ全面に連続した剥離を施す石器である。刃部は平刃あるいはやや凹刃となる。

④彫器（第23図231・232）

槌状の細長い剥離により彫刀面が作出される石器である。4点抽出しているが、明確に槌状剥離が行われている資料は1点のみである。231は基部調整されたナイフ形石器（A群Ⅲ類）の刃部左肩に1条の彫刀面が作出されるものである。また彫器削片と見られる小剝片（233）も数点存在するが、非接合資料であり槌状剥離に伴う削片であるのかは断定できない。石質は珪質泥岩・頁岩である。

⑤抉入石器（第23図234・235）

いわゆるノッチの類である。明確に抉入の認められる石器は図示した2点を含め16点である。いずれも石刃を素材とし、その右側側縁は中央に2次的に加工を施している。石質は珪質泥岩・頁岩である。

⑥礫器（第26図250～252）

本遺跡において、礫器を含む礫の出土比率は低い。全点数に占めるその比率は7.24%である。しかも長さあるいは径が5cm未満の小礫が大部分を占め、礫器あるいは石器素材となる中～大礫は極端に少ない。また火熱を受けた礫・礫器も未確認である。

礫器として認知した資料は、敲石2点、磨石1点のみである。250・251は礫材の端部に敲打痕をもつ敲石、252は2面に磨面を有する磨石である。

⑦石刃（第24図）

縦長剝片のうち、側縁がほぼ平行し、それに平行する稜をもち、幅が1cm以上で長さが幅の倍以上となるものである。主に、ここでいうナイフ形石器A群の素材となる。447点確認している。

⑧小形貝殻状剝片（第18図153～第21図212）

ナイフ形石器B群あるいは削器II類に提供される小形の剥片である。658点確認しており、剥離したままの剥片（1類）と折断が見られる剥片（2類）が存在する。2類は54点（8.2%）となる。

石質は黒曜石1点、チャート12点、その他が珪質泥岩・頁岩である。

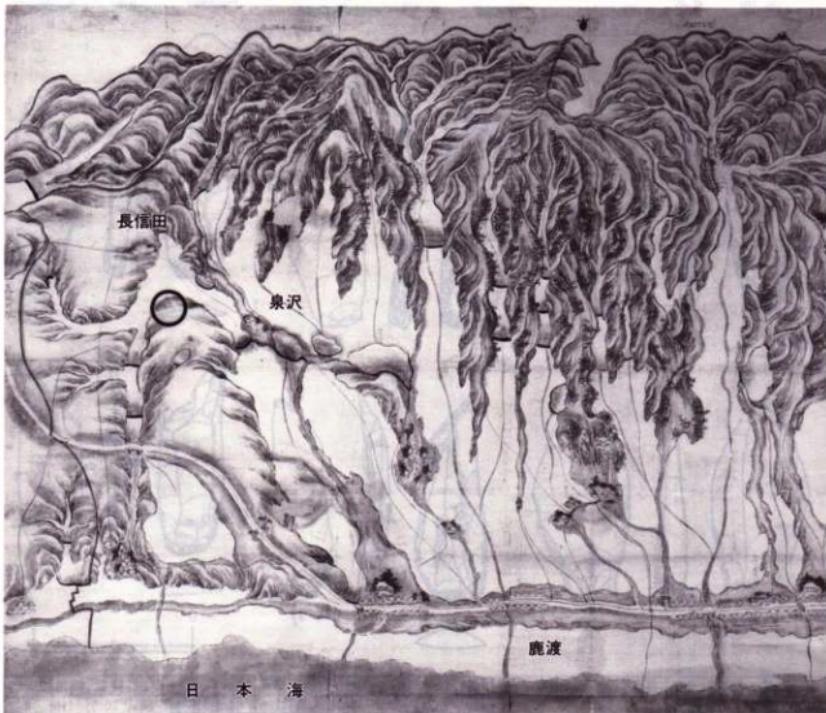
⑨石核（第25図）

素材剥片を剥離した残核を指す。713点確認している。このうち接合個体に含まれる石核は287点である。また石核に縞皮面が残存している資料が482点（67.6%）と高率であることにも着目したい。

⑩二次加工をもつ剥片

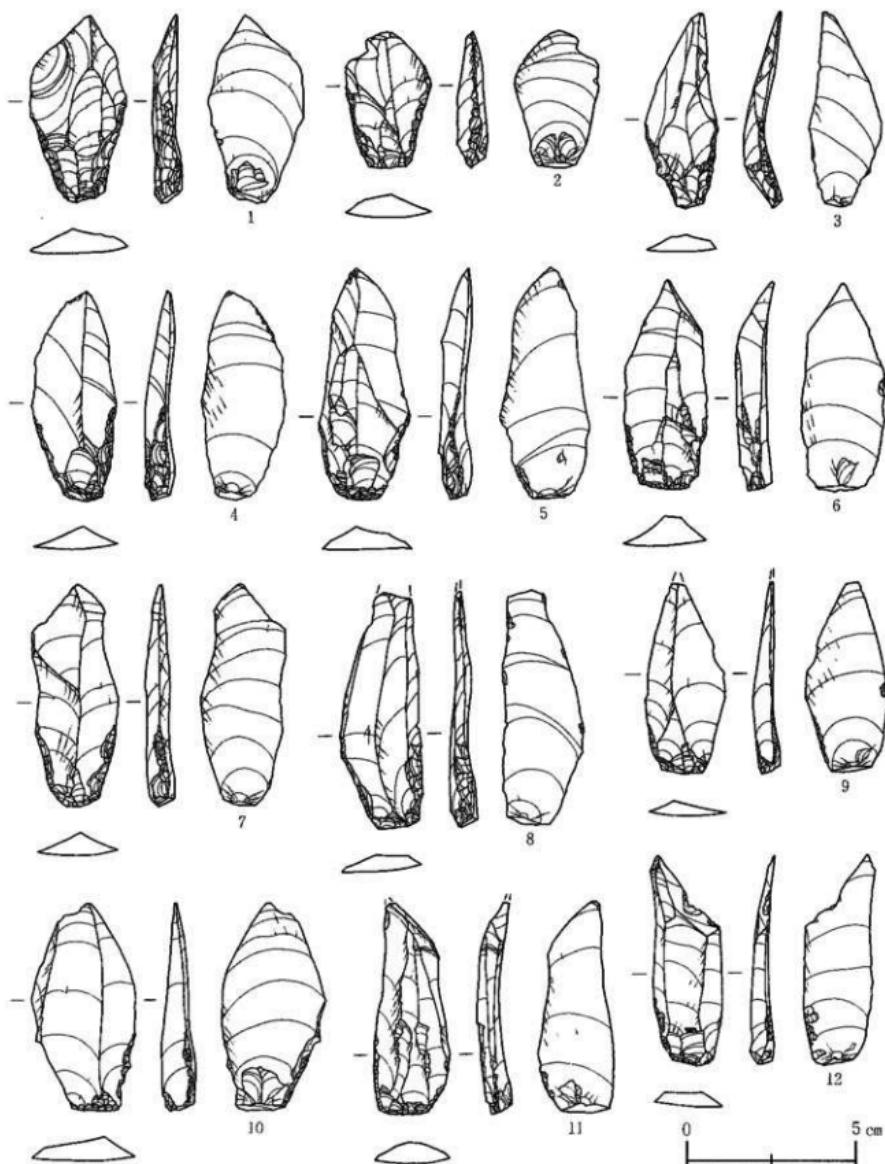
上記の定型的石器の範疇には該当しないが、縦長剥片あるいは不定形剥片の一部に二次的加工の認められる剥片も存在する。279点を抽出している。

註 片山信夫他編「頁岩」『新版 地学辞典Ⅱ』1970（昭和55年）



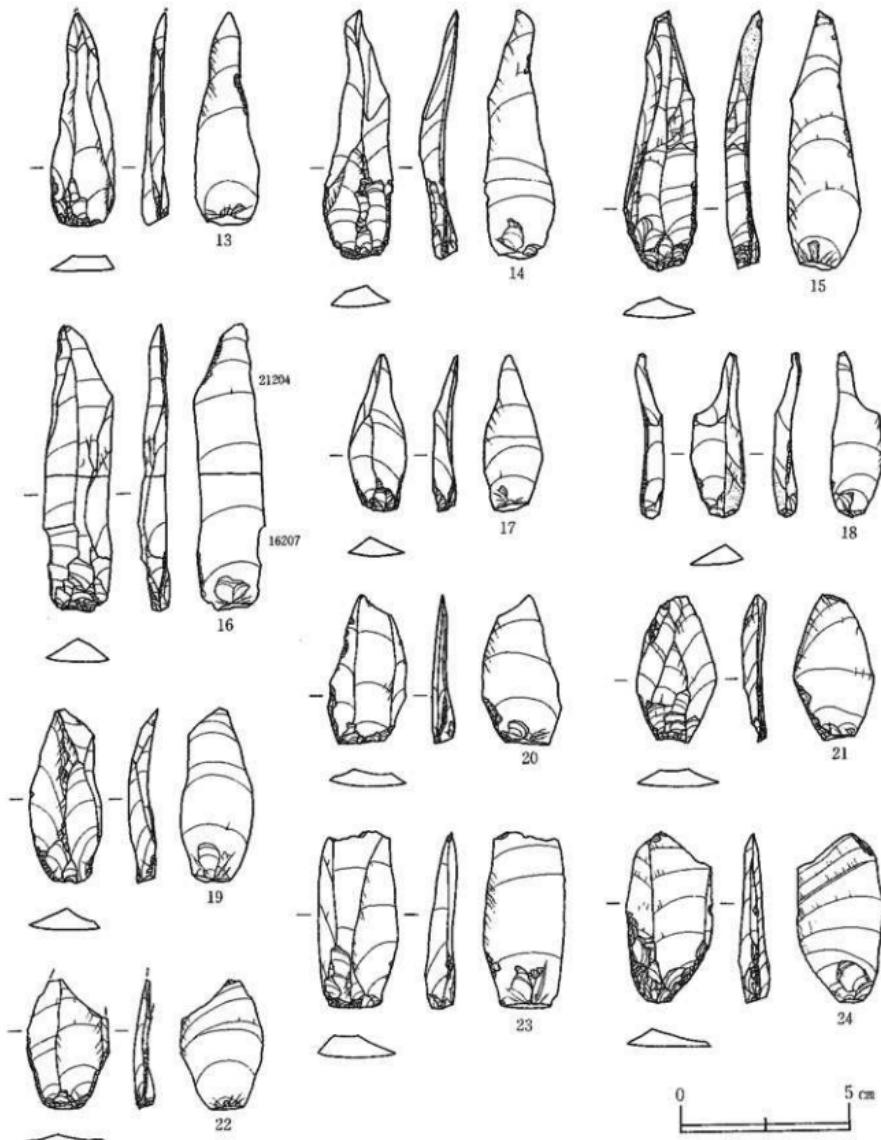
鹿渡村絵図〔部分〕寛政8年（1796年）筆、琴丘町教育委員会蔵

写真6 古絵図に見る遺跡の位置と立地



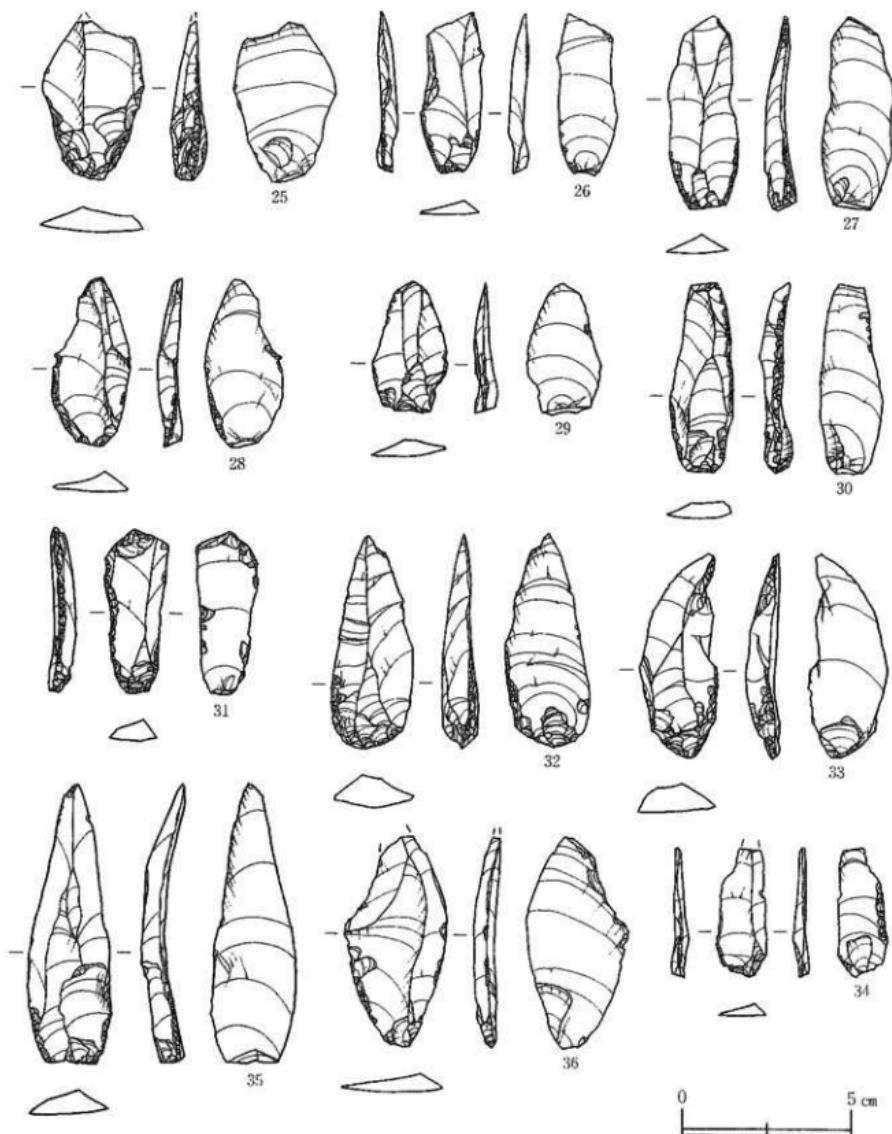
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
1	31247	KA	I a	56.0	28.5	9.0	10.7	120	B 2	7	20802	KA	I b	66.5	25.5	8.5	10.5	119	E 2
2	16910	KA	I a	40.5	25.0	8.5	7.0	123	B 2	8	21202	KA	I b	70.0	24.0	8.0	10.1	117	D 1
3	16466	KA	I b	58.5	21.5	11.0	6.7	124	D 1	9	31246	KA	I b	57.0	23.5	7.5	6.2	121	C 3
4	10328	KA	I b	62.5	25.0	9.0	10.3	124	外	10	10394	KA	I b	61.5	31.0	10.0	14.0	116	D 2
5	15180	KA	I b	69.0	27.0	1.0	14.1	119	E 2	11	12599	KA	I b	63.0	22.5	1.0	10.0	121	F 3
6	31885	KA	I b	62.0	25.0	11.5	13.0	106	-	12	21956	KA	I b	62.5	21.0	7.5	7.5	122	A

第9図 出土石器（1） ナイフ形石器A群（1）



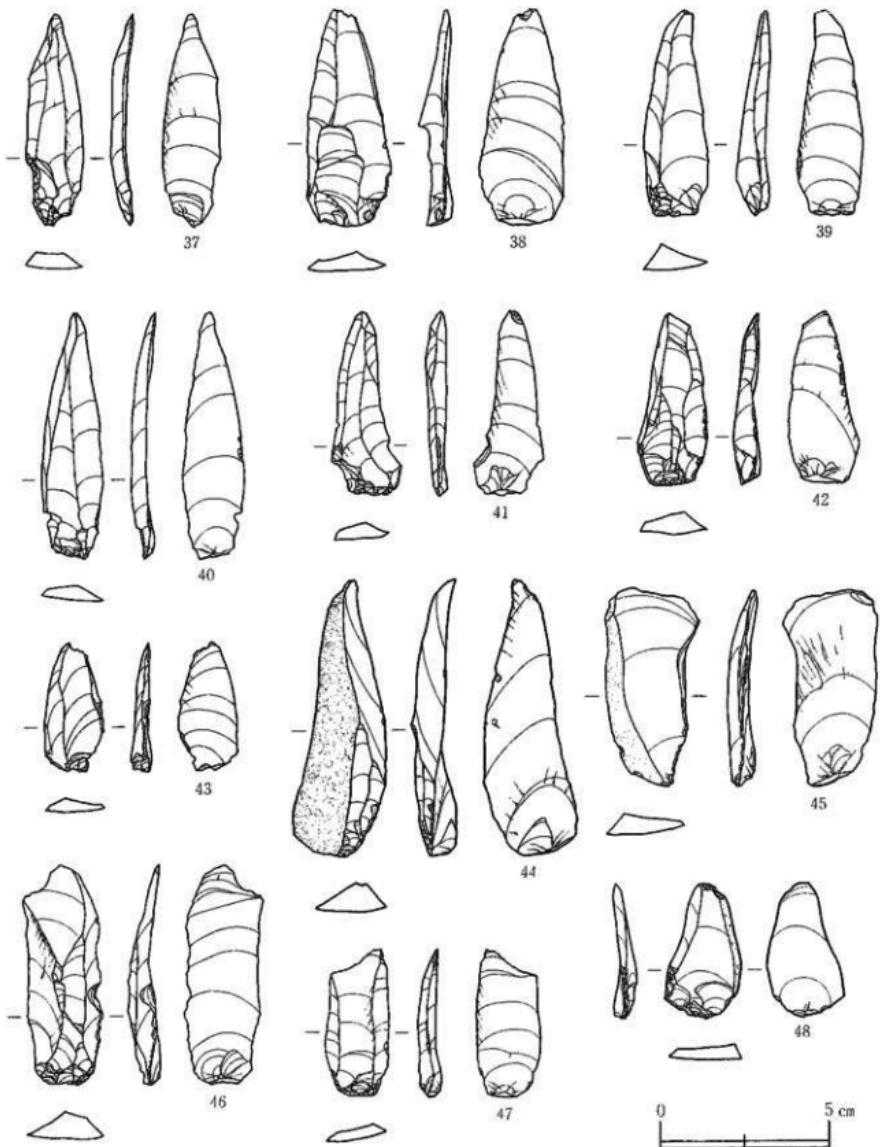
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
13	16200	KA	I b	63.0	19.0	8.0	6.5	116	D 1	19	10166	KA	J c	52.0	21.5	8.0	6.3	114	C 2
14	17719	KA	I b	74.0	21.0	11.0	7.9	112	F 2	20	13001	KA	I b	44.5	23.5	6.5	4.6	123	C 2
15	13501	KA	T b	77.5	22.0	10.5	10.9	108	C 4	21	30141	KA	I b	44.0	24.0	7.0	5.2	118	F 2
16	16297	KA	I b	85.5	21.0	9.0	11.6	121	D 1	22	32598	KA	I c	38.0	24.0	6.0	3.1	112	F 3
17	30379	KA	I b	46.5	17.5	7.0	3.9	124	F 2	23	31876	KA	T c	53.0	24.0	9.0	10.5	114	F 1
18	22340	KA	I b	49.0	16.0	9.0	3.5	116	A	24	31891	KA	I c	50.5	26.0	9.0	8.9	126	外

第10図 出土石器（2） ナイフ形石器A群（2）



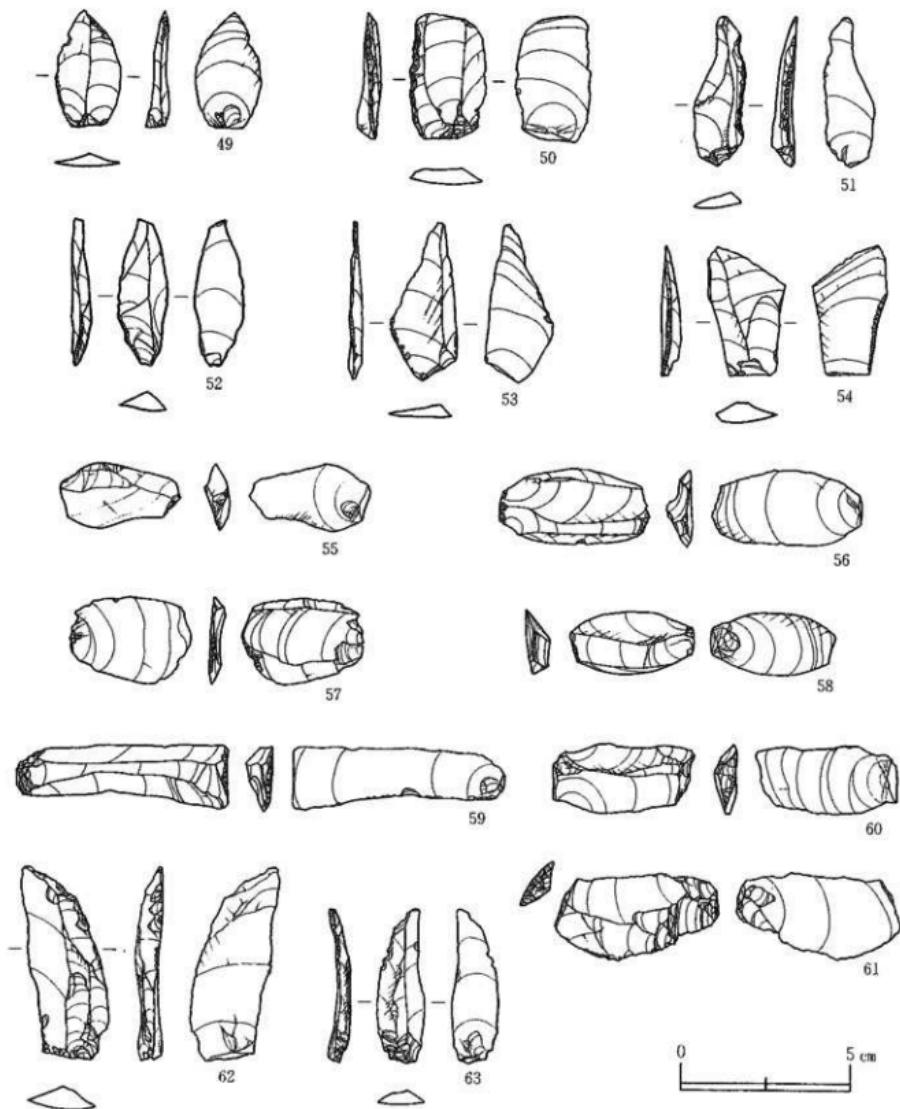
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
25	31895	K.A	I c	47.5	30.0	10.5	11.5	131	-	31	30056	K.A	I d	48.5	19.0	8.0	5.5	118	E 3
26	31226	K.A	I c	47.5	18.5	6.0	4.0	129	F 1	32	31245	K.A	II a	63.5	25.0	10.5	11.0	124	C 2
27	16647	K.A	I d	57.5	21.0	9.5	6.7	111	D 1	33	31879	K.A	II a	61.0	23.5	10.5	11.7	--	F 4
28	15846	K.A	I d	50.0	23.0	7.0	5.1	120	F 2	34	16175	K.A	II a	38.5	15.0	5.0	1.8	--	F 3
29	15835	K.A	I d	39.0	22.5	7.0	4.6	120	F 1	35	24523	K.A	II b	84.0	25.5	13.0	13.7	--	引
30	17583	K.A	I d	56.5	18.5	10.0	6.2	131	F 1	36	32733	K.A	II b	63.0	30.5	7.5	9.3	--	SK 28

第11図 出土石器（3）ナイフ形石器A群（3）



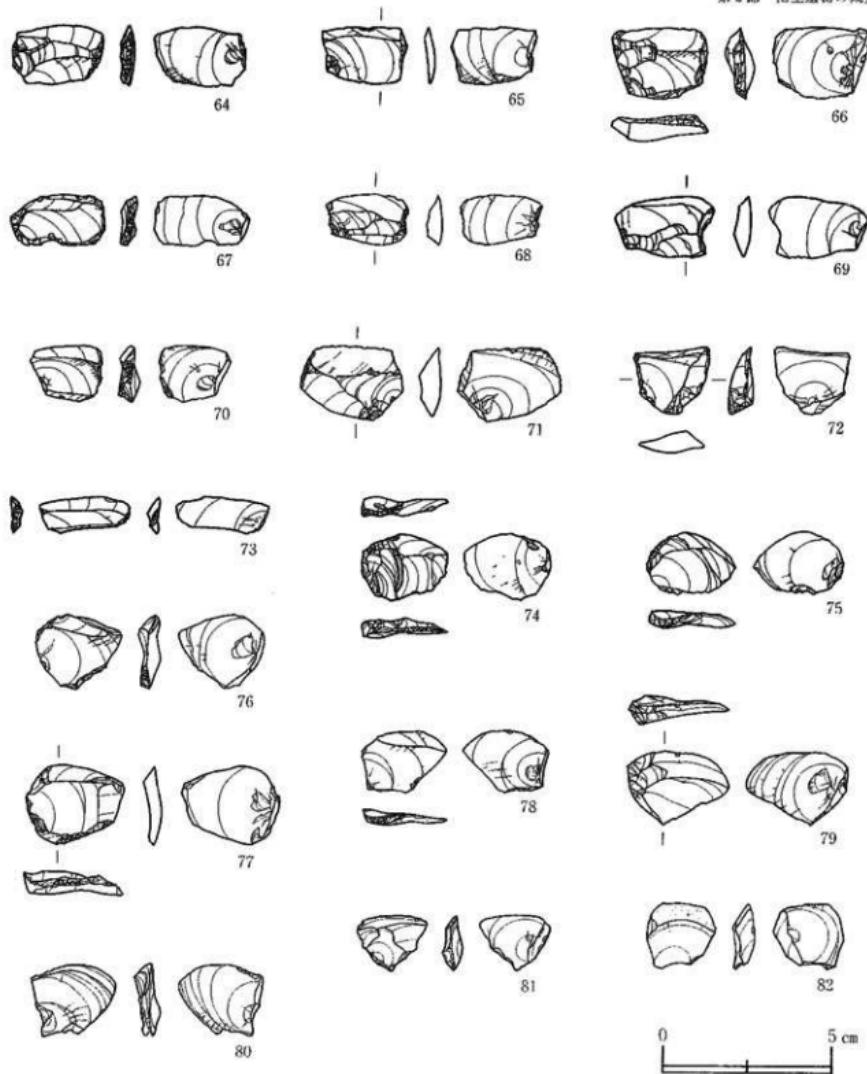
No.	遺物No.	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No.	遺物No.	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
37	17720	K A	II b	63.0	17.5	7.0	5.4	--	F 1	43	10905	K A	III a	38.0	18.0	6.0	3.0	--	E 1-2
38	16721	K A	III a	64.0	25.0	10.0	10.0	116	D	44	31056	K A	III a	82.5	28.0	13.0	14.5	118	E 3
39	15734	K A	III a	61.0	20.0	10.0	7.4	127	B 2	45	33054	K A	III b	59.0	28.0	7.5	9.9	107	SK 64
40	12448	K A	III a	74.0	18.5	7.0	5.2	120	E 3	46	17118	K A	III b	66.0	24.0	10.0	11.1	127	F 1
41	14318	K A	III a	55.0	21.0	6.0	4.8	111	A	47	10505	K A	III d	44.0	19.0	7.5	4.5	116	D 1
42	13930	K A	III a	51.0	21.0	8.0	6.5	123	D 1	48	24178	K A	III d	40.5	23.0	7.0	4.0	105	C 4

第12図 出土石器(4) ナイフ形石器A群(4)



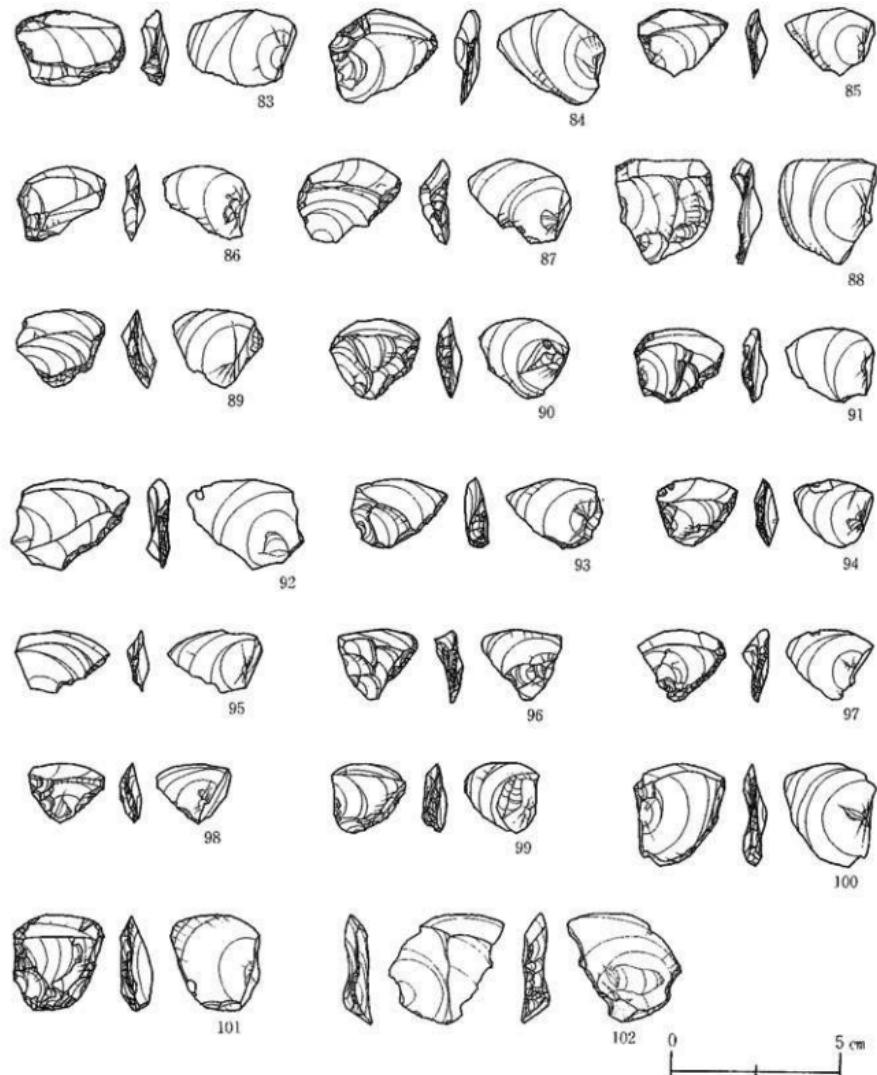
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
49	17646	K A	Ⅲ d	35.0	19.0	6.5	2.7	113	B 1	57	19879	K A	V a	36.5	26.5	4.5	3.1	—	D 2
50	30004	K A	Ⅲ d	38.0	23.0	7.0	5.1	118	—	58	16263	K A	V a	19.0	37.5	7.0	4.8	128	D 1
51	33219	K A	IV a	44.5	15.5	7.0	2.7	—	—	59	24589	K A	V a	63.5	19.5	7.0	6.1	124	外
52	24458	K A	IV a	43.5	14.5	5.5	2.6	—	—	60	19407	K A	V a	21.0	42.0	7.0	6.1	131	F 1
53	13853	K A	N b	47.0	20.0	4.0	3.0	—	C 2	61	32917	K A	V b	26.0	48.5	11.0	8.0	126	SK 84
54	31897	K A	IV b	39.0	22.5	6.0	3.6	—	SK 68	62	32993	K A	V c	57.5	27.0	8.0	8.2	133	F 1
55	10888	K A	V a	20.0	36.0	4.5	3.2	127	E 3	63	11026	K A	V c	46.0	14.0	5.0	2.4	113	SK 75
56	17391	K A	V a	45.0	23.0	8.0	4.7	116	C 3	0									

第13図 出土石器（5） ナイフ形石器A群（5）



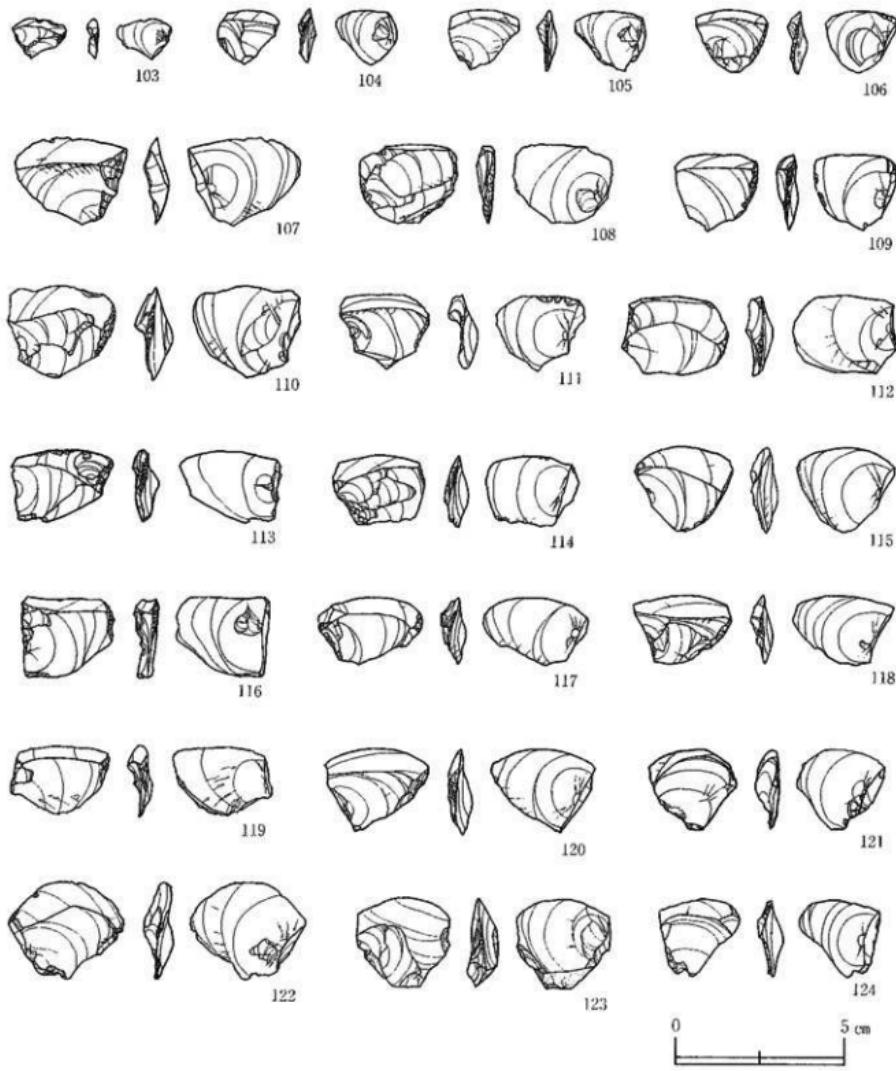
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
64	20752	K A	V I a	17.5	27.0	3.0	2.2	117	F 2	74	12347	K B	I a	20.0	25.5	6.0	2.2	116	E 1
65	21844	K A	V I a	17.0	25.5	3.0	1.8	117	D 2	75	24792	K B	I a	18.5	27.0	5.5	2.0	119	E 1
66	23423	K A	V I a	21.5	28.5	8.5	4.4	122	C 1	76	12277	K B	I a	22.0	26.0	6.5	2.3	123	E 1
67	12687	K A	V I a	15.0	28.0	5.0	1.7	112	F 1	77	30559	K B	I a	23.5	29.5	5.5	3.1	116	E 1
68	13059	K A	V I a	15.0	24.5	5.0	1.8	—	C 1	78	19914	K B	I a	18.5	25.0	3.0	1.2	126	A
69	19238	K A	V I a	18.5	30.0	5.5	2.2	121	C 1	79	31748	K B	I b	22.0	30.0	7.0	3.3	127	E 1
70	16981	K A	V I a	17.0	21.5	3.5	1.8	121	B 1	80	22186	K B	f b	21.0	25.0	5.5	1.9	118	C 1
71	12924	K A	V I a	22.0	30.5	7.0	4.7	134	C 1	81	18722	K B	I b	16.5	21.0	6.5	1.4	127	F 2
72	21790	K A	V I a	20.0	22.5	7.5	2.5	129	C 4	82	13325	K B	I b	19.5	21.0	6.5	1.8	124	F 1
73	24804	K A	V I b	11.0	27.0	4.0	0.9	—	E 1										

第14図 出土石器（6）ナイフ形石器A群（6）・B群（1）



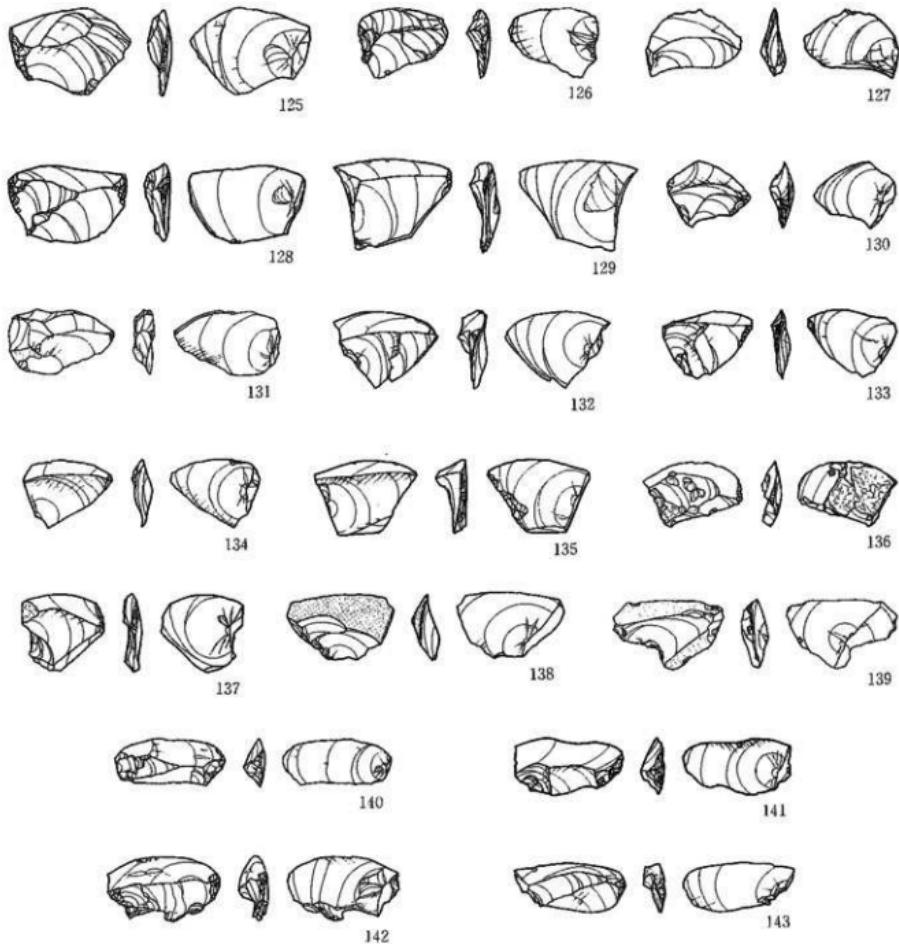
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
83	31744	KB	I c	22.5	32.5	6.0	5.4	131	E 1	93	12904	KB	I d	20.5	28.5	8.0	3.5	123	C 1
84	30303	KB	T c	28.5	32.0	7.0	4.6	103	E 1	94	20982	KB	I d	20.0	24.0	5.5	2.0	116	F 4
85	18437	KB	I c	20.0	26.5	5.5	1.9	116	F 1	95	22203	KB	I d	19.0	28.0	5.0	2.0	109	C 1
86	14893	KB	T c	22.0	26.5	4.0	2.7	116	C 1	96	10584	KB	I d	21.0	24.0	6.0	1.5	116	C 2
87	10746	KB	I c	25.0	30.5	8.5	3.8	121	E 1	97	21399	KB	I d	21.0	26.0	1.7	109	E 1	
88	16968	KB	T c	31.5	29.0	8.0	3.9	114	B 1	98	19700	KB	I d	18.0	22.0	6.0	2.0	126	C 1
89	12176	KB	I d	23.0	26.0	9.5	4.5	124	C 2	99	12281	KB	I d	20.5	22.0	7.0	2.2	126	E 1
90	31750	KB	I d	23.5	27.0	5.0	3.5	102	E 1	100	12226	KB	I d	30.5	27.0	5.5	3.3	110	E 1
91	19446	KB	I d	22.0	26.5	4.0	2.5	109	F 1	101	24779	KB	I d	28.5	26.0	9.0	6.1	114	E 1
92	31832	KB	I d	27.0	34.5	5.5	3.8	107	外	102	20794	KB	I d	33.0	34.0	9.0	6.5	119	F 2

第15図 出土石器（7）ナイフ形石器B群（2）



No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	プロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	プロック
103	16144	KB	II	12.0	16.0	3.5	0.4	114	F 4	114	23879	KB	II	21.0	28.0	4.0	3.0	135	B 1
104	13150	KB	II	16.5	18.0	4.5	1.1	129	C 1	115	11463	KB	II	25.5	29.0	7.0	4.3	124	F 4
105	16356	KB	II	18.0	21.0	3.0	1.1	118	D 1	116	15231	KB	II	24.0	28.0	5.0	3.3	110	F 4
106	21568	KB	II	18.5	21.5	3.0	1.1	110	C 2	117	22194	KB	II	20.0	31.0	6.0	2.9	131	C 1
107	39127	KB	II	26.0	33.5	6.5	3.5	122	A	118	15442	KB	II	20.5	29.5	7.0	2.7	122	F 1
108	22101	KB	II	23.5	29.5	3.0	2.7	118	C 1	119	20778	KB	II	20.5	29.5	5.0	2.6	126	F 2
109	11461	KB	II	23.0	24.5	5.0	2.3	128	F 4	120	13066	KB	II	25.0	31.0	4.5	3.0	123	C 1
110	23255	KB	II	27.5	32.0	6.5	5.2	134	B 1	121	10045	KB	II	24.0	26.5	4.0	2.0	124	C 2
111	17778	KB	II	22.0	26.5	6.0	2.6	120	B 1	122	18946	KB	II	29.5	35.0	5.0	4.1	127	E 1
112	14346	KB	II	23.5	32.0	6.0	4.8	121	A	123	30054	KB	II	26.5	27.5	7.5	4.8	112	E 3
113	32657	KB	II	21.0	30.0	4.5	3.0	125	SK 0.8	124	12692	KB	II	23.0	24.0	6.0	2.5	133	F 1

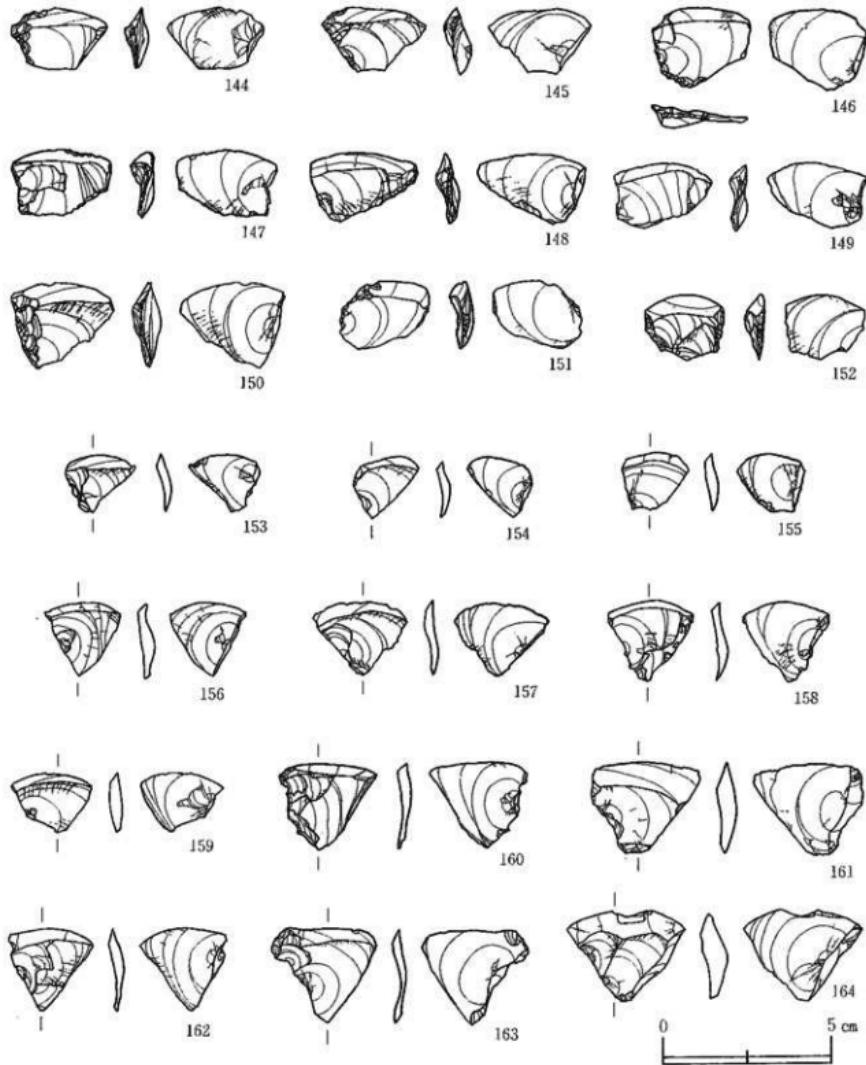
第16図 出土石器（8）ナイフ形石器B群（3）



0 5 cm

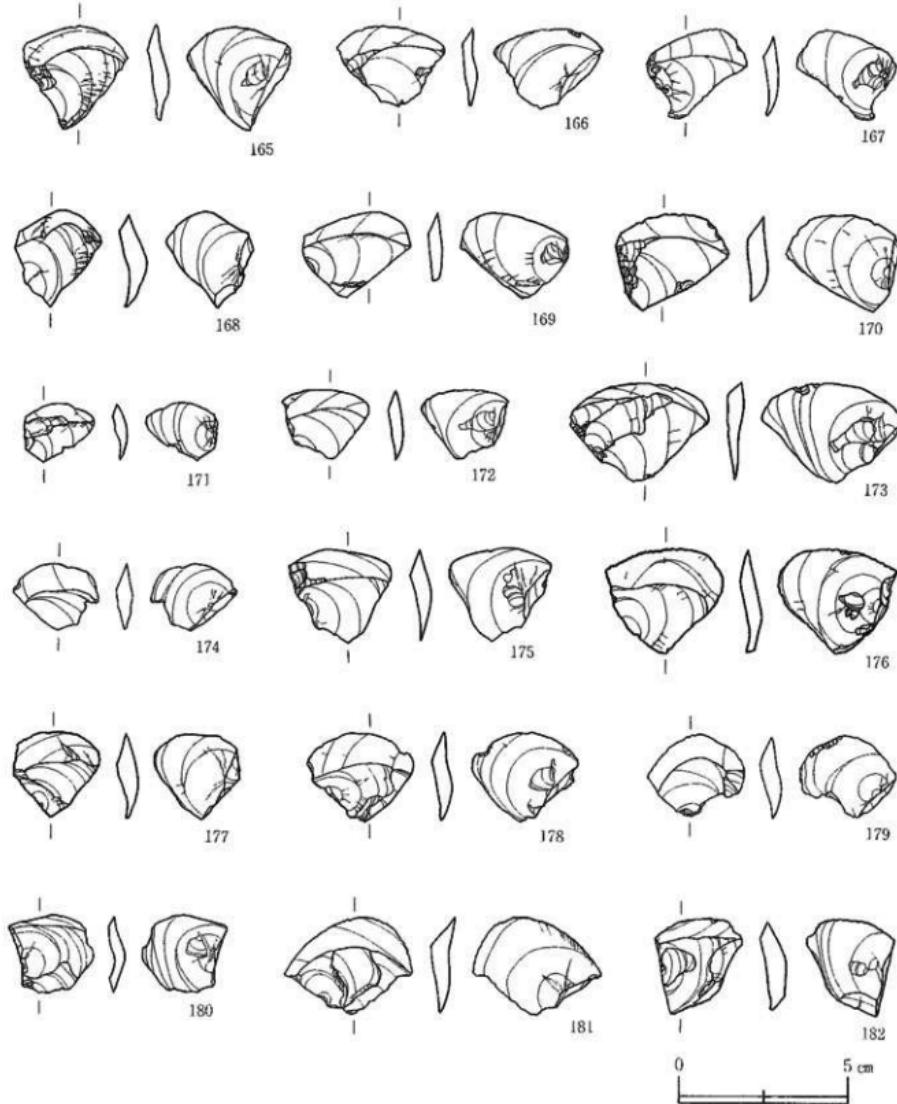
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
125	10789	KB	II	26.0	36.0	7.0	4.7	133	E 1	135	23294	KB	II	22.0	30.5	5.0	2.9	122	D 1
126	15251	KB	II	21.0	27.0	5.5	2.5	—	F 4	136	21458	KB	II	19.5	29.5	3.0	1.7	—	D 2
127	12376	KB	II	29.5	28.5	3.5	2.1	127	E 1	137	19356	KB	II	23.5	24.5	5.0	2.4	131	C 1
128	18672	KB	II	23.5	34.5	6.0	4.9	132	C 3	138	15775	KB	II	19.5	32.0	8.5	2.8	131	E 2
129	21208	KB	II	27.0	35.0	7.0	4.5	118	D 1	139	14014	KB	II	20.5	33.0	8.0	3.7	126	D 1
130	31212	KB	II	19.0	24.5	5.0	1.7	127	F 3	140	23637	KB	II	15.5	32.5	7.0	2.8	134	A
131	14147	KB	II	19.0	31.5	6.0	2.5	118	D 1	141	12593	KB	II	17.0	32.0	7.0	2.9	127	C 1
132	30579	KB	II	22.5	30.5	6.5	3.1	116	D 1	142	11109	KB	II	19.0	33.0	6.5	3.9	111	F 1
133	18707	KB	II	20.5	26.5	4.0	1.7	221	C 1	143	12589	KB	II	15.0	33.0	3.0	2.0	—	C 1
134	10111	KB	II	20.5	26.5	5.5	1.7	124	C 2										

第17図 出土石器（9）ナイフ形石器B群（4）



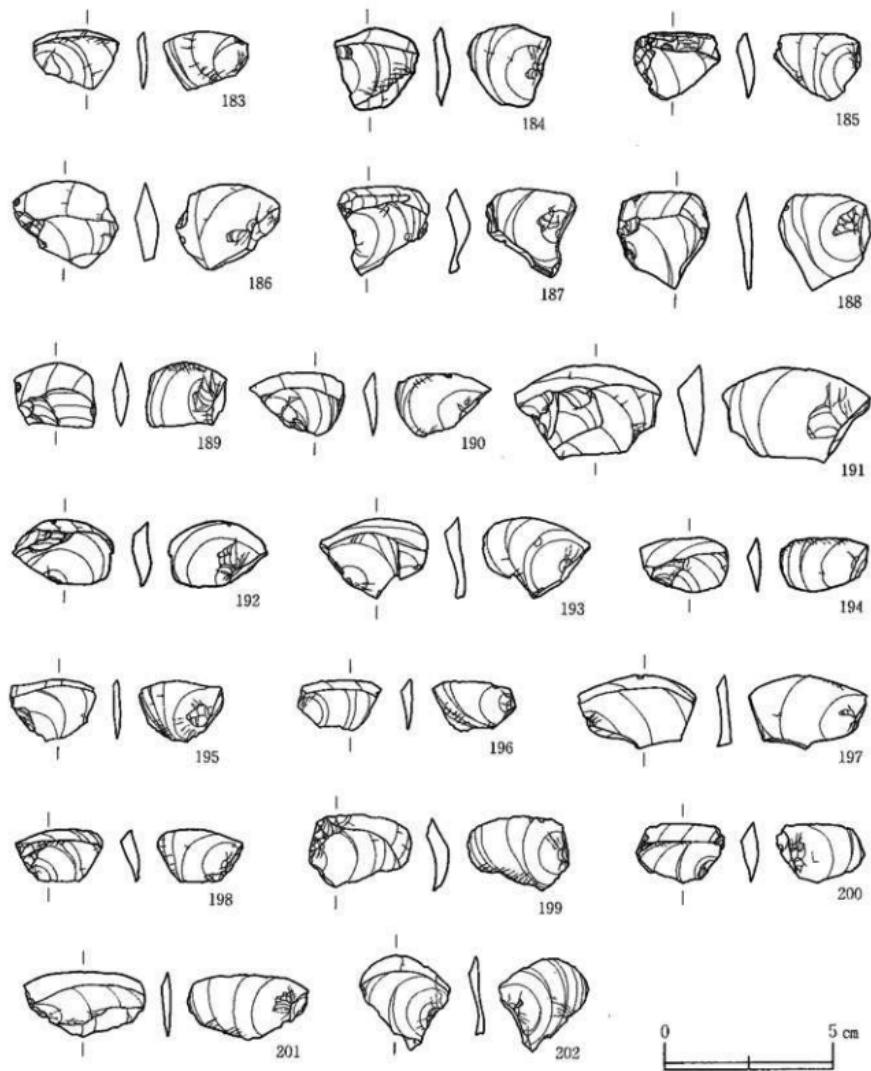
No.	遺物No.	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No.	遺物No.	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
144	21392	KB	IIIa	18.5	28.5	7.0	2.3	117	E 1	155	21189	KBOF	I	17.0	20.0	4.0	1.1	129	D 1
145	20621	KB	IIIa	19.5	30.5	8.0	2.3	136	F 1	156	19351	KBOF	I	22.0	22.5	5.0	1.4	101	C 1
146	30040	KB	IIIa	24.0	29.0	7.0	2.2	118	—	157	19577	KBOF	I	22.0	28.0	4.0	1.3	108	B 1
147	22005	KB	IIIb	20.0	30.0	4.5	2.2	121	F 3	158	32557	KBOF	I	24.0	25.5	5.5	1.6	112	E 1
148	13502	KB	IIIb	20.5	32.0	6.5	3.1	115	C 4	159	19684	KBOF	I	17.5	24.0	4.0	1.7	110	C 1
149	32880	KB	IIIb	19.5	29.5	2.5	1.5	122	SK75	160	18340	KBOF	I	25.5	29.5	4.0	2.0	125	A
150	10002	KB	IIIb	25.5	31.0	7.0	3.9	128	E 3	161	20970	KBOF	I	27.0	32.5	6.0	4.6	129	F 3
151	15557	KB	IIIc	20.0	26.0	7.0	2.7	124	F 1	162	12068	KBOF	I	24.5	25.0	4.5	1.7	110	F 2
152	13731	KB	IIIc	19.5	23.5	4.0	1.9	—	C 2	163	21475	KBOF	I	28.0	31.5	4.5	2.5	125	D 2
153	11533	KBOF	I	17.0	21.0	4.0	0.8	111	C 3	164	31244	KBOF	I	27.0	36.0	7.5	5.1	120	F 3
154	17256	KBOF	I	18.5	19.5	4.0	0.9	124	F 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

第18図 出土石器(10) ナイフ形石器B群(5)、小形貝殻状剝片(1)



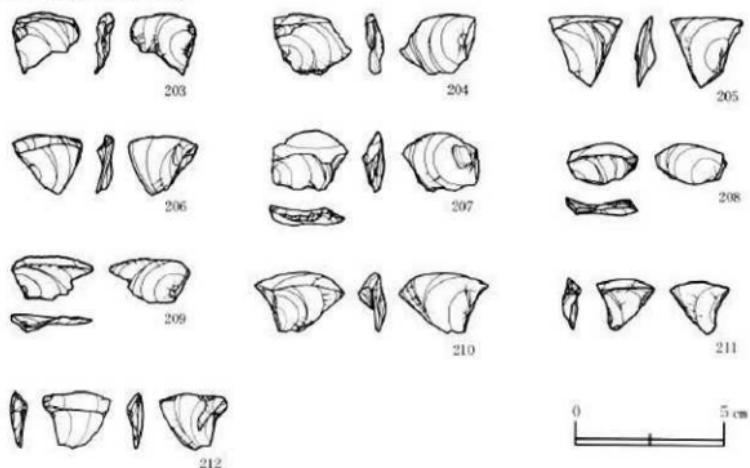
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
165	16590	KBOF	1	32.5	39.5	6.5	4.0	121	C 2	174	31209	KBOF	1	20.0	25.5	5.0	1.8	124	E 1・2
166	21309	KBOF	1	24.0	32.0	4.5	2.8	114	D 1	175	12636	KBOF	1	28.5	30.5	6.5	4.0	121	B 1
167	23962	KBOF	1	27.0	30.0	5.0	2.6	132	A	176	13436	KBOF	1	31.0	35.0	7.0	4.9	132	C 4
168	10903	KBOF	1	28.5	26.0	8.5	3.3	127	E 1	177	31208	KBOF	1	25.5	25.5	6.5	3.3	136	F 3
169	19058	KBOF	1	25.5	32.0	4.0	3.0	117	A	178	30491	KBOF	1	26.5	31.5	6.0	3.4	117	D 2
170	24600	KBOF	1	28.5	34.0	6.5	5.3	134	外	179	12992	KBOF	1	24.5	29.0	6.5	3.4	135	C 1
171	10978	KBOF	1	17.5	21.0	4.0	1.1	128	F 1	180	13350	KBOF	1	23.5	25.0	5.0	1.8	120	F 1
172	16677	KBOF	1	21.0	26.0	5.0	2.3	116	C 2	181	32939	KBOF	1	29.0	38.0	7.0	5.0	114	SK 75
173	20573	KBOF	1	29.0	41.5	5.0	6.2	124	F 1	182	10726	KBOF	1	29.0	26.0	8.0	4.7	100	E 1

第19図 出土石器 (11) 小形貝殻状剥片 (2)



No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
183	24728	KBOF	I	17.5	25.5	3.0	1.3	N/A	C 1	193	14876	KBOF	I	24.0	32.0	6.5	3.0	129	C 1
184	17649	KBOF	I	24.0	24.5	4.5	2.1	N/A	B 1	194	12324	KBOF	I	16.0	26.0	4.0	1.8	119	E 1
185	14549	KBOF	I	20.5	25.5	5.0	1.9	N/A	A	195	13865	KBOF	I	18.5	25.5	2.5	1.3	113	C 2
186	17836	KBOF	I	25.5	31.5	7.0	4.1	N/A	C 1	196	11149	KBOF	I	15.0	25.0	3.5	1.1	124	F 1
187	11183	KBOF	I	27.0	26.0	7.0	3.0	N/A	F 1	197	20056	KBOF	I	22.0	35.0	5.0	2.9	126	B 2
188	15502	KBOF	I	28.5	27.5	4.5	3.7	N/A	F 1	198	16593	KBOF	I	15.5	25.5	5.5	1.7	131	C 2
189	18238	KBOF	I	19.5	24.0	4.5	2.4	N/A	A	199	19400	KBOF	I	22.0	30.0	6.5	2.6	129	F 1
190	19126	KBOF	I	19.0	28.0	4.0	2.1	N/A	C 1	200	21687	KBOF	I	17.5	26.5	5.0	1.9	121	C 1
191	32836	KBOF	I	28.5	44.0	7.5	8.3	N/A	SK 7.5	201	10741	KBOF	I	19.5	36.0	3.0	2.4	114	E 1
192	17004	KBOF	I	19.5	30.0	5.5	2.3	N/A	B 1	202	20639	KBOF	I	28.0	26.5	5.0	1.6	133	A

第20図 出土石器(12) 小形貝殻状剣片(3)



No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ロック
203	31554	KBF	Z	21.0	22.0	4.5	1.1	126	E 3	208	22065	KBF	Z	14.0	23.0	3.5	1.1	118	C 1
204	14668	KBF	Z	21.0	25.5	4.5	1.7	117	B 1	209	14242	KBF	Z	15.0	27.0	5.5	1.0	125	A
205	11790	KBF	Z	24.0	24.5	3.0	1.3	127	D 1	210	23719	KBF	Z	20.0	30.0	7.0	3.0	116	C 1
206	14982	KBF	Z	20.0	23.0	2.5	1.3	—	C 1	211	12231	KBF	Z	17.5	19.5	6.5	1.2	—	E 1
207	19137	KBF	Z	20.0	25.5	5.5	2.5	134	C 1	212	30184	KBF	Z	19.0	23.0	5.5	1.7	110	E

第21図 出土石器 (13) 小形貝殻状剥片 (4)

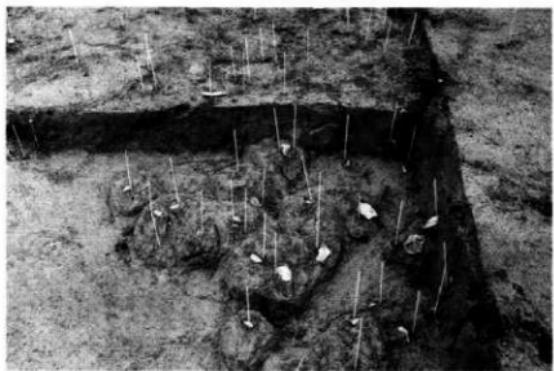
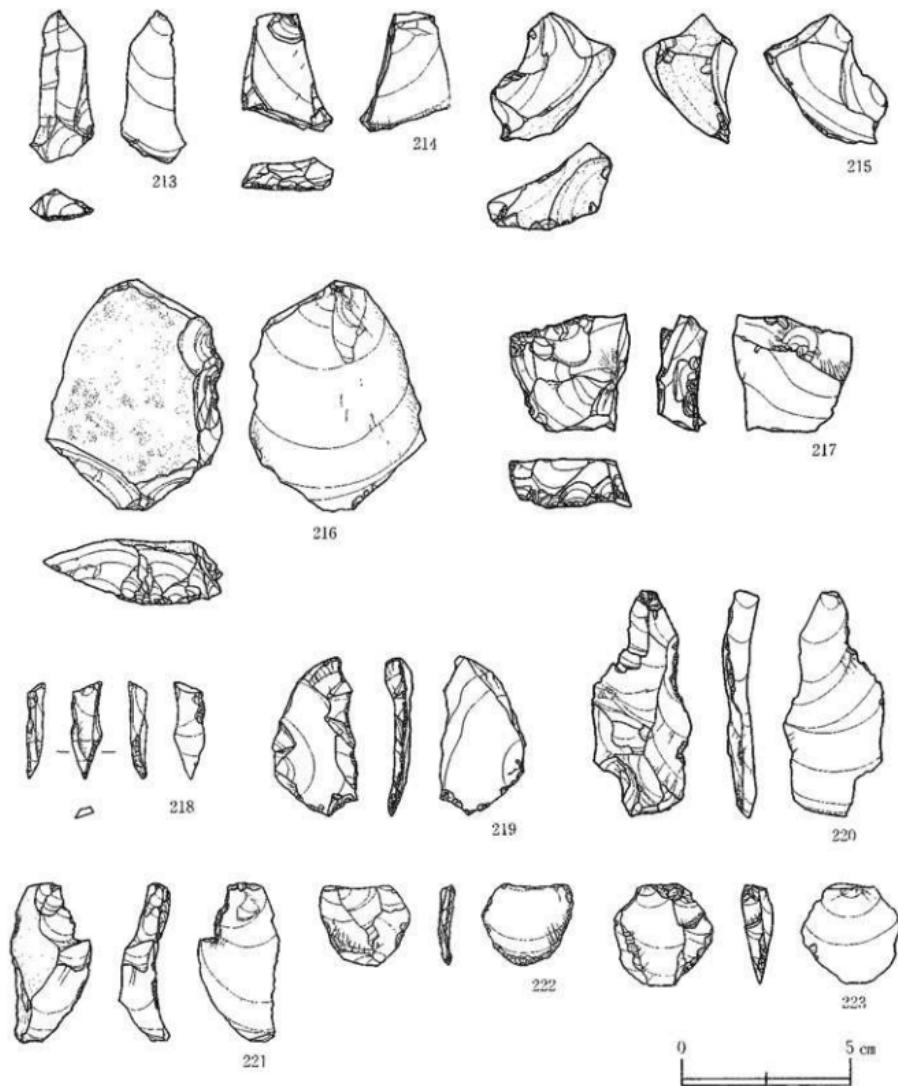
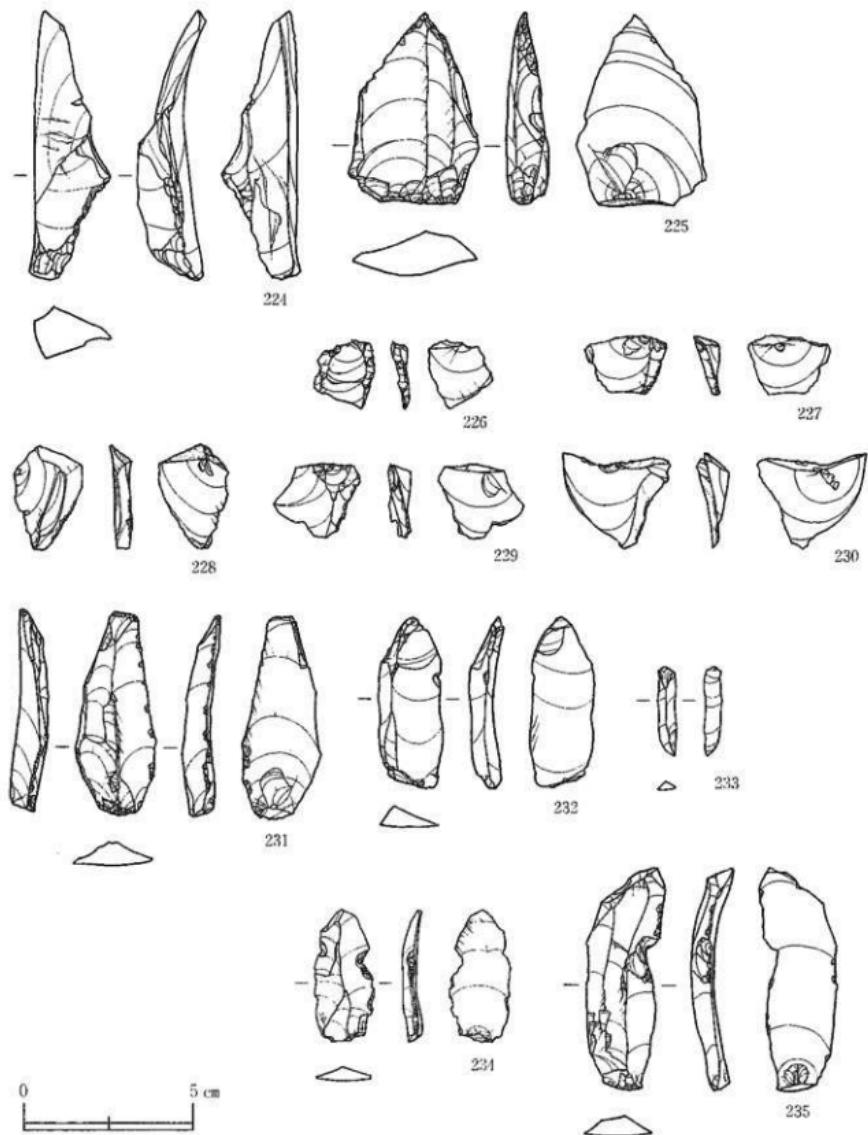


写真7 遺物出土状況 (L.T. 67グリッド)



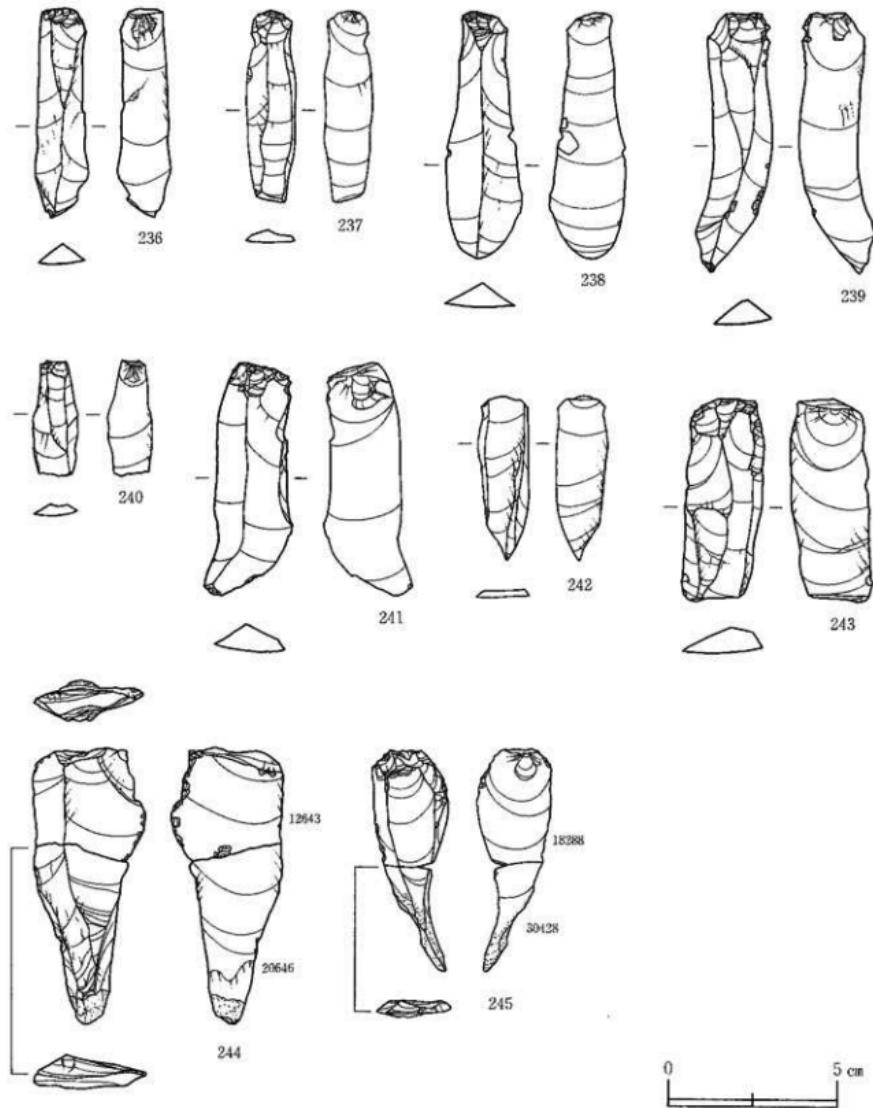
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	フロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	フロック
213	16049	E S		15.5	19.5	10.0	4.2	119	C 1	219	12610	S S	I	47.5	23.5	8.0	7.0	101	C 1
214	21231	E S		35.5	27.0	10.0	7.4	—	D 1	220	20898	S S	I	67.0	30.0	9.5	10.2	—	外
215	13727	E S		38.5	37.0	28.0	18.5	—	C 2	221	21873	S S	I	47.5	24.0	15.0	8.6	123	D 2
216	21423	E S		79.0	52.5	19.5	65.0	112	D 1	222	14459	S S	I	24.0	27.5	5.0	2.3	—	B 1
217	26322	E S		34.5	36.0	15.0	18.2	125	—	223	13041	S S	I	30.0	29.5	9.0	5.0	116	C 1
218	14554	S S	I	29.0	9.0	5.5	1.0	—	A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

第22図 出土石器 (14) 搢器、削器 (1)



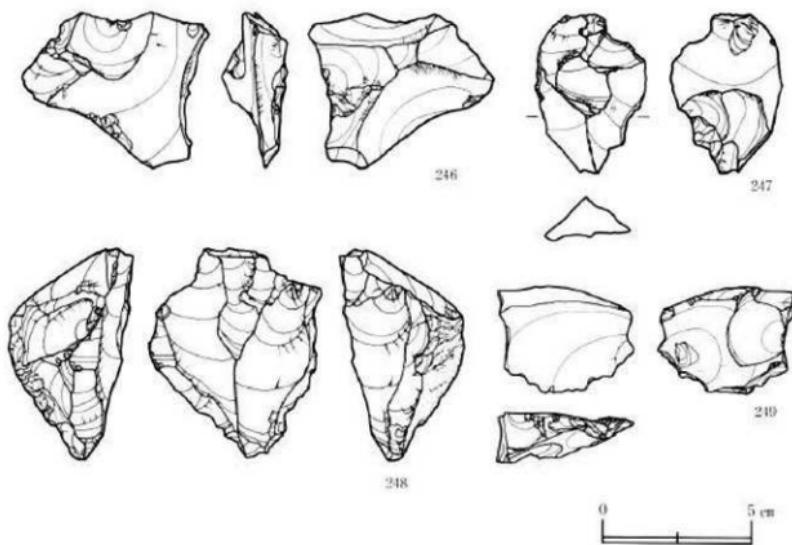
No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
224	14035	S S	I	80.5	24.0	20.0	17.2	-	D 1	230	32846	S S	II	28.5	32.0	10.0	4.1	113	S K75
225	18141	S S	I	57.0	38.5	13.0	21.2	137	B 1	231	31241	G R		60.5	23.5	10.0	9.6	109	S K08
226	22274	S S	II	21.0	19.0	4.5	0.8	-	C 3	232	17645	G R		51.0	19.5	9.5	6.6	-	B J
227	15411	S S	II	48.0	24.5	8.0	1.4	115	F 1	233	23997	G C		26.5	6.0	3.0	0.2	-	C 1
228	32269	S S	II	31.0	20.5	6.5	2.7	120	外	234	20001	N O		39.5	17.5	6.0	3.0	115	B 1
229	20873	S S	II	22.0	26.0	7.0	2.1	111	F 1	235	31540	N O		66.0	23.0	12.0	10.0	117	E 3

第23図 出土石器 (15) 刮削器 (2)、錐器、抉人石器



No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
236	24250	B	A	62.5	16.0	7.0	5.1	114	B 1	241	17727	B	A	69.5	26.5	11.0	13.0	115	B 1
237	31150	B	A	57.5	15.0	6.0	4.2	108	D 1	242	19595	B	B	49.0	15.0	4.5	2.4	—	B 1
238	31205	B	A	73.0	22.5	8.5	10.4	110	B 2	243	11902	B	B	60.5	24.0	9.0	13.2	111	D 2
239	24596	B	A	77.5	22.5	9.5	9.1	114	外	244	12643	B	B	82.5	33.5	12.5	19.5	—	B 2
240	15086	B	A	34.0	13.5	5.0	1.6	113	E 2	245	18288	B	B	66.5	22.0	5.0	5.4	116	B 1

第24図 出土石器 (16) 石刀

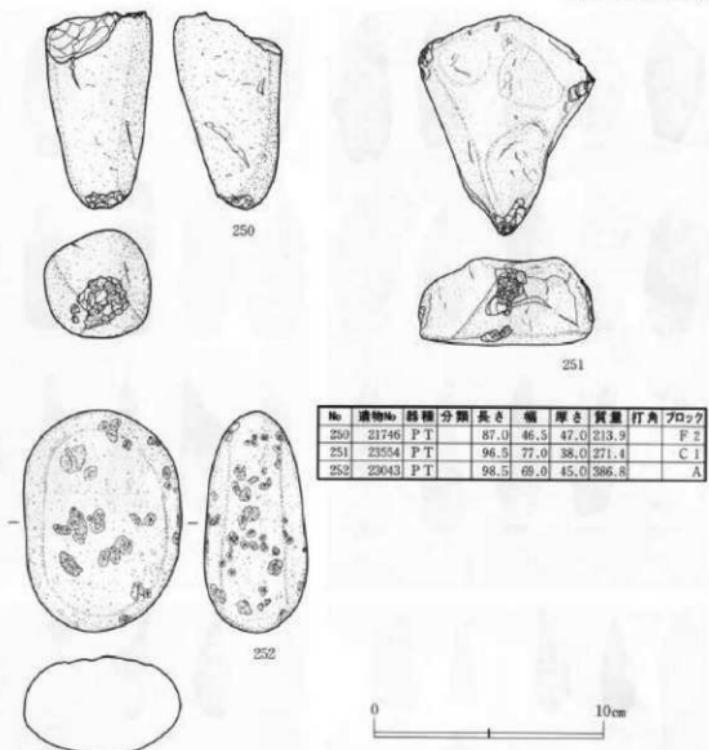


No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック	No	遺物No	器種	分類	長さ	幅	厚さ	質量	打角	ブロック
246	15083	C.O.		52.5	53.0	22.0	31.7	-	E 2	248	22941	C.O.		71.0	58.0	42.0	117.5	-	
247	30348	C.O.		54.0	38.0	15.0	18.6	-	E 1	249	31231	C.O.		36.0	46.0	17.0	26.2	-	C 3

第25図 出土石器 (17) 石核

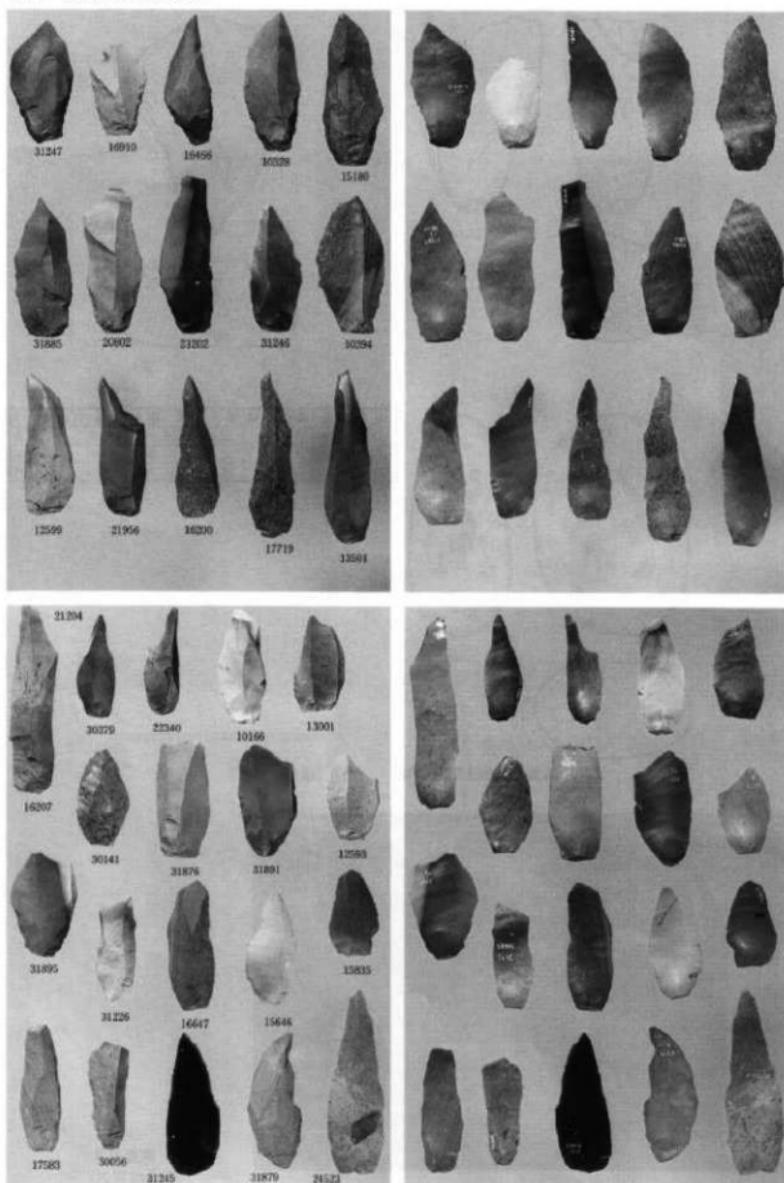


写真8 遺物出土状況 (L.S.67グリッド)

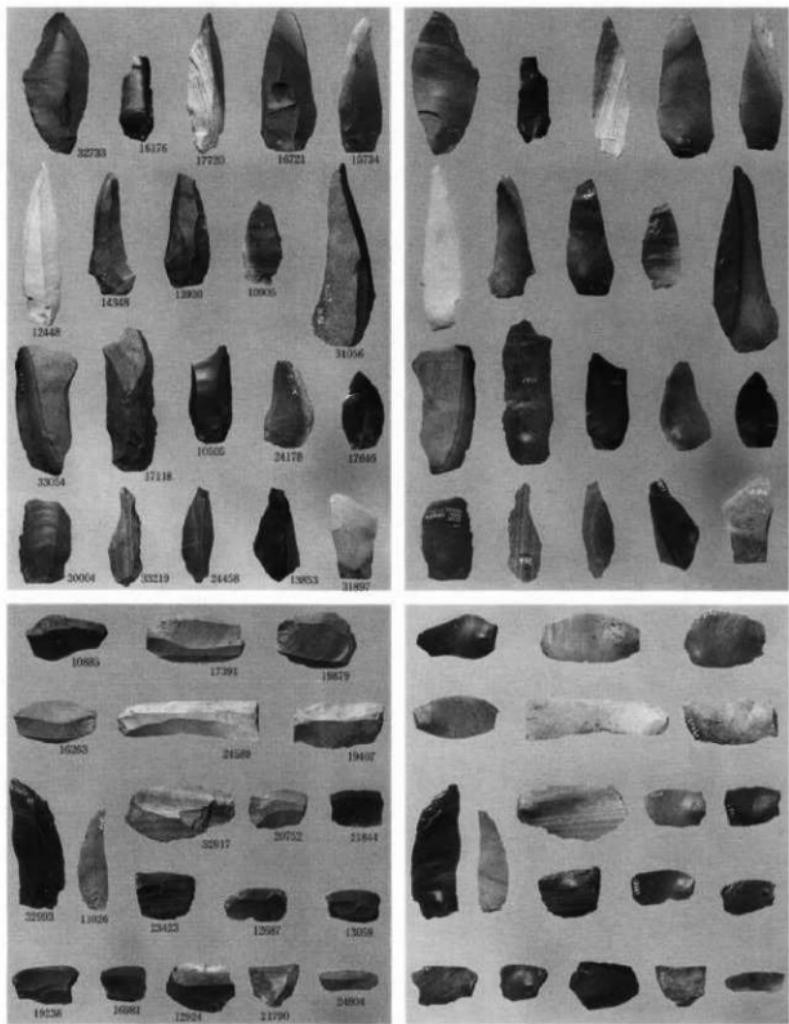


第26図 出土石器 (18) 穢器 (磨石・磨石)

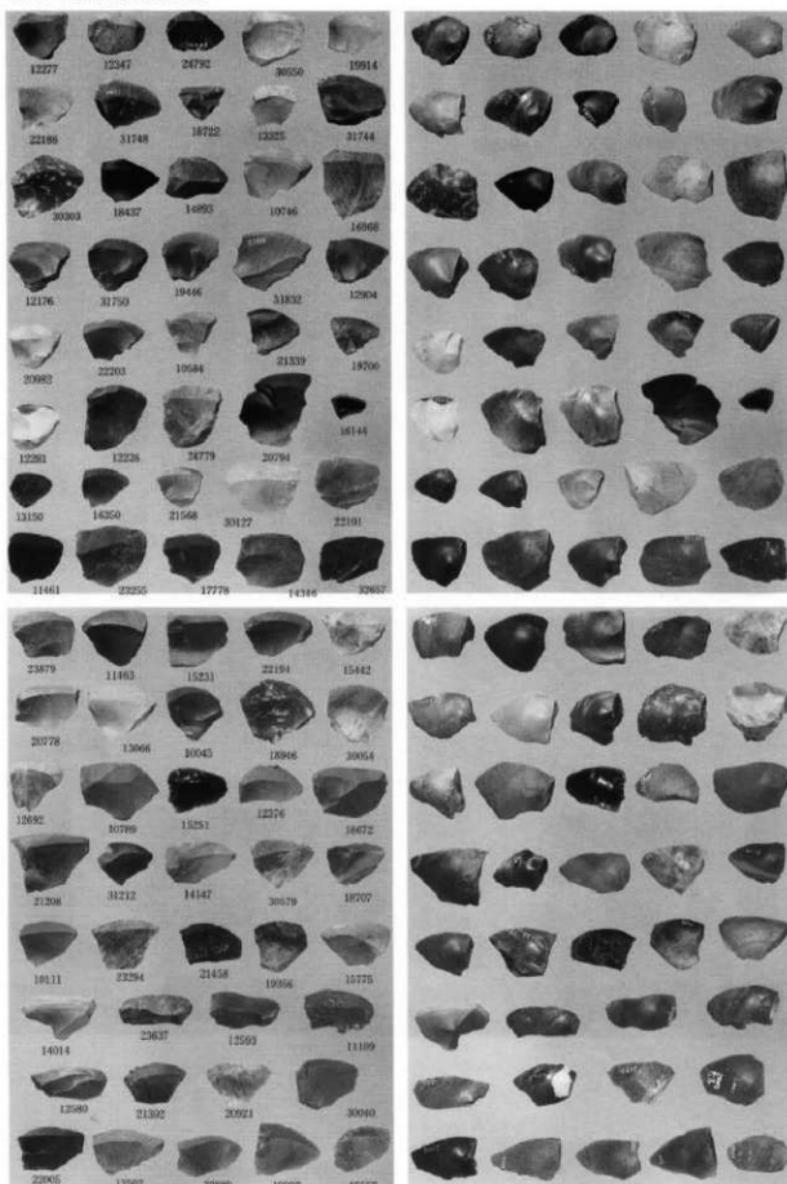
写真9 調査風景
(LS67周辺)



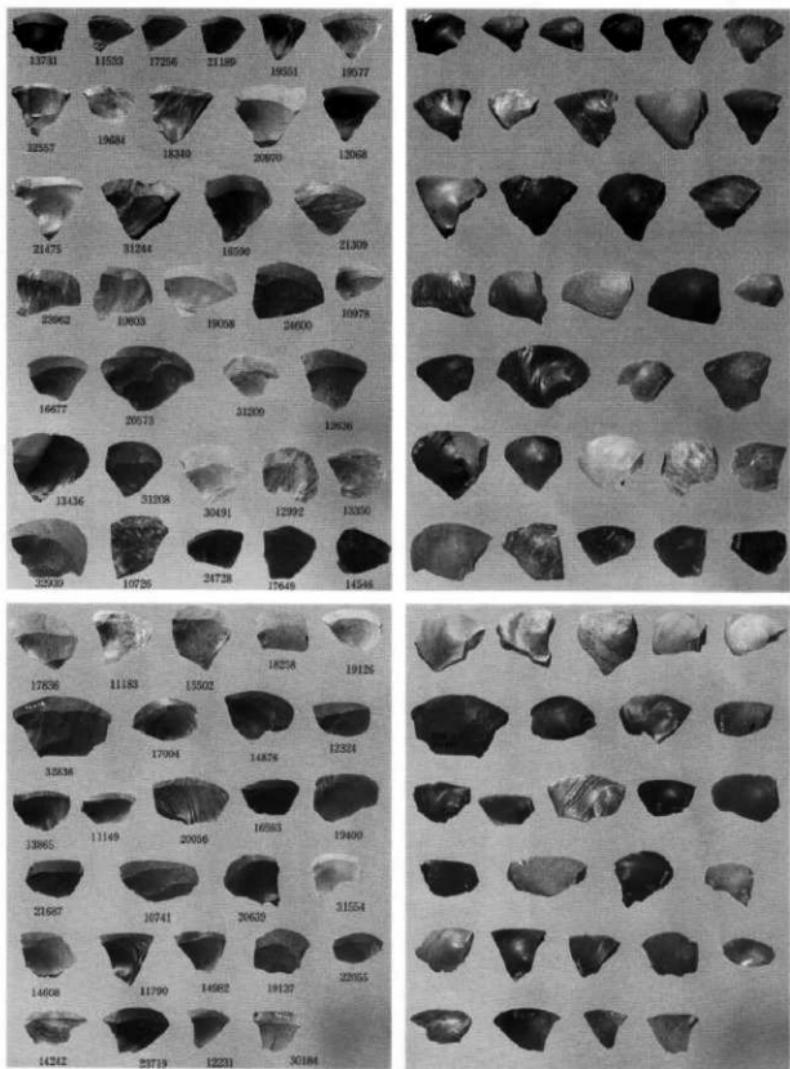
第27図 出土石器 (19) 写真 (1)



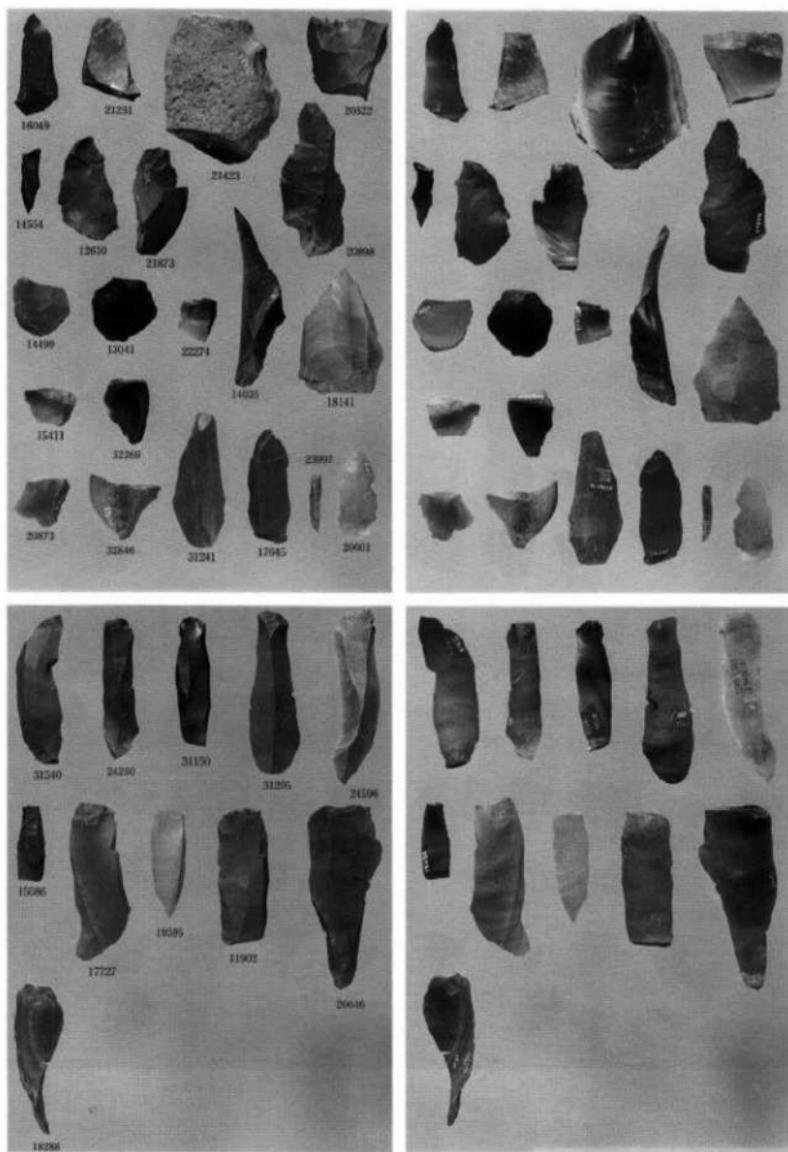
第28回 出土石器 (20) 写真 (2)



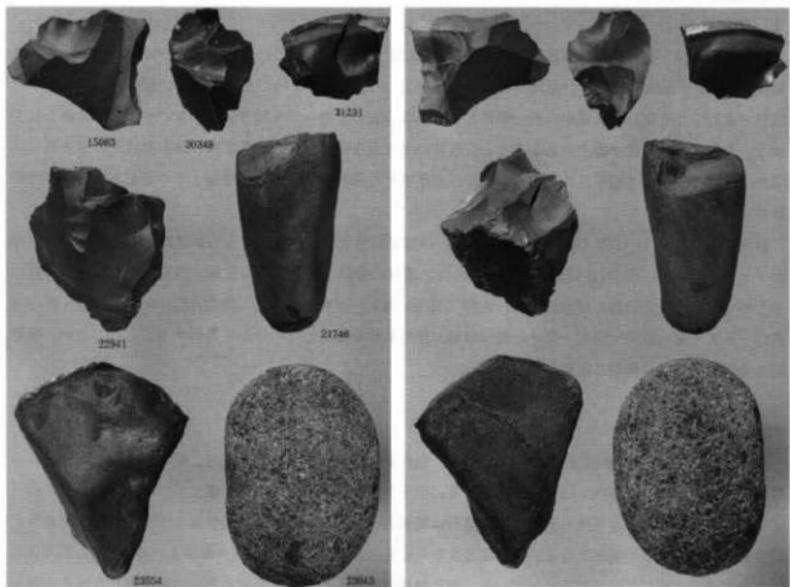
第29図 出土石器 (21) 写真 (3)



第30図 出土石器 (22) 写真 (4)



第31図 出土石器（23）写真（5）



第32図 出土石器 (24) 写真 (6)



写真10 調査風景 (C-4 ブロック)

3 個体分析

調査により得られた石器・剝片等は、接合作業の結果、941個体を抽出し得た。このうち珪質泥岩・頁岩921個体、チャート20個体であり、黒曜石は接合できなかった。ここでいう「個体」とは、接合関係が成立した資料であることを指し、石質から同一個体と推定されるものであっても接合関係ないものは別個体として扱う。これは検出点数が膨大であることと、石材の主体となる珪質泥岩・頁岩は、礫皮面近辺と中央部では岩相(質)が異なって観察されるものが多く、剥離された資料がどの母岩に帰属するのかが不明確なものが存在するためである。

以下では、個体1～124(個体26・78は欠番)の概要について記す。このうち個体35・123・124の3個体がチャートであり、他の119個体は珪質泥岩・頁岩素材の資料である。なお記載・挿図に係る凡例は47頁にまとめてある。また石器石材の色調は、色相(明度・彩度)が明・鮮→暗・濁の方向に対し、灰白・乳白→黄白→灰黄・灰→黄褐→明褐→褐→暗褐→暗褐・黒の名称を与え、この中から選択することにしたが、特徴的な色調については別個に記載している。

個体1 (第34～56図)

個体1は総数141点(4957.8g)で構成される。現存長(高)18.5cm、幅約23cm、厚さ約20cmの大型角状の礫に復原できるが、原形状・法量は不明である。出土位置はB-1ブロックに集中し、次いでC-2・C-4・B-2・A各ブロック内に点在する。資料は暗褐色(一部灰・灰白色)の色調を示す珪質泥岩であり、礫皮面は黄味がかった褐色となる。個体は大きく9分割(1-1～9)し、4(個体1～4を指す、以下同)のみ礫皮面除去後に2小分割を行っている。剝片剝離は、各小個体とも石刃あるいは縦長剝片作出を意図しているようであり、目的剝片としての小形貝殻状剝片を生産しているのは7・8のみである。この2つの小個体も当初はやや幅広の石刃・縦長剝片を剥離しており、剥離の工程終盤で打面転移(8)を経てから貝殻状剝片を剥取している。

本個体はその接合状況から、大型の原石を分割(礫皮面除去・分割打面作出)した後に遺跡内に持ち込んだものと推定でき、1と6が主にC-2・4ブロックで、7がB-1・2ブロック、その他はB-1ブロック内でそれぞれ剝片剝離を行っている。

個体2 (第57～72図)

個体2は総数203点(3114.4g)で構成される。現存長27cm、幅約18cm、最大厚約12.5cmの大型の礫に復原できた。出土位置はD-1ブロック(MA66中心)に最も集中するものの、Aブロックを除く全域で確認できる。その範囲は東西24m、南北22mと広大である。資料は白～灰白色の密な平行ラミナと海綿骨針化石を含む暗褐色(一部灰色)の珪質頁岩であり、礫皮面は褐～明褐色となる。個体は大きく3分割(2-1～3)し、2と3は、小分割・細分割を行い、最終的には、21の小・細個体に分割し、剝片剝離を実施することになる。各小個体での剝片剝離は次のようにまとめられる。

1は、長さ5～6cm程の石刃・縦長剝片を、2-1-1は、当初6～7cmの石刃を剥離し、打面再生を経て、長さ5cm前後の縦長剝片を剥離している。2-2-1は、細分したa、cが小形貝殻状剝片を、bは当初長さ5cm前後の石刃・縦長剝片を剥離し、打面転移後に貝殻状剝片を剥取している。2-2-2も貝殻状剝片を、2-2-3は、石刃・縦長剝片をそれぞれ剥離するが、後者は目的とする剝片は得られていない。3-1は、長さ4cm前後の縦長剝片・貝殻状剝片を剥離している。3-2では5細分(1・2・3a・3b・4)(P71へ)

個体分析・石器実測図に関する凡例

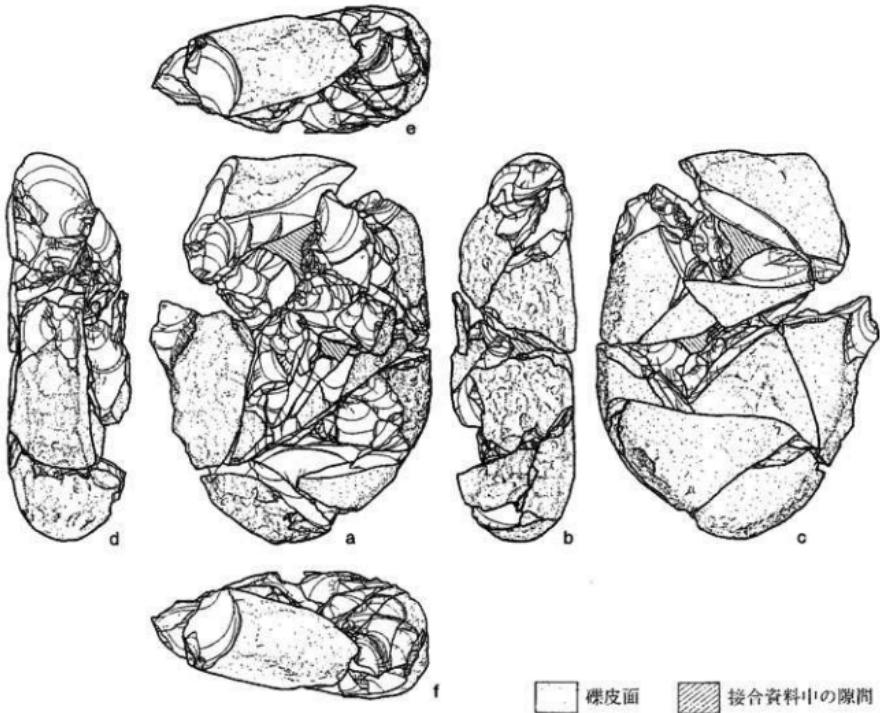
①個体分析にあたって本文では、その構成個数・重量、法量・形状、出土位置・ブロック、資料の色調・石質、及び分割・剥片剝離の概要を順番で記す。

②また挿図中には、各個体ごとに小分割の工程を→で表し、各小分割個体の剝片剝離の工程は次のように表記している。

→は連続した剝離の流れ、…→は他の剝離作業が行われて連続しない剝離の流れ、+は折断あるいは小割されたものの接合関係、○は剝離痕の観察から剝片等の存在が予測される1点分の剝離、()内には文頭の凡例に示した器種の略号と器種ごとの小分類の記号を一で結んでいる。

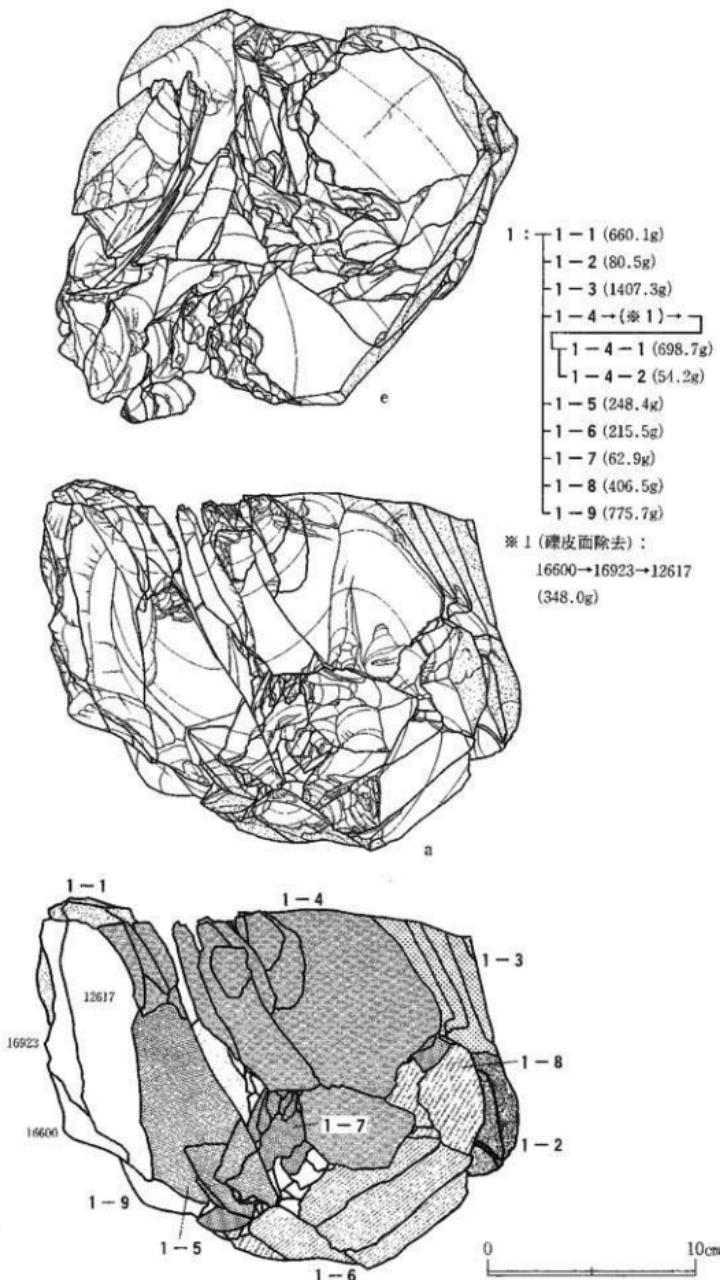
③接合石器実測図には、礫皮面と資料中の隙間については下のようなスクリーントーンを貼付している。その他については個々に凡例を示している。

④接合石器の実測図は、基本的に展開図法を用いており、展開各面にa～fの記号を付す。任意に正面を定め、これをa面とする。90度回転させた右側面をb面、裏面をc面、左側面をd面とする。a面の上面をe面、下面をf面とする。これは割付の関係上、展開のとおりに配置させられない場合、あるいは実測図と写真的撮影位置のズレが認められるために設定したものである。従って例えば、a面からb面への展開途中の図・写真については、a～bと表記する。

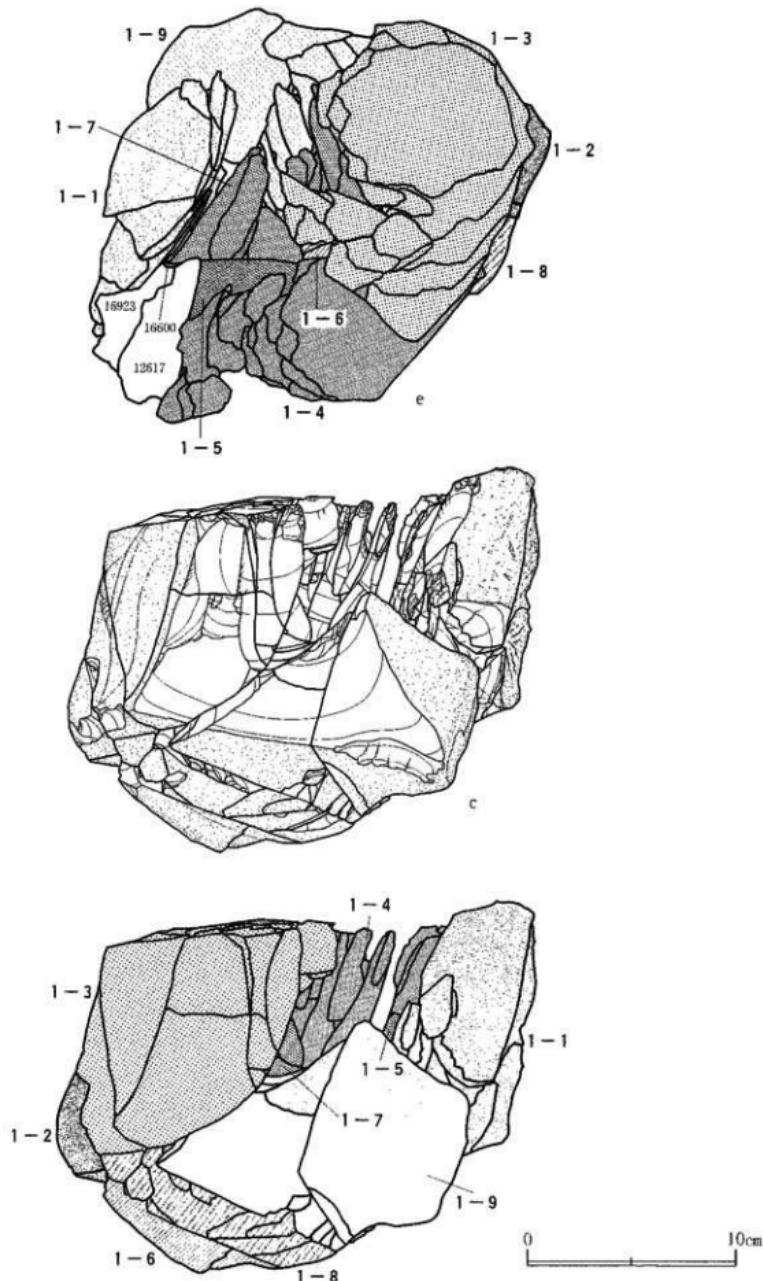


第33図 石器展開図凡例

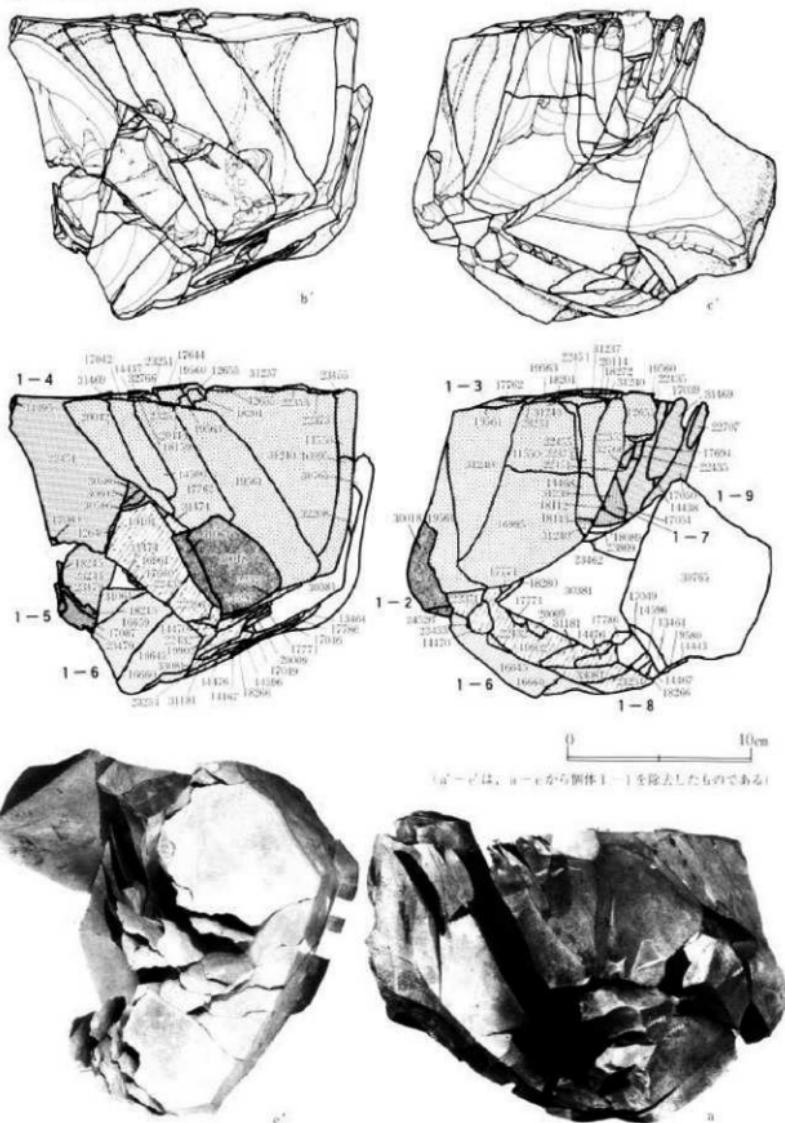
個体1 (4957.8g)



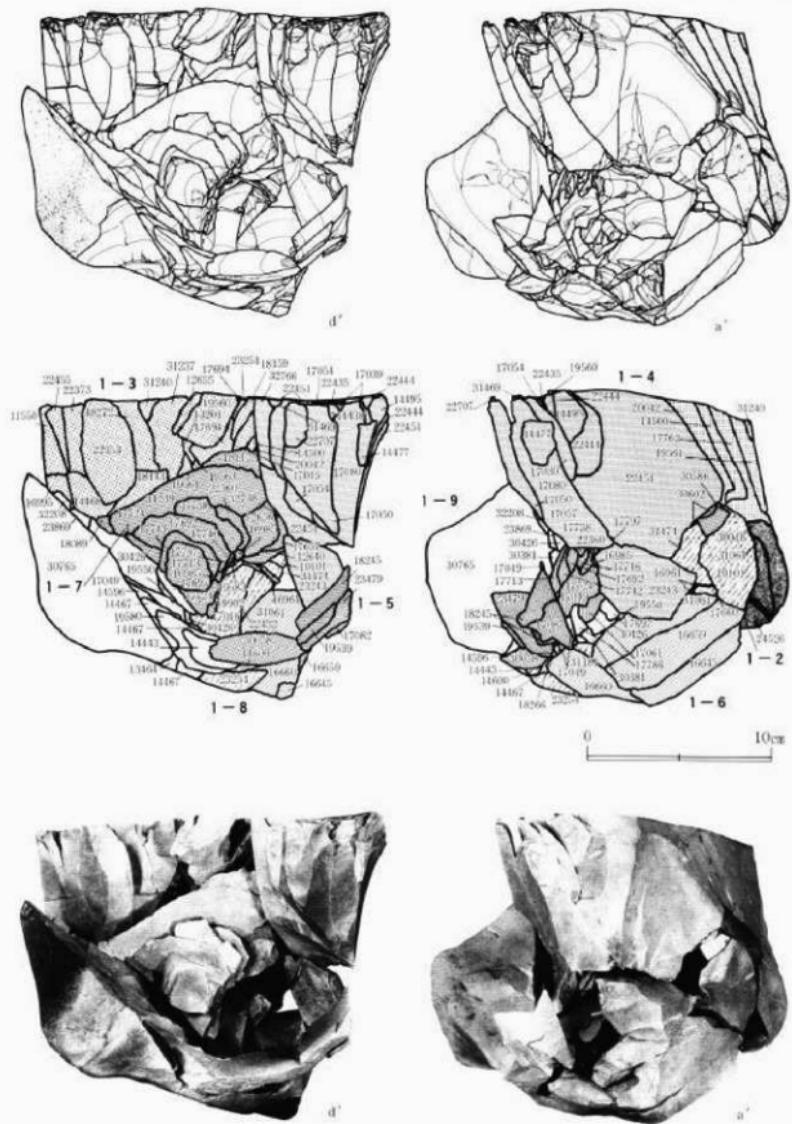
第34図 個体別資料(1) 個体1 (1)



第35図 個体別資料（2） 個体1（2）

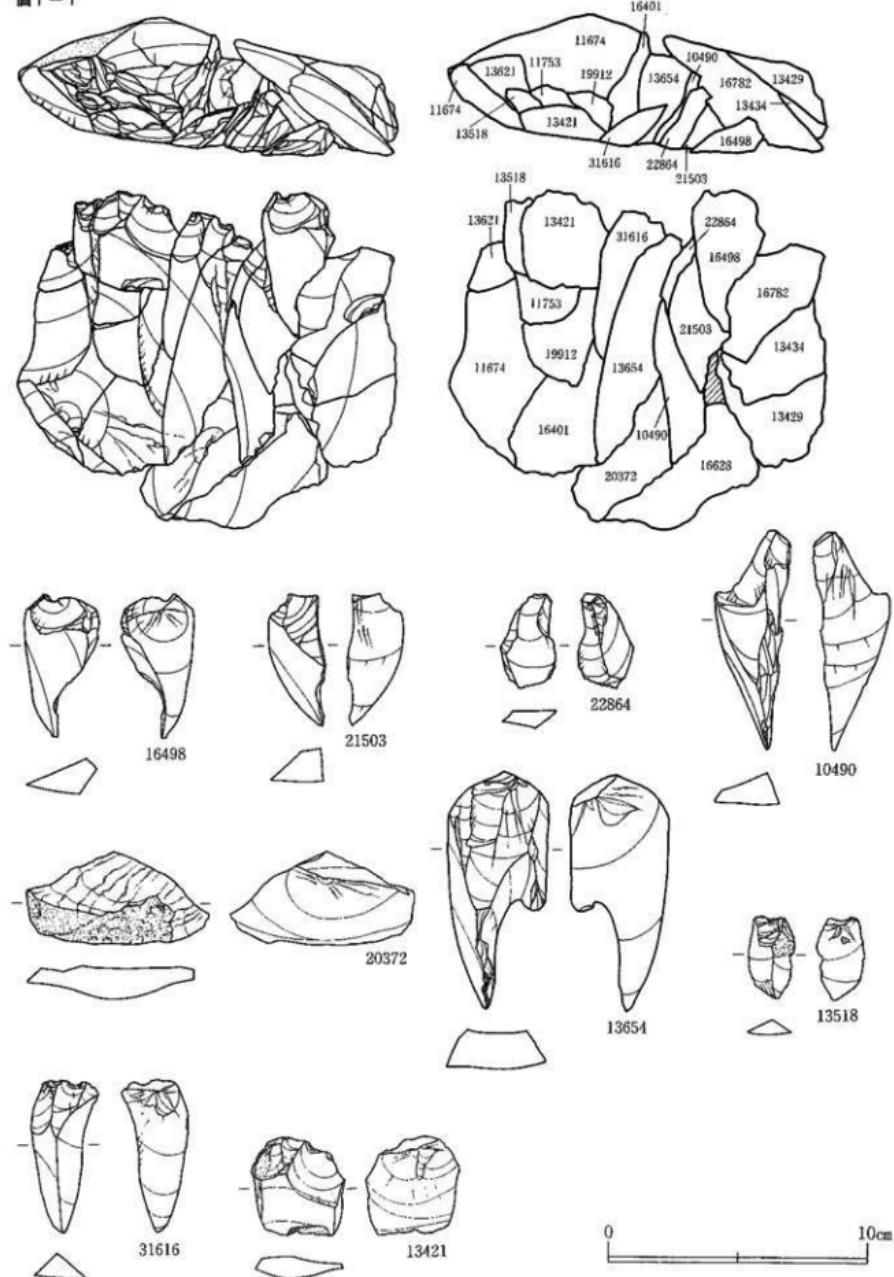


第36図 個体別資料 (3) 個体1 (3)

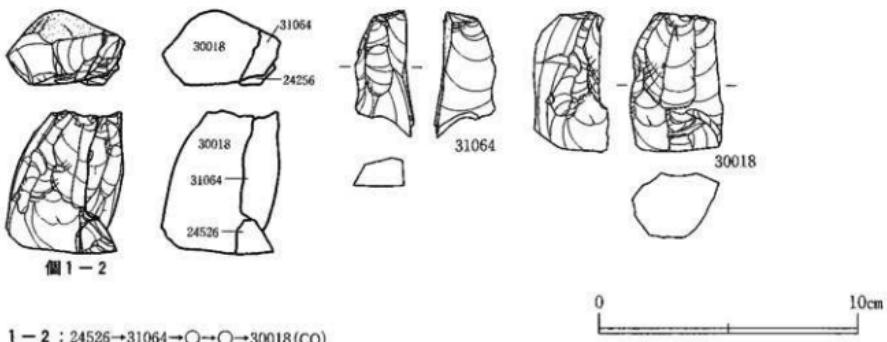
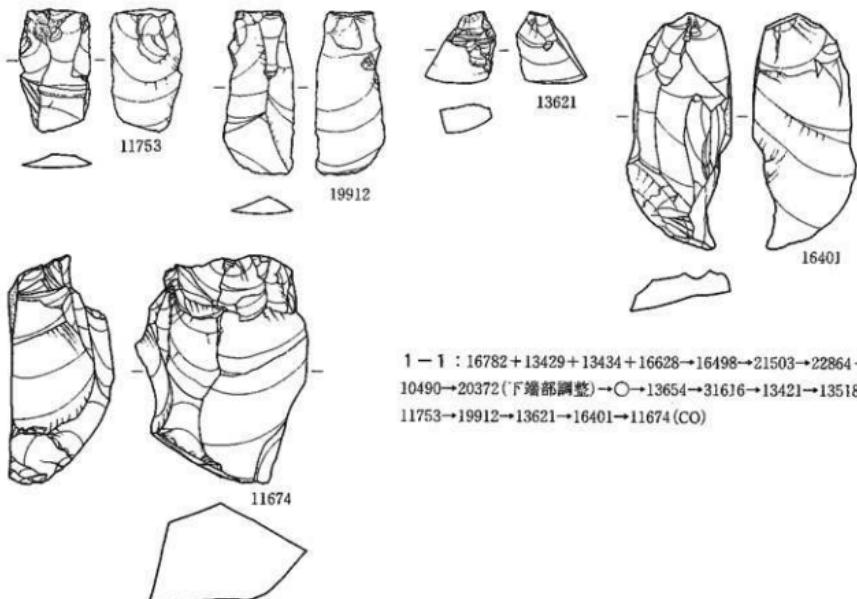


第37図 個体別資料 (4) 個体 1 (4)

個1-1

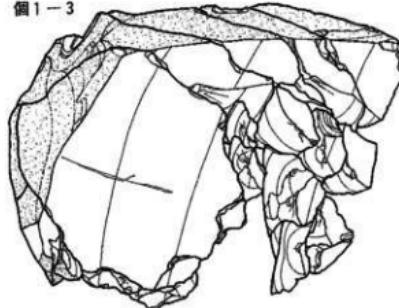


第38図 個体別資料（5） 個体1（5）

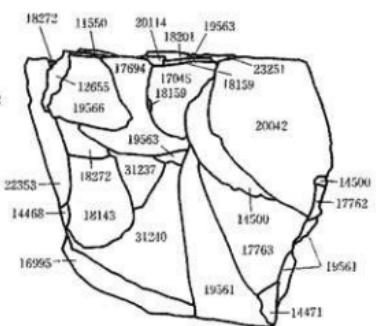
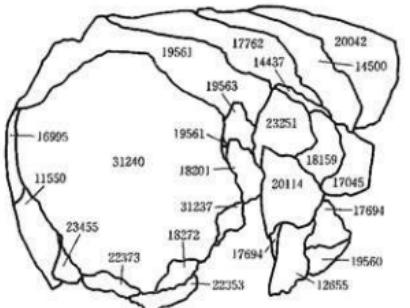
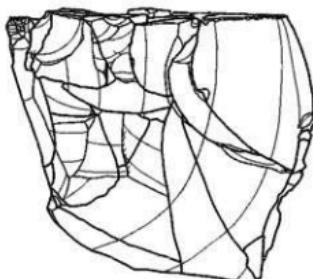
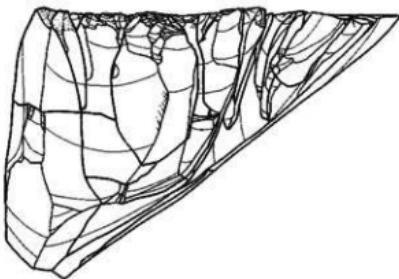


第39図 個体別資料 (6) 個体1 (6)

個1-3

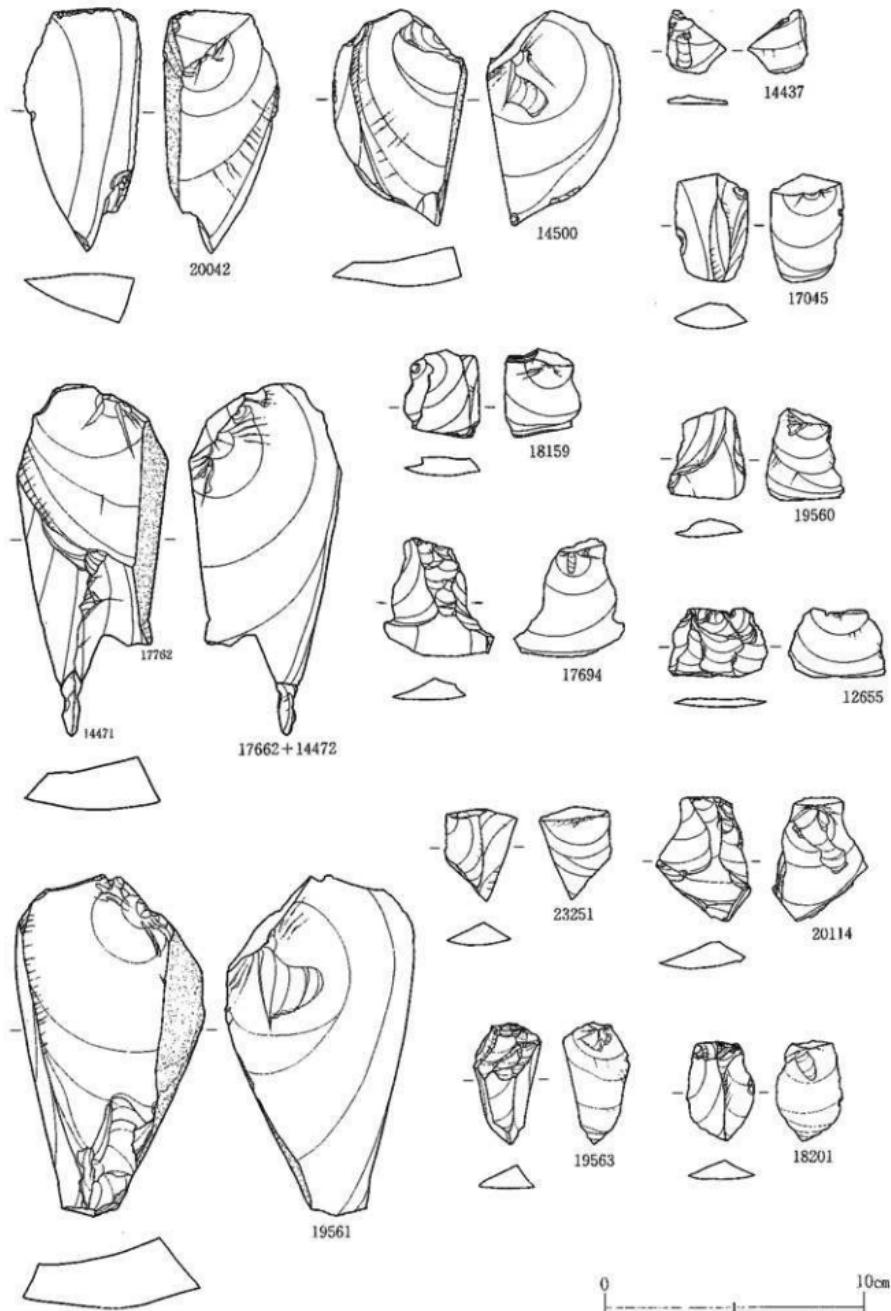


1-3 : 20042 → 14500 → 17762 + 14471 → 14437 → 17045 → 18159 →
19560 → 17694 → 12655 → 23251 → 20114 → 19561 → 19563 → 18201 →
22353 (KA-3a) → 11550 + 16995 → 23455 → 22373 + 14468 (B-A) →
18143 → 18272 → 31237 (B-A) → 31240 (CO)

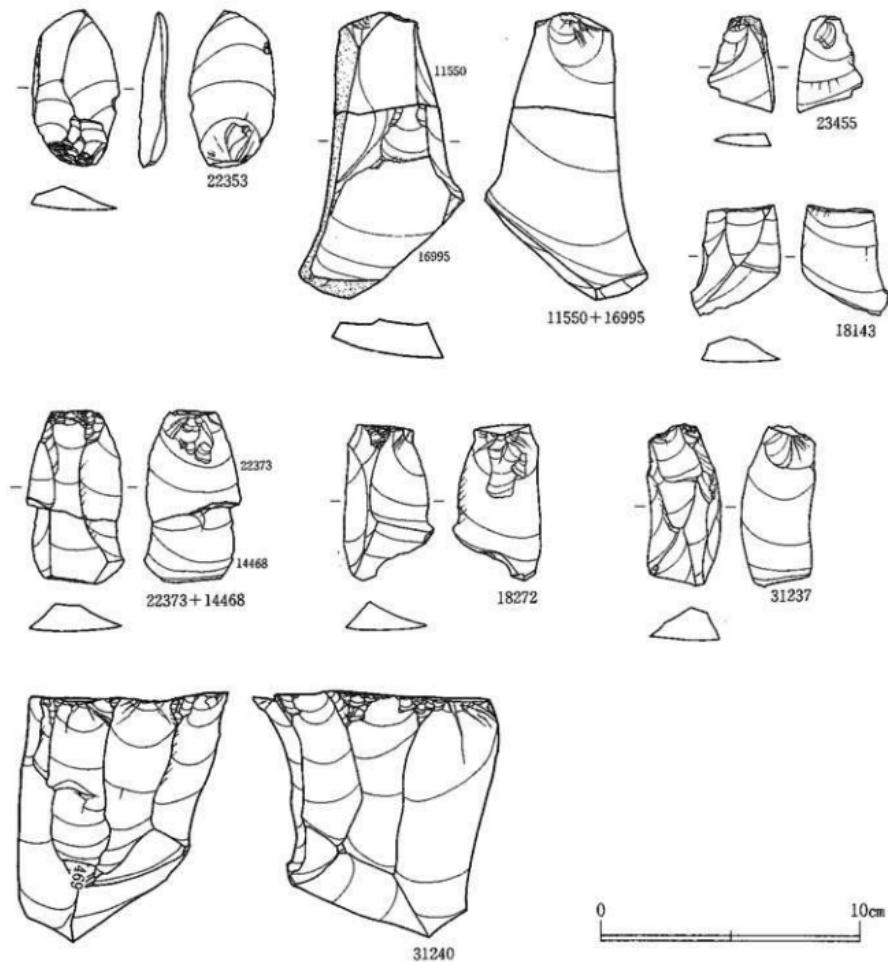


0 10cm

第40図 個体別資料 (7) 個体1 (7)

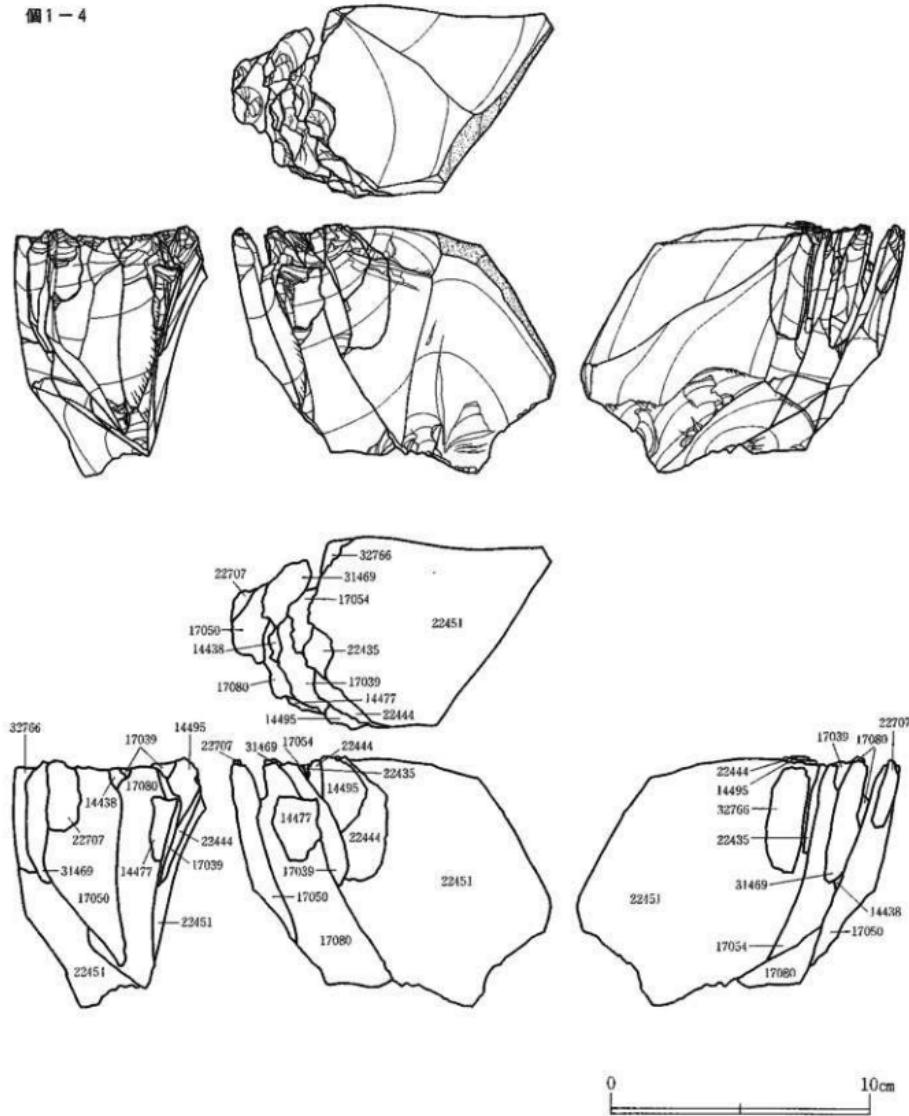


第41図 個体別資料（8） 個体1（8）



第42図 個体別資料 (9) 個体 1 (9)

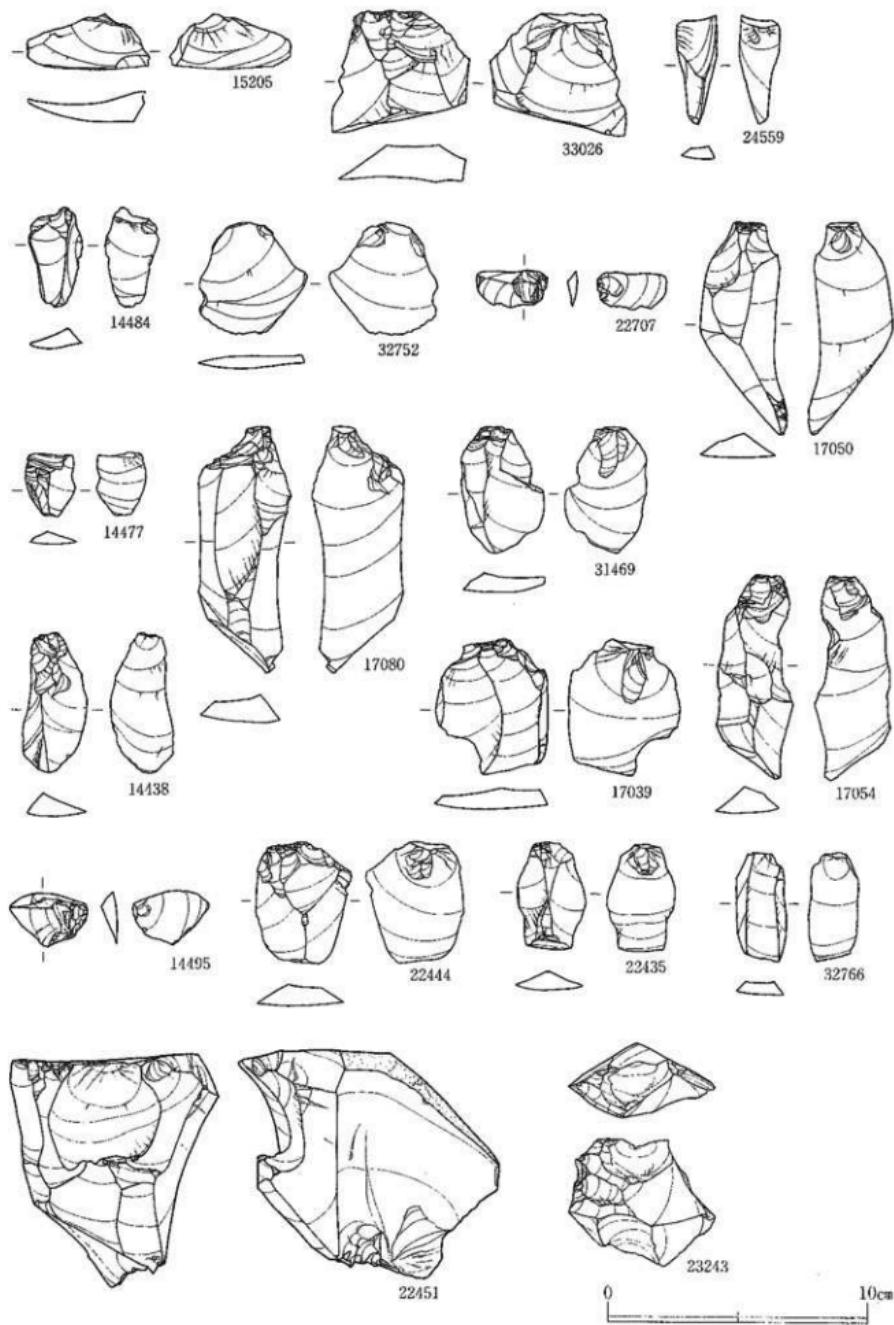
個1-4



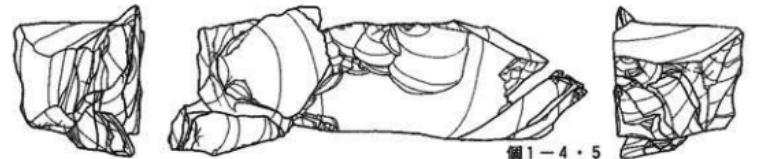
1-4-1 : 15205 → 33026 → 24559 → 14484 (H) → ○ → 32752 → 22707 (KBOF-1) → 17050 → 14477 → 17080 → 31469 →
14438 → 17039 → 17054 → 14495 (KBOF-1) → 22444 → 22435 → ○ → 32766 (B-A) → 22451 (CO)

1-4-2 : ○ → 90° 転移 → ○ → 23243 (CO)

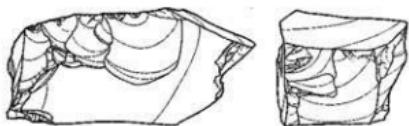
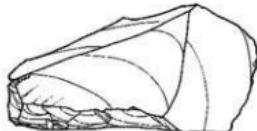
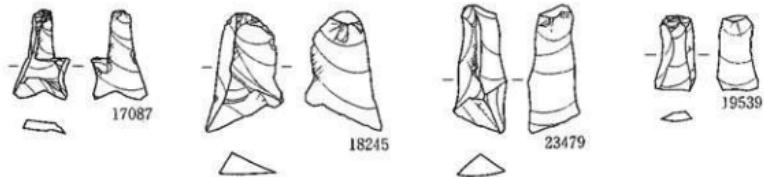
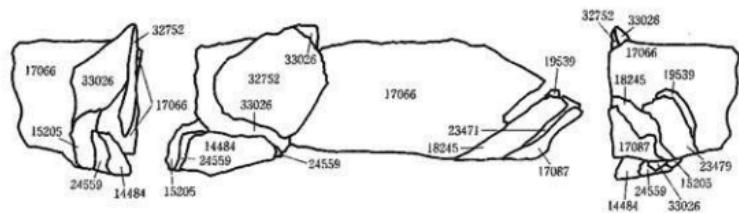
第43図 個体別資料 (10) 個体1 (10)



第44図 個体別資料 (11) 個体1 (11)

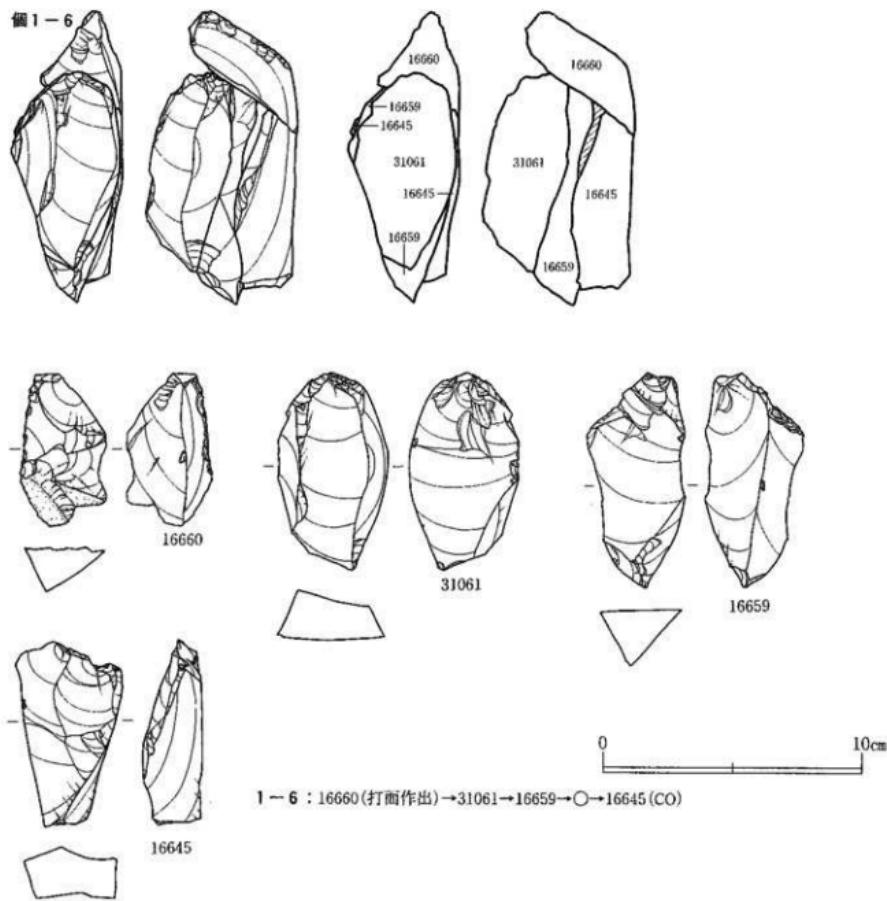


個1-4・5



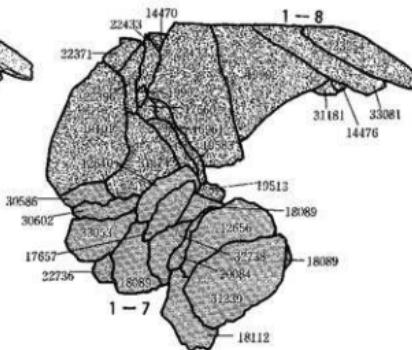
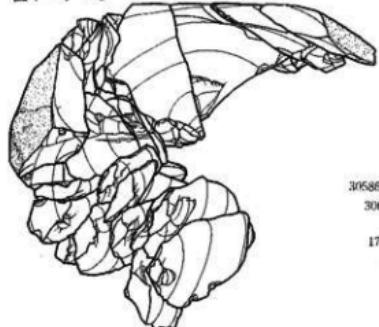
1-5 : 17087→18245→23479→19539→○→○→17066 (CO)

第45図 個体別資料 (12) 個体1 (12)

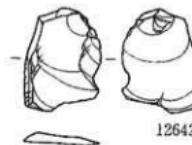
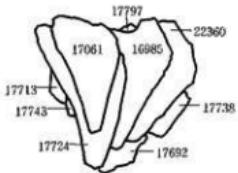
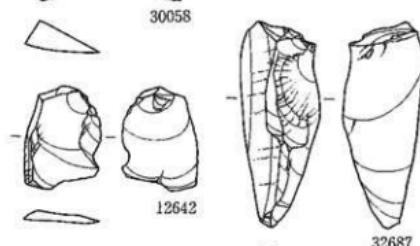
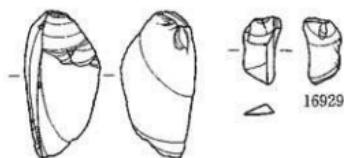
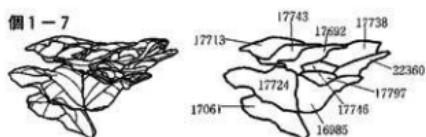


第46図 個体別資料 (13) 個体 1 (13)

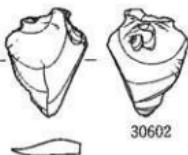
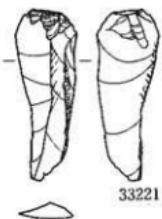
個1-7・8



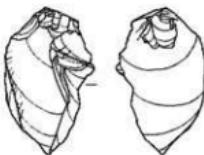
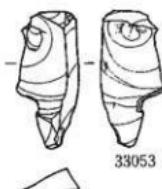
個1-7



32687



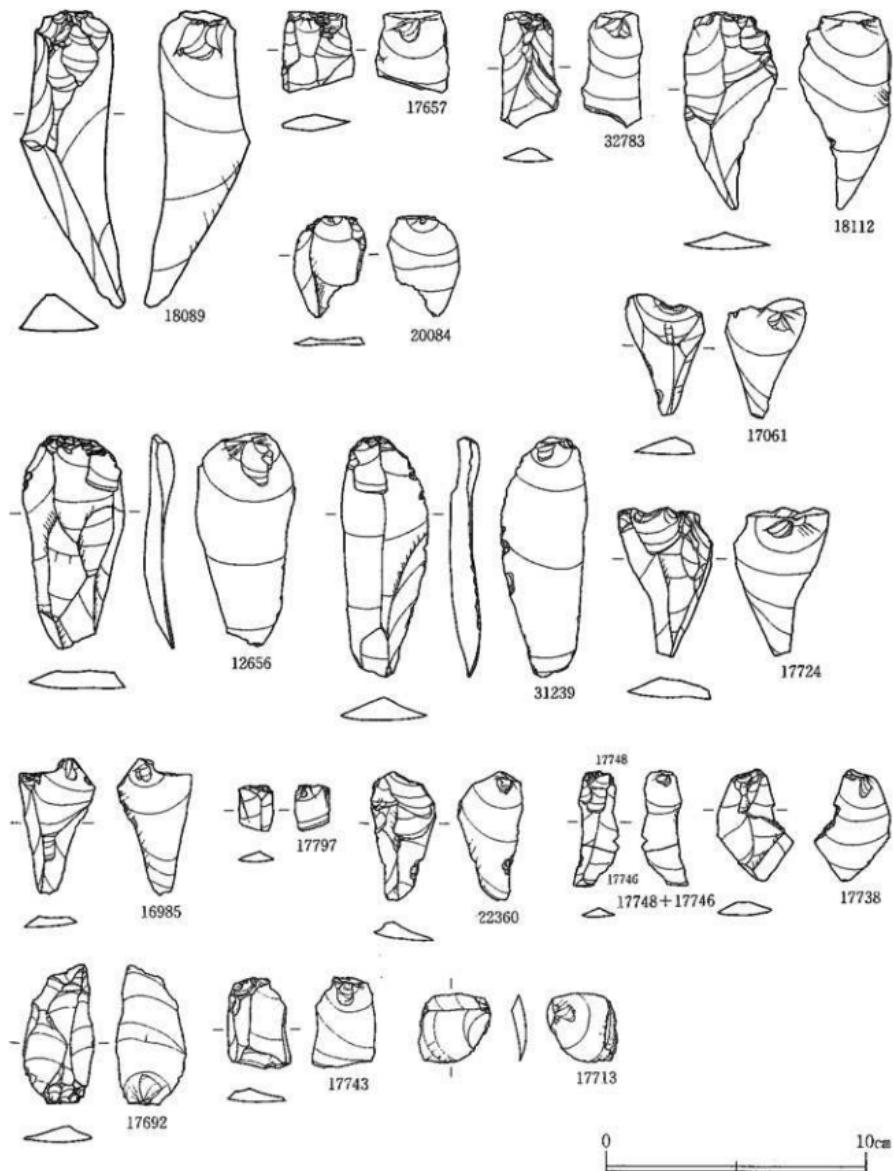
30586



22736

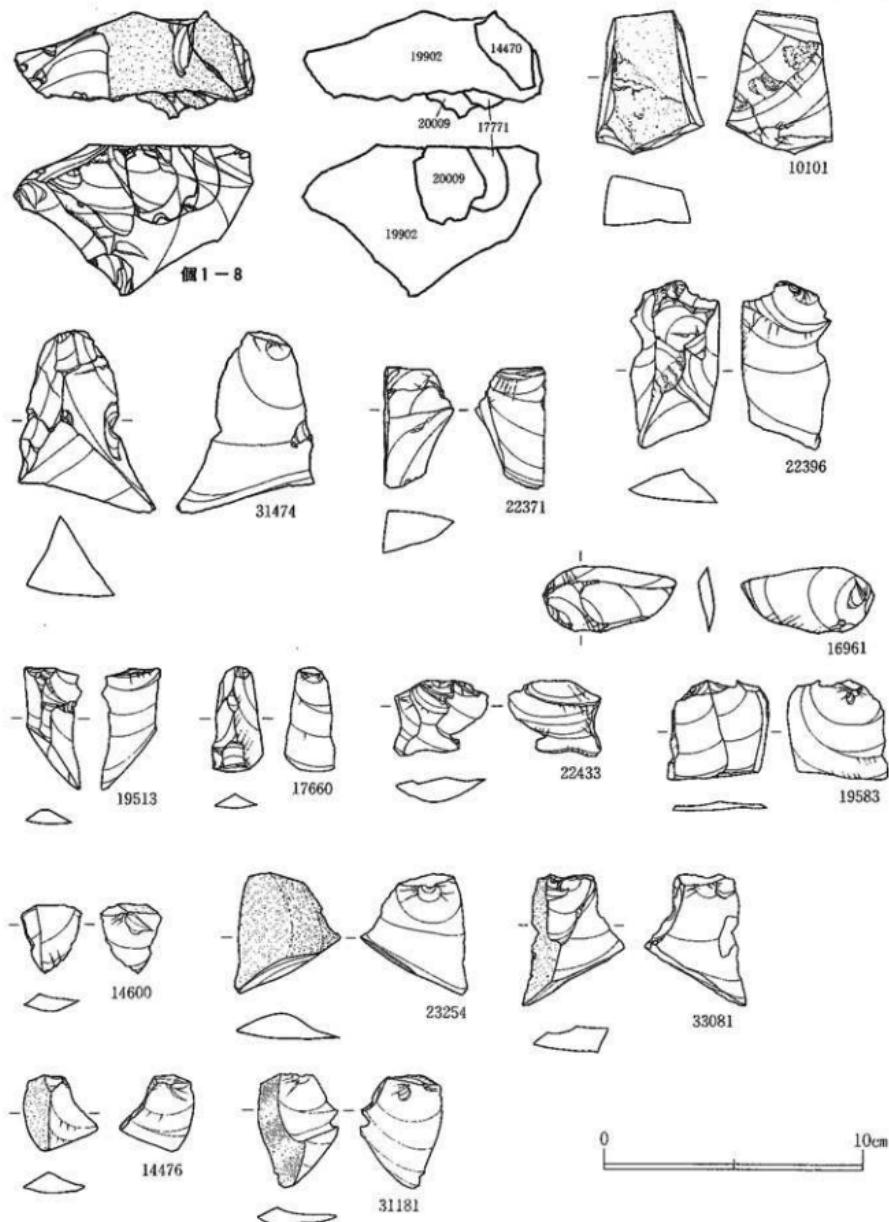


第47図 個体別資料 (14) 個体1 (14)



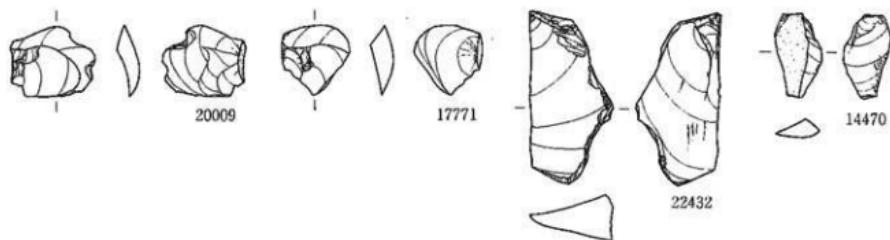
1-7 : 30058→16929→12642→32687→33221(B-A)→30586→30602→33053→○→22736→12640→18089→
17657(B-B)→32738→18112→○→20084→12656(B-A)→31239(B-A)→90° 転移→17061→17724→16985
→17797→22360→17748+17746→17738→17692(KA-5b)→17743→17713(KBOF-2)→(Coなし)

第48図 個体別資料 (15) 個体 1 (15)

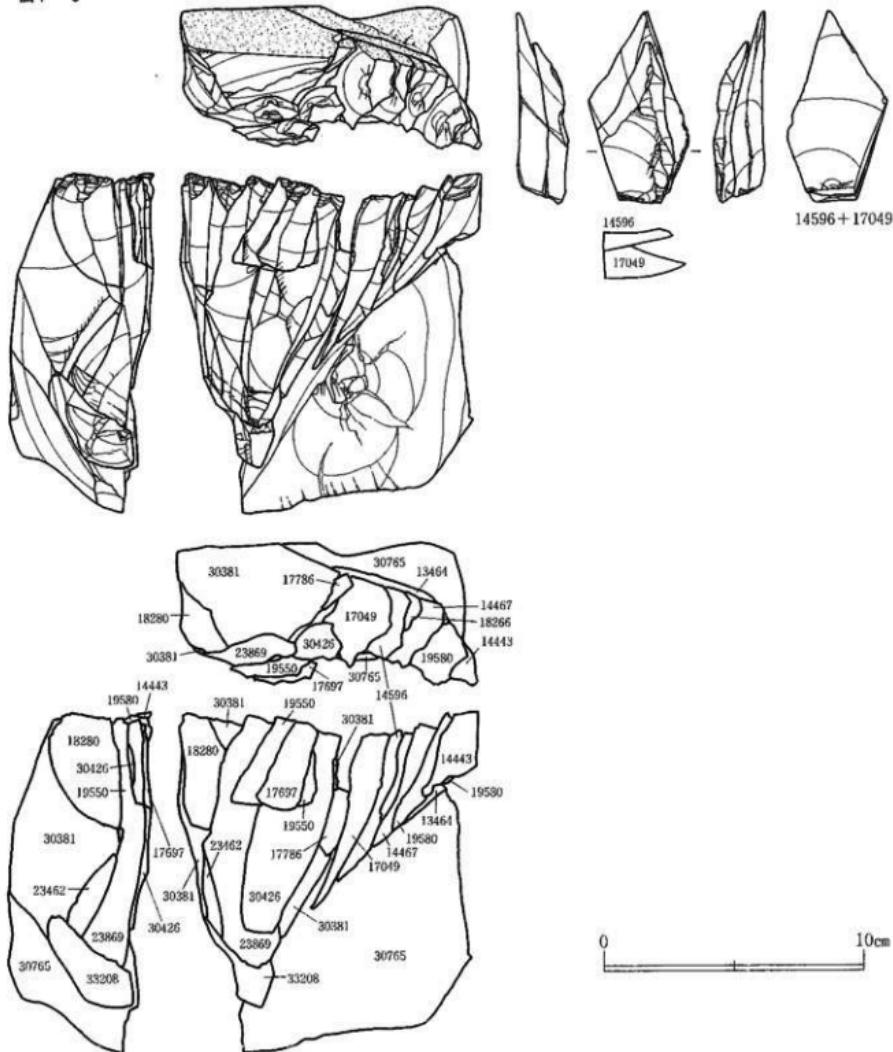


1-8 : 10101→31474→22396→16961→19513→17660→22433→19583→90° 転移→14600→90° 転移→23254
 →○→33081→14476→31181→90° 転移→○→○→20009 (KBOF-1)→17771 (KBOF-1)→22432→14470→19902 (CO)

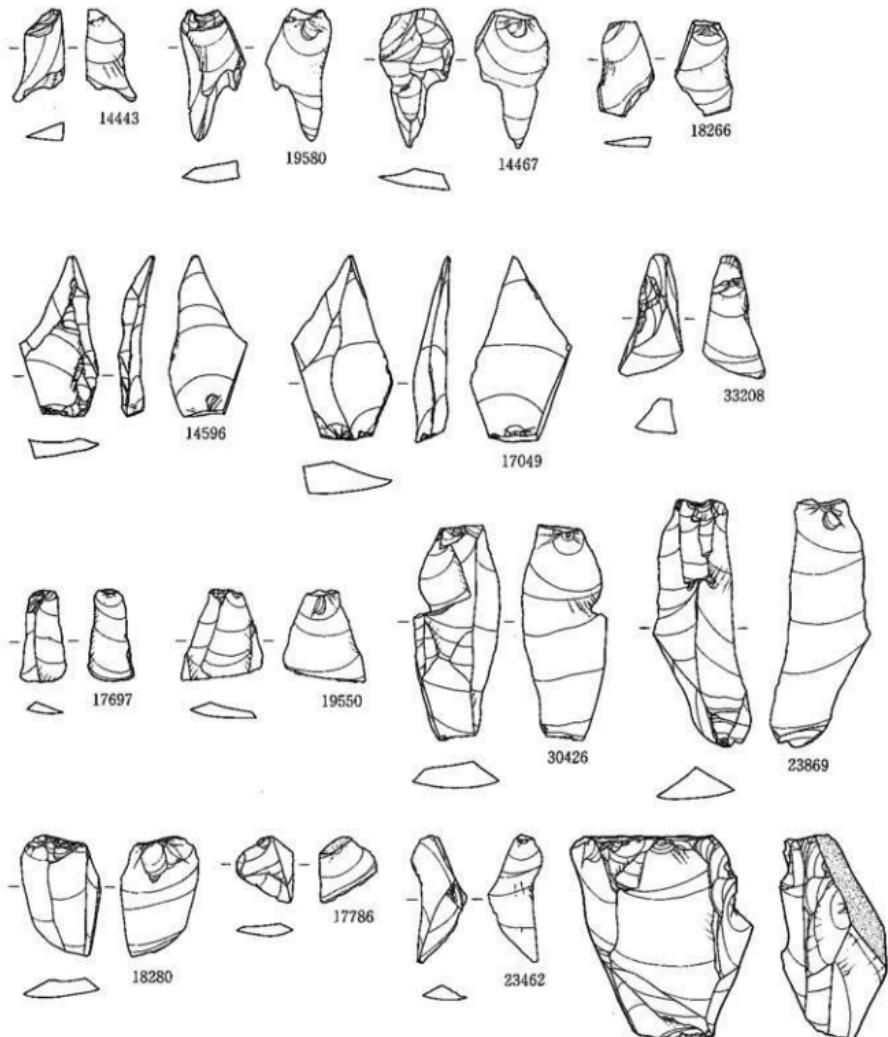
第49図 個体別資料 (16) 個体 1 (16)



個1-9



第50図 個体別資料 (17) 個体 1 (17)



第51図 個体別資料 (18) 個体1 (18)

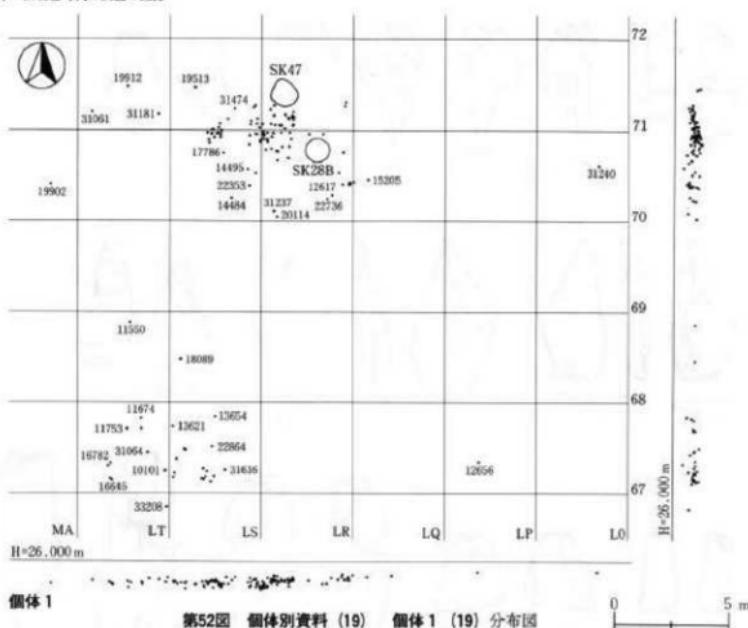
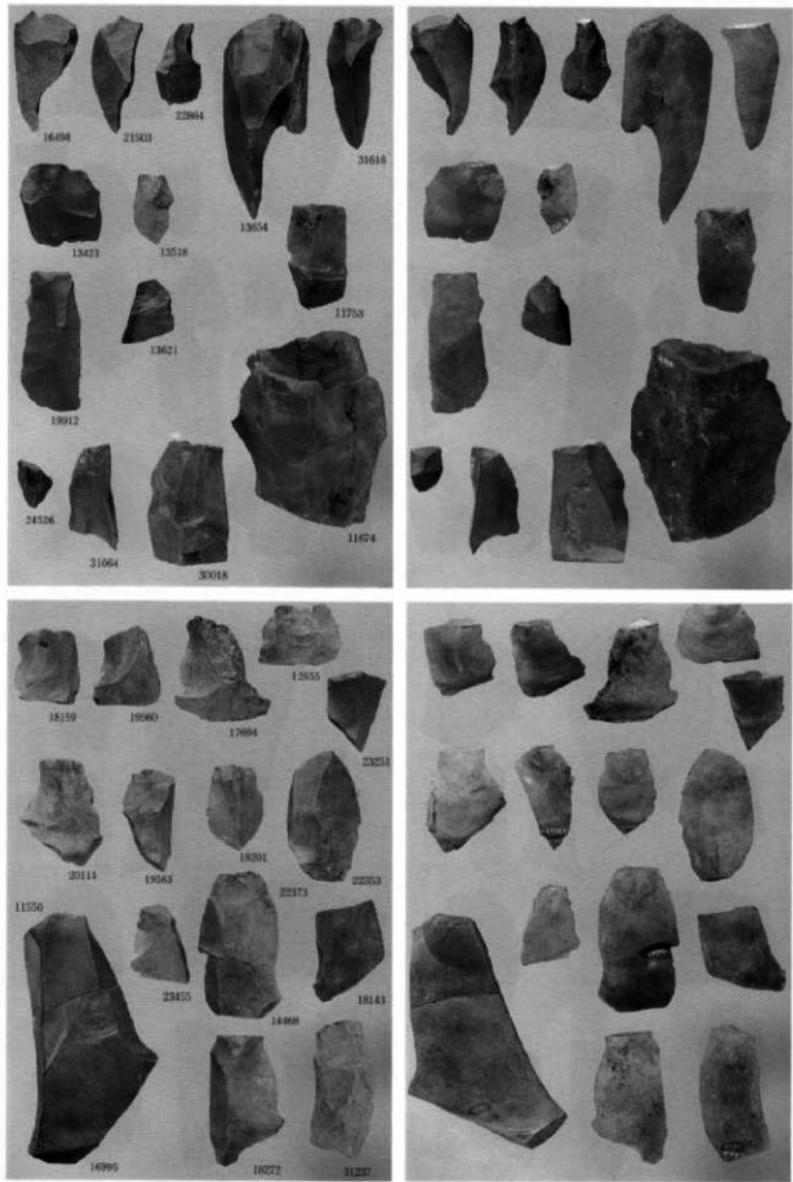
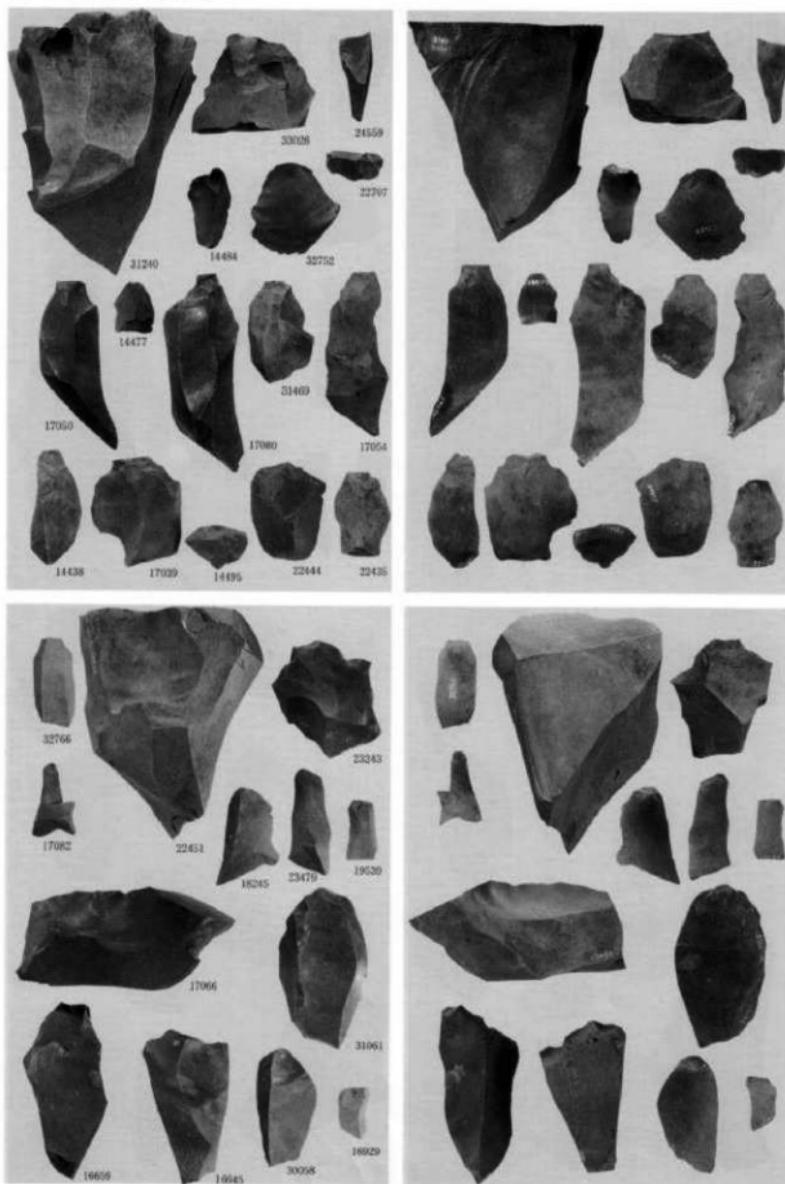


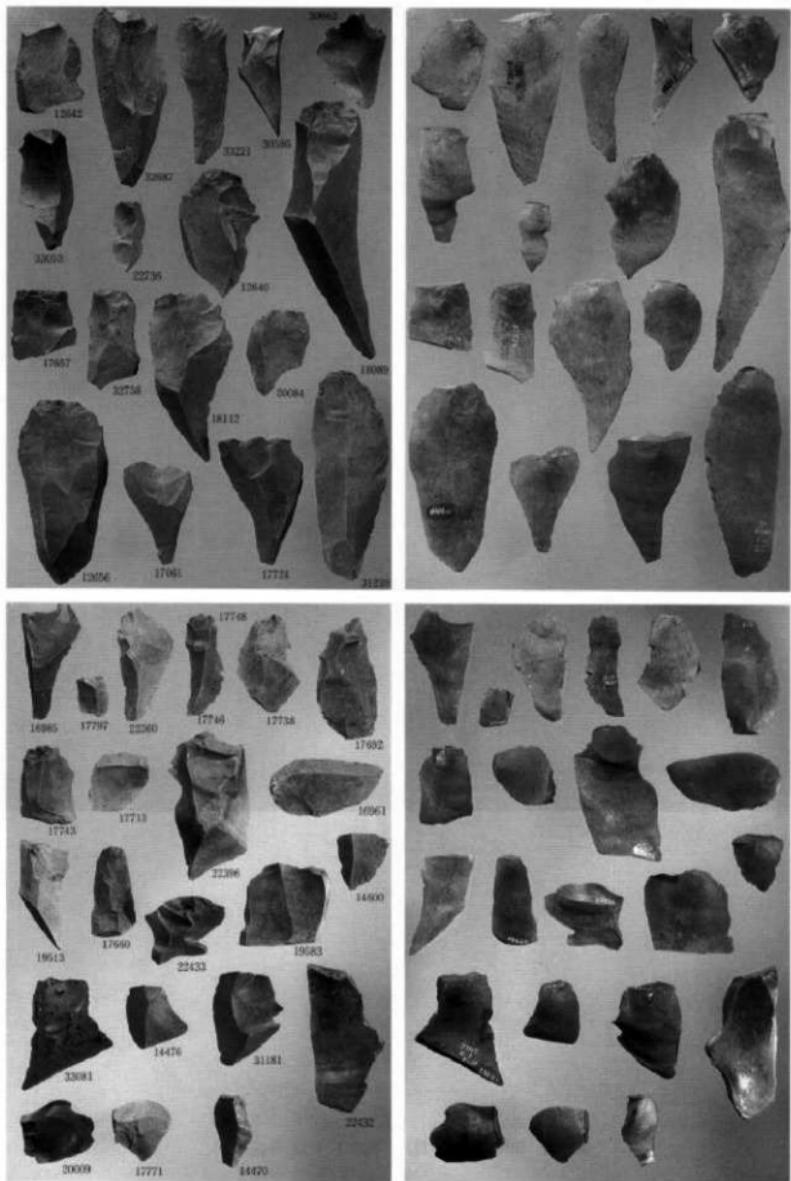
写真11 調査風景 (F-1・3ブロック)



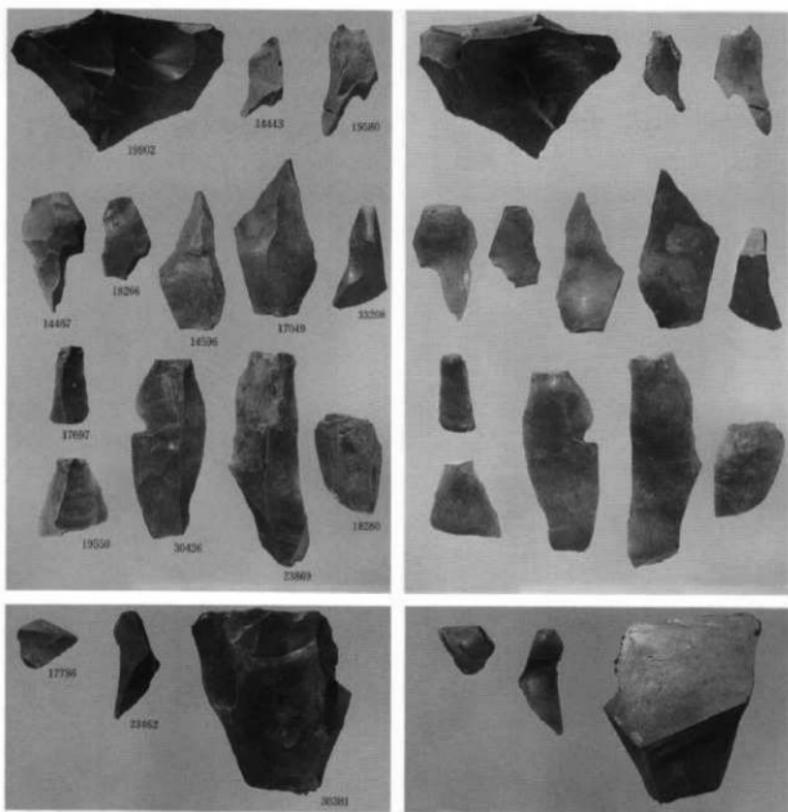
第53図 個体別資料 (20) 個体 1 (20) 写真 (1)



第54図 個体別資料 (21) 個体1 (21) 写真 (2)



第55図 個体別資料 (22) 個体 1 (22) 写真 (3)



第56図 個体別資料 (23) 個体 1 (23) 写真 (4)

のうち、3-aのみ長さ4cm前後の小形の縦長剥片剝離を目的とし、他はもっぱら小形貝殻状剥片作出を目的とする剝離を行っている。3-3は長さが7~8cm程の比較的大型の石刃を剝離する。3-4-1・3-5-1・3-6-2は、それぞれ小形貝殻状剥片を、3-4-2は、長さ4~5cmの小形縦長剥片を、また3-5-2、3-6-1は石刃・縦長剥片を剝離している。

本個体はその接合状況から、大型の原石を未分割のまま遺跡内に持ち込んで分割の後、剥片剝離を行ったと判断される。分割した小個体は、それぞれの小ブロック内で剥片剝離が完結する場合とブロック間を移動しながら剝離を続ける場合がある。2-1-1は、ほぼCブロック内で、2-1-2・2-2-2・3-2-1・3-4-2等はD-1ブロックのみで完結する。一方2-2-1は、当初F-2・C-1で剝離し、次いでD-1に移動、のちにC-1で剝離を完了させている。また2-2-3は、D-1→B-1→C-2→D-1と移動させながら剝離を行っている。

個体3（第73~75図）

個体3は総数49点（1313.5g）で構成される。長さ約17cm、幅約12cm、厚さ約9.5cmの礫に復原できた。出土位置はE-1ブロック（L R 65）に集中し、E-2・F-1・D-2・C-1・B-1ブロックにも1~2点確認できる。資料は灰白色の平行ラミナ、海綿骨針化石を含む暗褐色の珪質頁岩であり、礫皮面は明褐~褐色となる。個体は礫皮面除去後に2分割（3-1と2）する。両者とも更に2小分割し、前者1-1と2は、更に2細分割を行っている。

剥片剝離は、1-1-1では長さ6cm前後の石刃・縦長剥片を作出するが、1-2-2は小ブロック状の分割に留まる。他の個体は、小形の縦長剥片あるいは貝殻状剥片を目的とする剝離を行っている。本個体は一部に欠落はあるが、未分割の原石の状態で遺跡内に持ち込まれたものと判断される。

個体4（第76~80図）

個体4は総数70点（726.9g）で構成される。現存長15cm、幅約11cm、厚さ9cmの三角柱状を呈するが、原形状は不明である。出土位置はD-1ブロックに集中し、次いでC-2ブロック内に点在する。その他B・C-1・E-2・E-3・F-3各ブロックで1~2点出土している。資料は白色の平行ラミナ及び海綿骨針化石を含む褐~暗褐色（一部灰色化）の珪質頁岩であり、礫皮面は灰黄~黄褐色となる。

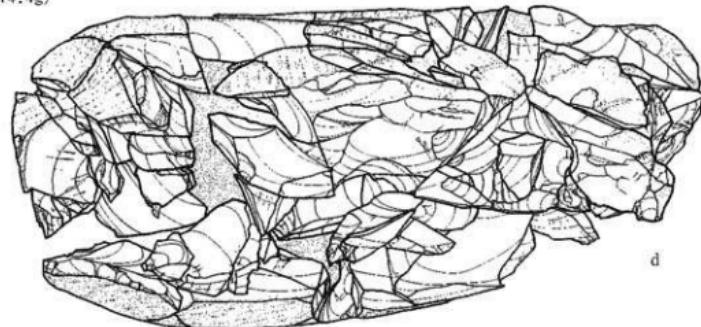
個体は3分割（4-1~3）の後、1は、石刃（長さ5~7cm）・縦長剥片（長さ4cm前後）を、2は小形の縦長剥片と貝殻状剥片を作出している。3は剥片1点のみの確認であり、剝離の意図は不明である。なお1は、剝離途中で得られた縦長で厚手の剥片を石核（4-1-1）として貝殻状剥片を剥取している。このように剥片剝離の工程で生み出された剥片を石核として利用するものは本例と個体2（2-3-5-2）の2個体のみである。

個体5（第81~84図）

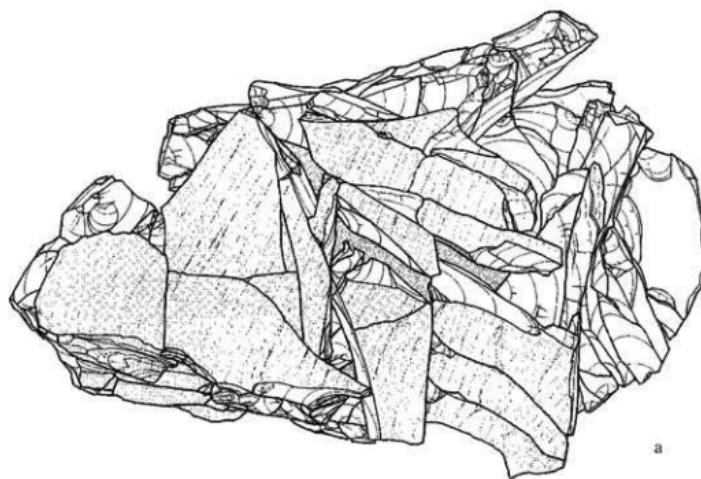
個体5は総数43点（749.7g）で構成される。現存長17cm、幅約11.5cm、厚さ約9.5cmの角礫状を呈するが、原形状は不明である。出土位置はB-1ブロックに集中を示し、Cブロック内北半（L R ~ L T 68）とAブロックにも点在する。資料は白色の平行ラミナ（一部斑状）を含む灰色の珪質頁岩であり、礫皮面は黄褐色となる。

個体は節理面での礫皮面除去を経て、3分割（5-1~3）する。1は小分割のみで目的剥片の作出は行っていない。3は当初石刃あるいは縦長剥片作出を意図していた様であるが節理面の介在により断念し、最終

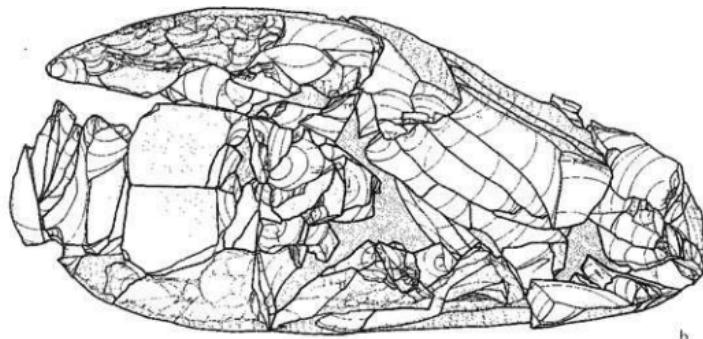
個体2 (3114.4g)



d



a



b



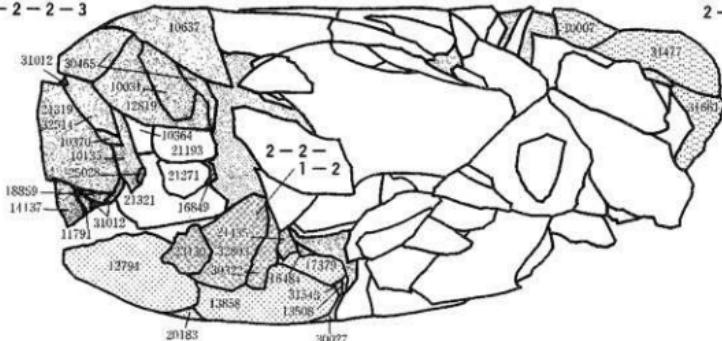
図示不能部分



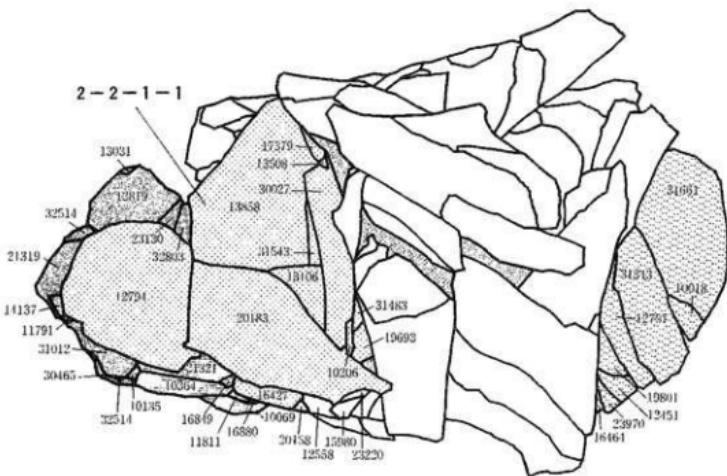
第57図 個体別資料(24) 個体2(1)接合図

2-2-2-3

2-1



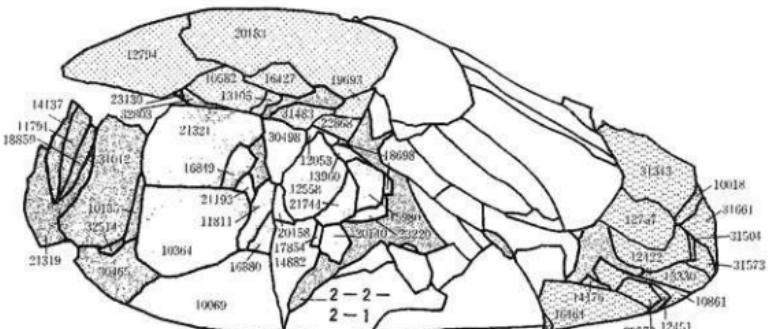
2-2-1-1



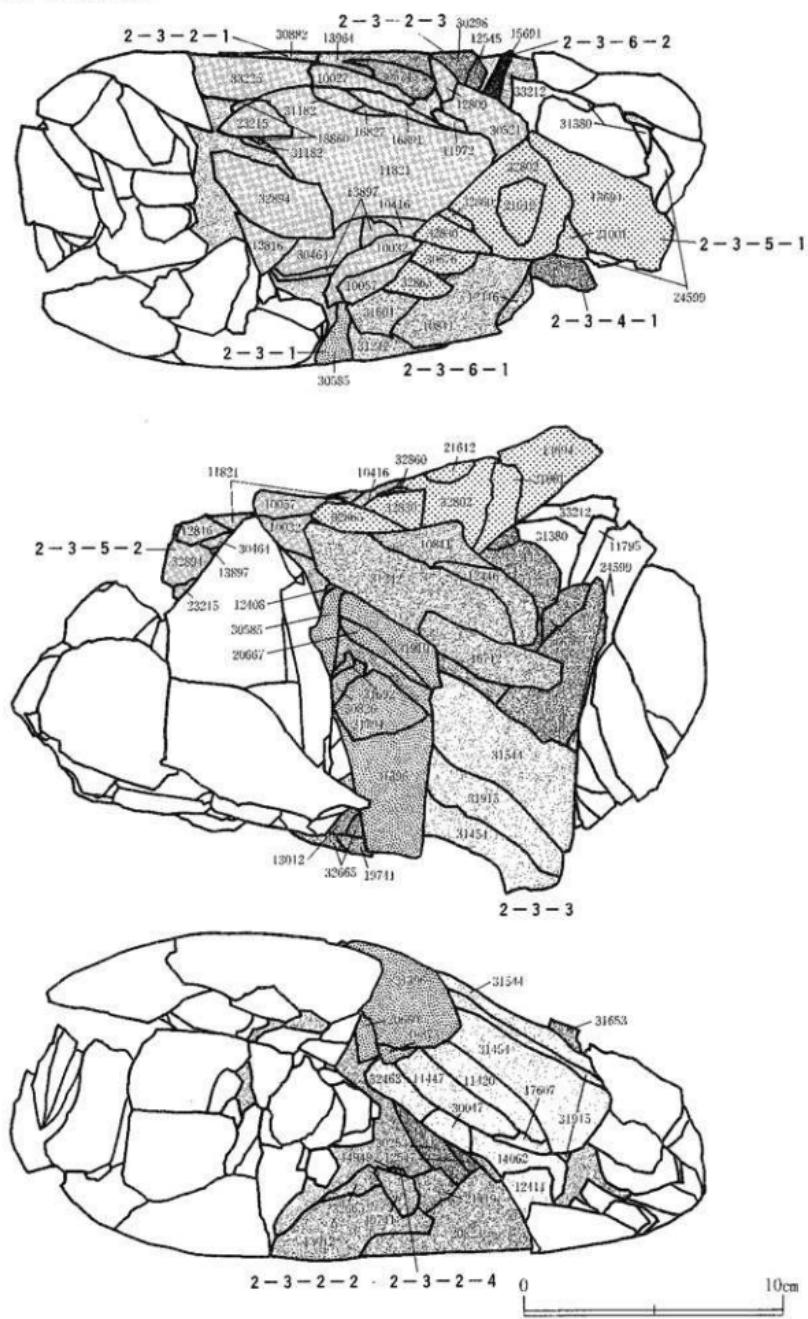
2-2-2-2

10007

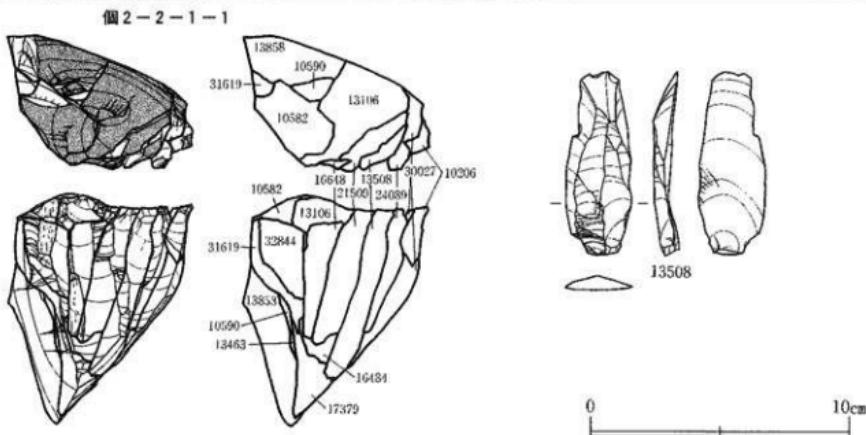
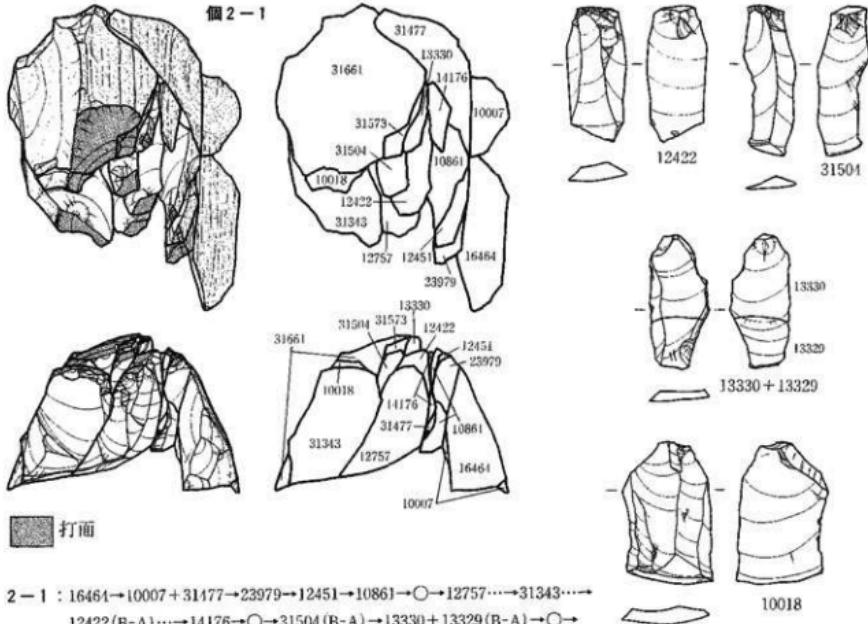
10cm



第58図 個体別資料(25) 個体2(2)接合図



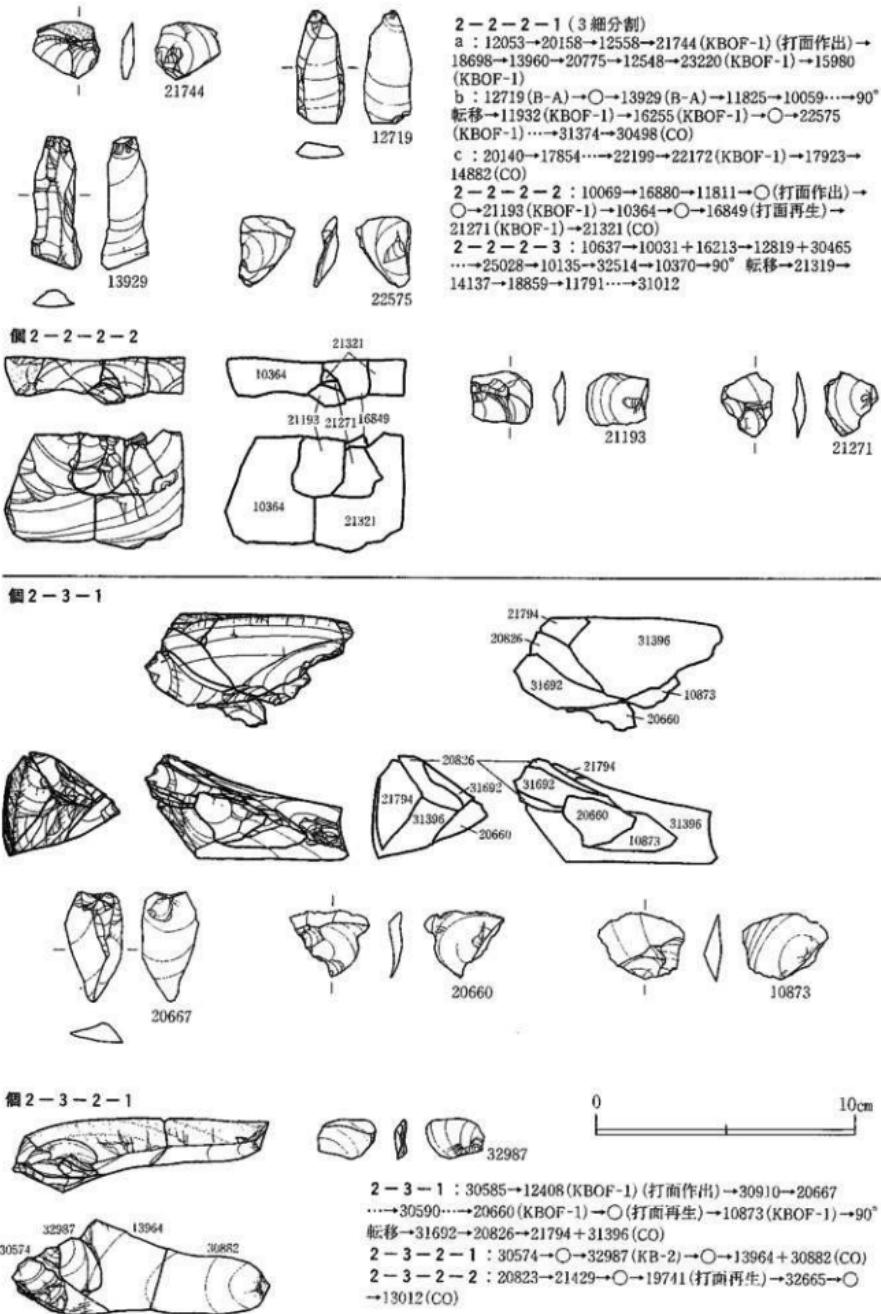
第59図 個体別資料(26) 個体2(3)接合図



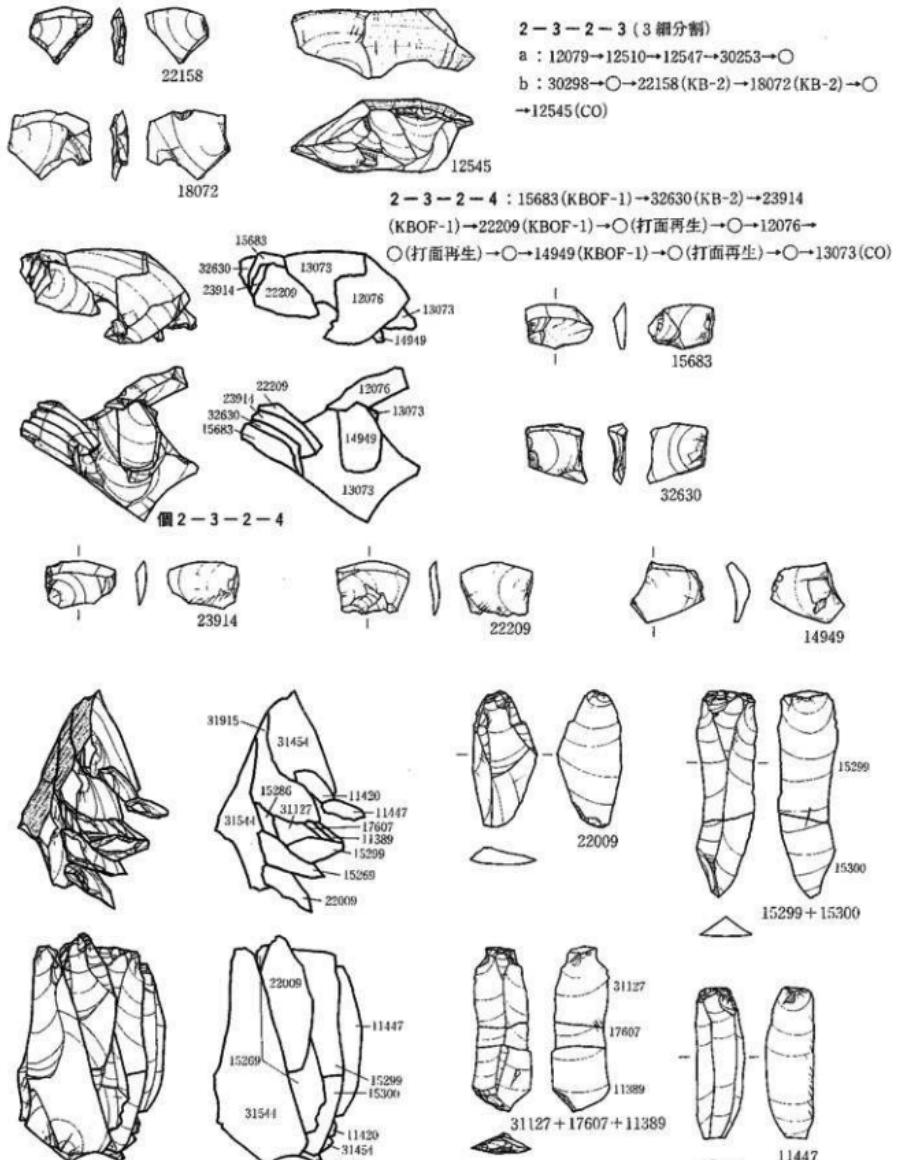
2-2-1-1 : 12794+20183→16427→22868→19693→○→31483→…→10206→30027→24089→13508(KA-3b)→21509
→16648→13106+10582(打面再生)→○→32844→16484→31543→31619→17379(B-A)→10590→13463
→13858(CO)

2-2-1-2 : 21435→30322→32803→23130→(COなL)

第60図 個体別資料(27) 個体2(4)



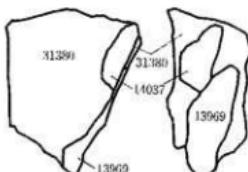
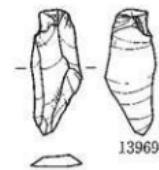
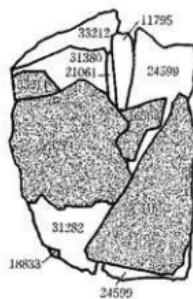
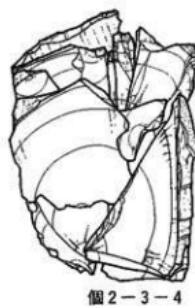
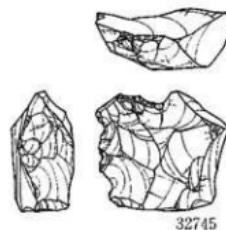
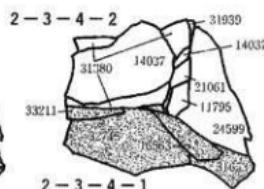
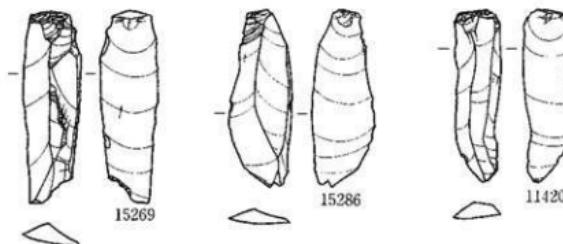
第61図 個体別資料 (28) 個体2 (5)



2-3-2-3 : 31888→14062→12411(下端部調整)→32463+30047
 (B-B)→31544→22009(B-A)→15269(B-A)→15286(B-A)→15299+
 15300(B-A)→31127+17607+11389(B-A)→31915→31454→
 11447(B-A)→11420(B-A)



第62図 個体別資料 (29) 個体2 (6)



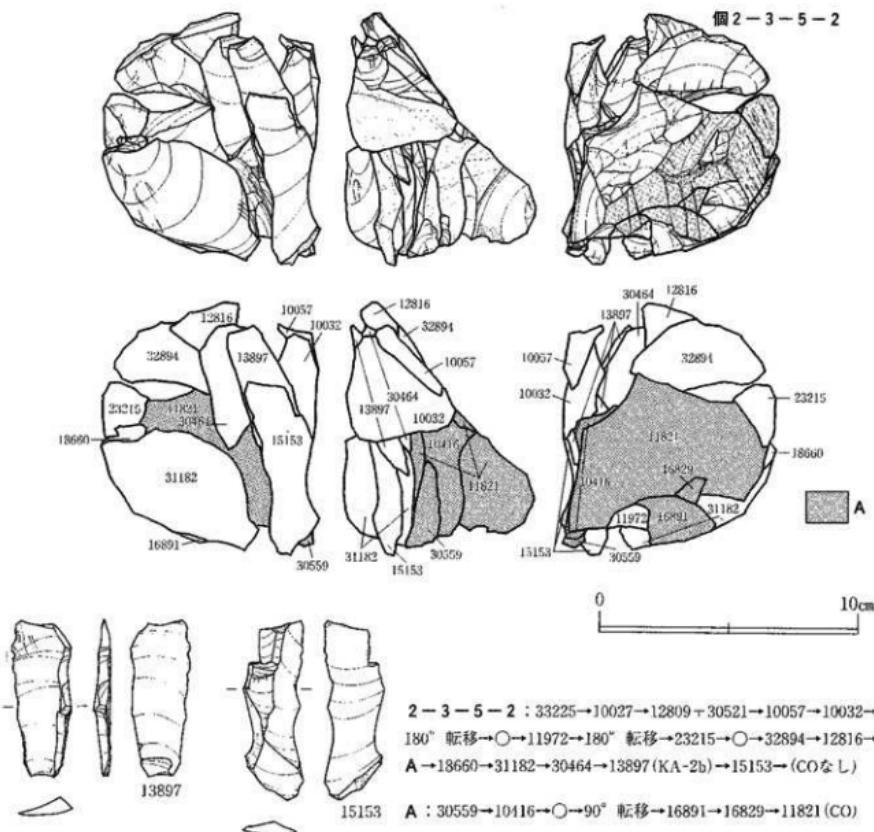
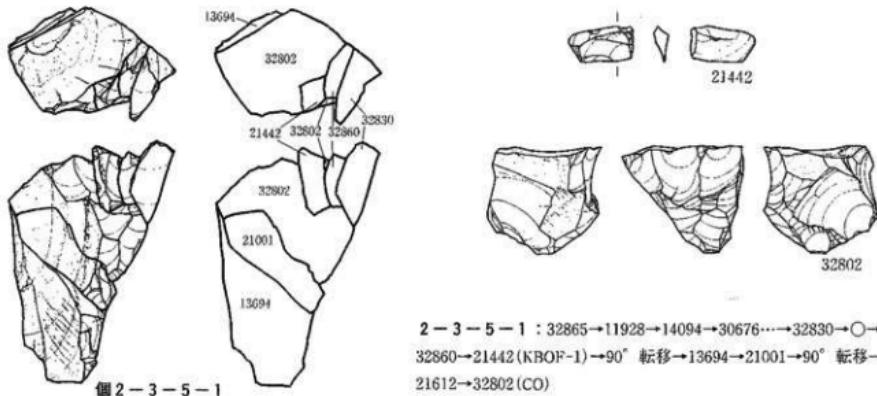
0 10cm



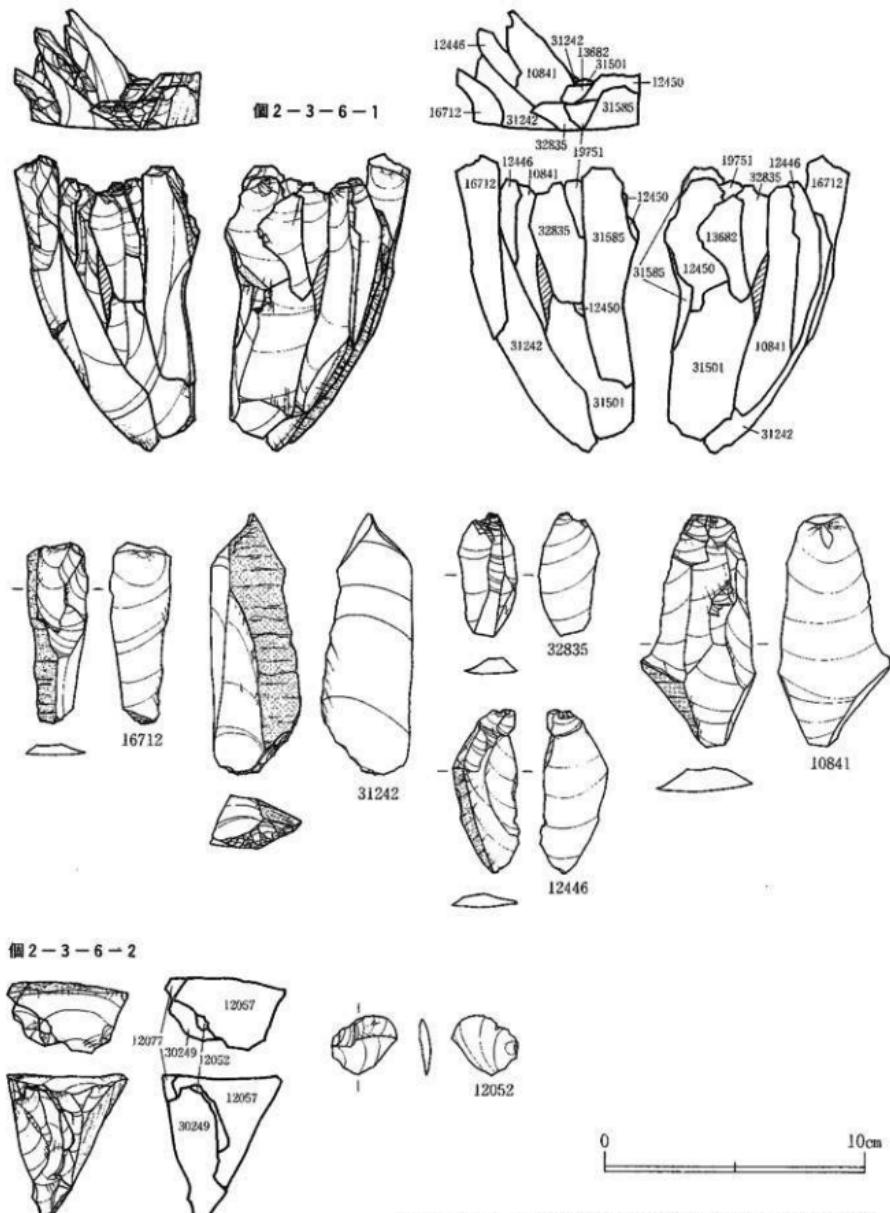
個2-3-4-2

2-3-4-1 : 31653→16563→○→33211→○→32745 (CO)
 2-3-4-2 : 33212(釋皮面除去)→24591→11795→21061
 →18833+31282(打面再生)→180° 転移→13939→13969 (B-A)
 →180° 転移→○→14037 (KBOF-1)→31380 (CO)

第63図 個体別資料 (30) 個体2 (7)



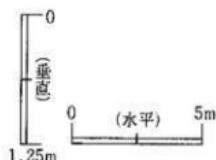
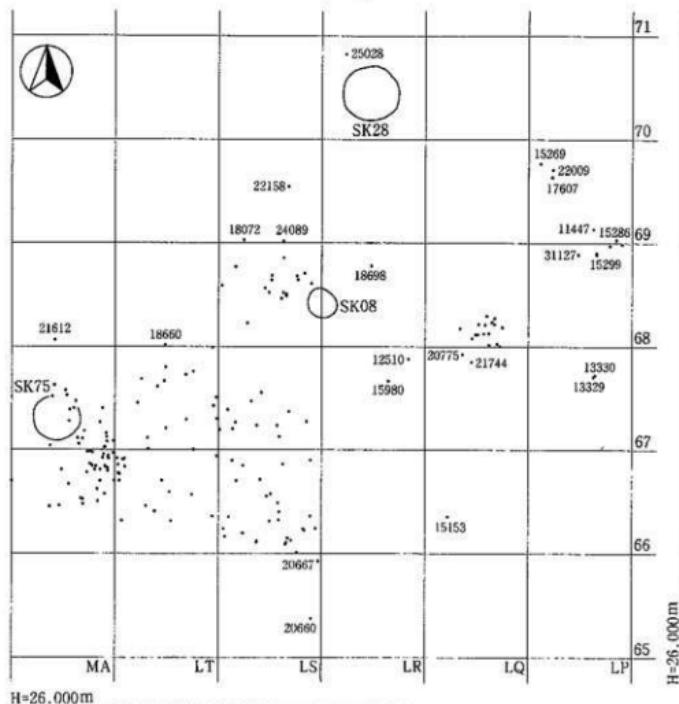
第64図 個体別資料 (31) 個体2 (8)



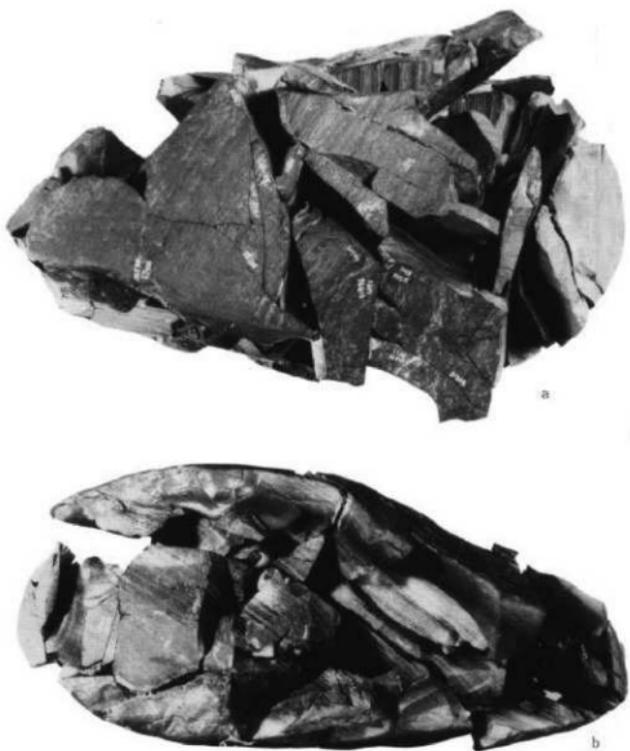
2-3-6-1 : 16712(B-A) → 31242(ES) → 31585 → 19751 → 32835
(B-A) → 12450 + 31501 → 13682 → 12446 → 10841 → (COなL)
2-3-6-2 : 15691 + 18570 → 30249 → ○ → 12052(KBOF-1) →
12077 → 12057(CO)

第65図 個体別資料 (32) 個体2 (9)

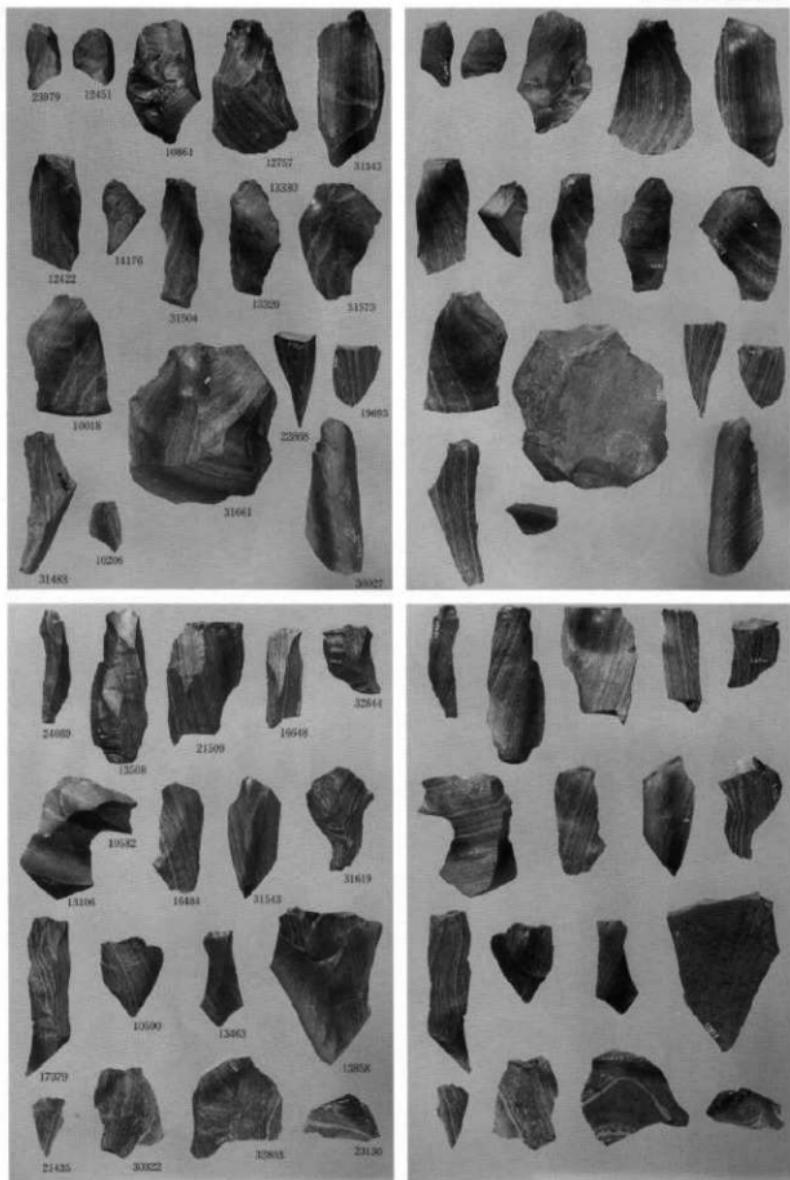
2 : 2-1 (350.4g)
 2-2 2-2-1 2-2-1-1 (403.3g)
 2-2-2 2-2-2-1 (\rightarrow 3細分割) (168.5g)
 2-2-2-2 (117.4g)
 2-2-2-3 (264.4g)
 2-3 2-3-1 (130.5g)
 2-3-2 2-3-2-1 (58.3g)
 2-3-2-2 (104.5g)
 2-3-2-3 (\rightarrow 2細分割) (76.4g)
 2-3-2-4 (61.5g)
 2-3-3 (270.2g)
 2-3-4 2-3-4-1 (92.0g)
 2-3-4-2 (248.7g)
 2-3-5 2-3-5-1 (166.1g)
 2-3-5-2 (336.6g)
 2-3-6 2-3-6-1 (177.0g)
 2-3-6-2 (53.3g)



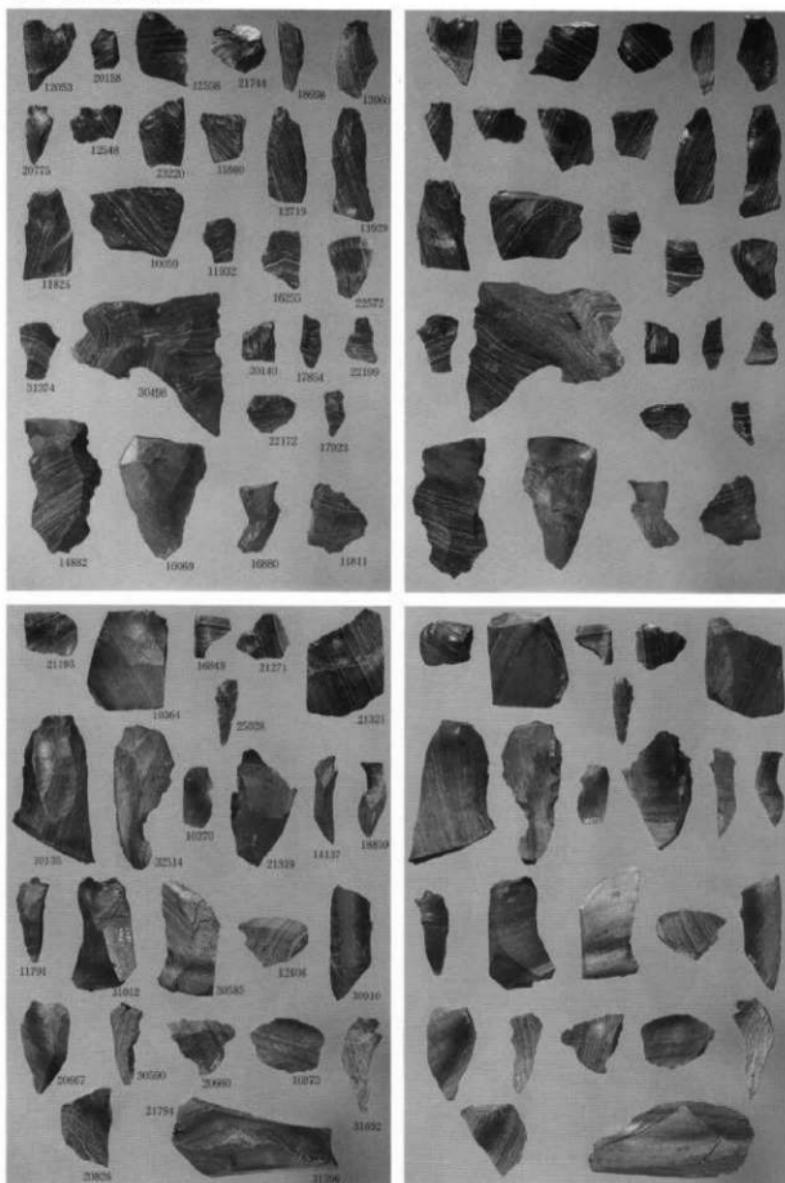
第66図 個体別資料 (33) 個体 2 (10) 分布図



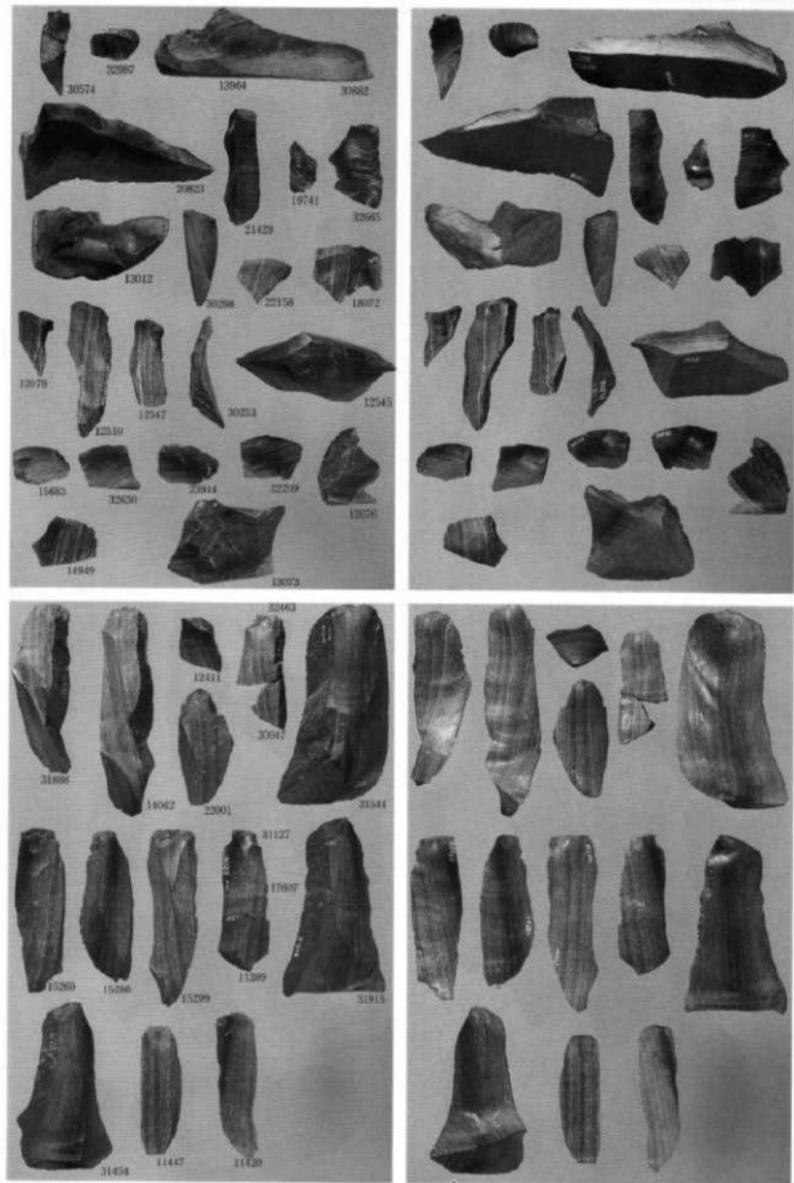
第67図 個体別資料 (34) 個体 2 (11) 写真 (1)



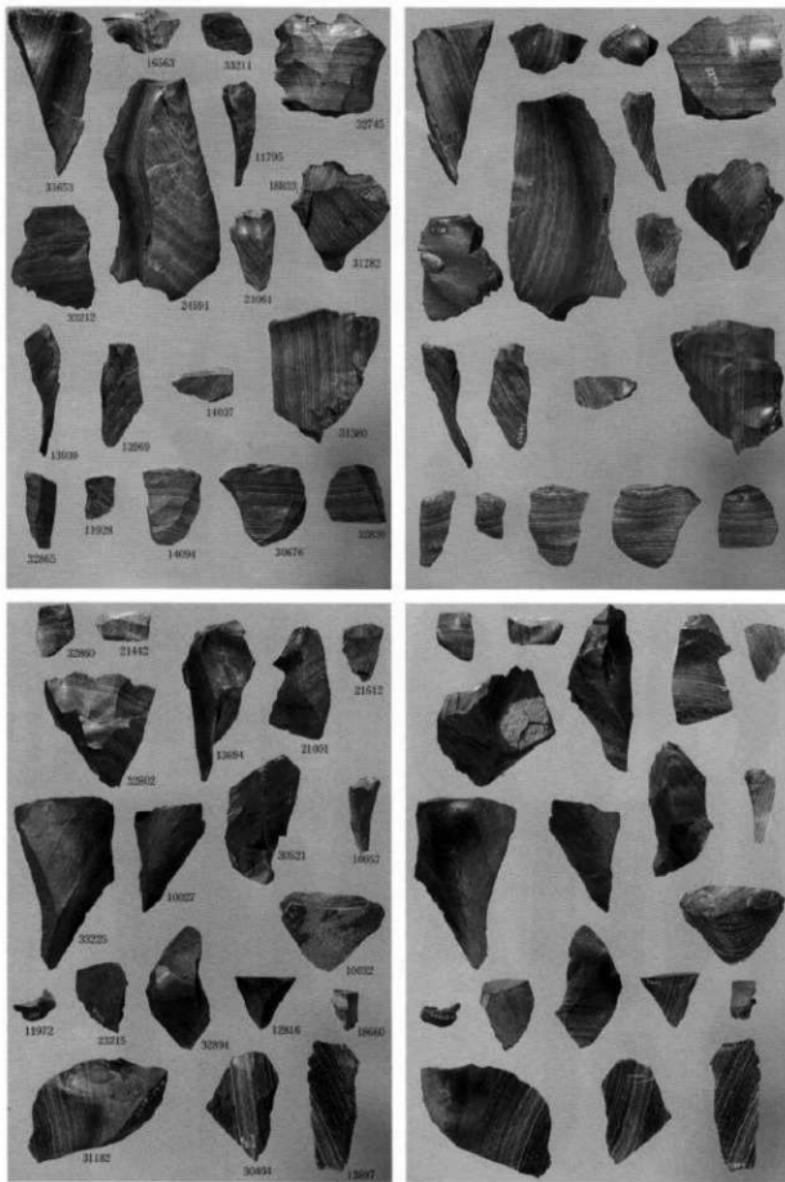
第68図 個体別資料 (35) 個体 2 (12) 写真 (2)



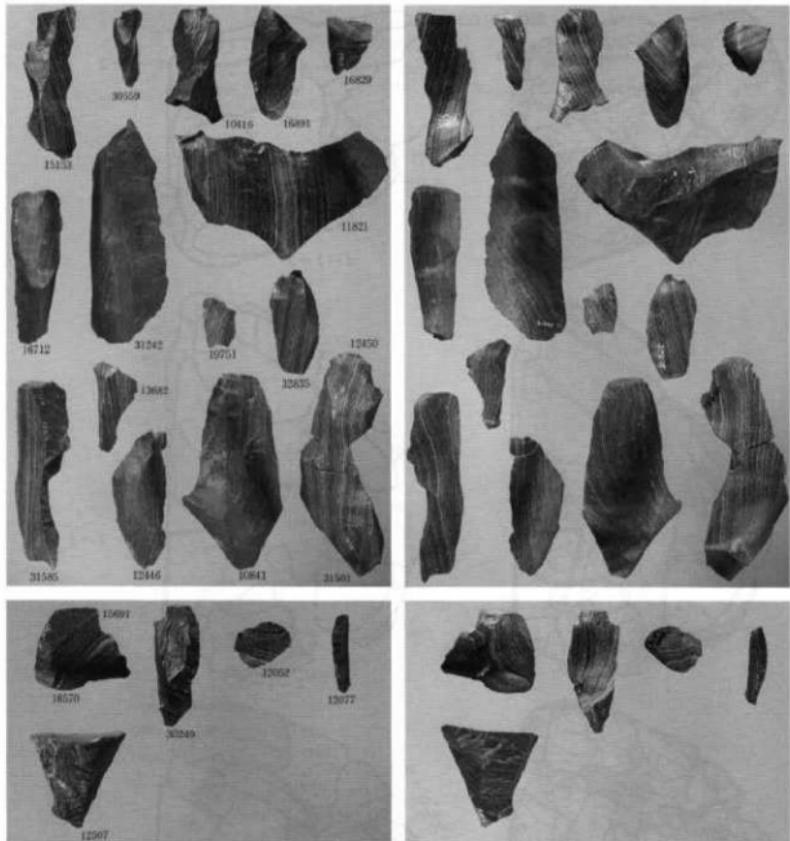
第69図 個体別資料 (36) 個体 2 (13) 写真 (3)



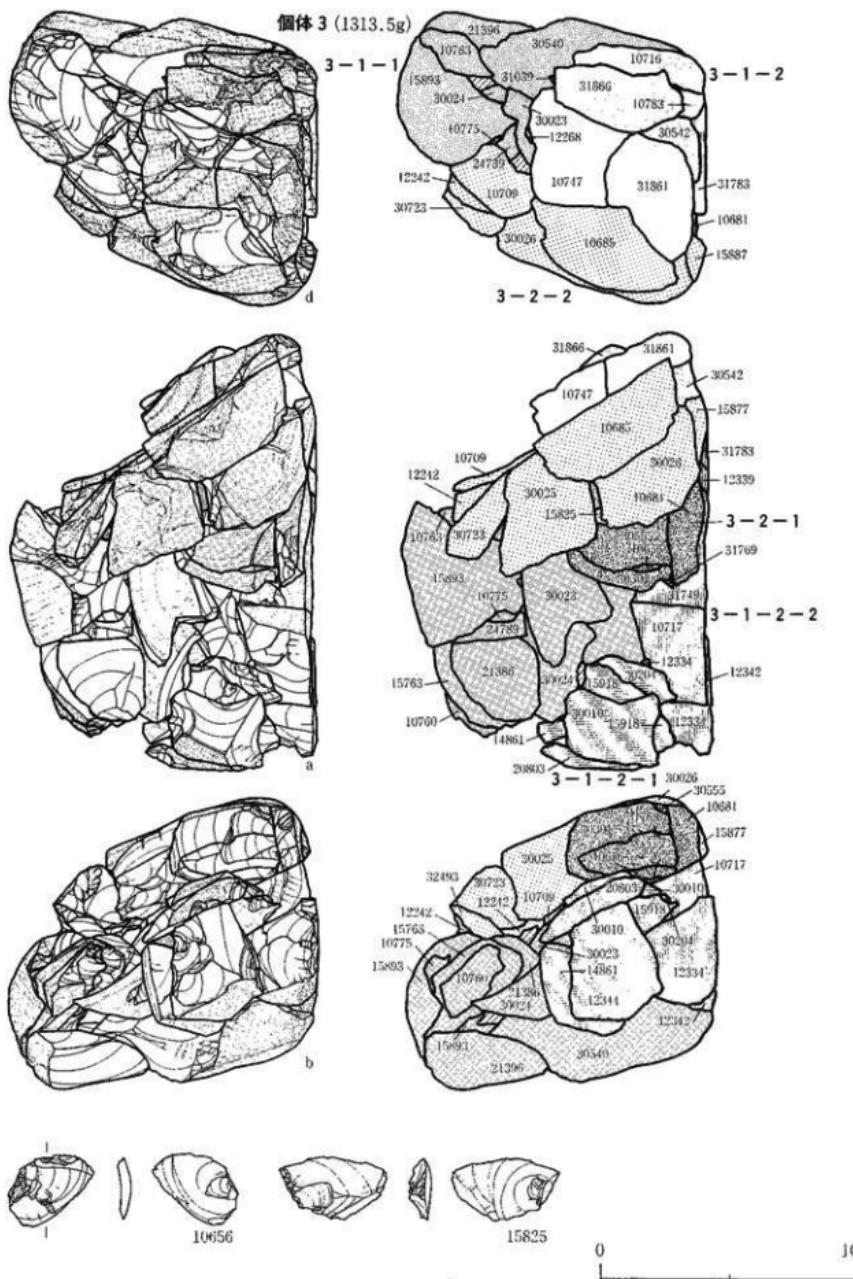
第70図 個体別資料 (37) 個体 2 (14) 写真 (4)



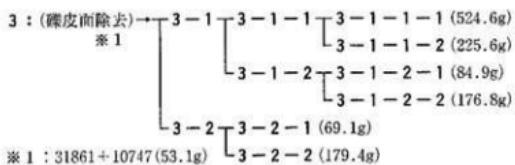
第71図 個体別資料 (38) 個体 2 (15) 写真 (5)



第72図 個体別資料 (39) 個体 2 (16) 写真 (6)



第73図 個体別資料 (40) 個体 3 (1)



3-1-1-1 (2細分割)

a : 21396+30024+30540

b : 30023+12268→10760→15763→21386(B-A)→○(打面再生)→

24789→○(打面再生)→10775→10763→15893(CO)

3-1-1-2 : 12223+10716→10783+31866→31039→31778→23795→○→30542(CO)

3-1-2-1 (2細分割)

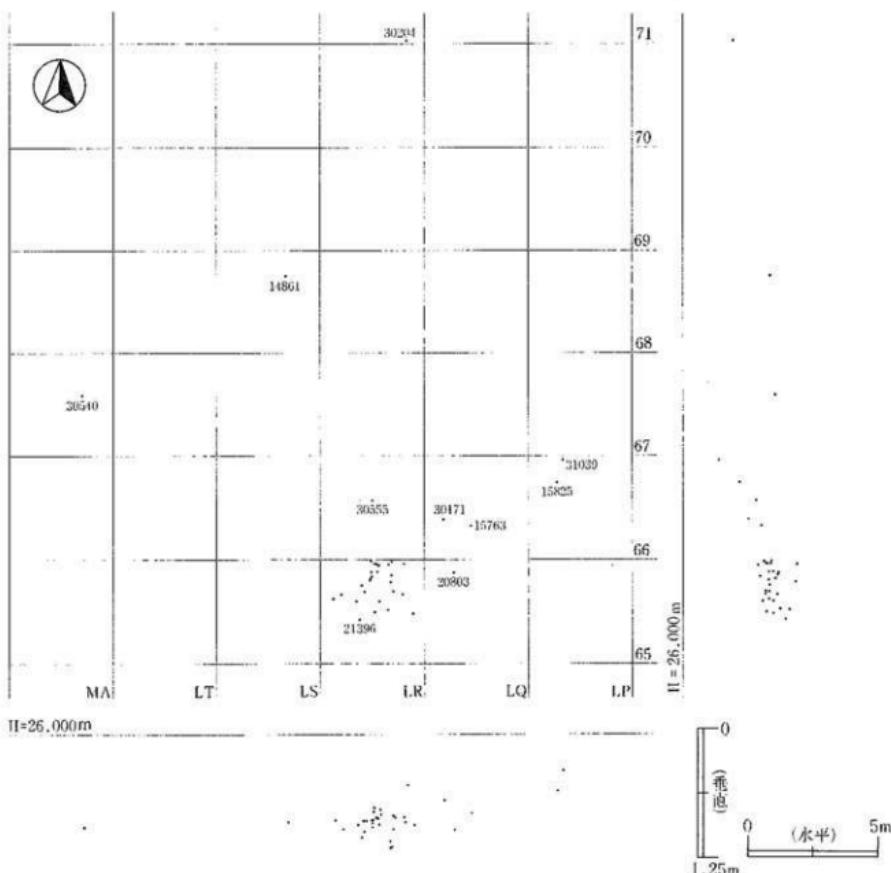
a : 14861(打面作出)→○→○→12344(CO)

b : 20803→30010→90° 転移→30204→15918(CO)

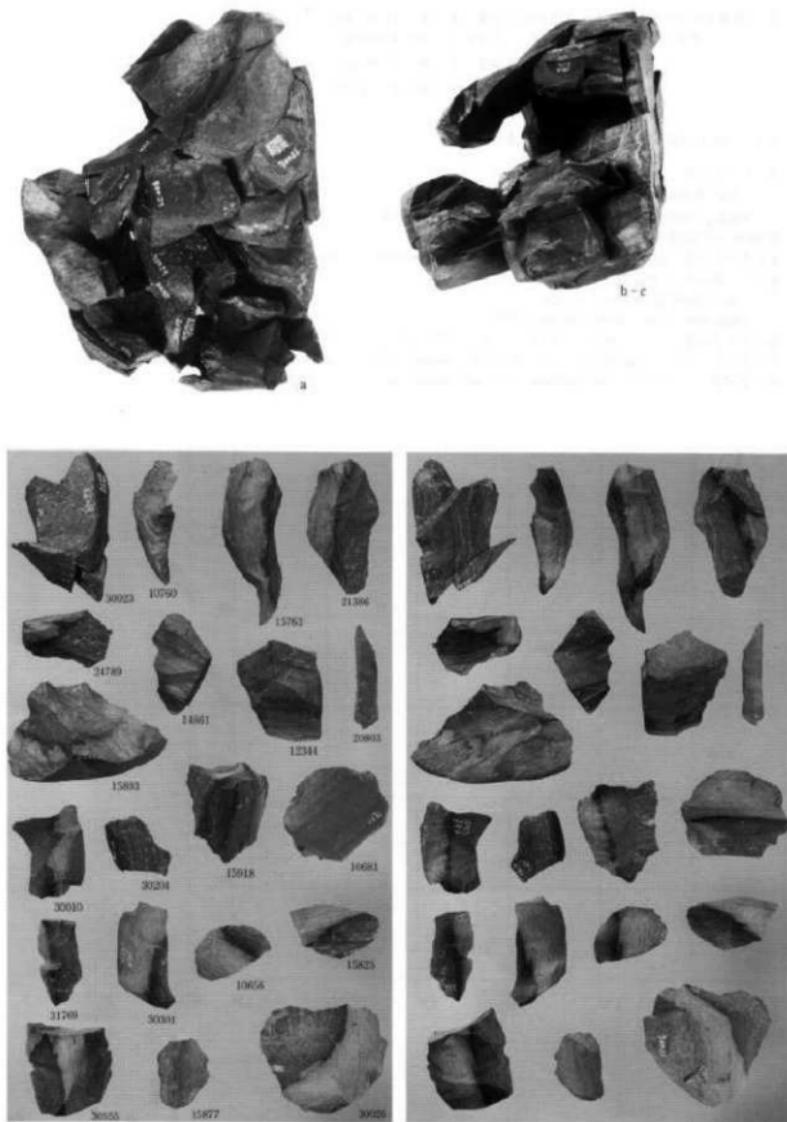
3-1-2-2 : 12342+10717+31749+12334+12339+30171+31783

3-2-1 : 10681(打面作出)→○→31769→30301→10656(KBOF-1)→15825(KB-2)→30555(CO)

3-2-2 : 10709→12242→32403→30723→10685→30025→15877→90° 転移→○→30026(CO)

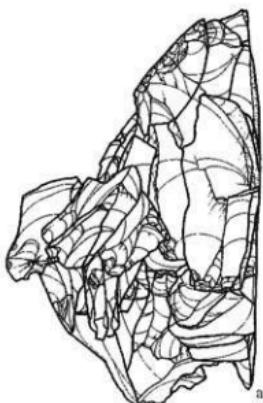
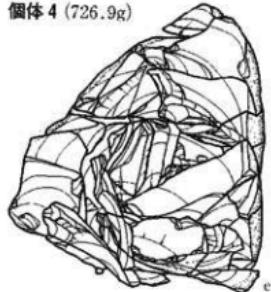


第74図 個体別資料 (41) 個体3 (2) 分布図

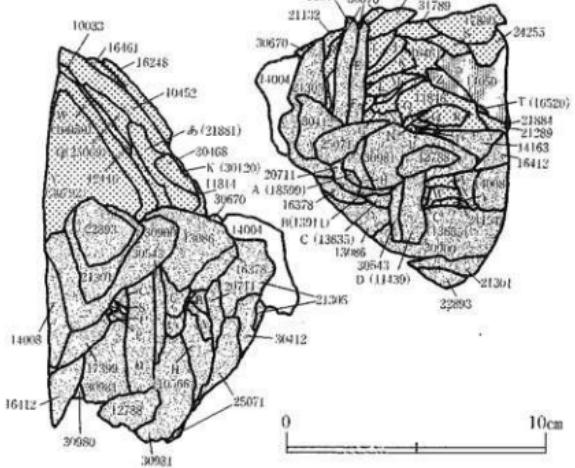
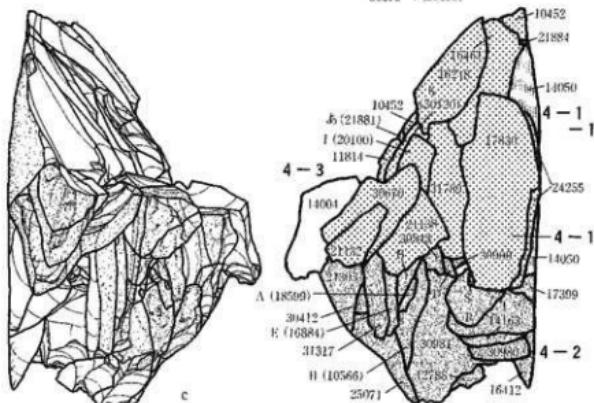
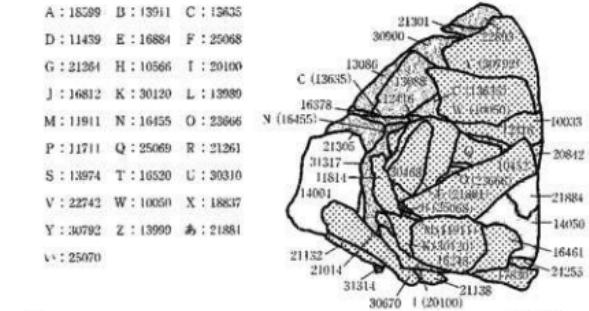


第75図 個体別資料 (42) 個体 3 (3) 写真

個体4 (726.9g)



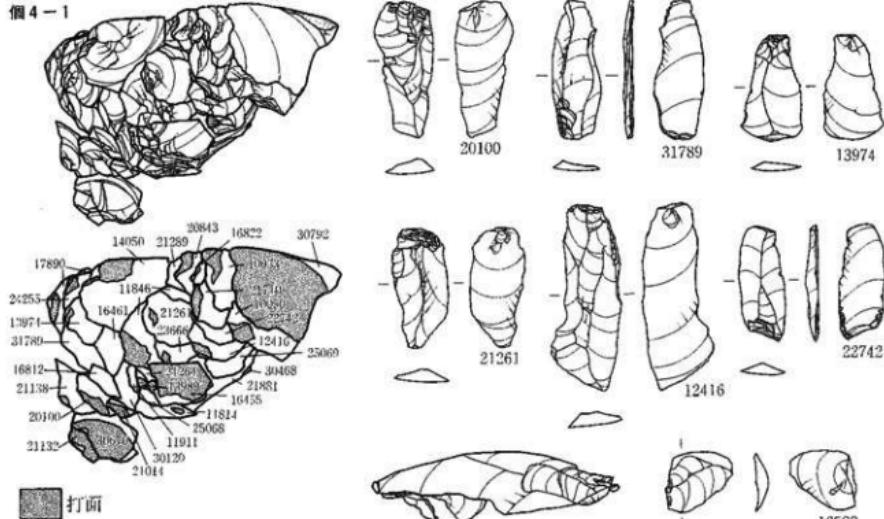
A : 18599 B : 13911 C : 13635
 D : 11439 E : 16884 F : 25068
 G : 21264 H : 10566 I : 20100
 J : 16812 K : 30120 L : 13980
 M : 11911 N : 16455 O : 23666
 P : 11711 Q : 25069 R : 21261
 S : 13974 T : 16520 U : 30310
 V : 22742 W : 10050 X : 18837
 Y : 30792 Z : 13990 あ : 21881
 い : 25070



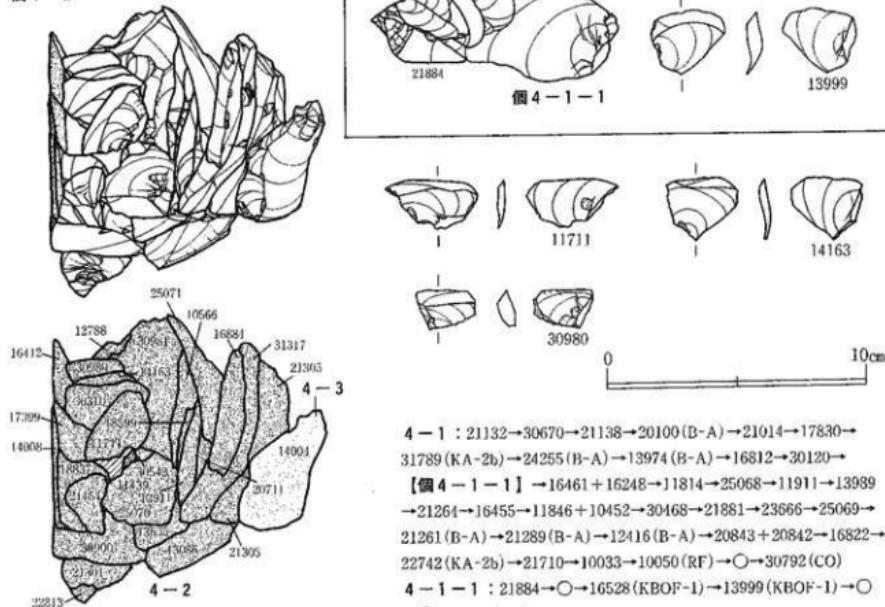
4 :
 - 4-1 (394.7g) [→ 4-1-1 (62.4g)]
 - 4-2 (245.0g)
 - 4-3 (24.8g)

第76図 個体別資料 (43) 個体4 (1)

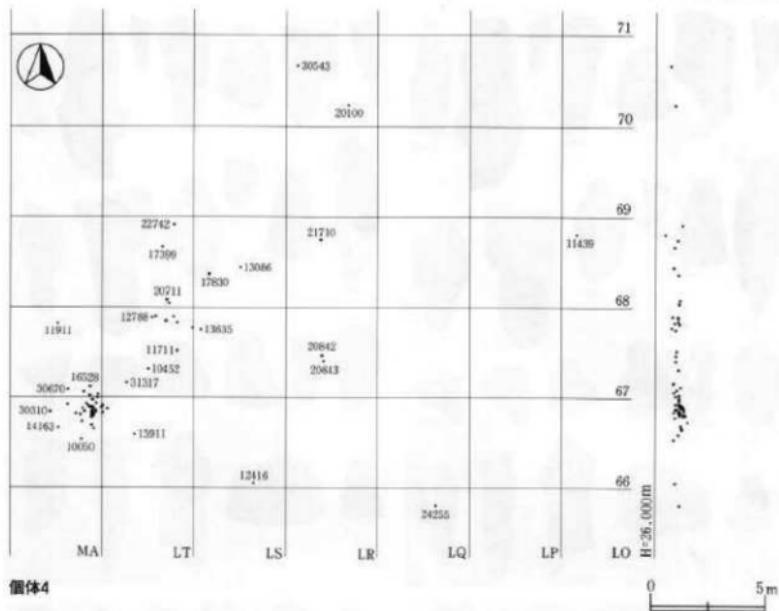
個4-1



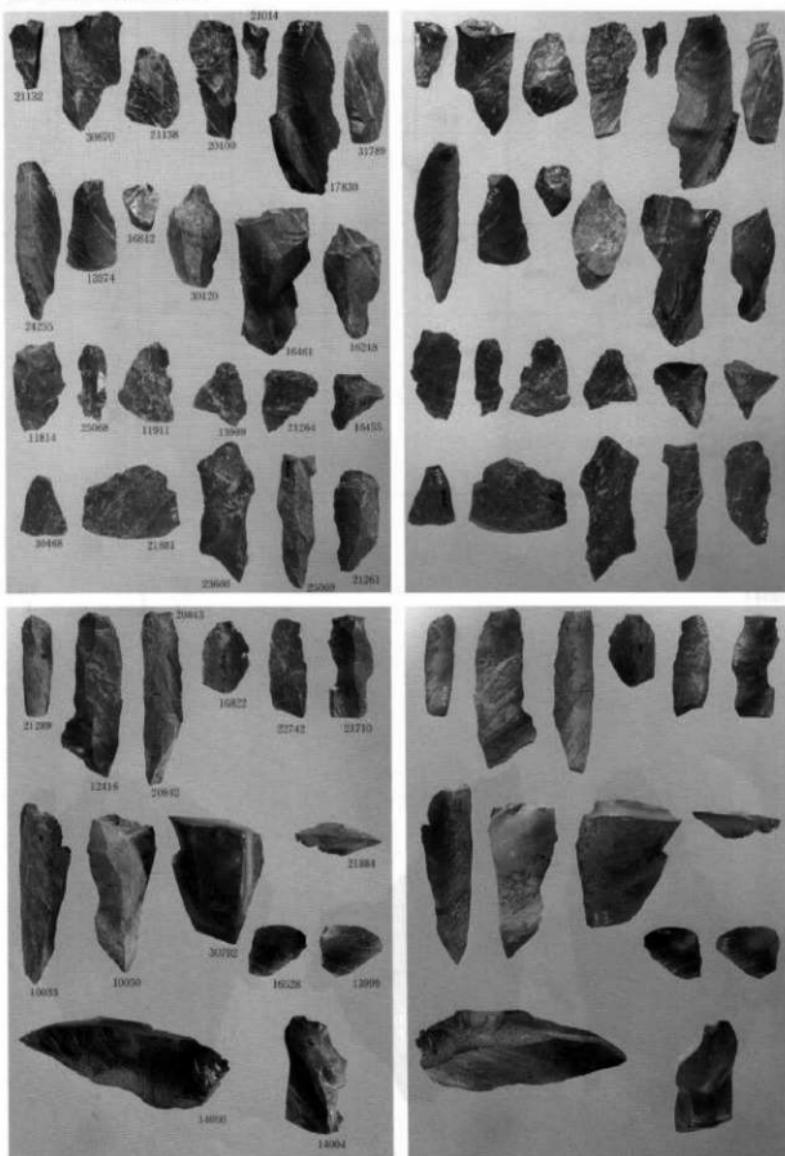
個4-2



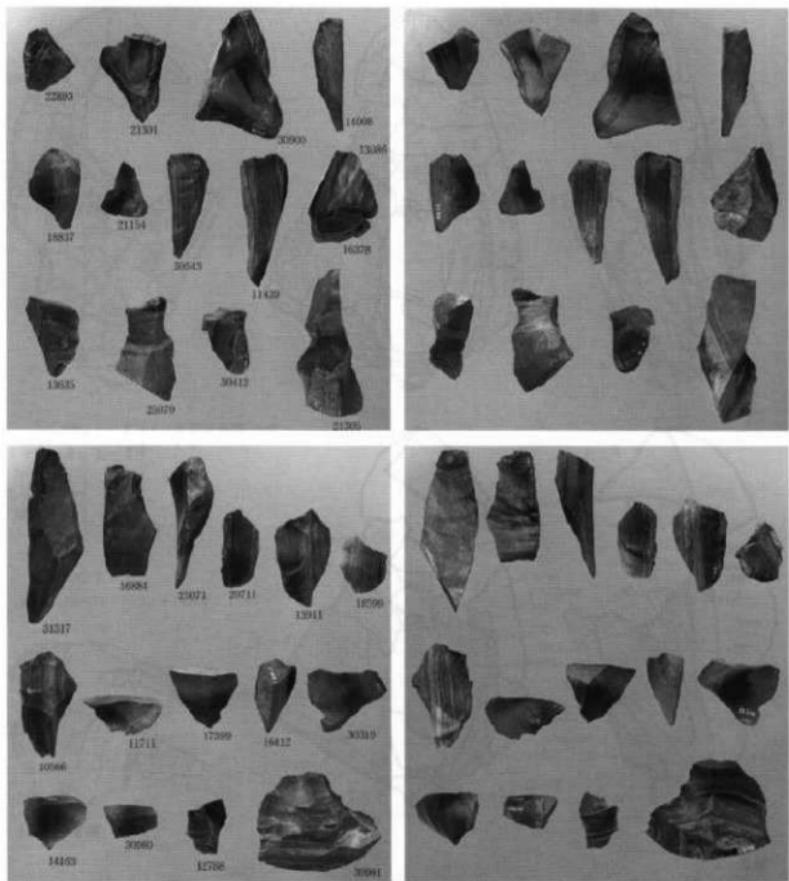
第77図 個体別資料(44) 個体4(2)



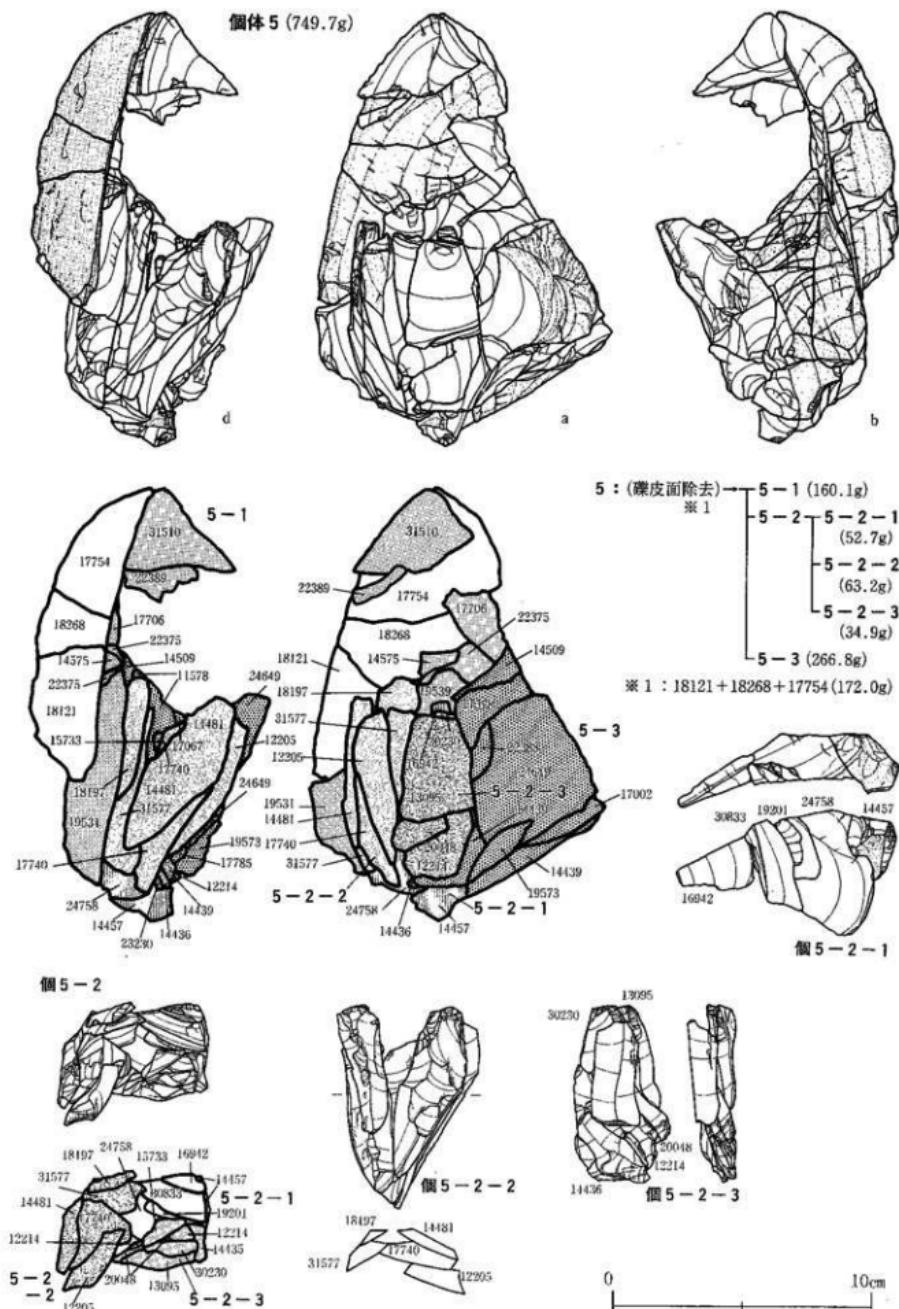
第78図 個体別資料 (45) 個体4 (3) 分布図、接合写真



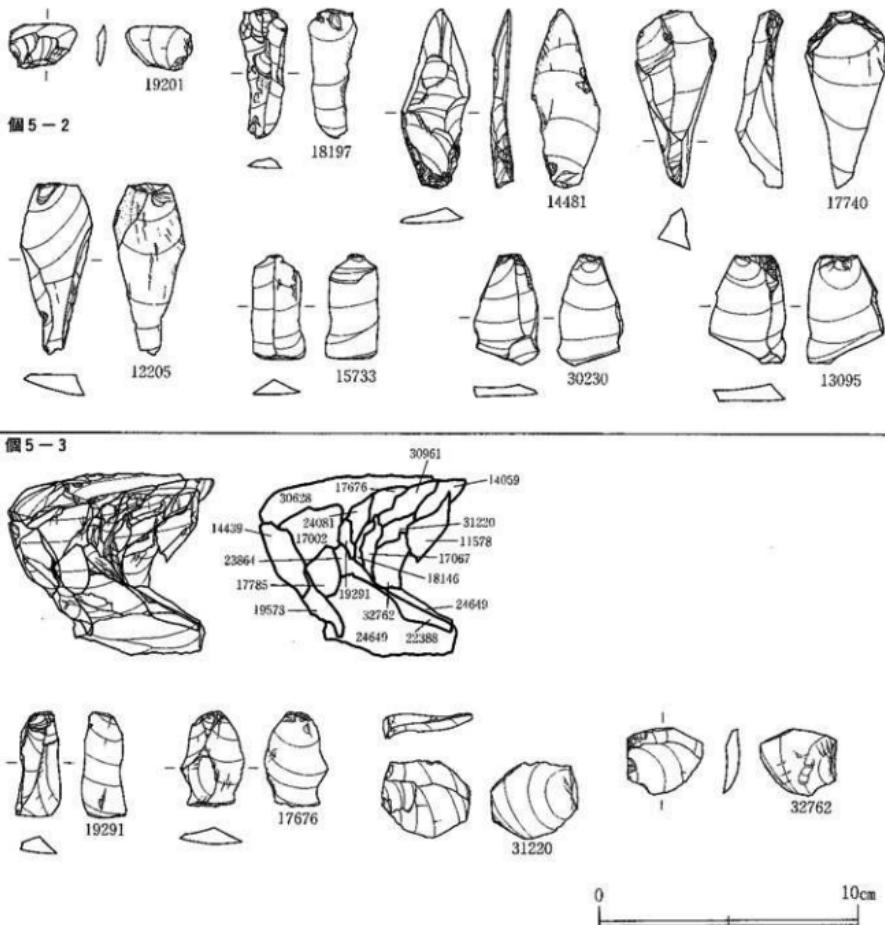
第79図 個体別資料 (46) 個体 4 (3) 写真 (1)



第80図 個体別資料 (47) 個体4 (4) 写真 (2)



第81図 個体別資料 (48) 個体 5 (1)

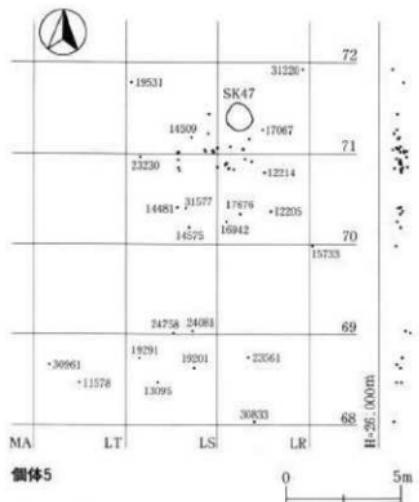


- 5-1 : 31510 → 22389 → 17706 + 22375 + 19531 + 14575
- 5-2-1 : 16942 → ○ → 90° 転移 → 14457 → 30833 → ○ (KBOF) → 23561 → 19201 (KBOF-1) → 24758 (CO)
- 5-2-2 : 18197 (B-A) → 14481 (KA-2b) → ○ (KBOF) → 31577 (B-B) → 17740 → 12205 (B-A)
- 5-2-3 : 15733 (B-B) → 130° 転移 → 23230 → 14436 + 14435 → 12214 → 20048 → 130° 転移 → 30230 (B-A)
→ 13095 → (COなし)
- 5-3 : 14439 → 19573 → 24649 + 22388 → 30628 → 17002 → 17785 → 23864 → 19291 (B-A) → 24081 → 17676 (B-A)
→ 18146 (B-B) → 17067 → 30961 → 31220 (KB-2) → 32762 (KBOF-1) → 14509 → 11578 → (COなし)

第82図 個体別資料 (49) 個体5 (2)



第83図 個体別資料 (50) 個体 5 (3) 写真 (1)



第84図 個体別資料 (51) 個体 5 (4) 分布図、写真 (2)

的には小形貝殻状剥片を剥取している。一方の2は、更に3小分割（2-1-3）し、2-1は、小形貝殻状剥片を、2-2は、長さ7cm前後の石刃を作出しており、うち1点（14481）はナイフ形石器A群に加工整形している。2-3は、当初石刃作出を意図し、打面転移を経て寸づまり縦長剥片を得ている。

個体6（第85~88図）

個体6は総数41点（801.6g）で構成される。現存長14cm、幅約10cm、厚さ約9cmの円盤様に復原されるが、原形状は不明である。出土位置はC-2・C-4・Aブロックにやまとまりを見せるものの、C-3・B-1・E-2・F-3ブロック内にも点在する。資料は白色の細い平行ラミナ（やや不鮮明）と海綿骨針化石を含む暗褐色（濃茶）の珪質頁岩であり、礫皮面は明褐色を呈する。

個体は節理面で3分割（6-1-3）し、更に1は4小分割、2は2小分割する。それぞれの小個体は、小形貝殻状の剥片作出を目的とした剥離を行っている。最終的な残核の高さは4cm未満と小さい。

個体7（第89~92図）

個体7は総数39点（1083.9g）で構成される。現存長20.5cm、幅約15.5cm、厚さ約5cmの盤状の礫に復原できるが、原形状・法量は不明である。出土位置はD-1ブロックに集中し、次いでC-2ブロックにやまとまる。その他A・B（南側）・C-1・D-2・E-3・SK75埋土でも1~3点出土している。資料は灰白色の密な平行ラミナ、少量の海綿骨針化石を含む褐~暗褐色の珪質頁岩であり、礫皮面は黄白~灰黄色を呈す。個体は礫皮面除去後、2分割（7-1と2）し、前者は2小分割、後者は3小分割する。後者の2-2は更に2小分割している。

剥片剥離は、1-1が長さ4cm未満の小形の縦長剥片あるいは貝殻状剥片を剥離し、その他の小個体は、概ね6cm以上の石刃・縦長剥片剥離を目的とした作出がなされ、貝殻状の剥片は認められない。

個体8（第93~95図）

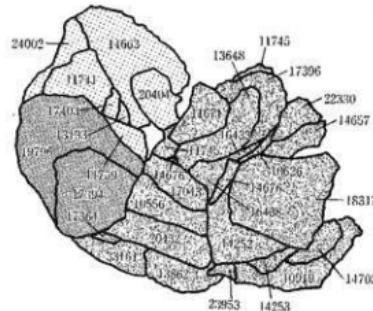
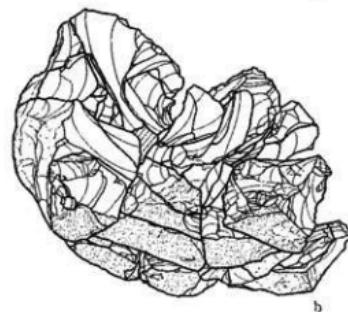
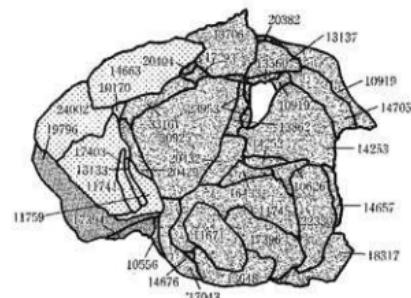
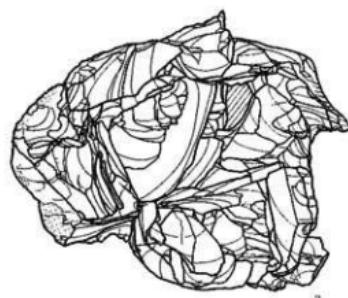
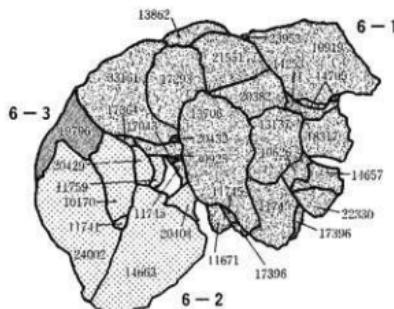
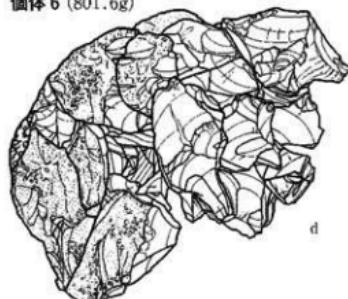
個体8は総数26点（629.5g）で構成される。現存長15cm、幅約8.5cm、厚さ約6.5cmの角礫に復原できるが、原形状は不明である。出土位置はD-1ブロック内に集中し、C-1・E-3ブロックとC-2とD-2間に各1点散在する。資料は白色の細い平行ラミナと少量の海綿骨針化石を含む暗褐色の珪質頁岩であり、礫皮面は明褐色を示す。

個体は礫皮面除去後に2分割（8-1と2）される。1は、当初石刃作出（長さ7~8cm）を意図した剥離が行われ、180°転移後寸づまり縦長剥片作出（長さ4~5cm）に切り換えるが、目的的剥片は得られてはいない。なお最終的な残核の高さは4cm程に減じていた。2は、角柱状の石核より石刃・寸づまり縦長剥片を作出している。うち1点（22882）はナイフ形石器A群に加工している。本個体では、小形貝殻状の剥片作出を目的とした剥取は行われていない。

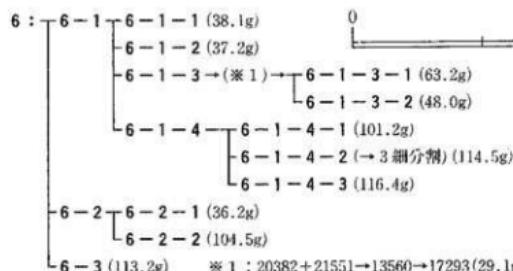
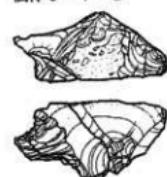
個体9（第96・97図）

個体9は総数18点（486.2g）で構成される。現存長約11.5cm、幅約10.5cm、厚さ6.2cmの盤状の礫ではあるが、原形状は不明である。出土位置はD-2ブロック（MA67）内に集中し、C-2ブロックで2点、D-1ブロックにも1点確認できる。資料は灰白色の平行ラミナ・海綿骨針化石を含む暗褐色の珪質頁岩であり、礫皮面は褐色となる。

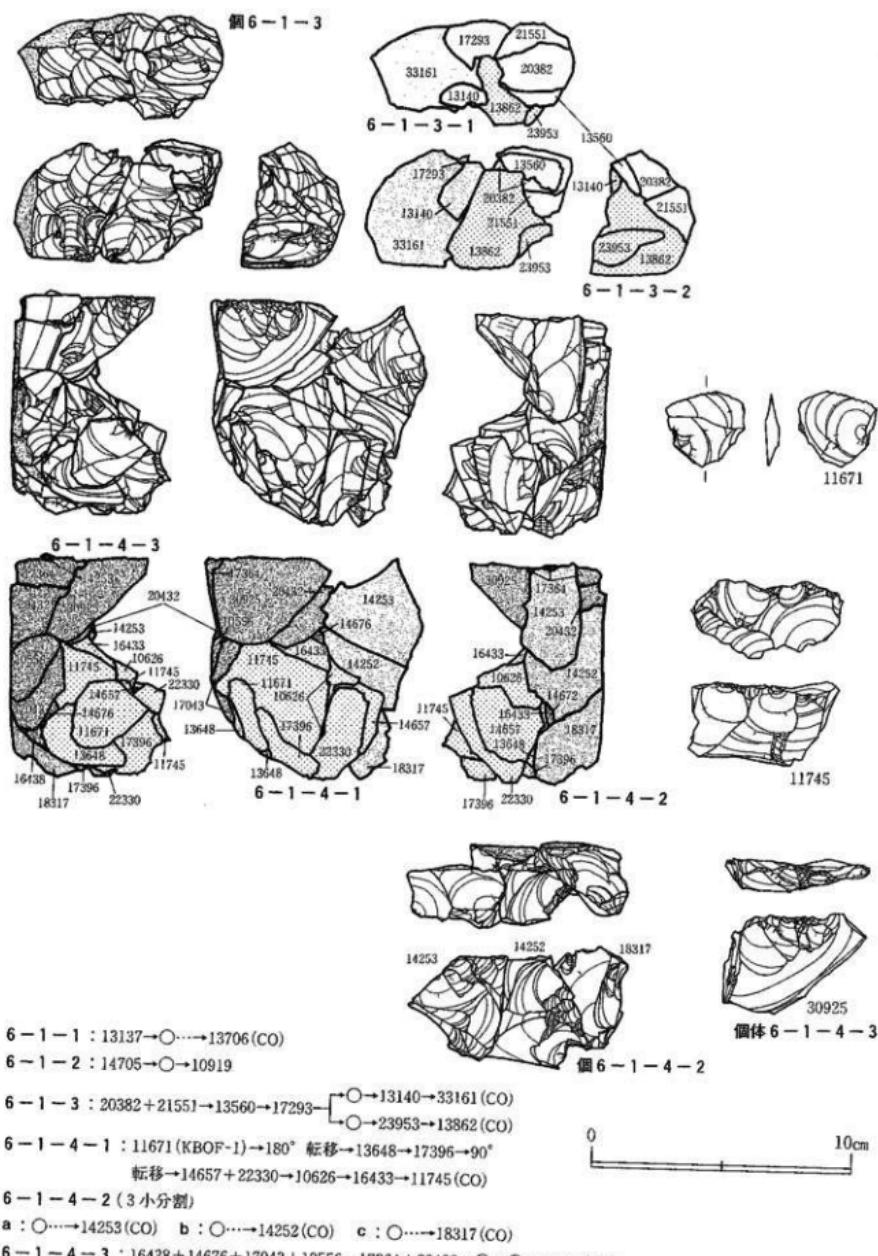
個体 6 (801.6g)



個体 6-1-2

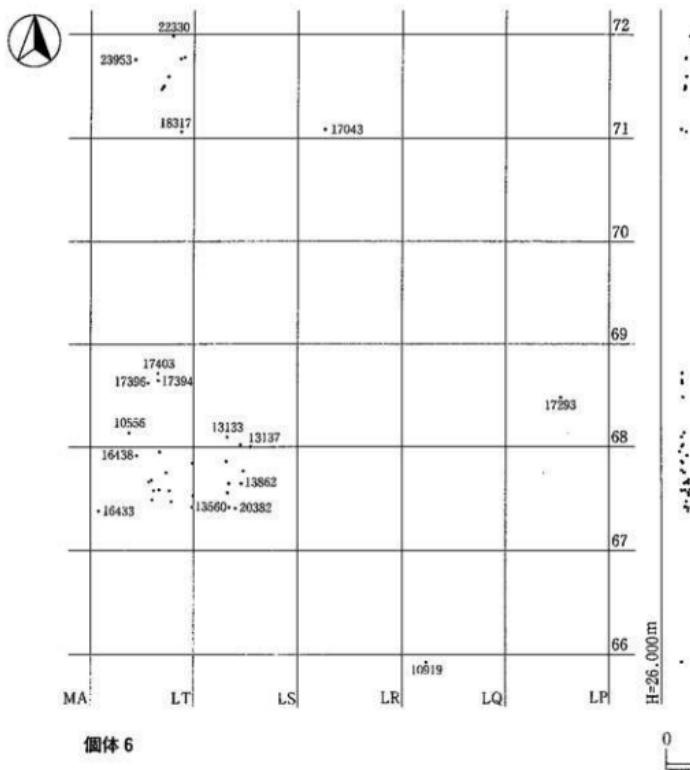
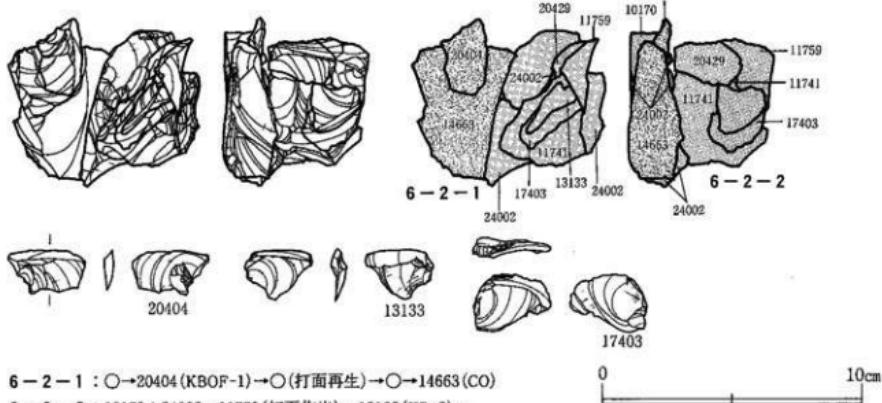


第85図 個体別資料 (52) 個体 6 (1)

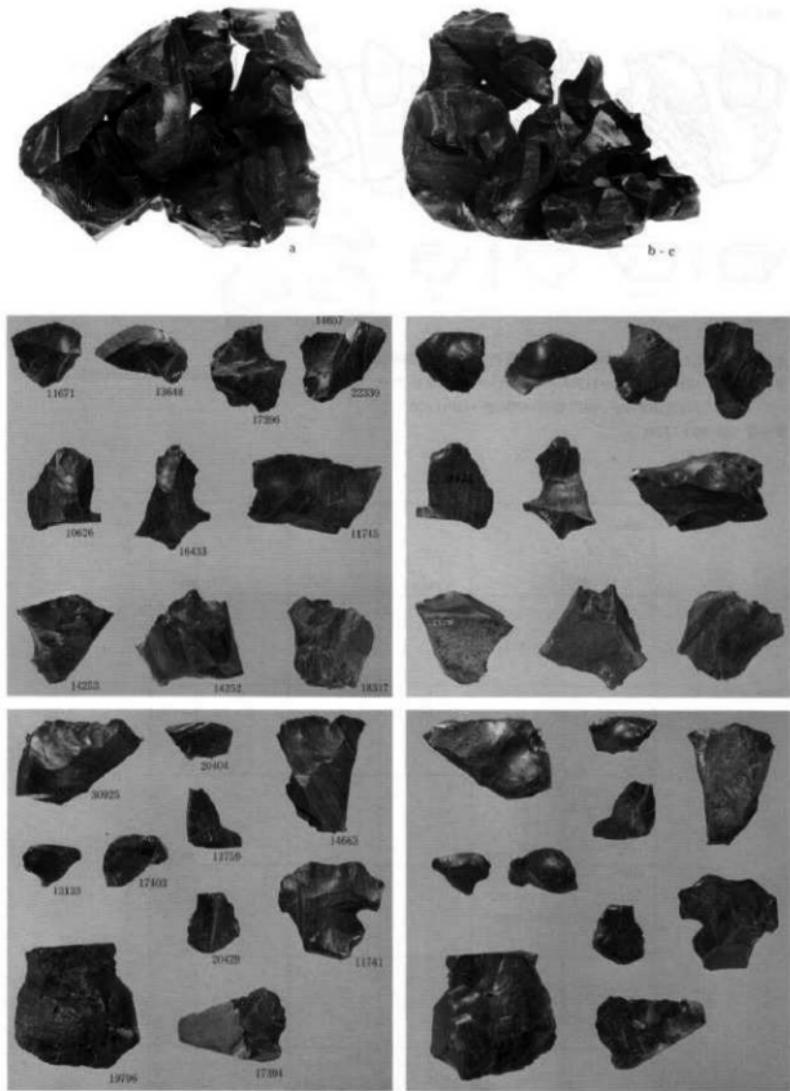


第86図 個体別資料 (53) 個体 6 (2)

個体 6-2

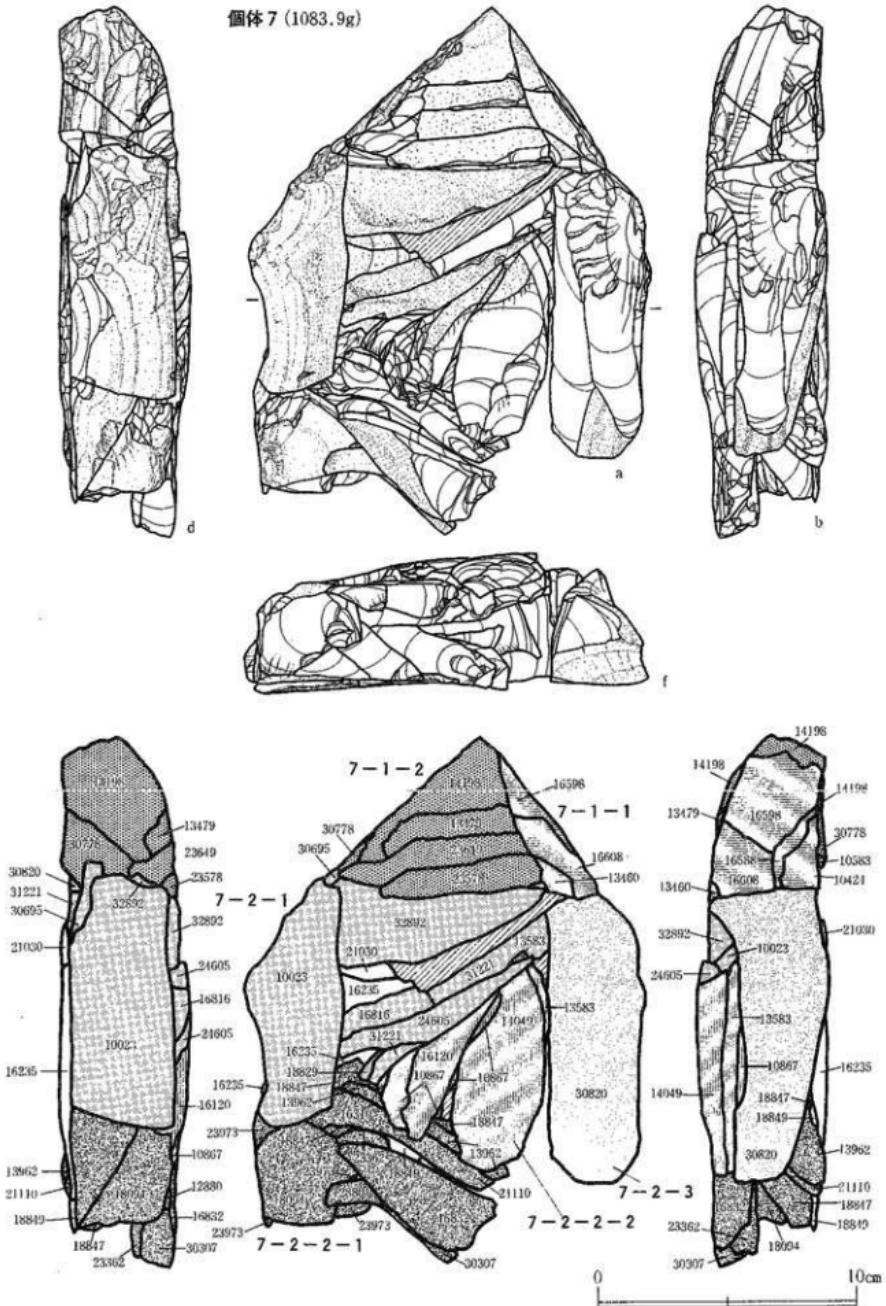


第87図 個体別資料 (54) 個体 6 (3) 分布図

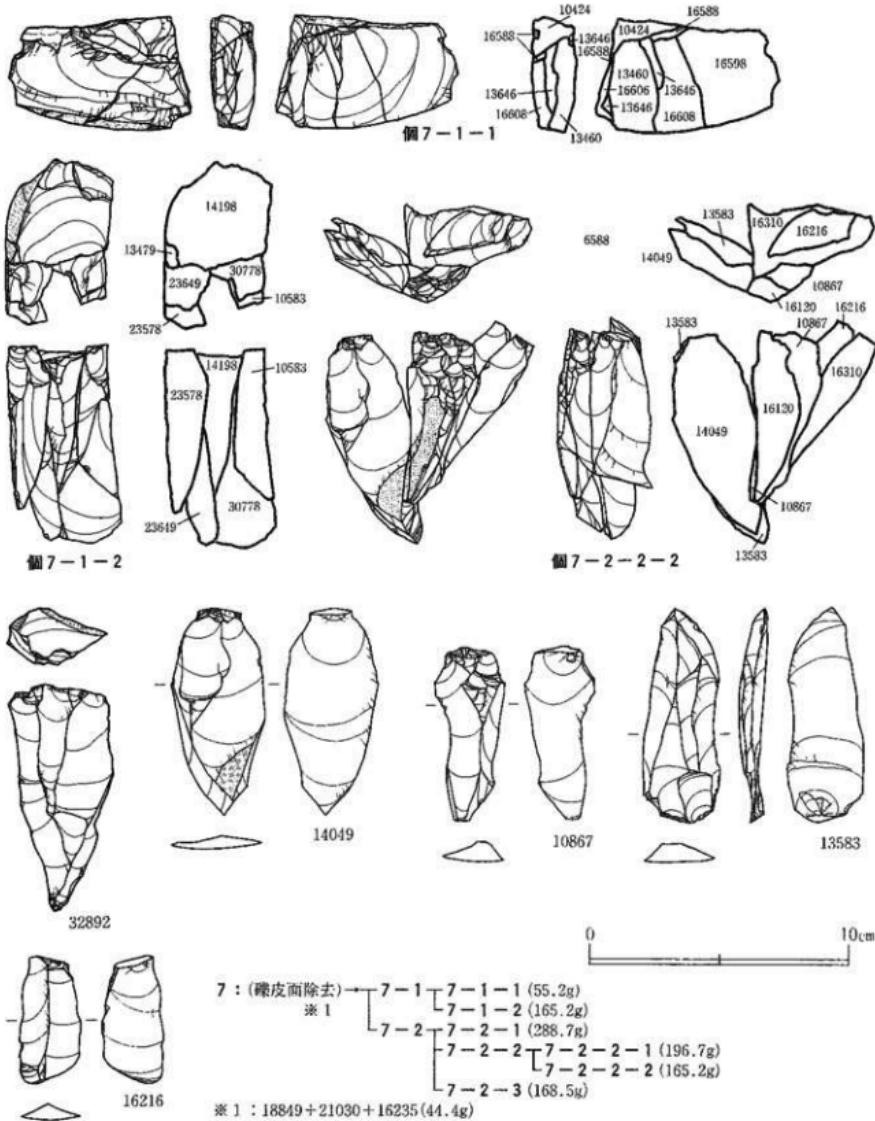


第88図 個体別資料 (55) 個体 6 (4) 写真

個体7 (1083.9g)



第89図 個体別資料 (56) 個体7 (1)



7 : (縦皮面除去) → 7-1 → 7-1-1 (55.2g)
 7-1-2 (165.2g)
 7-2 → 7-2-1 (288.7g)
 7-2-2 → 7-2-2-1 (196.7g)
 7-2-2-2 (165.2g)
 7-2-3 (168.5g)

※ 1 : 18849 + 21030 + 16235 (44.4g)

7-1-1 : 10424 (打面作出) → 13460 → 13646 → 90° 転移 → 16588 (打面再生) → 16608 → 16598 (CO)

7-1-2 : 23578 → 23649 → 10583 → 30778 → ○ → ○ → 13479 → 14198 (CO)

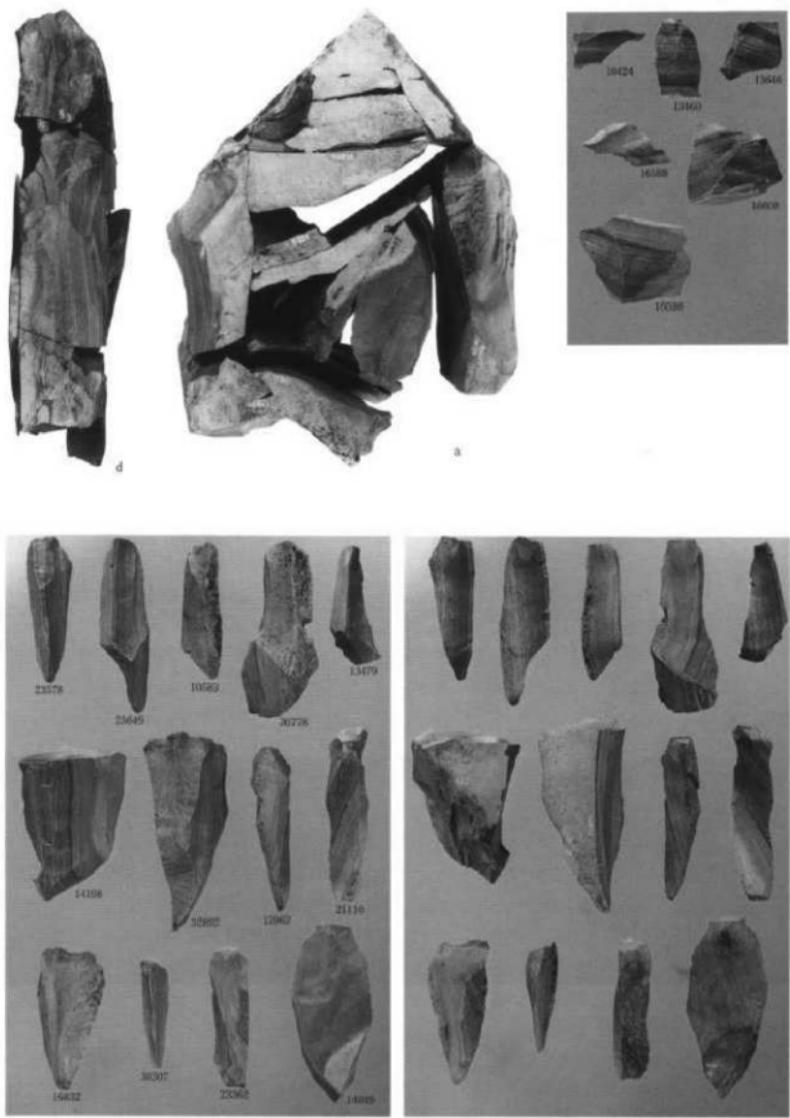
7-2-2-1 : 10023 → 90° 転移 → 31221 (SS-1) → 18829 → 24605 (RF) → 16816 → 30695 → 30533 → 32892 (CO)

7-2-2-2-1 : 18094 + 12880 → 23973 → 180° 転移 → 13962 → 21110 → 16832 → 30307 → 23362 → ○ → 180° 転移 → 18847

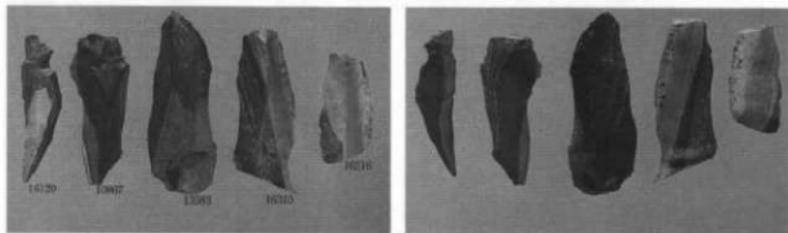
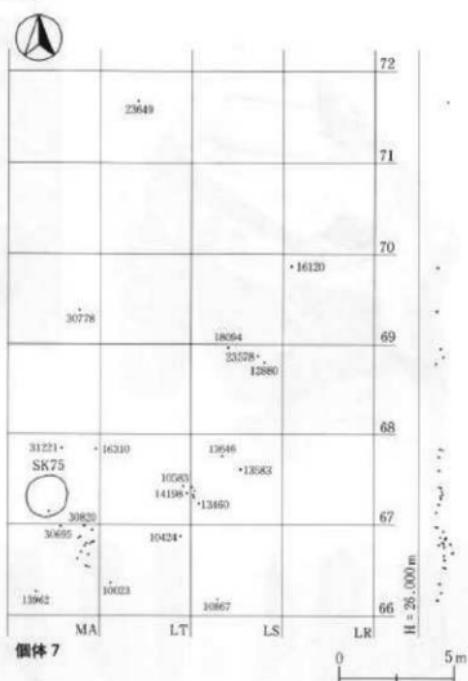
7-2-2-2-2 : 14049 (B-A) → 16120 (B-A) → 10867 (B-A) → 13583 (KA-3a) → 16310 (SS-1) → 16216 (B-A)

7-2-3 : ○ → 30820 (CO)

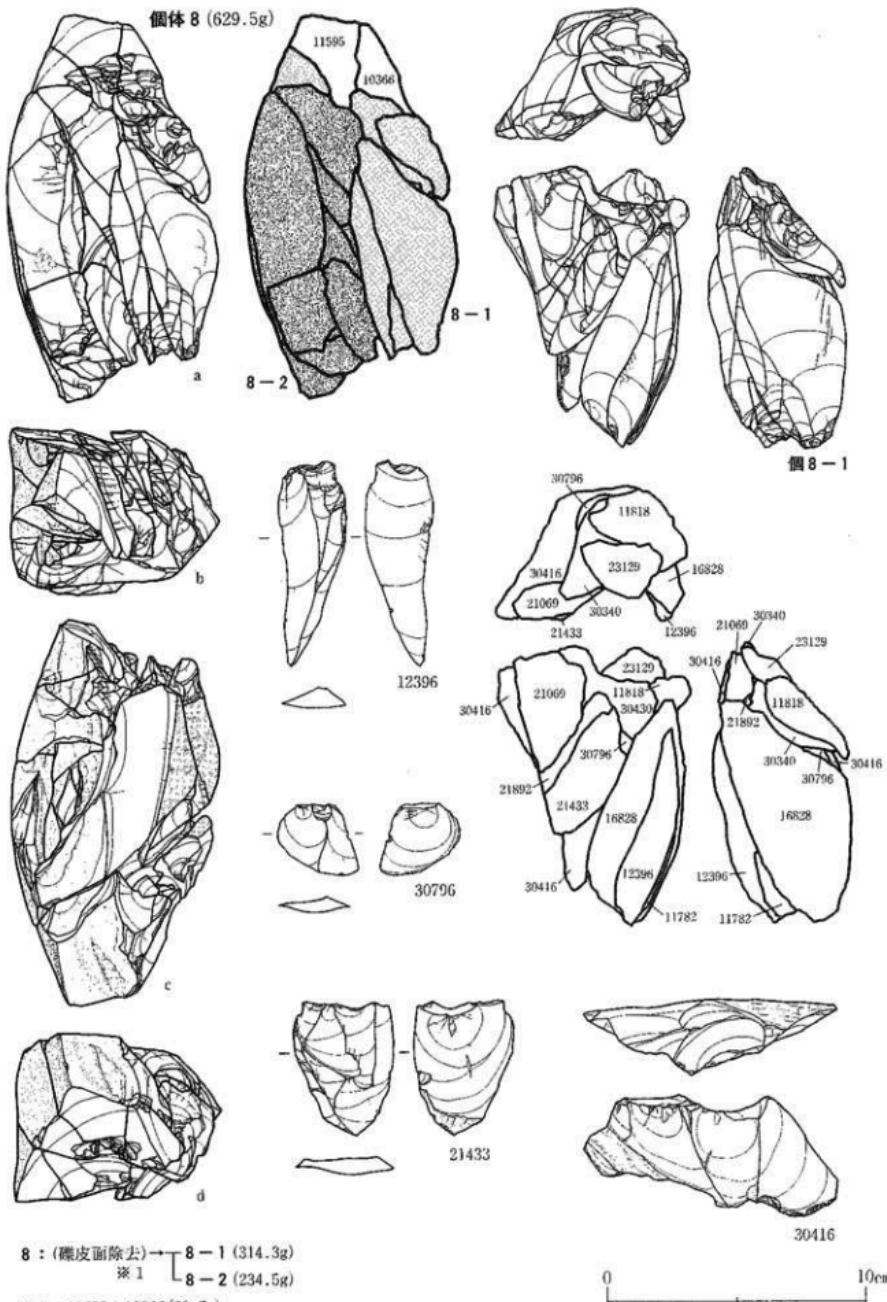
第90図 個体別資料 (57) 個体 7 (2)



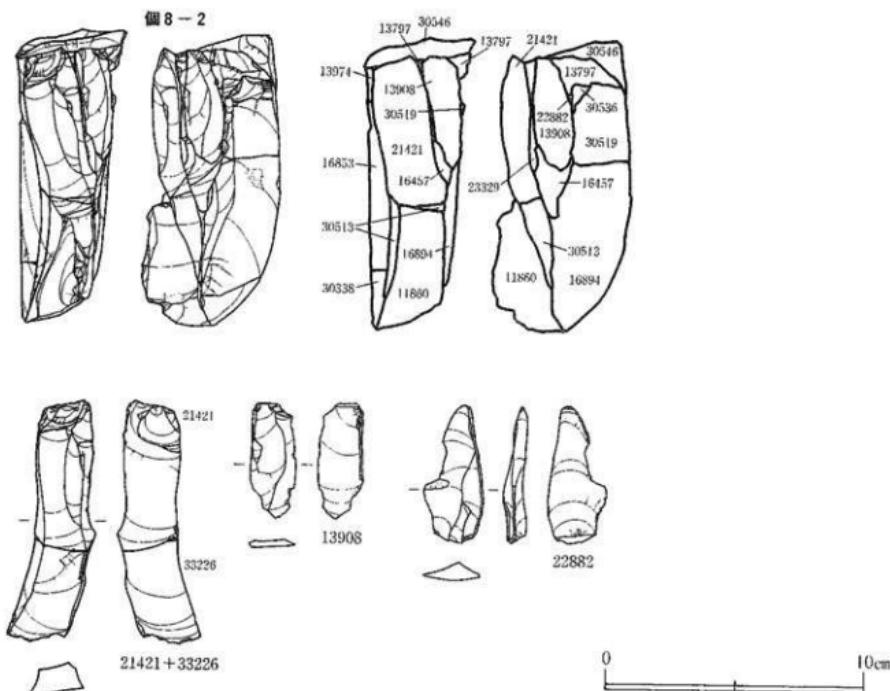
第91図 個体別資料 (58) 個体 7 (3) 写真 (1)



第92図 個体別資料 (59) 個体 7 (4) 分布図、写真 (2)



第93図 個体別資料 (60) 個体 8 (1)



8-1 : 23129→11818→30340→90° 転移→16828→11782→12396(B-B)→○→180°

転移→30338→21069→30796(打面再生)→21433→21892→○→30416(CO)

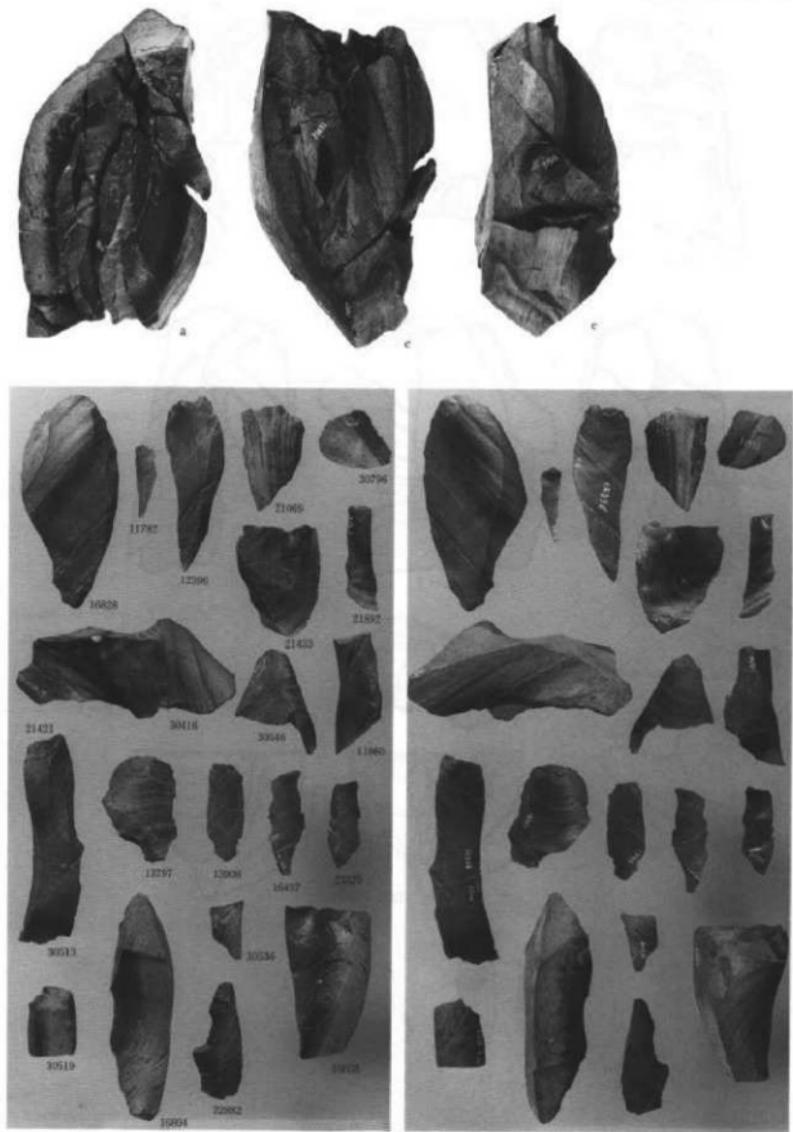
8-2 : 30546→○(打面作出)→11860→21421+33226→13797(打面再生: RF)→13908

→16457→23329→30519→16894→30536→22882(KA-3a)→16853(CO)

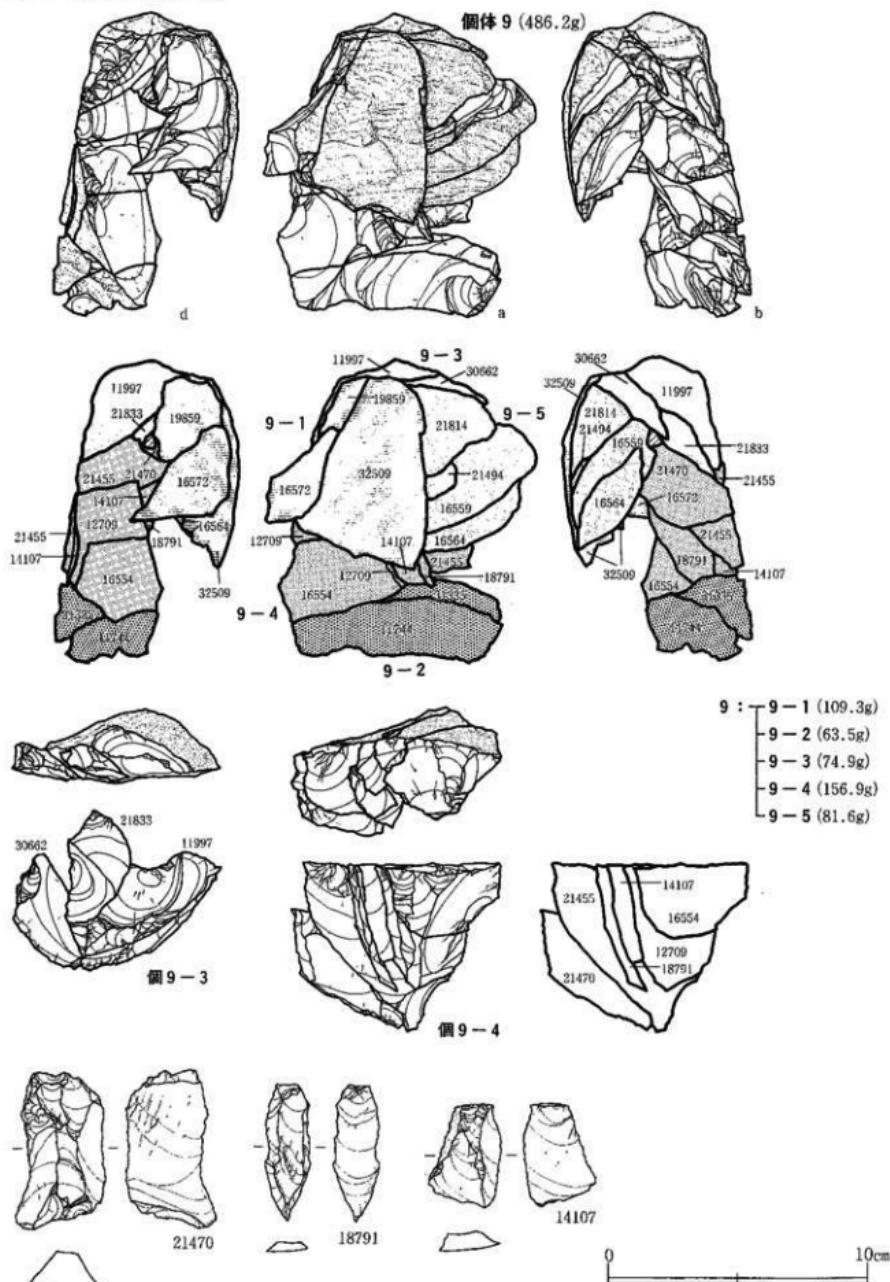


個体 8

第94図 個体別資料 (61) 個体 8 (2)

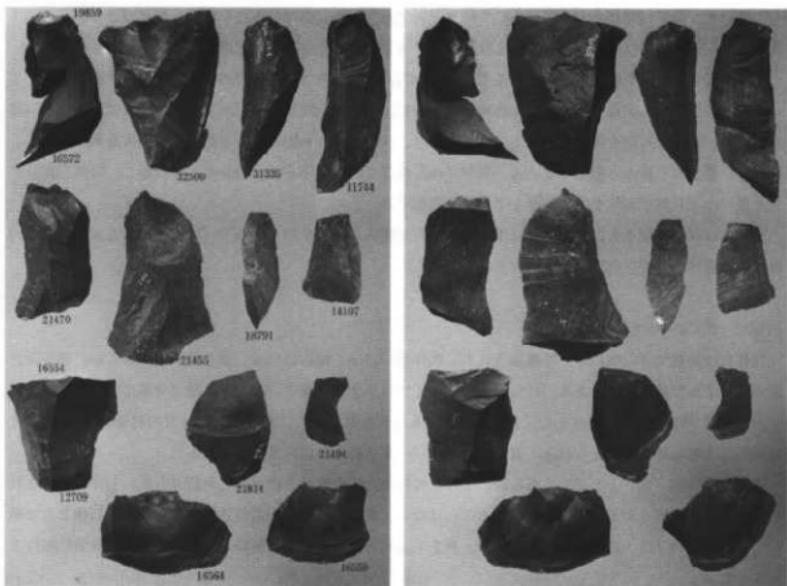
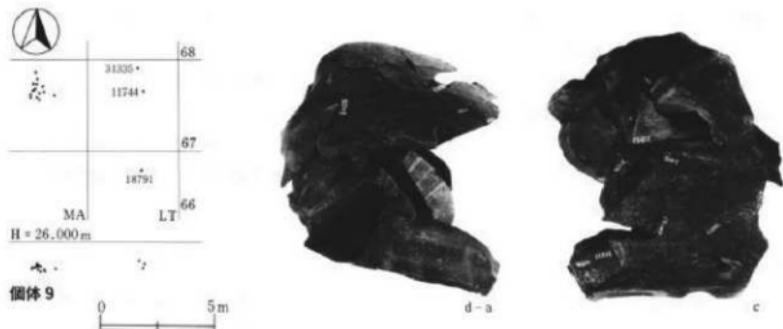


第95図 個体別資料 (62) 個体 8 (3) 写真



第96図 個体別資料 (63) 個体 9 (1)

- 9-1 : 16572+19859→○→○→○→32509(CO)
 9-2 : 31335→11744→(COなし)
 9-3 : 30662→○→21833→○(打面再生)→○→11997(CO)
 9-4 : 21470→○→21455→○→18791(B-A)→14107→○→12709+16554(CO)
 9-5 : 21814→○→21494→16559→16564→(COなし)



第97図 個体別資料 (64) 個体 9 (2) 分布図、写真

個体は5分割（9-1-5）し、1・2・4では石刃・縦長剥片を、3・5は小形の貝殻状剥片・縦長剥片をそれぞれ剥離目的とする作業を行っているが、意図した剥片が得られているとは言い難い。なお本個体は、C-2ブロック内に小個体9-2が位置し、他は約4m離れたD-2ブロックに集中する。

個体10（第98~100図）

個体10は総数27点（406.2g）で構成される。現存長12.5cm、幅約11cm、厚さ約6.5cmの蝶であるが、原形状は不明である。出土位置はD-1・C-2ブロックにそれぞれまとまりをもつが、C-3・E・F-1・L S66グリッド（C・D・Eブロックの中間）にも各1点確認できる。資料は灰白色の平行ラミナと少量の海綿骨針化石を含む暗褐色の珪質頁岩であり、蝶皮面は黄褐色を呈する。

個体は大きく3分割（10-1-3）し、1は更に3小分割、2も2つに小分割する。剥片剥離は、1-1と1-2では小形貝殻状剥片を、1-3と2では小形の縦長剥片・貝殻状剥片を、3は石刃・縦長剥片をそれぞれ意図する作出を実施している。

個体11（第101~105図）

個体11は総数63点（1752.5g）で構成される。現存長14cm、幅約13cm、厚さ約11.5cmの角柱状の蝶に復原できる。出土位置はB-1・C-1ブロックにそれぞれ集中をみせるが、B-2・C-3・F-3各ブロック内にも点在し、またA・D-1・D-2・E-2・F-2各ブロックにも各1点確認できるなど広域に分布している。資料は暗褐色（一部灰色）の珪質泥岩であり、蝶皮面は黄褐色を示す。個体は2分割（11-1と2-6）し、後者は蝶皮面除去後、5分割する。4と6は更にそれぞれ2小分割している。

剥片剥離は、1は貝殻状剥片を作出しており、20770は長さが4.7cmの大型のナイフ形石器B群に調整している。2は長さ5cm前後の縦長剥片剥離後、最終的には小形貝殻状剥片を剥取る。3も貝殻状剥片を剥離しており、途中で打面を再生している。4-1と2、5、6-1も同様に、小形貝殻状剥片を剥離する。5は、薄い盤状の石核から剥離している。6-2は、長さ5~7cmの石刃・縦長剥片を剥離し、打面を転移させた後に小形貝殻状剥片を2点剥離して残核を遺棄する。

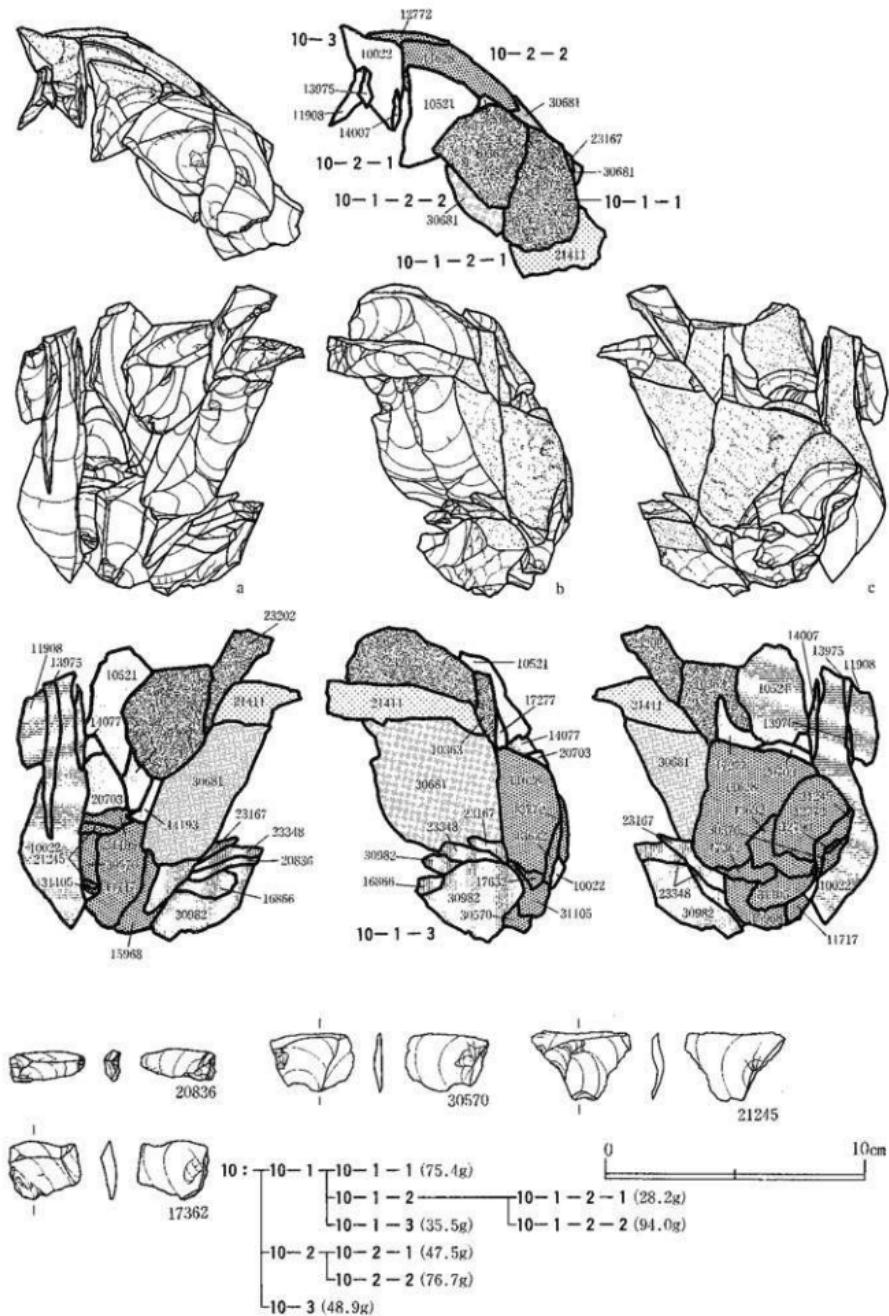
本個体は接合状況から、遺跡内には未分割の原石を搬入し、2分割した一方（11-1）の大部分の剥片剥離工程は遺跡・調査区外で実施されたと推定できる。

個体12（第106~109図）

個体12は総数34点（661.4g）で構成される。現存長13.5cm、幅約11.5cm、厚さ約9cmであるが、蝶皮面が認められず原形状は不明である。出土位置はB-1ブロック内に集中（SK28B埋土でも1点出土）するが、B-2・Fブロック内にも点在し、Aブロックでも1点確認できる。ただAブロックの31556は、II層出土であり二次的な移動も考えられる。資料は暗褐色（一部灰褐色）の珪質泥岩となる。

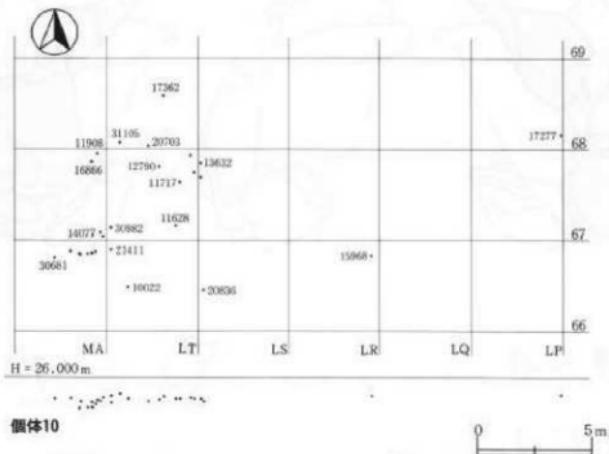
個体は2分割（12-1と2）されるが、1は2の打面作出を意図した剥離と判断される。しかし剥離されたこの打面作出剥片もそのまま遺棄されることなく、最終的には小形貝殻状剥片を剥離する石核として利用する。一方の2は、高さ8cmの石核から、長さ7cm前後の石刃を数点剥離し、最後には小形貝殻状剥片を剥離している。

本個体のうち、Fブロック内に点在するのは全て12-2を構成するものであり、同個体はB-1・2とFブロック（F-1~4）、距離にして10~15mの間を次のように頻繁に移動を繰り返して剥片剥離を行って

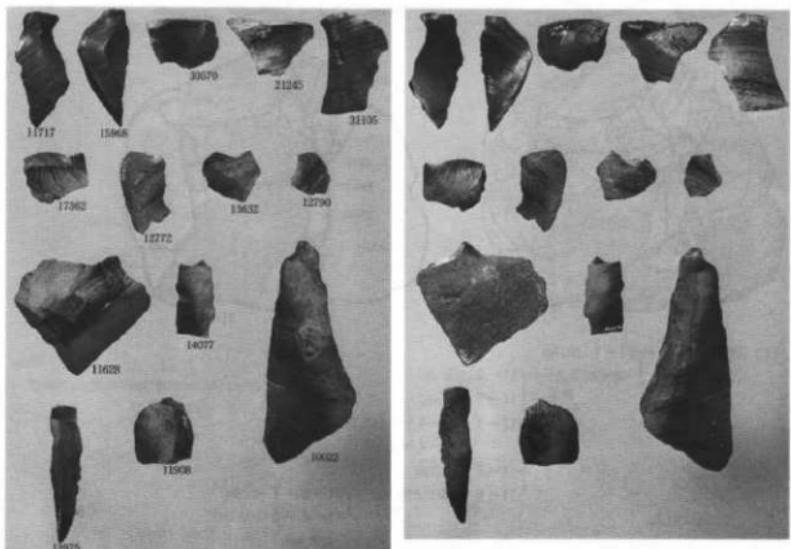
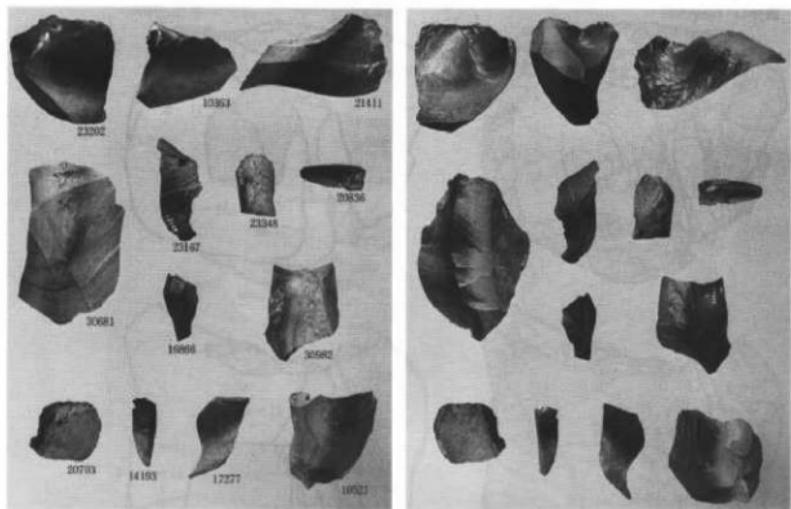


第98図 個体別資料 (65) 個体10 (1)

- 10-1-1 : 23202(打面作出)→○→180° 転移→○→10363(CO)
 10-1-2-1 : ○→21411(CO)
 10-1-2-2 : ○→○→30681(CO)
 10-1-3 : 23167(下端部調整)→23348→20836(KA-5a)→○(打面再生)→○→16866→30982(CO)
 10-2-1 : 20703→14193→17277→○→○→…→10521(CO)
 10-2-2 : 11717→15968→30570(KBOF-1)→21245(KBOF-1)→31105→17362(KBOF-1)→12772
 →13632(打面再生)→12790→11628(CO)
 10-3 : 14077→10022→13975→11908→(COなし)

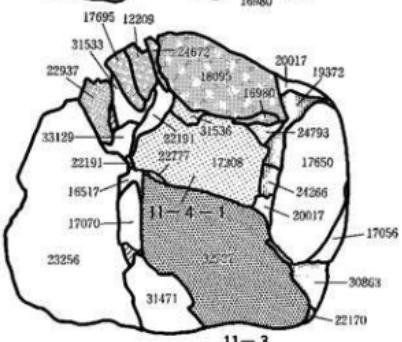
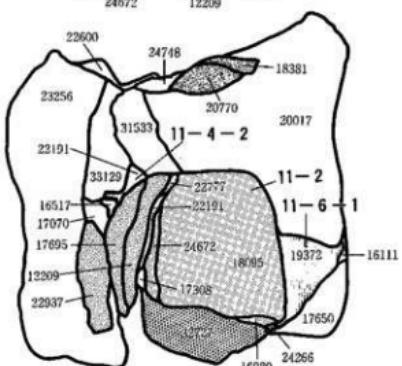
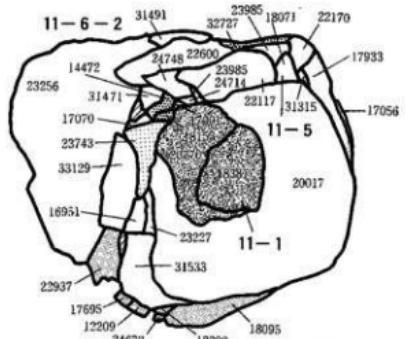
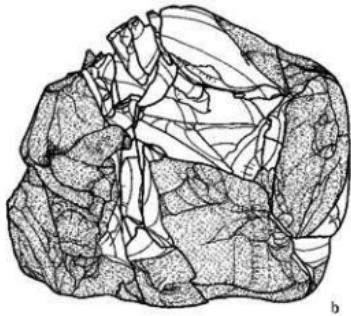
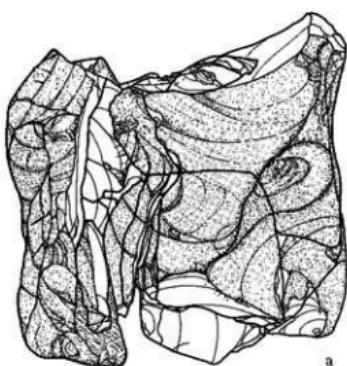
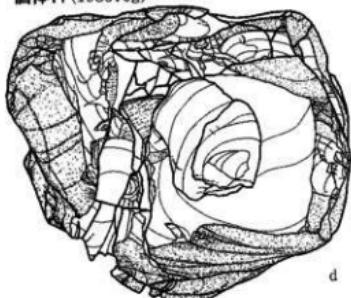


第99図 個体別資料(66) 個体10(2) 接合写真、分布図



第100図 個体別資料 (67) 個体10 (3) 写真

個体11(1986.0g)



11 : (裸皮面除去) → 11-1 (19.7g)

※ 1 (裸皮面除去) →

11-2 (105.3g)

※ 2

11-3 (171.3g)

11-4 → 11-4-1 (43.2g)

11-4-2 (66.8g)

11-5 (128.2g)

11-6 → (裸皮面除去) → 11-6-1 (95.6g)

※ 3 11-6-2 (109.0g)

※ 1 : 23256 (490.8g)

※ 2 : 20017 → 31533 → 23227 → 16951 → 33129 → 17070 → 31471 → 20600 (627.9g)

※ 3 : 17650 → 17056 + 16111 (128.2g)



第101図 個体別資料 (68) 個体11 (1)

第102图 骨体刮削器(69) 骨体11-(2)

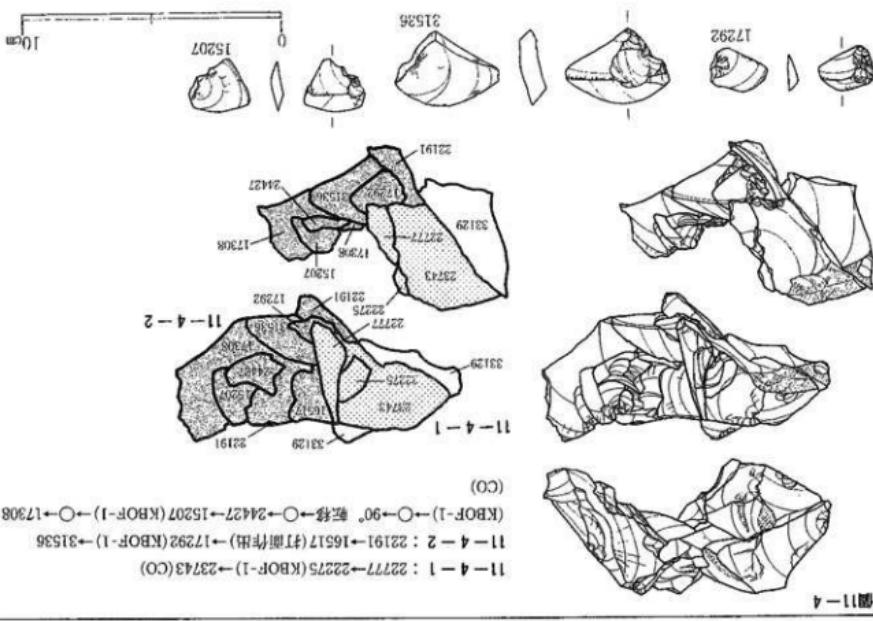


图11-4

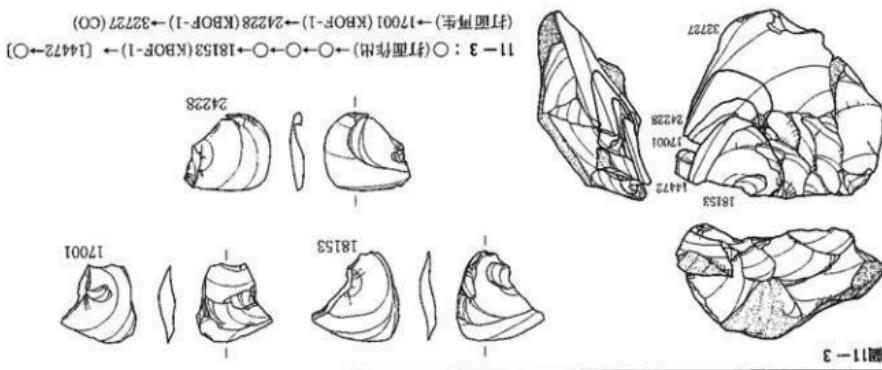
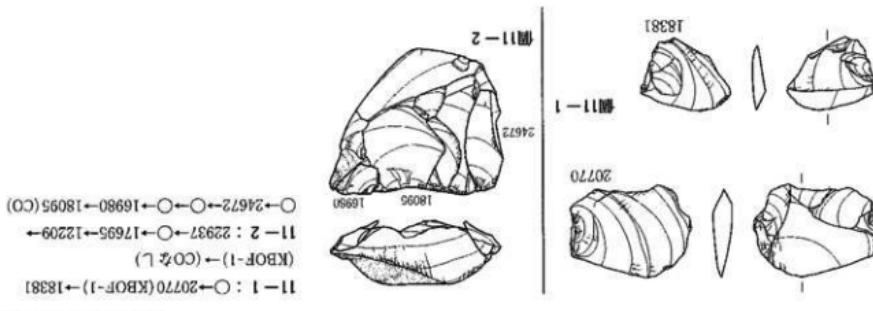
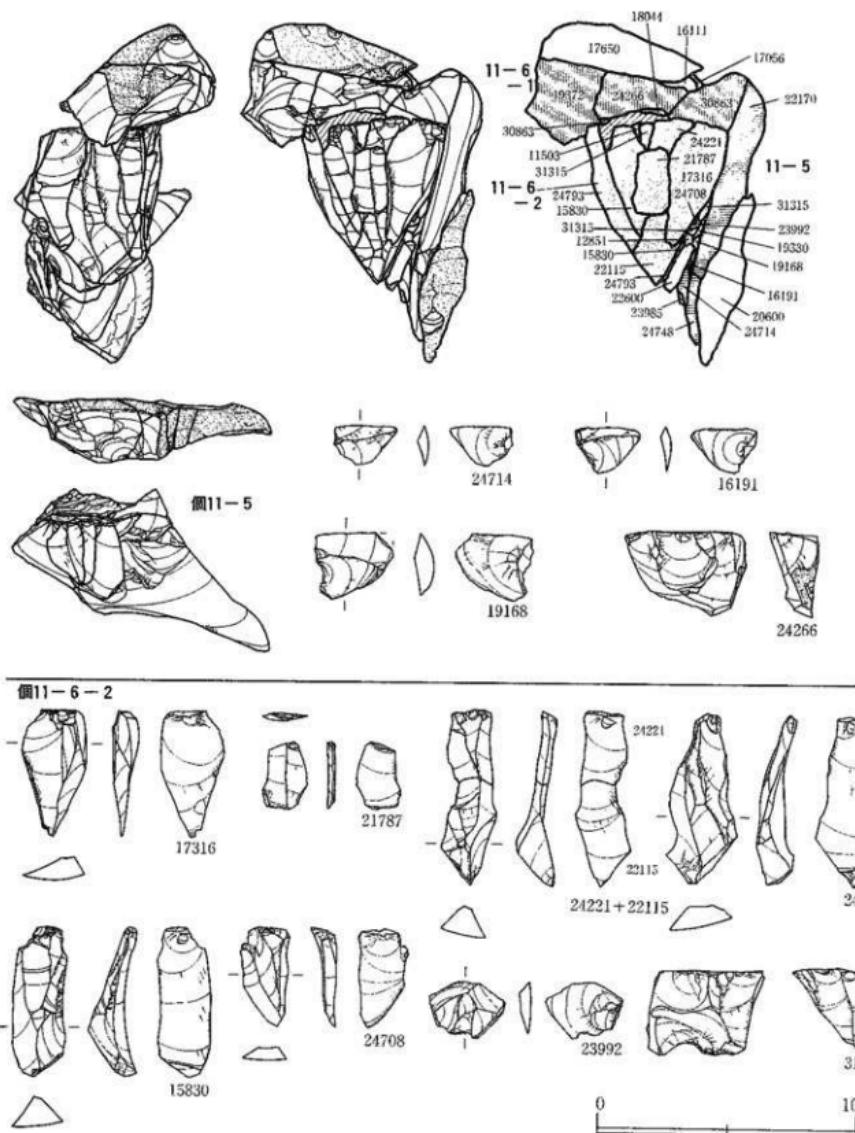


图11-3



第2组 出土遗物(69)

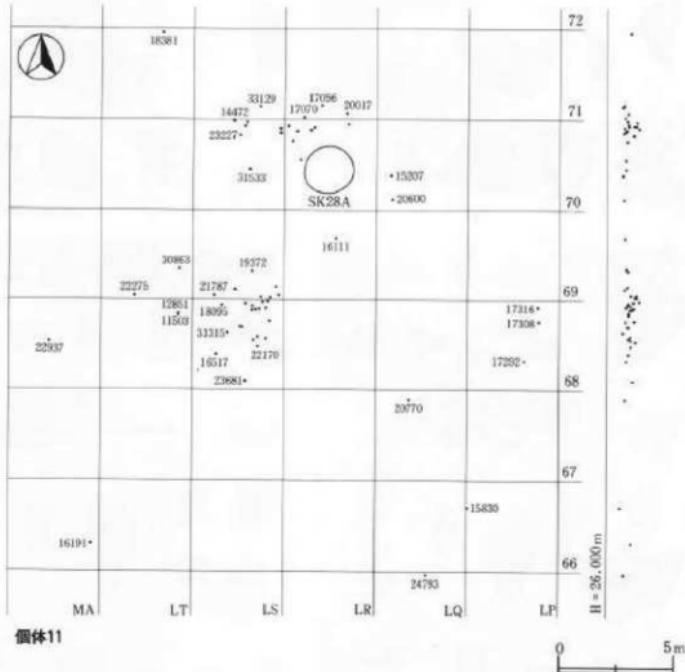
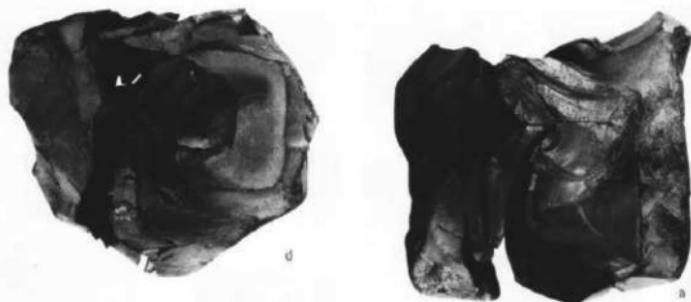


11-5 : 22117→18071→23985→23681→14974→90° 帽移→24714 (KBOF-1)→16191 (KB-2)→19168 (KBOF-1)
→24748+22170 (CO)

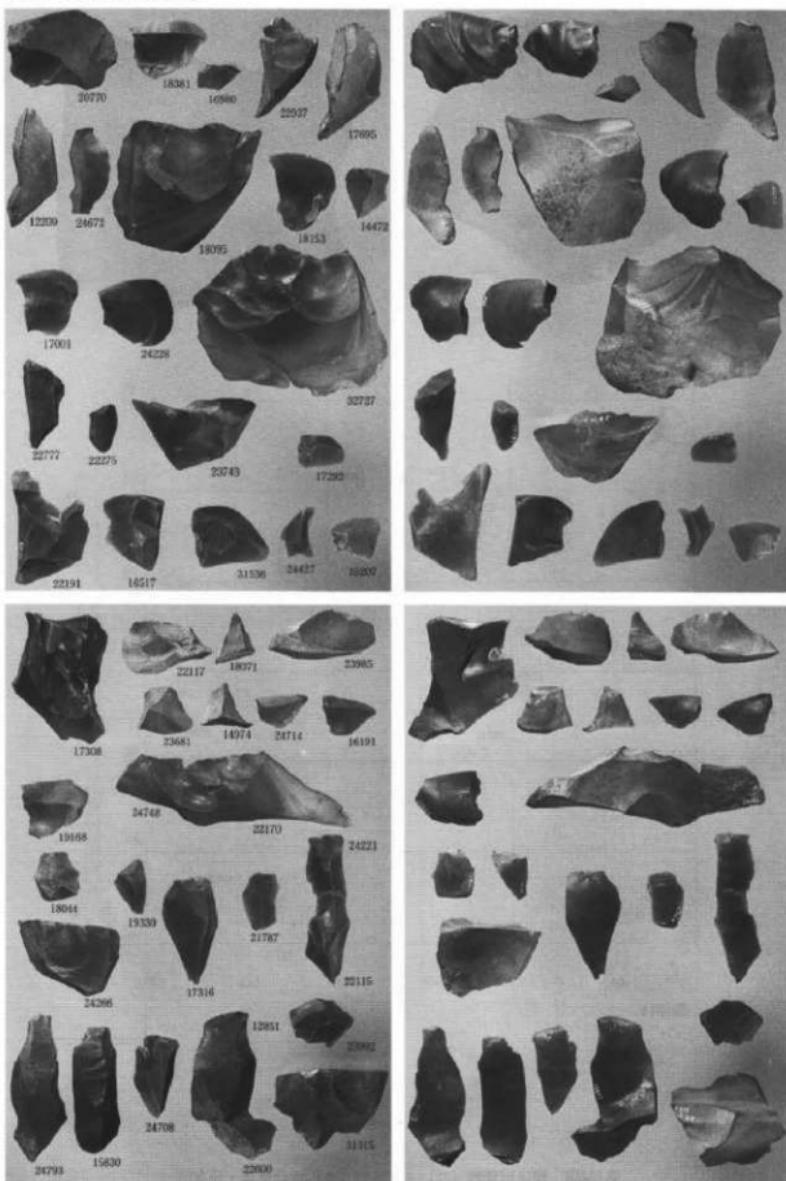
11-6-1 : 19372 (打面作出)→○→17933→30863→18044→24266 (CO)

11-6-2 : 19330→17316 (B-A)→21787 (B-B)→24221+22115 (B-A)→24793→15830 (B-A)→○→24708
(B-A)→11503+22600+12851→180° 帽移→○→23992 (KBOF-1)→31315 (CO)

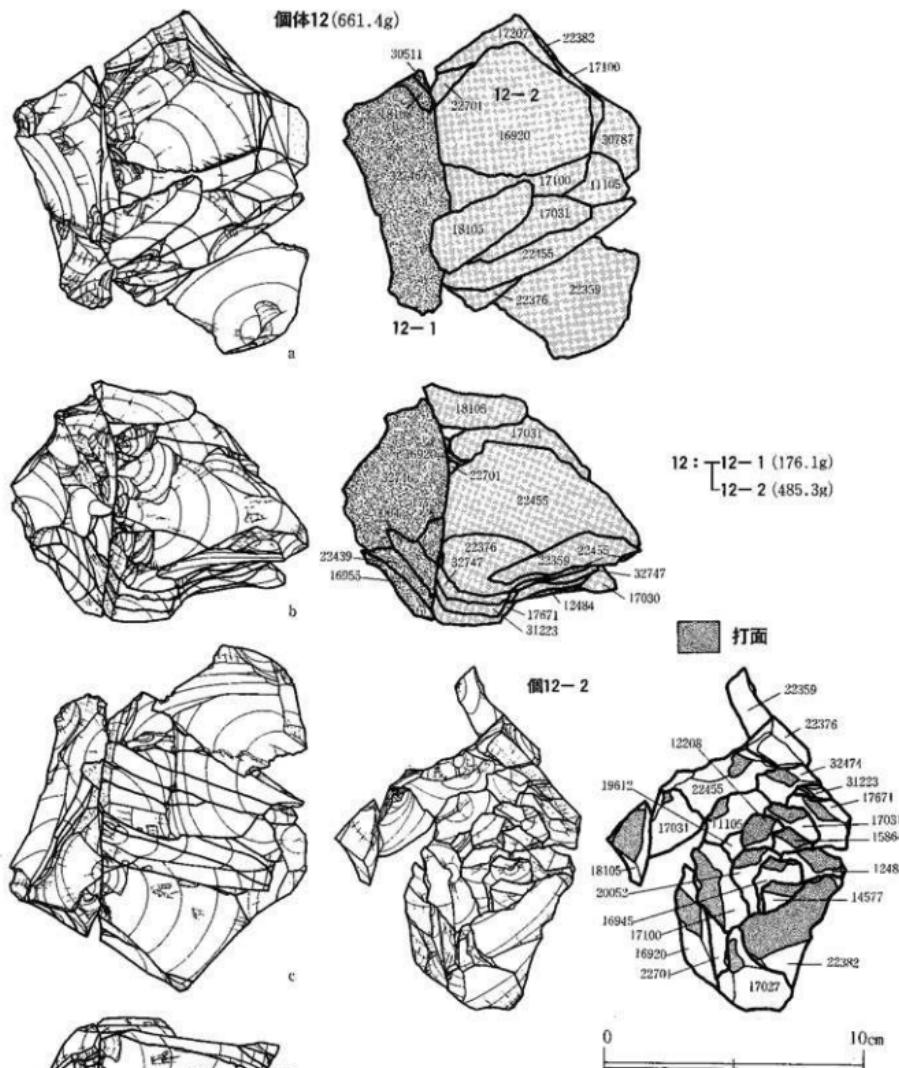
第103図 個体別資料 (70) 個体11 (3)



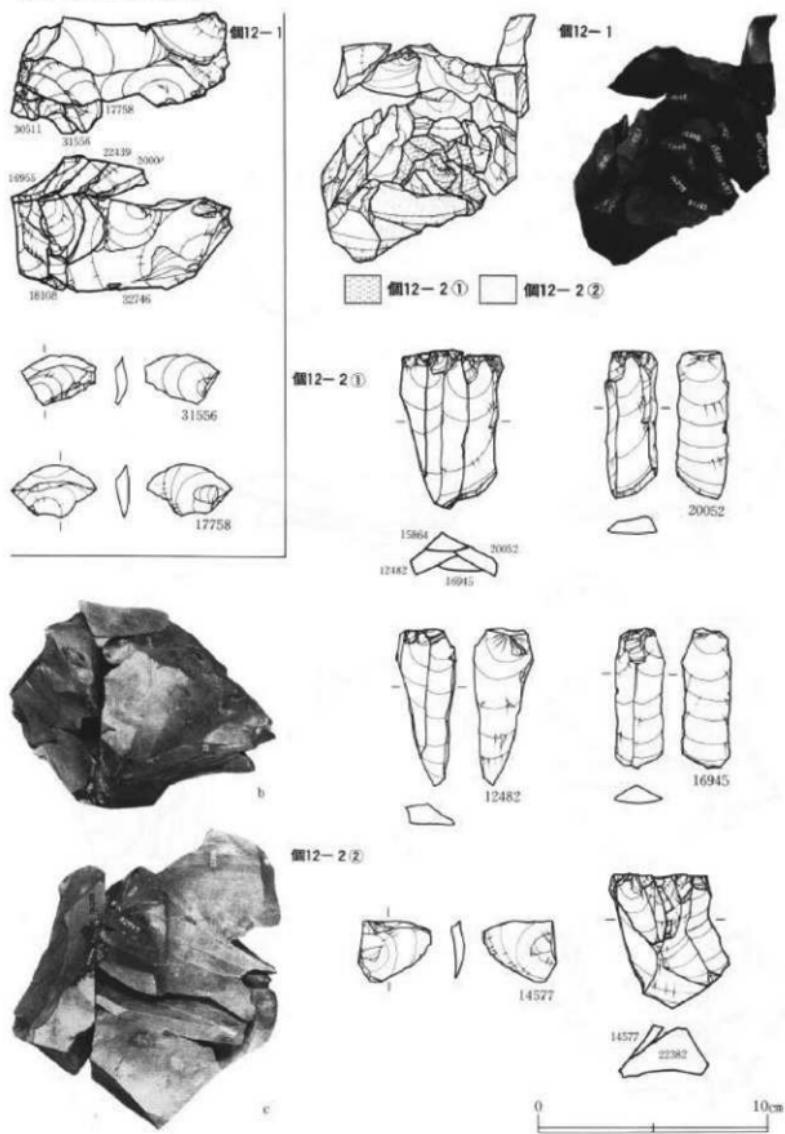
第104図 個別資料 (71) 個体11 (4) 接合写真、分布図



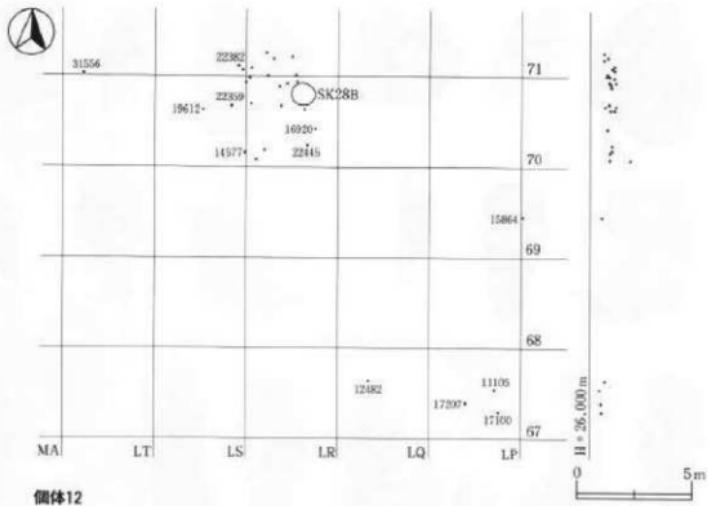
第105図 個体別資料 (72) 個体11 (5) 写真



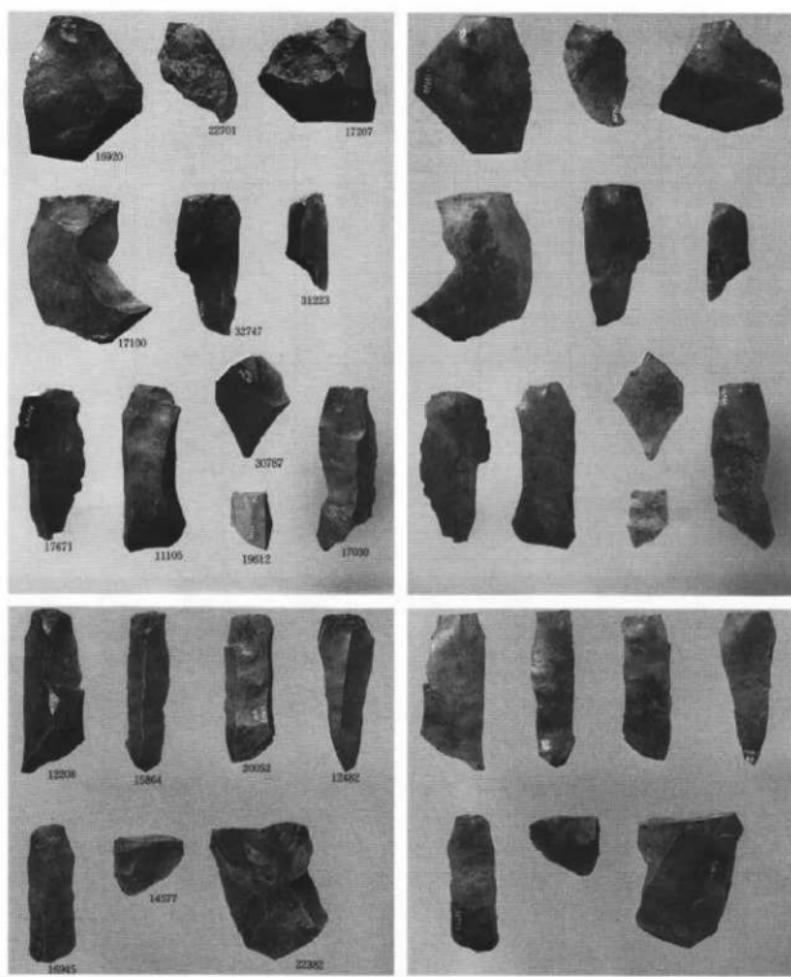
第106図 個体別資料 (73) 個体12 (1)



第107図 個体別資料 (74) 個体12 (2)



第108図 個体別資料 (75) 個体12 (3) 分布図、写真 (1)



第109図 個体別資料 (76) 個体12 (4) 写真 (2)

いる。B-1→B-2→B-1→F-1→B-1→F-1→B-1→F-3→B-1→F-2→B-1である。

個体13（第110～112図）

個体13は総数31点（761g）で構成される。現存長17cm、幅9cm、厚さ6.5cmの三角柱状を呈するが、原形状は不明である。出土位置はLS68グリッドを中心とする東西4m、南北1.2mのC-1ブロック内に集中し、同所に構築されるSK08埋土からも2点確認できる。資料は灰色（一部暗褐色）の珪質泥岩であり、礫皮面は淡い黄褐色を呈する。

個体は主に節理面で3分割（13-1～3）される。1は寸づまり縦長剝片作出を意図して打面転移を繰り返しているが、目的となる剝片は得られてはいない。2は寸づまり剝片あるいは小形貝殻状剝片作出を意図していたようであるが、接合資料に剝片は存在せず詳細は不明である。3は石刀あるいは寸づまり縦長剝片作出を意図するがこれも成功はしていない。

個体14（第113～116図）

個体は総数29点（1524g）で構成される。現存長16cm、幅約15cm、厚さ約8cmの分厚い盤状の礫に復原できる。出土位置はD-2ブロック（MA67）に集中するものの、B-1・C-1・C-2・D-1・F-3・F-4ブロック、SK28Aにも1～2点ずつ分布している。資料は明褐色（一部灰色）の珪質泥岩であり、礫皮面は黄褐色となる。

個体は大きく4分割（14-1～4）し、3は更に2つに小分割する。剝片剝離は、その意図の不明な2と4を除くと、いずれも石刀作出を意図した剝離を行っている。1では長さ7～8cm、3-1では9cm前後、3-2では6cm前後の石刀・縦長剝片が得られ、3-1の17317は、ナイフ形石器A群に調整される。

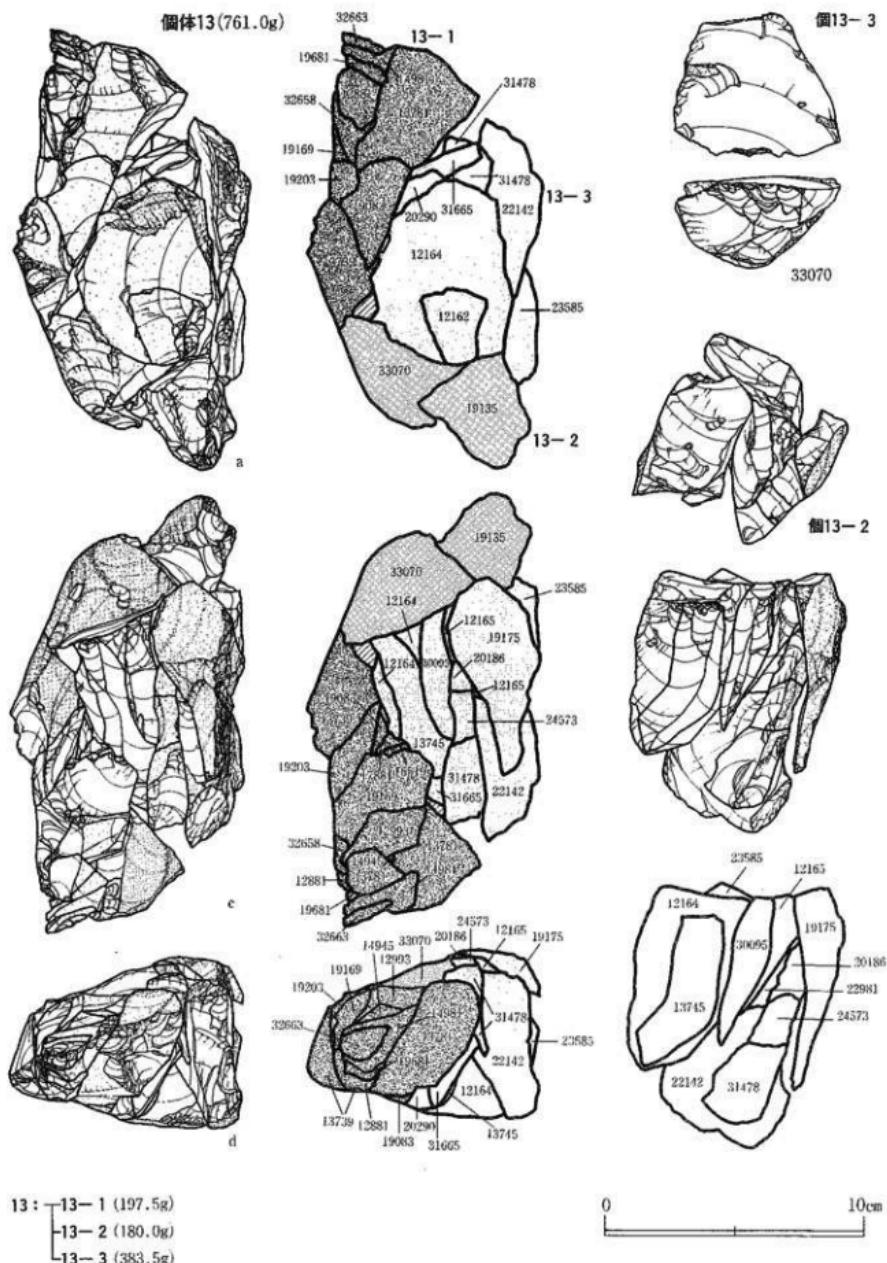
個体15（第117・118図）

個体は総数32点（499.5g）で構成される。現存長13cm、幅約11cm、厚さ約4.5cmの扁平板状の礫に復原できるが、原形状は不明である。出土位置はCブロック（C-1・2・4）とD-1ブロックに跨っている。集中するのはC-2・4ブロック（LS・LT67）である。資料は暗褐色（一部灰色）の珪質泥岩であり、僅かに白色の海綿骨針化石を含む。礫皮面は黄白～灰黄色を示す。

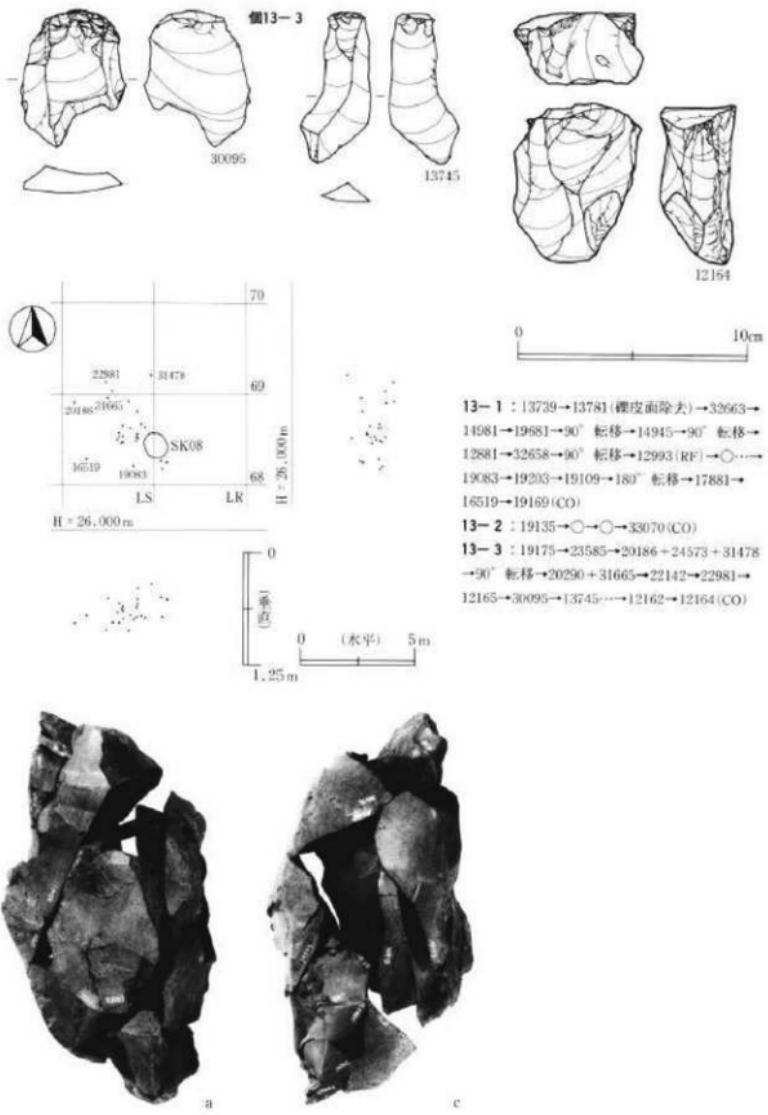
個体は礫皮面除去後に2分割（15-1と2）し、各個体とも更に2小分割している。剝片剝離は、両個体とも4cm未満の小形の剝片を剝離しており、1-2では貝殻状剝片を得ている。本個体は、遺跡内には原石を少なくとも3分割した中央部分の礫を持ち込んで剝片剝離を行っている。

個体16（第119・120図）

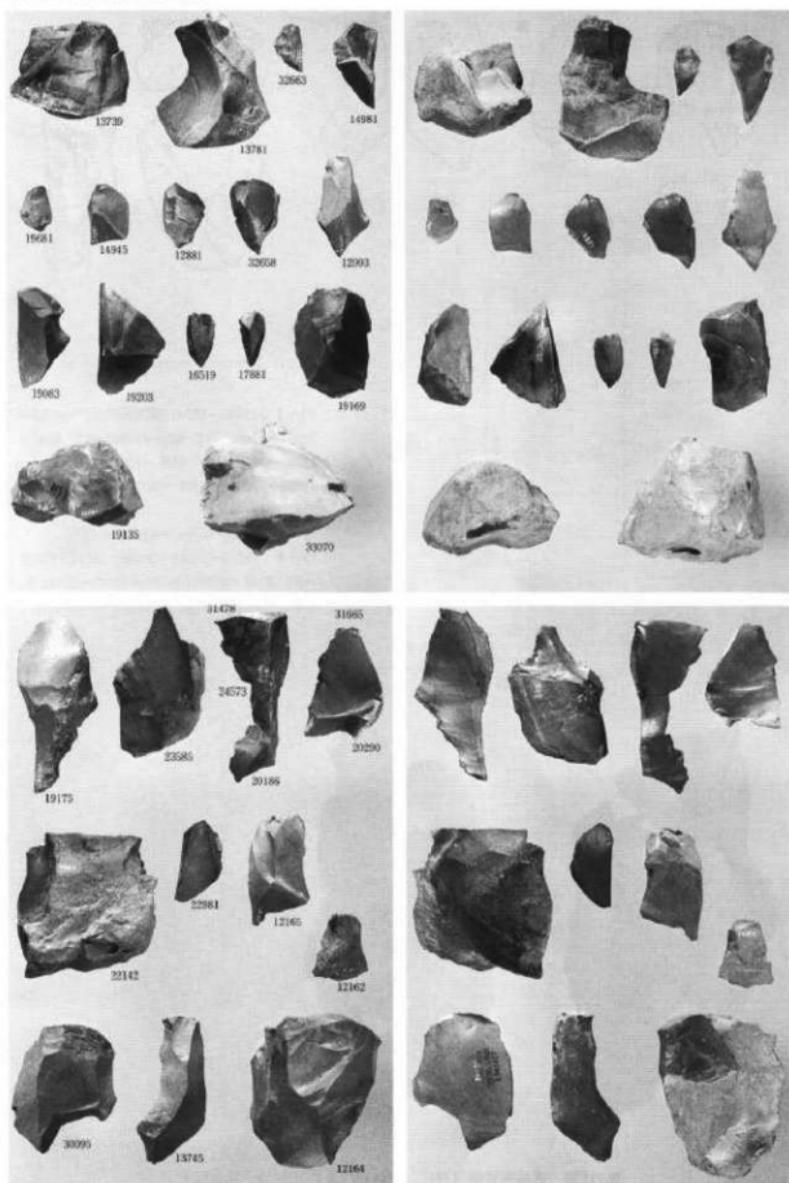
個体16は総数25点（533.6g）で構成される。現存長14.5cm、幅約11cm、厚さ約5.5cmの盤状を呈するが原形状は不明である。出土位置はLS68グリッドを中心に東西5.5m、南北5mの範囲内に点在し、B-1・F-1ブロック、LR67でも各1点確認できる。前者はおよそC-1ブロックに収まる。後者のLR67出土の1点（30728）はC・Eブロックの中間に位置し、II層出土であることから二次的移動も考えられる。資料は暗褐色（一部灰色）の珪質真岩であり、白色のラミナ（霜降り状）が含まれる。礫皮・節理面は明褐色を示している。



第110図 個体別資料 (77) 個体13 (1)

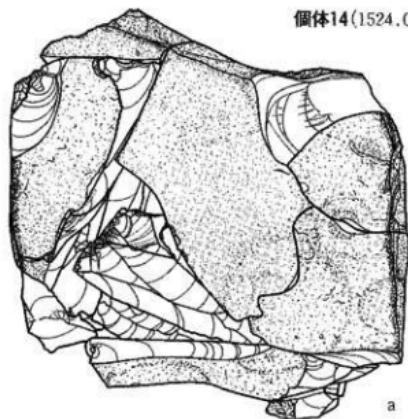


第111図 個体別資料 (78) 個体13 (2) 分布図、接合写真

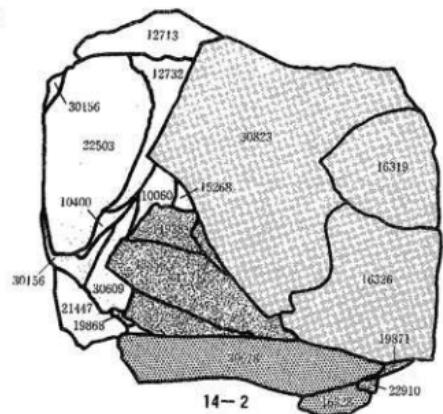


第112図 個体別資料 (79) 個体13 (3) 写真

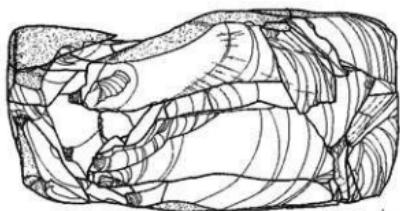
個体14(1524.0g)



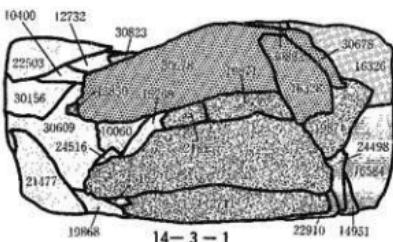
a



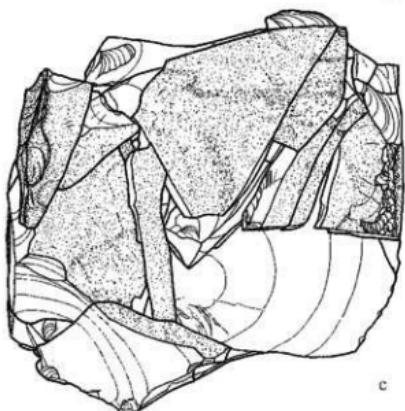
14-2



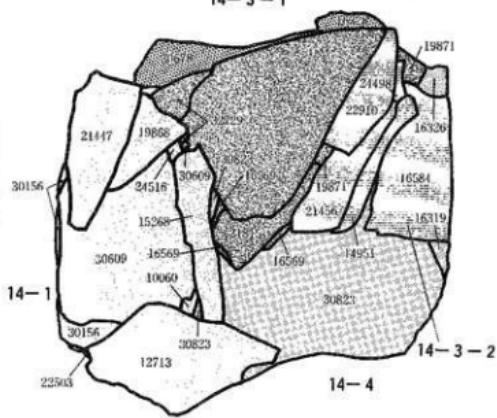
b



14-3-1



c



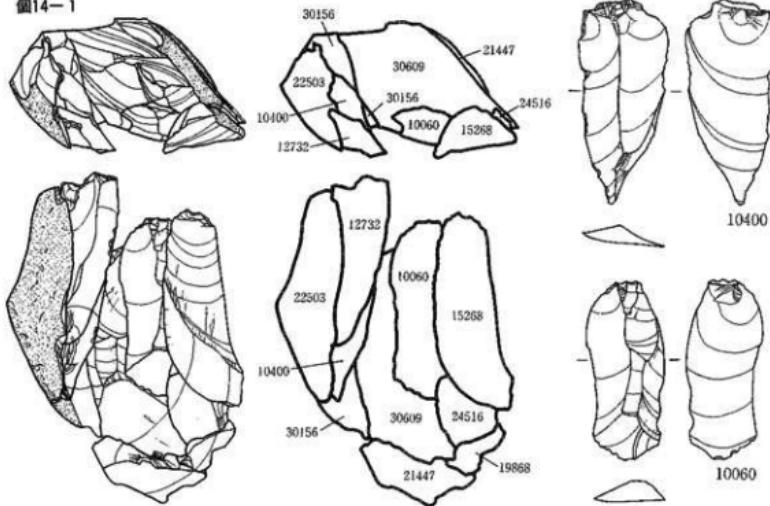
14-3-2

- 14 :
 - 14-1 (447.4g)
 - 14-2 (65.4g)
 - 14-3
 - 14-3-1 (338.7g)
 - 14-3-2 (134.8g)
 - 14-4 (537.7g)

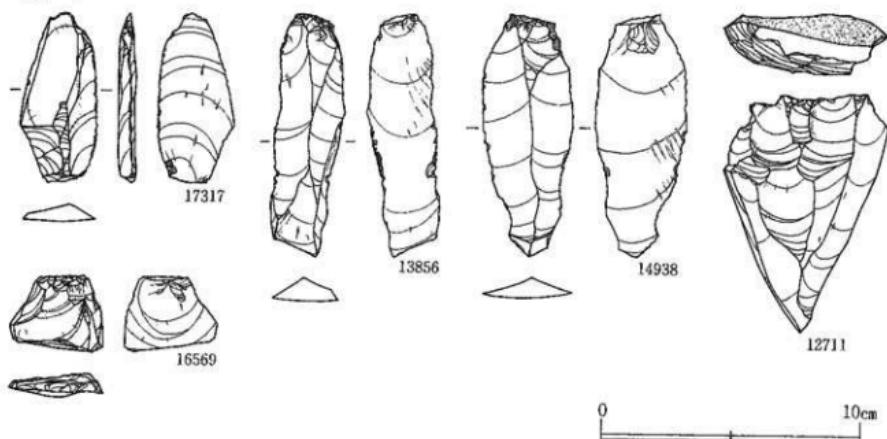


第113図 個体別資料 (80) 個体14 (1)

個14-1



個14-3



14-1 : 12713(打面作成) → 22503 → 12732(B-A) → 10400(B-A) → 30156 → ○(打面再生)
 → 15268 → 180° 転移 → 21447 → 19868 → 90° 転移 → 24516 → 180° 転移 → 10060
 (B-A) → ○ → ○ → 30609(CO)

14-2 : ○ → 30678 → 16328

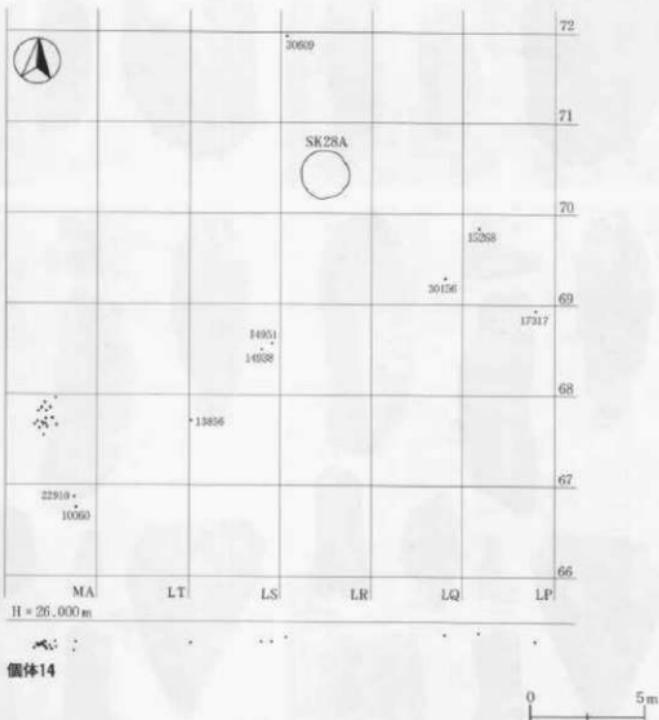
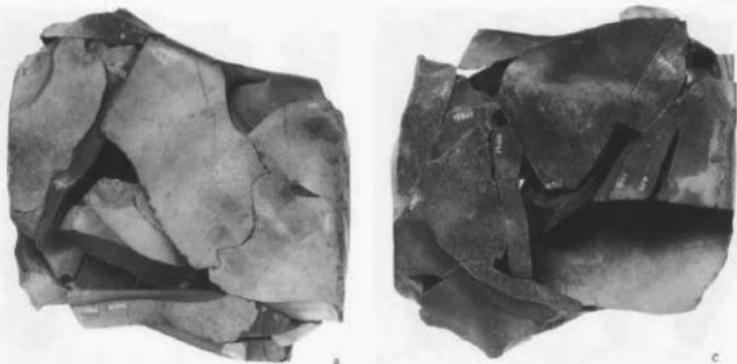
14-3-1 : 17317(KA-5b) → 13856(B-A) → 14938(B-A) → 16569(B-B) → 21815 + 19871 →
 32729 → ○ → 12711(CO)

14-3-2 : 22910 → 21456 → 21498 → 14951(RF) → ○ → 16584(CO)

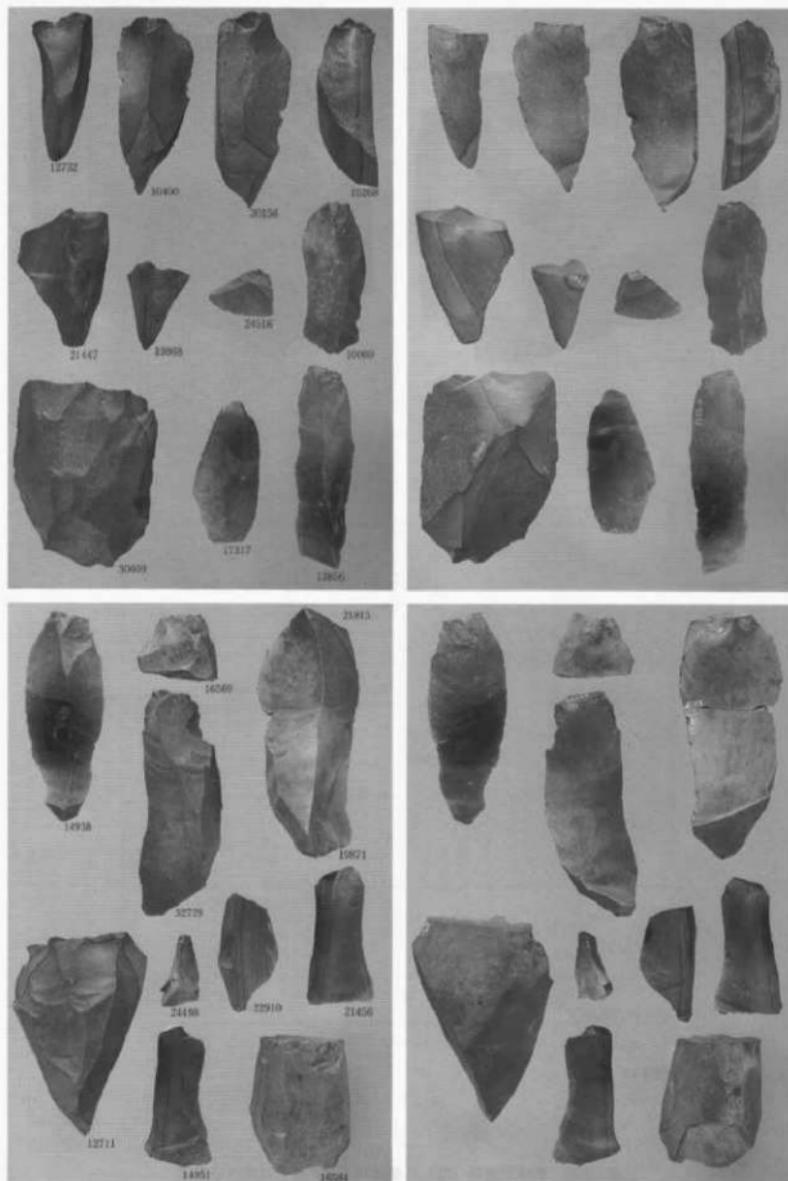
14-4 : 16326 → 16319 → ○ → 30823(CO)

16584

第114図 個体別資料 (81) 個体14 (2)

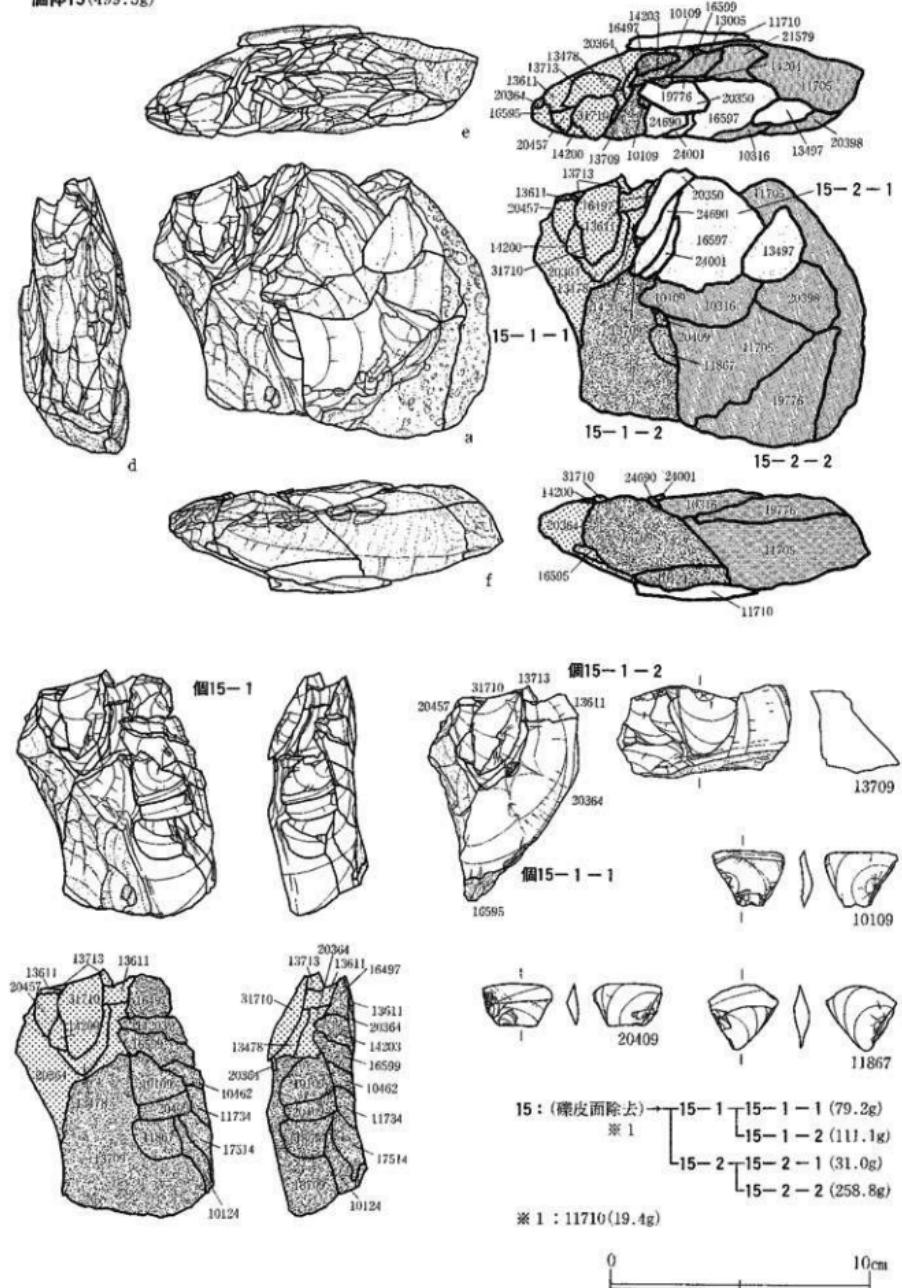


第115図 個体別資料 (82) 個体14 (3) 接合写真、分布図



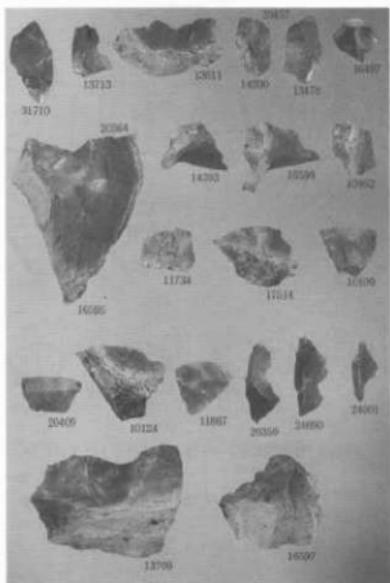
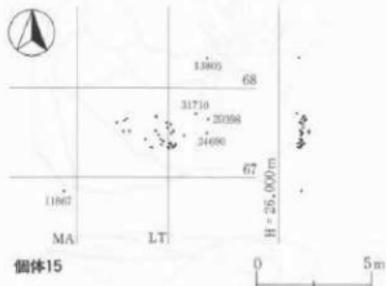
第116図 個体別資料(83) 個体14(4)写真

個体15(499.5g)



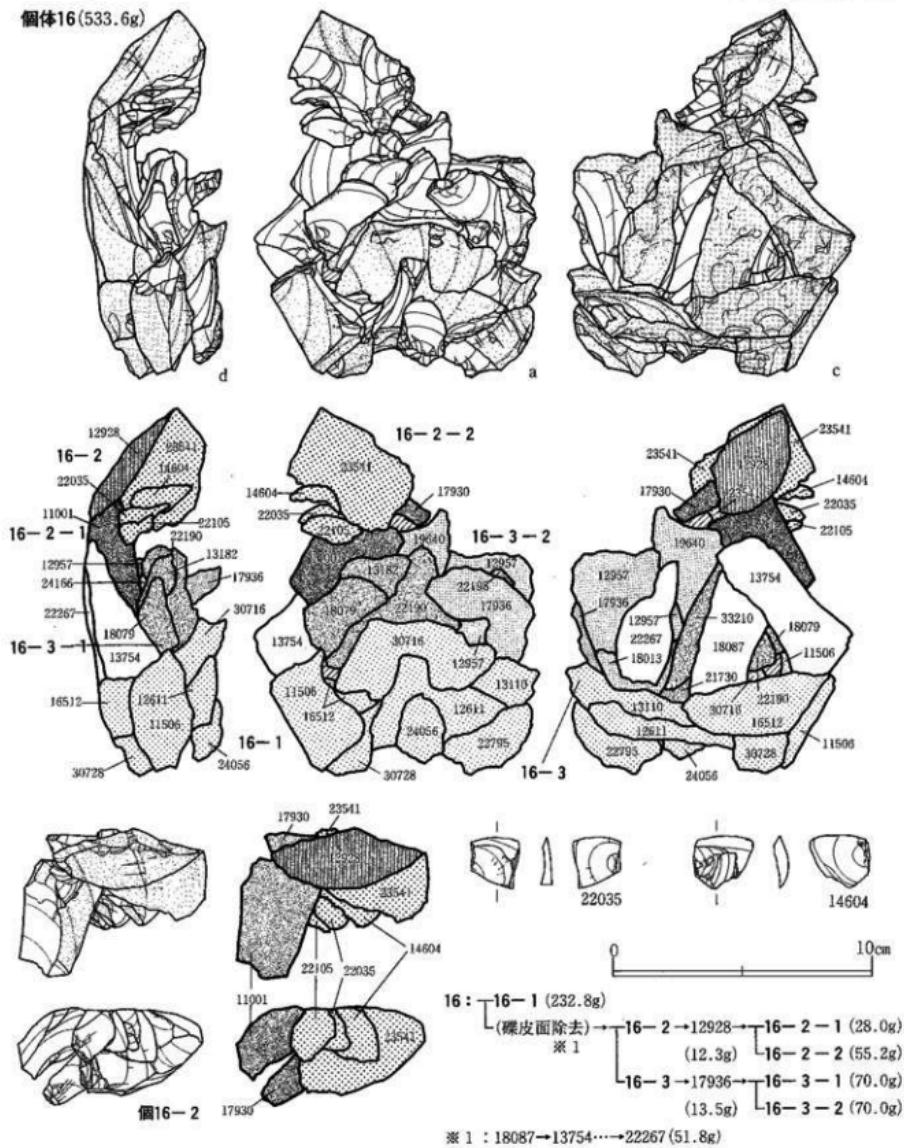
第117図 個体別資料 (84) 個体15 (1)

- 15-1-1 : 31710 → 90° 転移 → 13713 → 13611 (打面再生) → 20457 + 14200 → 13478 → 20364 + 16595 (CO)
 15-1-2 : 16497 → 14203 → 16599 → 10462 → 11734 → 17514 (打面作出) → ○ → 10109 (KBOF-1) → 20409
 (KBOF-1) → ○ → 10124 (打面再生) → 11867 (KBOF-1) → 13709 (CO)
 15-2-1 : 13497 + ○ (擦皮面除去) → 20350 → 24690 → 24001 (打面作出)
 → ○ → 16597 (CO)
 15-2-2 : 20398 + 19776 (擦皮面除去) → 10316 → ○ → 90° 転移 →
 13805 → 21579 → 14204 → ○ → ○ → 11705 (CO)



第118図 個体別資料 (85) 個体15 (2) 分布図、写真

個体16(533.6g)



16-1 : 24056+16512+30716+22795+11506+30728+12611+13110 (細分割)

16-2-1 : 17930 → ○ → 11001 (CO)

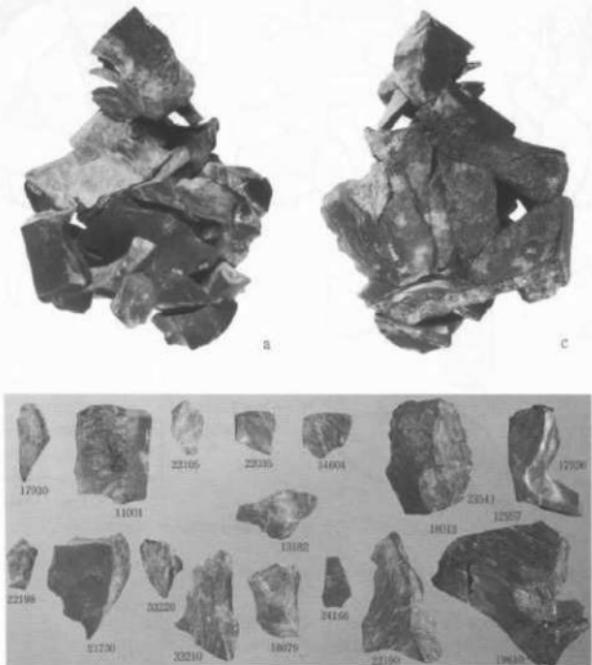
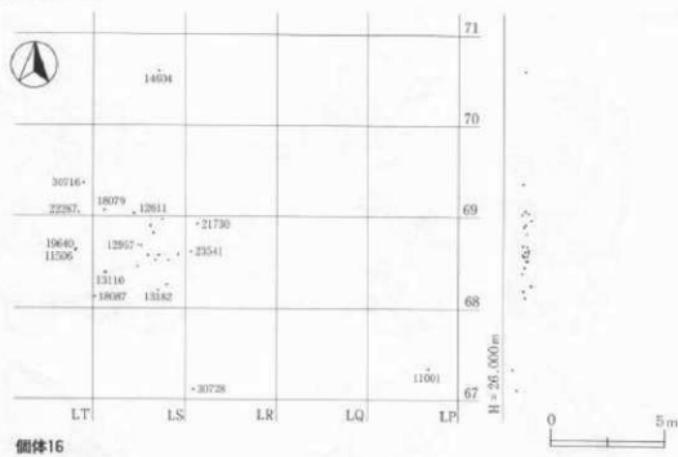
16-2-2 : 22105 → 22035 (KBOF-1) → 14604 (KBOF-1) → ○ → 23541 (CO)

16-3-1 : 22198 → 21730 (打面作出) → 33220 → 33210 → 90° 転移 →

13182 → 18079 → 90° 転移 → 24166 → 22190 (CO)

16-3-2 : 18013+12957+19640

第119図 個体別資料 (86) 個体16 (1)



第120図 個体別資料 (87) 個体16 (2) 分布図、写真

個体は既に節理面（a面）で分割された一方を素材として、遺跡内ではまず大きく2分割（16-1と2・3）し、2・3は、それぞれ疊皮面除去後に2小分割、更に2細分割する。1と3-2の剥離は小割に終始し、2-2では小形貝殻状剥片を作出している。

F-1ブロック出土の11001は、個体16-2-1の残核であり、この小個体はC-1ブロック内の剥片剥離が終了した後に、約13m離れたF-1ブロックまで移動させ遺棄している。

個体17（第121・122図）

個体17は総数34点（506.6g）で構成される。現存長10cm、幅9cm、厚さ8cmの角柱状を呈するが、原形状は不明である。出土位置はAブロック（L S・L T71）に集中するものの、Aブロック外のL S・L T72グリッドに3点、C-1ブロックでも1点分布する。資料は海綿骨針化石を含む暗褐色の珪質泥岩であり、疊皮面は黄褐色となる。

個体は疊皮面を除去の後、3分割（17-1～3）している。各小個体とも長さ3～4cm程の寸づまり縦長剥片・貝殻状剥片を剥離し、2では打面再生と転移を繰り返し小形貝殻状剥片を作出しているものの、個体全体としては、結果として明確な目的剥片はほとんど得られていない。

個体18（第123・124図）

個体18は総数22点（435.7g）で構成される。長さ約13.5cm、幅約10cm、厚さ約5cmの扁平で梢円形の疊に復原でき、未分割の母岩を遺跡内に持ち込んだと推定される。出土位置はL R・L S70グリッドを中心に東西6.3m、南北6.1mの範囲内に集中し、およそB-1ブロック内に収まる。石器の垂直分布を見ると、IV層出土のみを抽出しても67cmの高低差が認められる。資料は暗褐色（一部灰色）の珪質泥岩であり、僅かに白色の海綿骨針化石を含む。疊皮面は明褐色～黄褐色を示す。

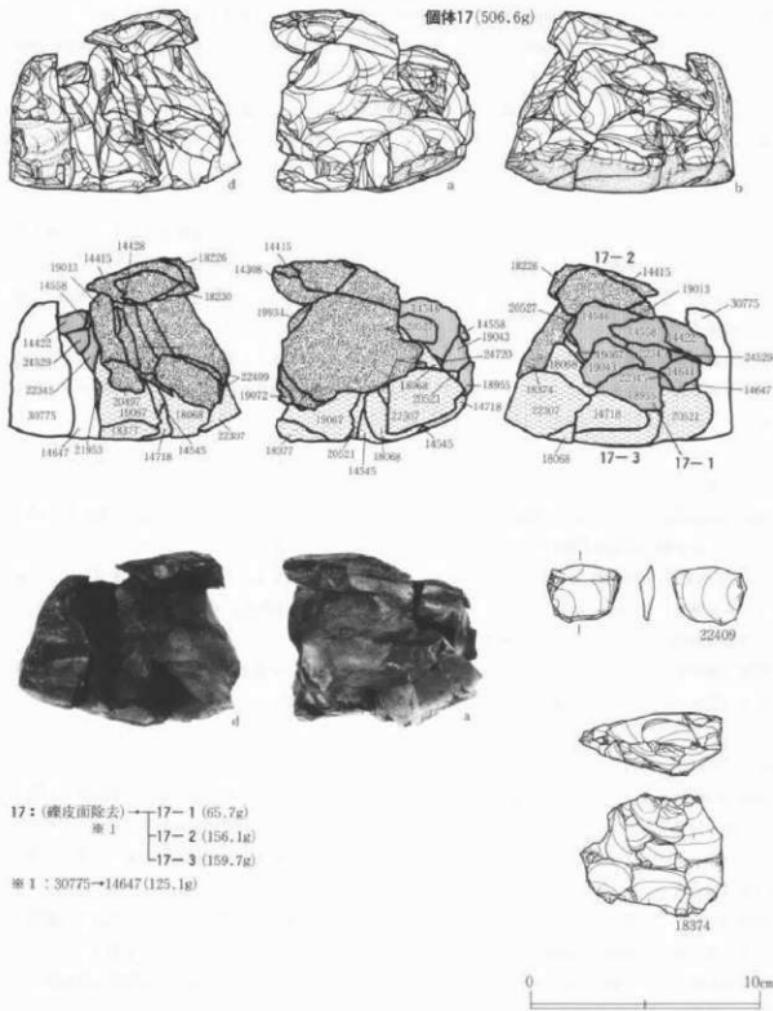
個体は疊の厚みを減ずる方向で4分割（18-1～4）され、それぞれの小個体で寸づまり縦長剥片や小形貝殻状剥片を作出する剥離を行っているが、目的とする剥片はほとんど得られていない。

個体19（第125～127図）

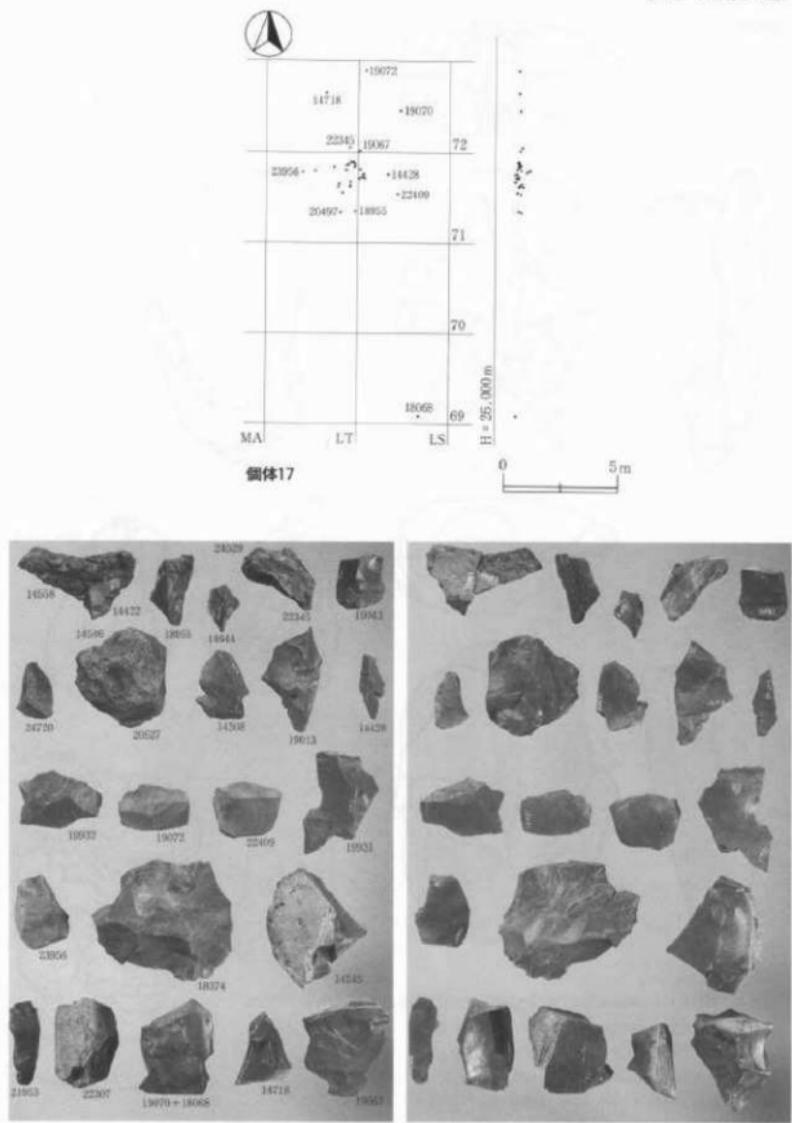
個体19は総数25点（459.0g）で構成される。現存長13cm、幅約10cm、厚さ約7cmであり、原形状は不明である。出土位置はL S・L T67グリッドのC-2・4ブロックにまとまるものの、D-2・E-1・F-1ブロックでも1～2点確認できる。資料は褐色の海綿骨針化石を含む灰白色の珪質泥岩であり、僅かに残る疊皮面は黄白色となる。

個体は大きく2分割（19-1と2）の後、それぞれの小個体とも更に2分割している。1では2小個体とも小形貝殻状剥片を意図した剥離がなされ、2は石刀・縦長剥片作出を試みている。2-1では3点がナイフ形石器A群に、やや幅広の縦長剥片1点が削器にそれぞれ調整され、2-2は長さ5cm前後の縦長剥片を剥離し、最終的には貝殻状剥片も作出している。

本個体のうち、出土集中区域から外れるD-2・F-1ブロックの3点は、いずれも個体19-2-1を構成する定型的石器（ナイフ形石器A群）である。このことは剥片剥離から石器に加工する段階において目的剥片の移動が行われたと解することができよう。

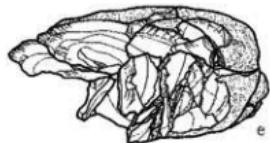


第121図 個体別資料 (88) 個体17 (1)

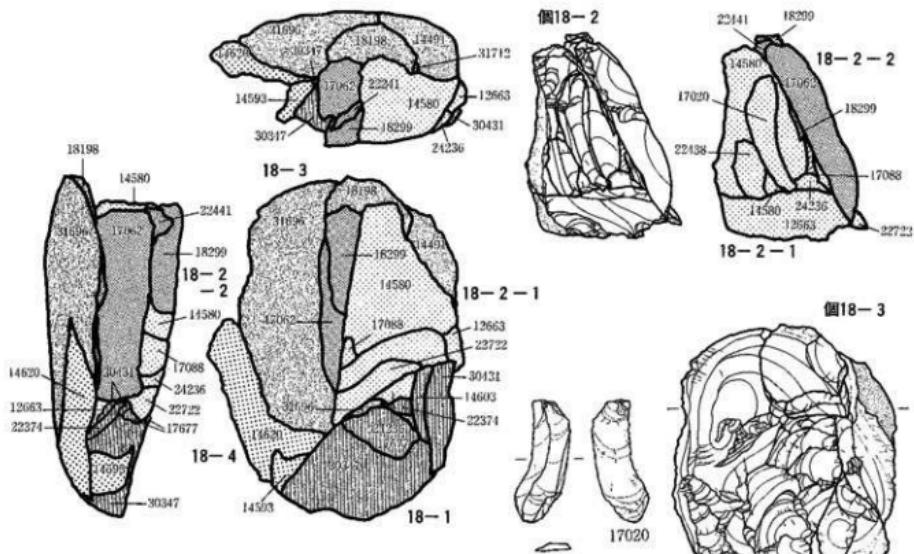
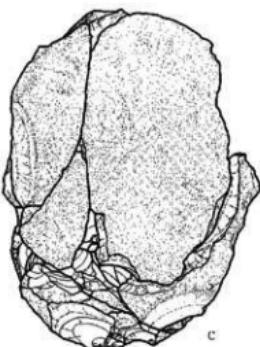
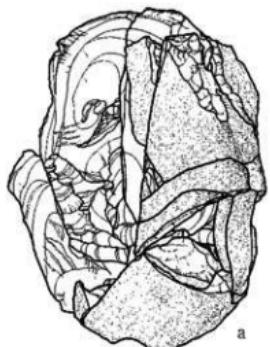


第122図 個体別資料(89) 個体17(2) 分布図、写真

個体18(435.7g)



18 : 18-1 (70.5g)
- 18-2 - 18-2-1 (104.6g)
- 18-2-2 (35.0g)
- 18-3 (198.6g)
- 18-4 (27.0g)



18-1 : 30431→14603(打面作出)→○→22374→17677(打面再生)→○→30347(CO)

18-2-1 : 22722→12663→24236→90° 転移→17088→○→17020(RF)→○→
22438(KBOF-1)→14580(CO)

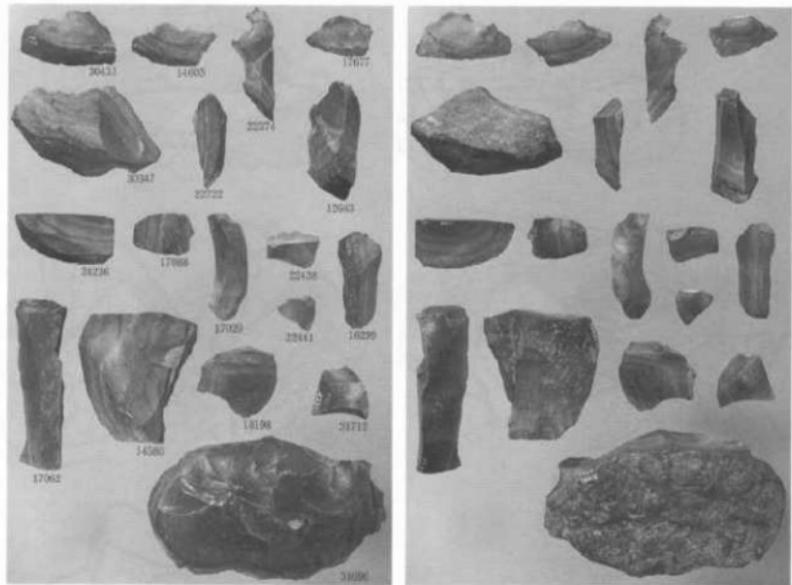
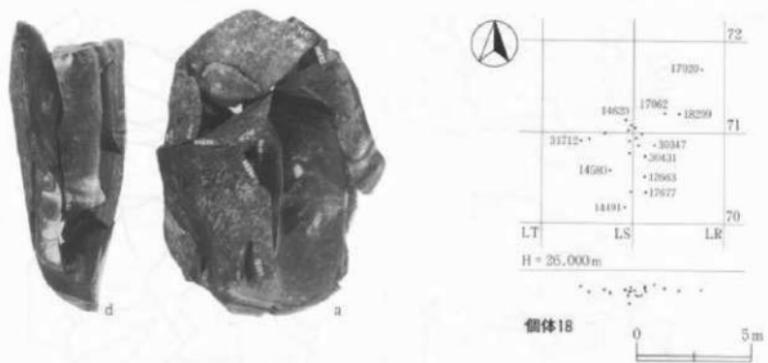
18-2-2 : 18299→22441→17062(COなし)

18-3 : 14491→14448→90° 転移→18198→○→31712→○(数点)→31696(CO)

18-4 : 14620→14593(COなし)

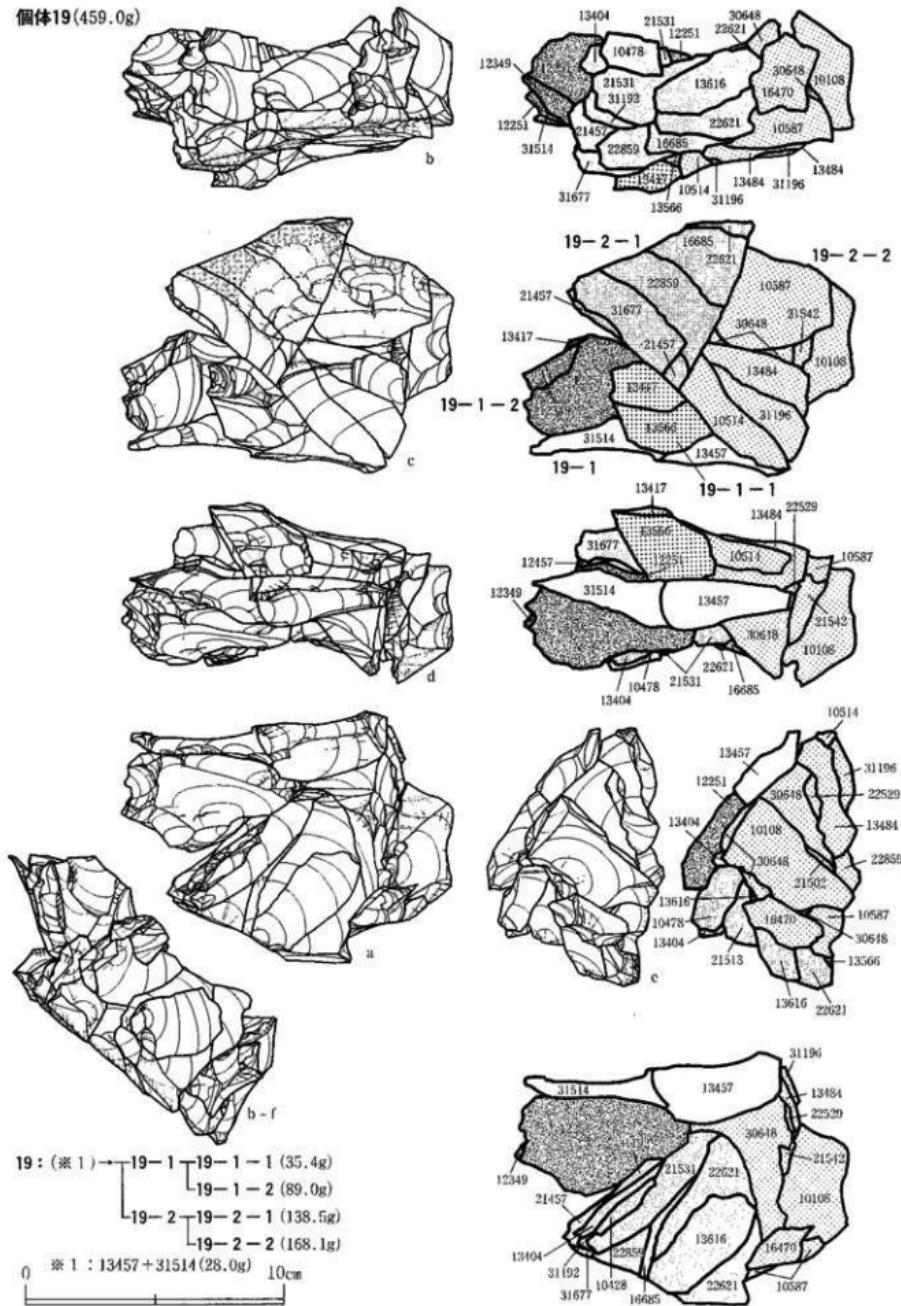
0 10cm

第123図 個体別資料 (90) 個体18 (1)

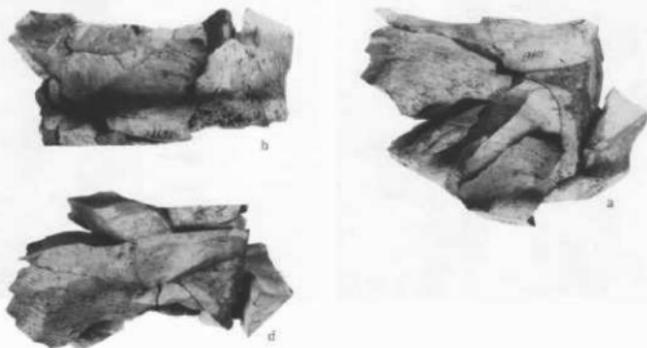
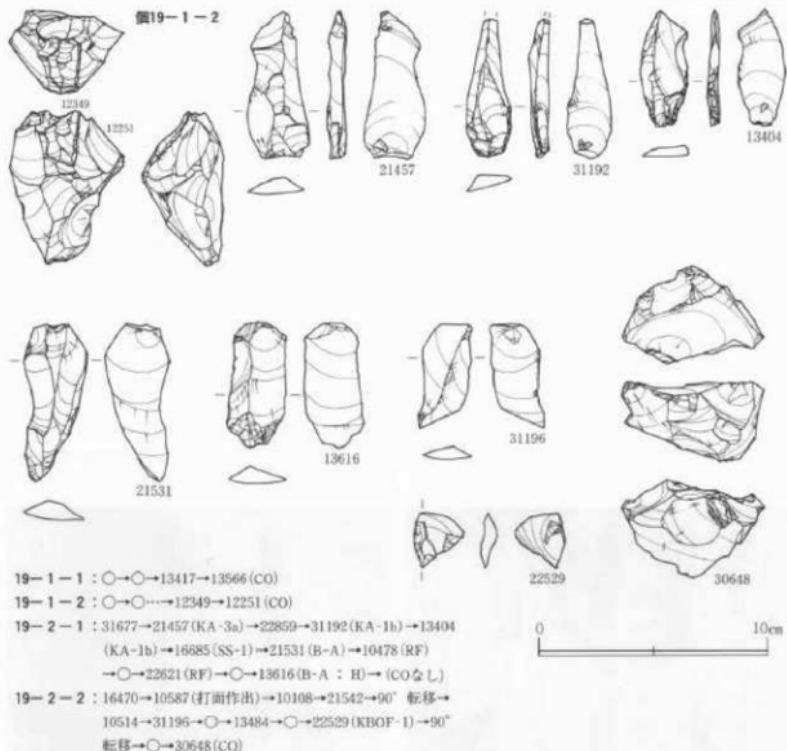


第124図 個体別資料 (91) 個体18 (2) 写真、分布図

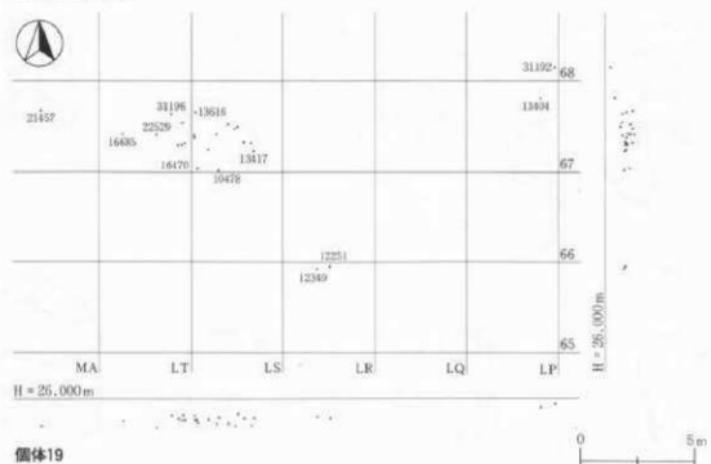
個体19(459.0g)



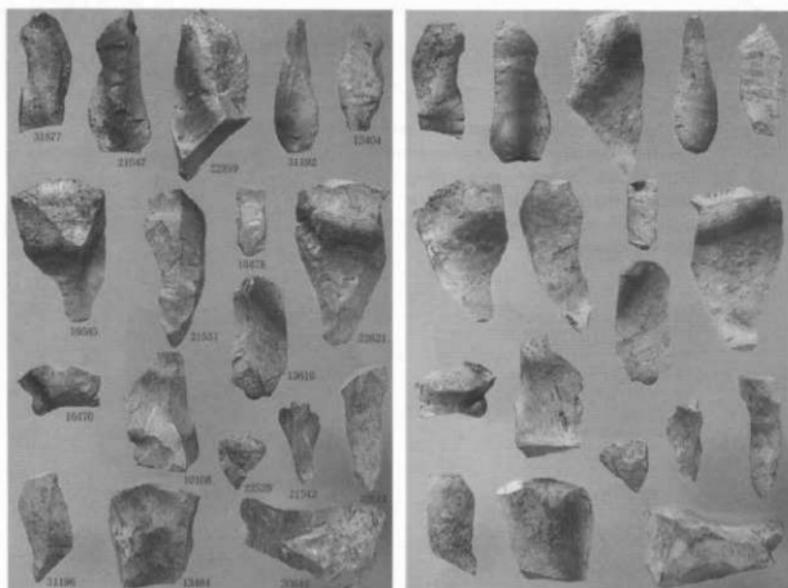
第125図 個体別資料 (92) 個体19 (1)



第126図 個体別資料 (93) 個体19 (2)



個体19



第127図 個体別資料 (94) 個体19 (3) 分布図、写真

個体20（第128・129図）

個体20は総数32点（554.5g）で構成される。現存長14.5cm、幅約11cm、厚さ5cmの盤状の礫となるが、礫皮面が認められず原形状は不明である。出土位置はMA66グリッドを中心とするD-1ブロックにやや集中し、Cブロック内でも点在する。Aブロック（31288）とその北東外（30598）で各1点確認できるが、いずれもII層出土であり二次的な移動も考えられる。またDブロック内に位置するSK75埋土より3点出土している。資料は白色の霜降り状のラミナを含む暗褐色～明褐色の珪質頁岩である。

個体は礫皮面除去もしくは分割後に遺跡内に持ち込まれ、ここで節理面を利用して4分割（20-1～4）される。3は更に2小分割し、それぞれの分割個体とも小形貝殻状剥片作出を意図した剝離がなされる。2では、打面作出後に高さ約5cm、幅約8cmの石核より5点以上的小形貝殻状剥片が連続して剝離されている。

個体21（第130～135図）

個体21は総数40点（3270.3g）で構成される。長さ約28cm、幅約17cm、厚さ約11cmの橢円状で大型の礫に復元できた。出土位置はF-1ブロック（LP67・68）に集中するが、A・D-1・C-2・C-4・F-2ブロックでも各1点分布する。ただF-2ブロックの1点（30365）は、II層出土であり二次的移動の可能性がある。資料は明褐色（中心部は灰色）の色調を示す珪質泥岩であり、礫皮面も明褐色～暗褐色を呈する。

個体は大きく3分割（21-1～3）され、1は分割打面作出後5小分割する。3も更に2つに小分割する。1-1と2は高さ約7cmの石核から石刃をそれぞれ作出しており、1-1では最終的に小形貝殻状の剥片（15468）も剝離している。1-3は、1-1・2よりやや細身の石刃を作出し、1-4も石刃作出を意図した剝離を行っている。4のうちの1点（31881）は、やや幅広の石刃を素材として挿入石器に加工している。1-5は小割のみか。2は、礫皮面除去後石刃を作出しており、残核はない。3-1は打面作出後、小形貝殻状剥片を剝離したようであるが、残核のみ現存する。3-2は、石刃作出を意図したようであるが目的的剥片は残ってはいない。

本個体は接合状況から遺跡内には未分割の母岩として持ち込まれ、主にF-1ブロック内で分割・剥片剝離を行っていることが判明している。しかし小個体21-1のうち細分割した2と4は、ブロック間の移動を経ながら剝離を実施している。すなわち前者は、当初F-1ブロックで剥片剝離を行い、途中で約20m離れたD-1ブロックに移動し、残核はここから18.5m離れたAブロック内で検出された。また後者は、遺跡外→C-2→F-1→C-4→F-1→遺跡外というブロック間の頻繁な移動が認められる。

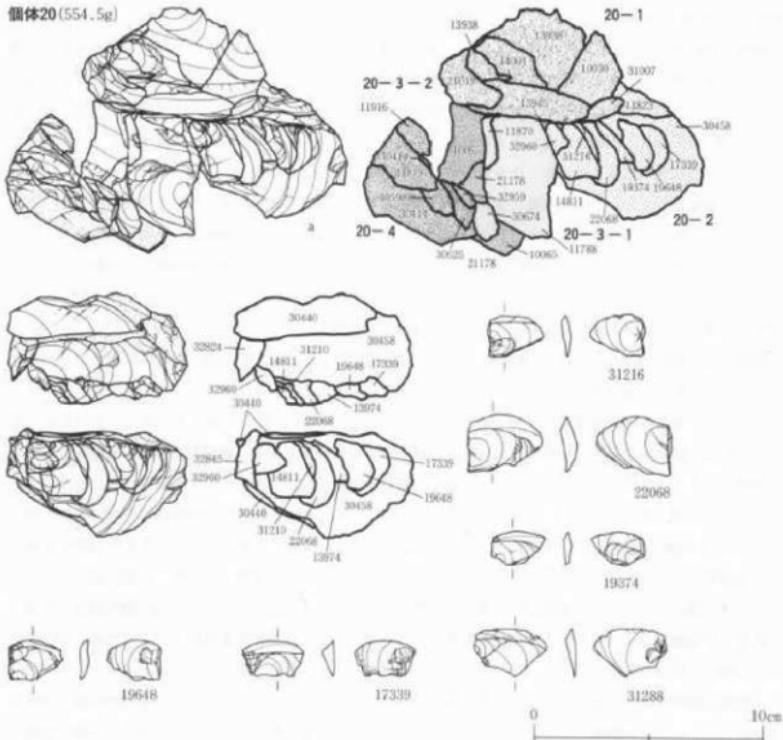
個体22（第136～138図）

個体22は総数25点（864.4g）で構成される。現存長15cm、幅約13.5cm、厚さ約10.5cmであるが、原形状は不明である。出土位置はD-1ブロック（MA66中心）に集中し、E-3・C-1ブロックにも各1点分布する。資料は灰～灰白色の珪質泥岩であり、礫皮面は黄白色をなす。

個体は大きく2分割（22-1と2）し、2は礫皮・節理面を除去してから更に2小分割（2-1と2）する。2-2は、更に3細分割してから剝離を実施している。各小個体の剥片剝離は、1では、やや幅広の縦長剥片の作出の後、最終的には小形貝殻状剥片も剝取する。2-2-3も小形貝殻状剥片作出を意図したが成功していない。その他の個体は高さ6～9cm程の石核から石刃作出を目的とした剝離を行うが、これも良い結果は得られていない。定型的な石器としては、ただ1点のみナイフ形石器A群がある。21328は、背面左側縁に礫皮面を残すもので、同右側縁基部に軽い調整剝離を施している。

(P.159へ)

個体20 (554.5g)

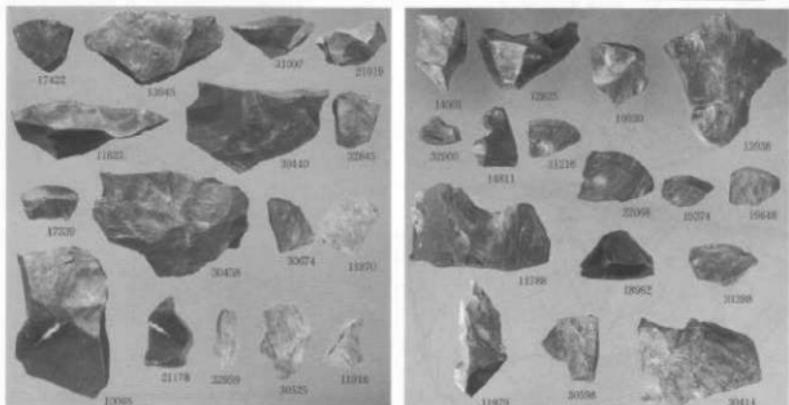
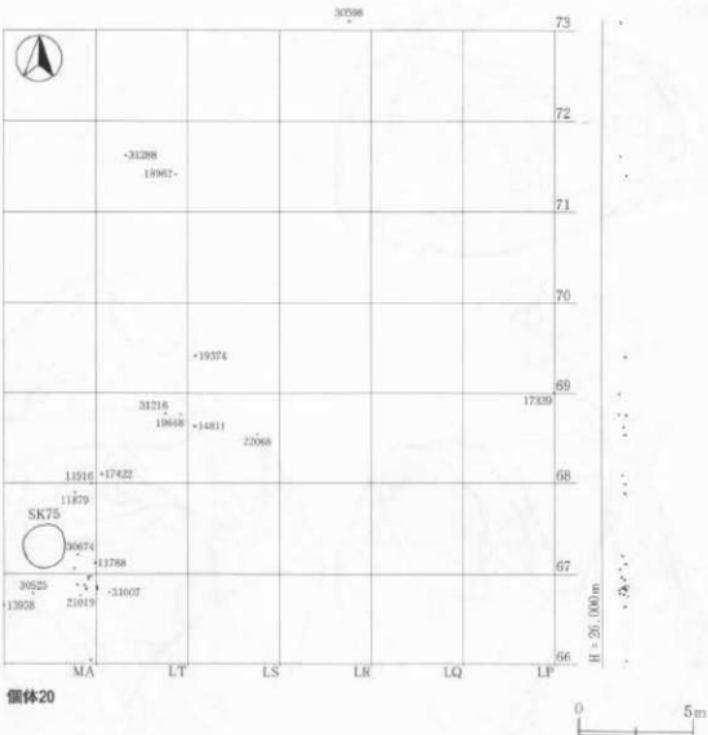


20-1 : 20-1 (134.0g)
 20-2 : 20-2 (184.8g)
 20-3 : 20-3-1 (60.6g)
 20-3-2 (93.9g)
 20-4 : 20-4 (81.2g)

20-1 : 17422+13945+31007→21019→○→14001→180° 転移→
 12825→10030(打面作出)→○→○→○→13938(CO)
 20-2 : 11823+30440→○(打面作出)→32845→32960→○→14811
 →31216(KBOF-1)→22068(KBOF-1)→19374(KBOF-2)→
 ○→19648(KBOF-1)→17339(KBOF-1)→○→30458(CO)
 20-3-1 : 30674→○→90° 転移→11870→11788(CO)
 20-3-2 : 18962(打面作出)→31288(KBOF-1)→10065+21178
 (CO)
 20-4 : 32959→30525→11916→11879→○→30598→○→○→30414
 (CO)

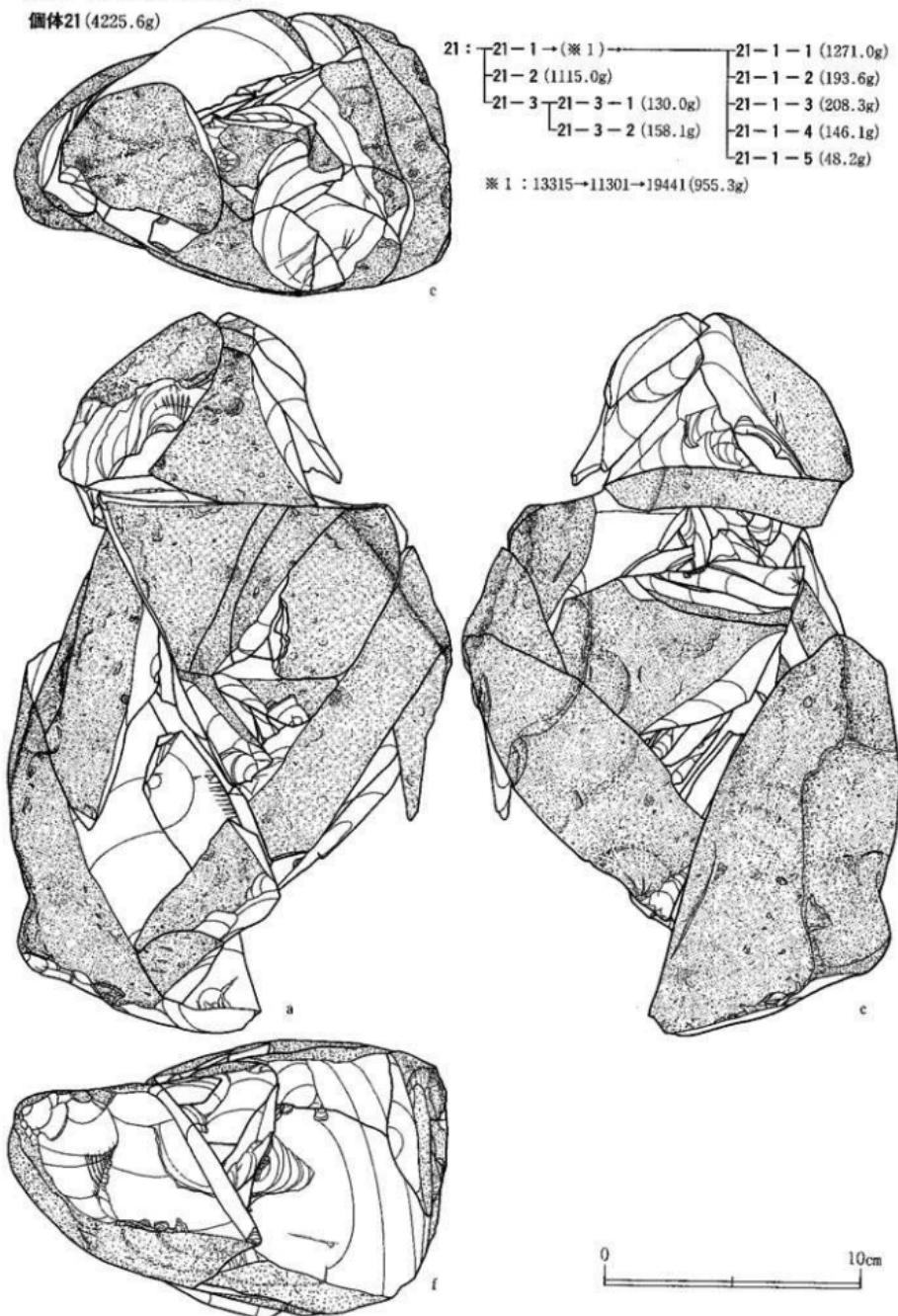


第128図 個体別資料 (95) 個体20 (1)

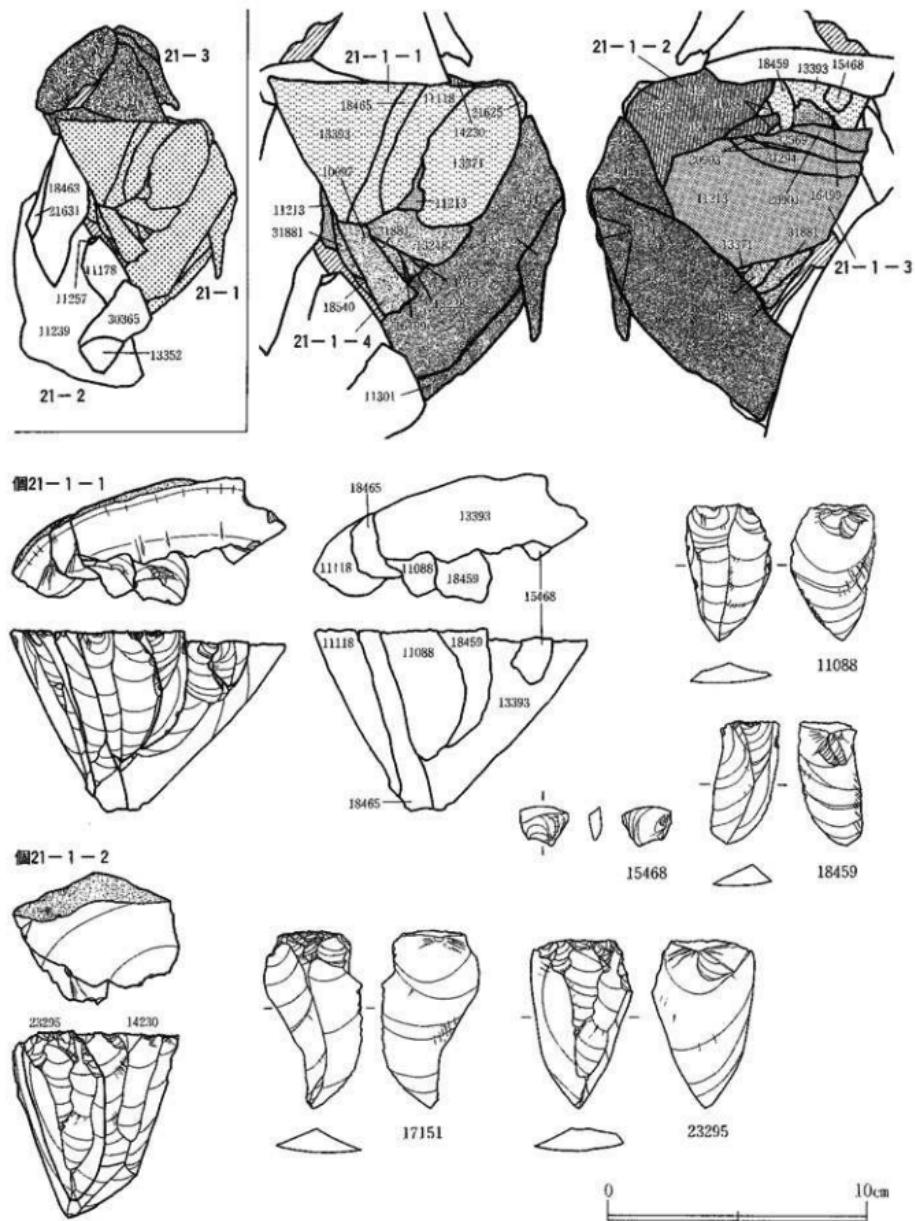


第129図 個体別資料 (96) 個体20 (2) 分布図、写真

個体21(4225.6g)



第130図 個体別資料 (97) 個体21 (1)



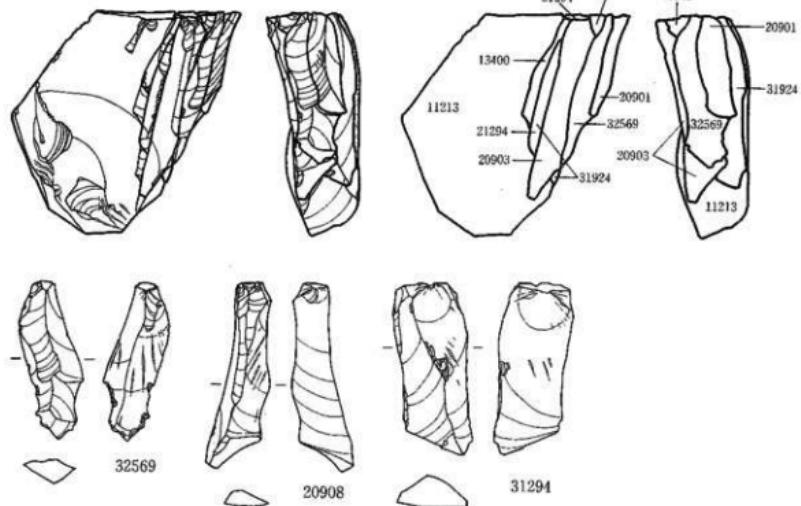
21-1-1 : 21625→13371→11118→18465→○→11088(B-A)→

18459(B-A)→○→○→15468(KROF-1)→13393(CO)

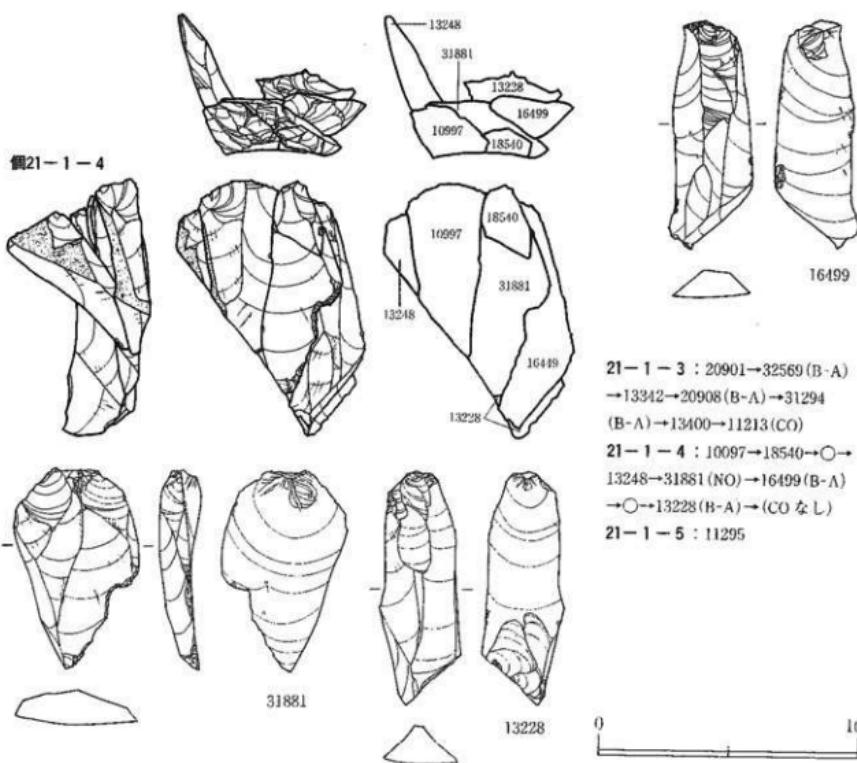
21-1-2 : 17151→○(数点)→23295(B-A)→○→○→○→14230(CO)

第131図 個体別資料 (98) 個体21 (2)

21-1-3



個21-1-4



21-1-3 : 20901→32569(B-A)

→13342→20908(B-A)→31294

(B-A)→13400→11213(CO)

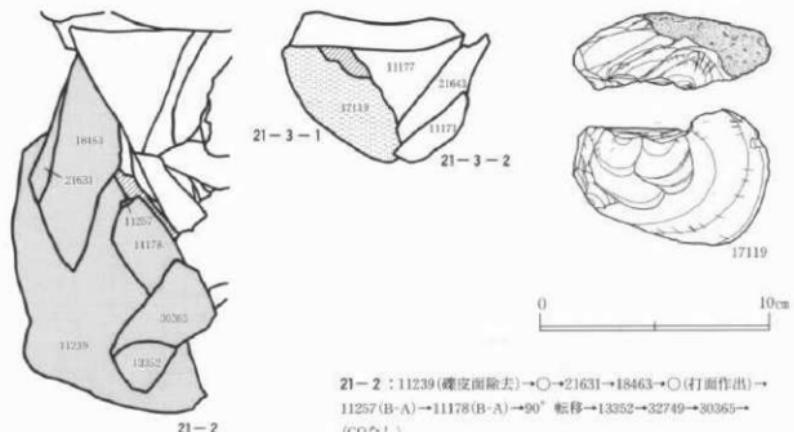
21-1-4 : 10997→18540→○→

13248→31881(NO)→16499(B-A)

→○→13228(B-A)→(COなし)

21-1-5 : 11295

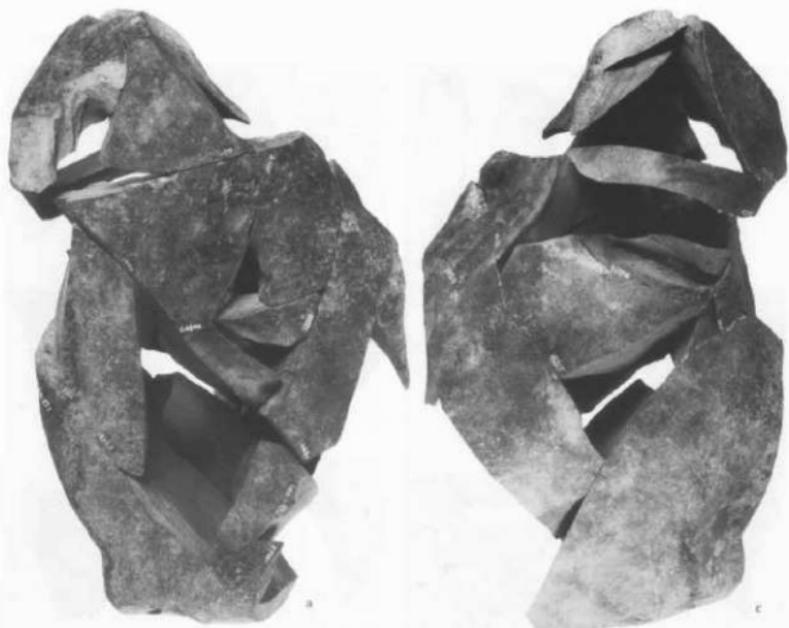
第132図 個体別資料(99) 個体21(3)



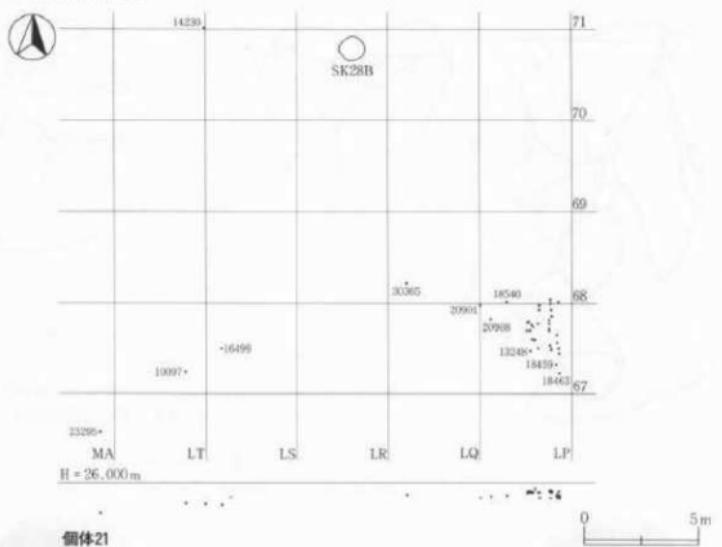
21-2 : 11239(穢度面除去)→○→21631→18463→○(打面作出)→
11257(B-A)→11178(B-A)→90°転移→13352→32749→30365→
(COなし)

21-3-1 : ○(打面作出)→○→○→17119(CO)

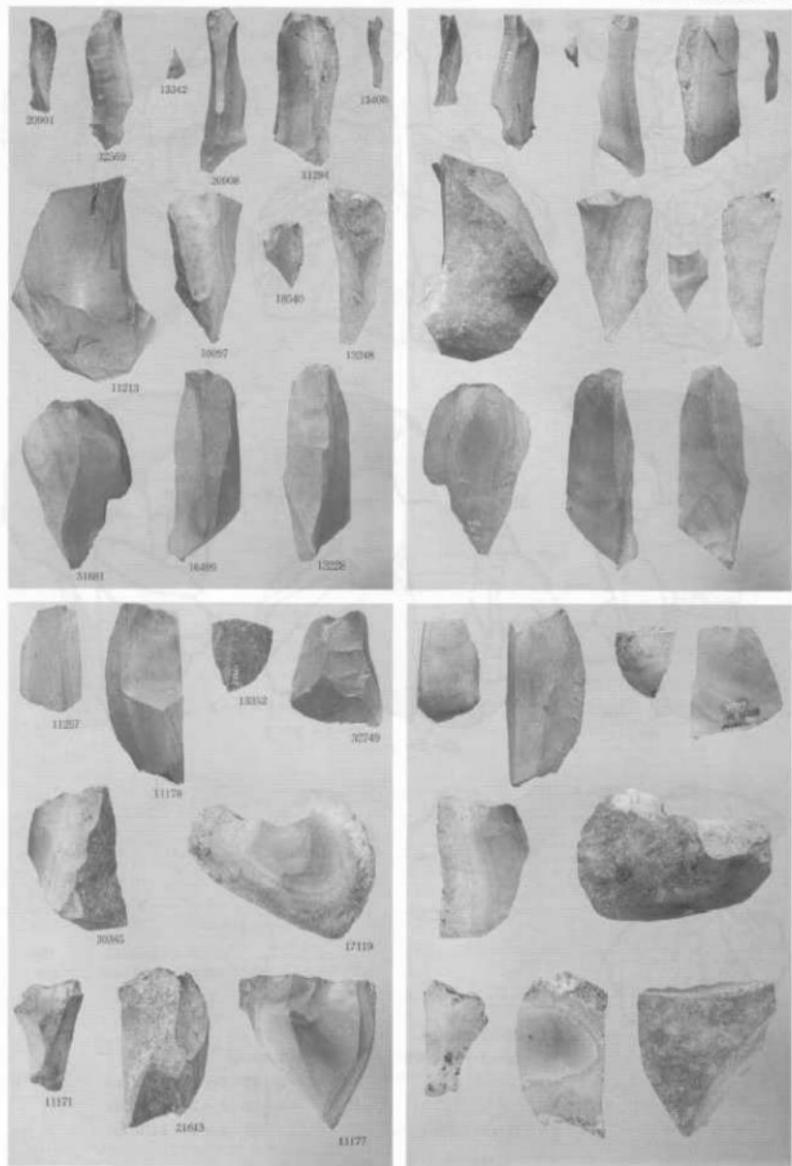
21-3-2 : 11171→21643→○→○→○→11177(CO)



第133図 個体別資料 (100) 個体21 (4)

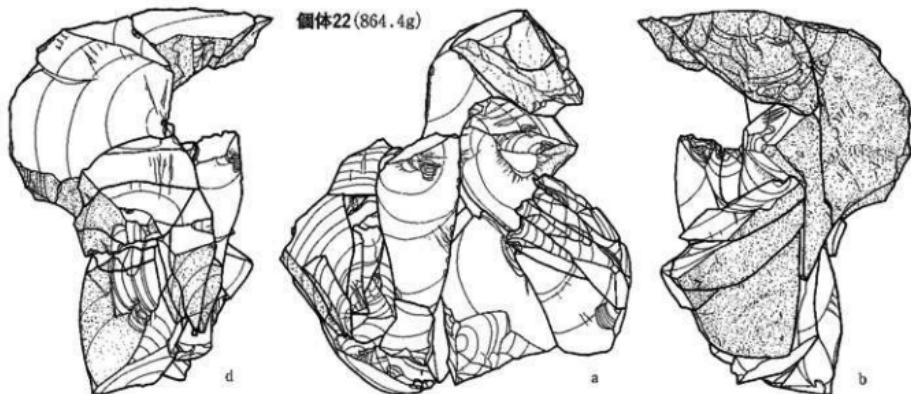


第134図 個体別資料 (101) 個体21 (5) 分布図、写真 (1)



第135図 個体別資料 (102) 個体21 (6) 写真 (2)

個体22(864.4g)



d

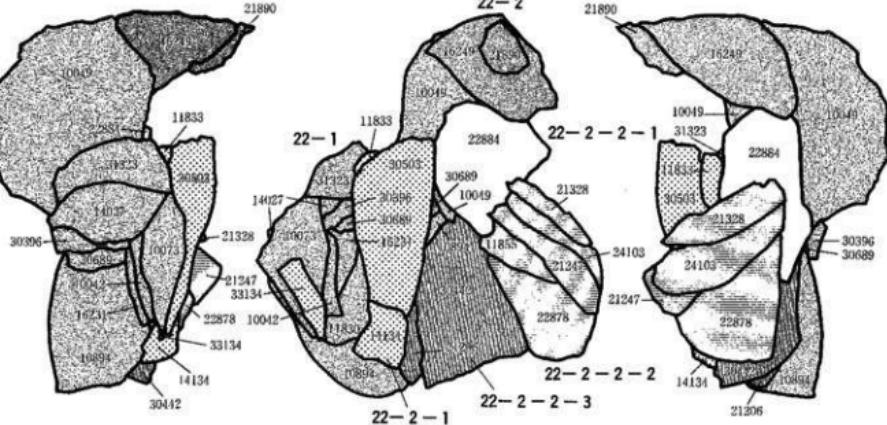
a

b

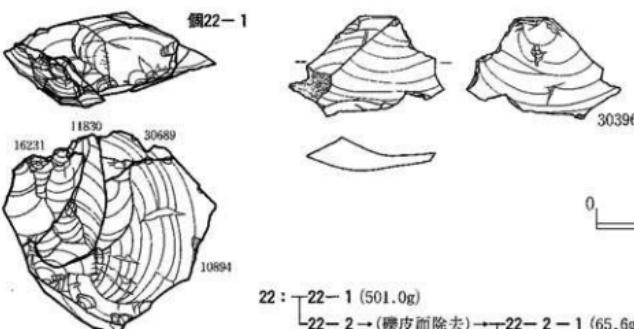
21890

22-2

21890



個22-1



22 : 22-1 (501.0g)

22-2 → (擦皮面除去) → 22-2-1 (65.6g)

* 1

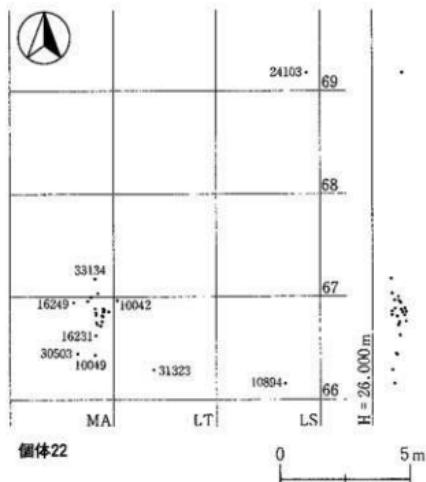
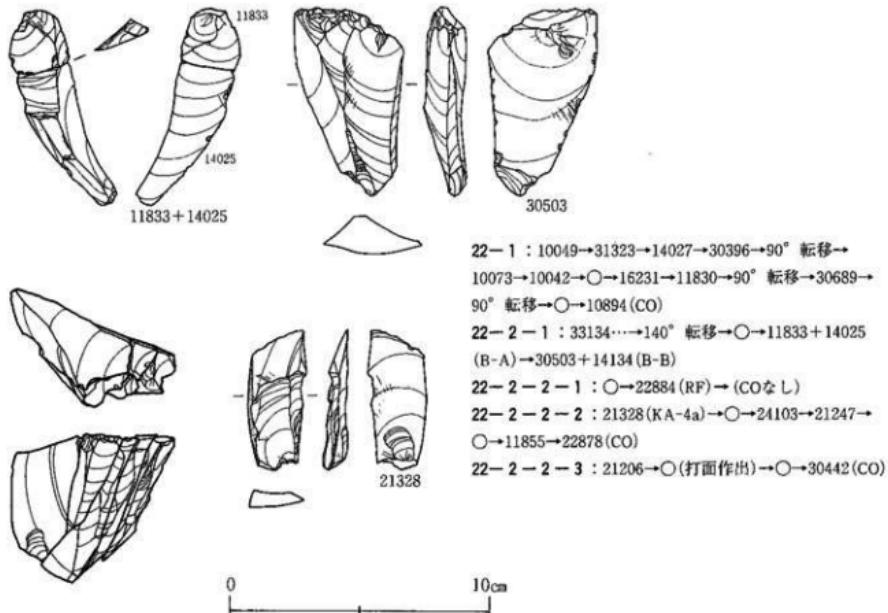
22-2-2 → 22-2-2-1 (63.3g)

22-2-2-2 (90.1g)

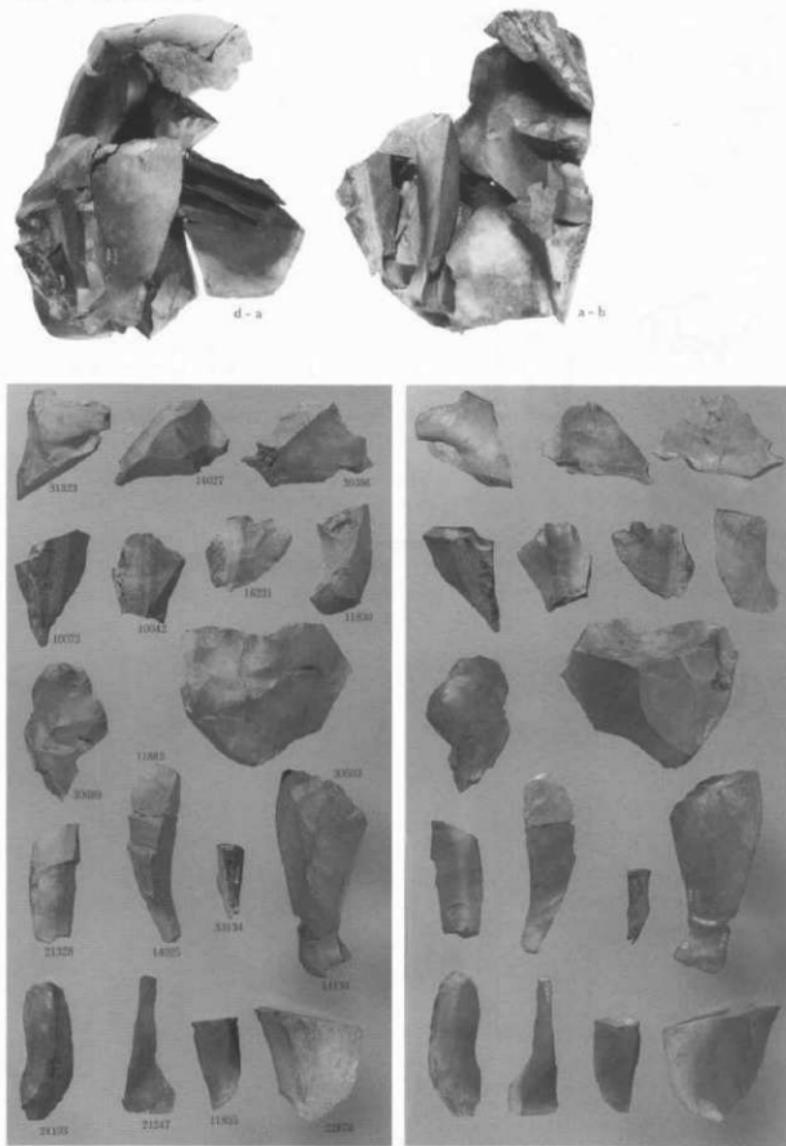
22-2-2-3 (78.9g)

* 1 : 16249+21890 (65.5g)

第136図 個体別資料 (103) 個体22 (1)



第137図 個体別資料 (104) 個体22 (2)



第138図 個体別資料 (105) 個体22 (3) 写真

本個体は、主にD-1ブロック内で剥片剥離を行うが、22-1の残核（10894）のみが約8m離れたE-3ブロックで確認でき、剥離後の残核の移動が想定される。

個体23（第139～141図）

個体23は総数46点（681.0g）で構成される。現存長11cm、幅10cm、厚さ8.5cmの角礫状ではあるが、原形状は不明である。出土位置はL S・L T67グリッドを中心にして東西7m、南北3.3mの範囲内に集中し、1点（10341）のみL T69グリッドで確認している。前者はC-2・4に、後者はC-3ブロックとなる。資料は淡い白色の平行ラミナ（--部底状）を含む灰白色の珪質頁岩であり、礫皮面は明褐色となる。

個体は2分割（23-1と2）の後、2は礫皮面除去後3小分割し、2-3は、更に2細分割する。各小分割個体とも小型貝殻状の剥片を作出している。2-1の13727は残核であるが、その端部に急角度の調整により刃部を作出した搔器に仕上げている（第22図215）。

個体24（第142～144図）

個体24は総数31点（414.7g）で構成される。現存長11.5cm、幅7.8cm、厚さ約7.5cmの亜角礫状を示す。出土位置はMA66グリッドを中心とするD-1ブロックに集中するが、D-2・C-4・D-1とE-3の中間、Bブロック内のSK28B埋土、Dブロック内のSK75埋土でも各1点出土している。資料は暗褐色～灰色の珪質泥岩であり、礫皮面は黄白～黄褐色となる。

個体は当初2分割（24-1と2）させるが、これは2の打面作出を意図した分割と考えられる。しかし分割剥離された1もそのまま遺棄することなく、少なくとも5点の小形貝殻状剥片を生産する石核として利用される。2は、高さ約9cmの石核から石刃・縦長剥片を連続して剥離している。これら石刃の内1点（32750）はナイフ形石器A群に、もう1点（30028）は抉入石器に調整される。残核はなく遺跡外に持ち出された可能性がある。

個体25（第145・146図）

個体25は総数18点（278.6g）で構成される。現存長10cm、幅約6.5cm、最大厚5.2cmの小形で扁平な礫と思われるが、原形状は不明である。出土位置はLR70グリッドを中心とするBブロック内に点在するが、B-1にやまとまる。その他LQ69グリッドから2点出土しているが、これはB・C・F各ブロックの間に位置する。資料は暗褐色（一部灰色）の珪質泥岩であり、礫皮面は黄褐色となる。

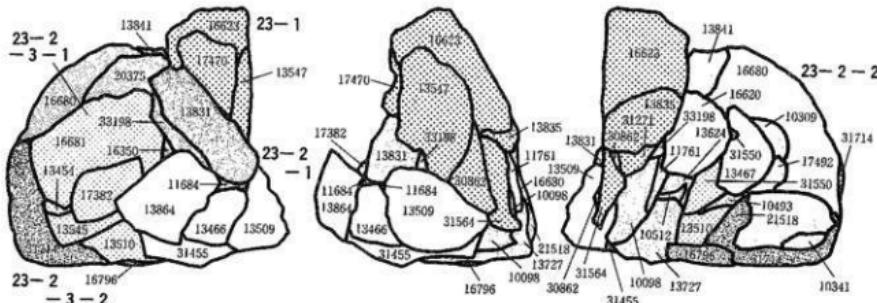
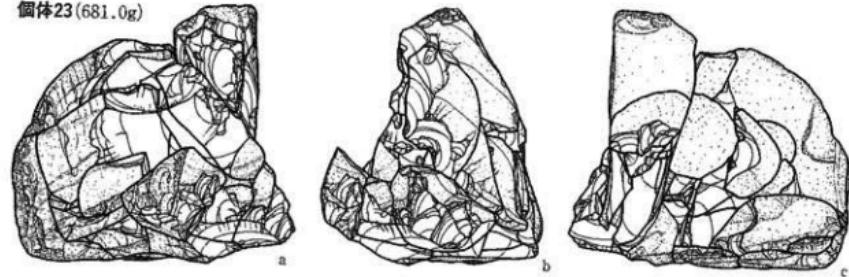
個体は少なくとも3分割（25-0-2）されているが、1の打面に接合するであろう部分の個体（25-0）はない。1は2の打面作出のための分割剥離により生じたと思われる。2は、礫皮面除去後一貫して長さが5cm前後の石刃・縦長剥片の作出を意図した剥離を行っている。これら石刃のうちの3点はナイフ形石器A群に調整している。

この3点のナイフ形石器は、主たる分布を示すB-1ブロックから南東方向に5～7m離れた3地点（B-2、LQ69）での出土である。このことは、B-1内で剥離した石刃をB-2等に移動させ、ここで石器に加工したと判断できるかもしれない。

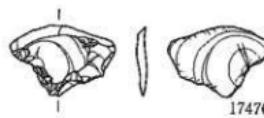
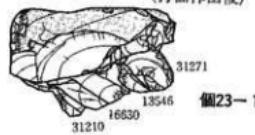
個体27（第147～149図）

個体27は総数27点（351.2g）で構成される。現存長14cm、幅9cm、厚さ8cmの角礫状ではあるが、原形状（P.171～）

個体23(681.0g)



(打面作出後)



31210



13546



16630



31271



23 : 23-1 (89.9g)

※ 1

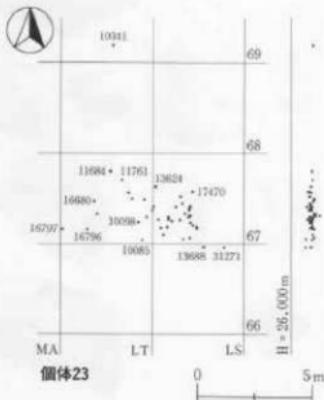
23-2 → (蝶皮・節理面除去) → 23-2-1 (122.3g)
 23-2-2 (133.8g)
 23-2-3 → 23-2-3-1 (133.2g)
 23-2-3-2 (103.5g)

※ 1 13509→13864→13466+31455 (98.3g)

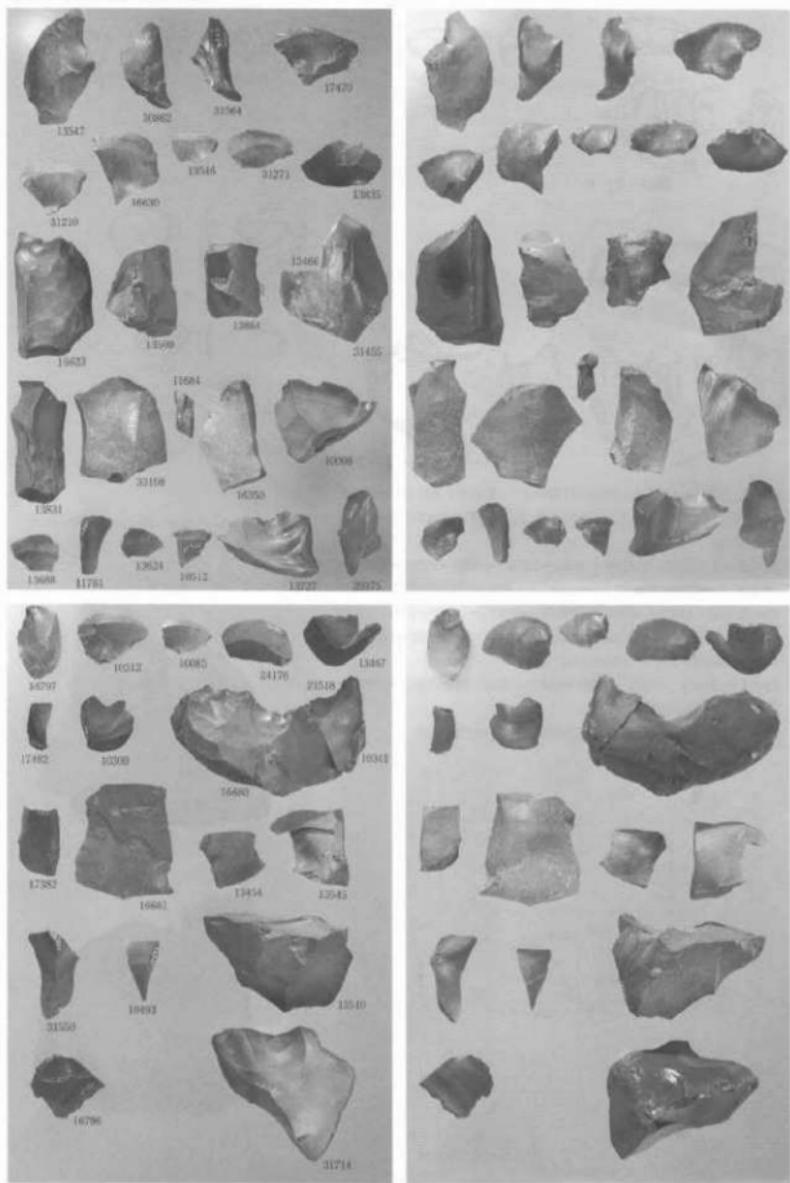
第139図 個体別資料 (106) 個体23 (1)



- 23-1 : 13547 → 30862 → 31564 (打面作成) → 17470 (KBOF-1) → 31210 (KB-2) → 16630 (KBOF-1) → 13546 (KB-3b) → 31271 (KBOF-1) → 13835 → 16623 (CO)
- 23-2-1 : 15831 → 33198 → 11684 → 16350 → 10098 → 11761 → 13688 (KBOF-1) → 13624 (KBOF-1) → 10512 (KB-1b) → 13727 (CO)
- 23-2-2 : 13841 + 16620 (打面作成) → 20375 → 16797 → 10312 (KB-2) → ○ (打面再生) → 10085 (KB-2) → 24176 (KBOF-1) → 13467 → 17492 → 10309 → 16680 + 21518 + 10341 (CO)
- 23-2-3-1 : 17382 → 16681 → 13454 → 13545 (打面作成) → 31550 → 10493 → ○ → 13510 (CO)
- 23-2-3-2 : 16796 → ○ (打面作成) → ○ → 31714 (CO)

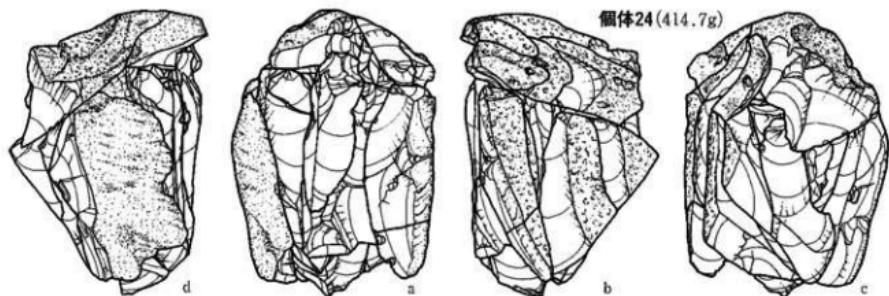


第140図 個体別資料 (107) 個体23 (2)



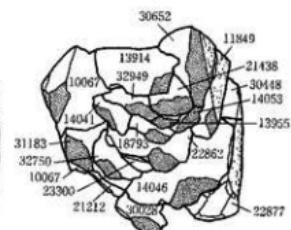
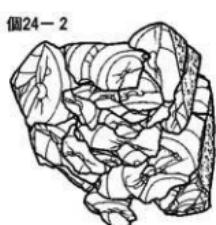
第141図 個体別資料(108) 個体23(3)写真

個体24 (414.7g)

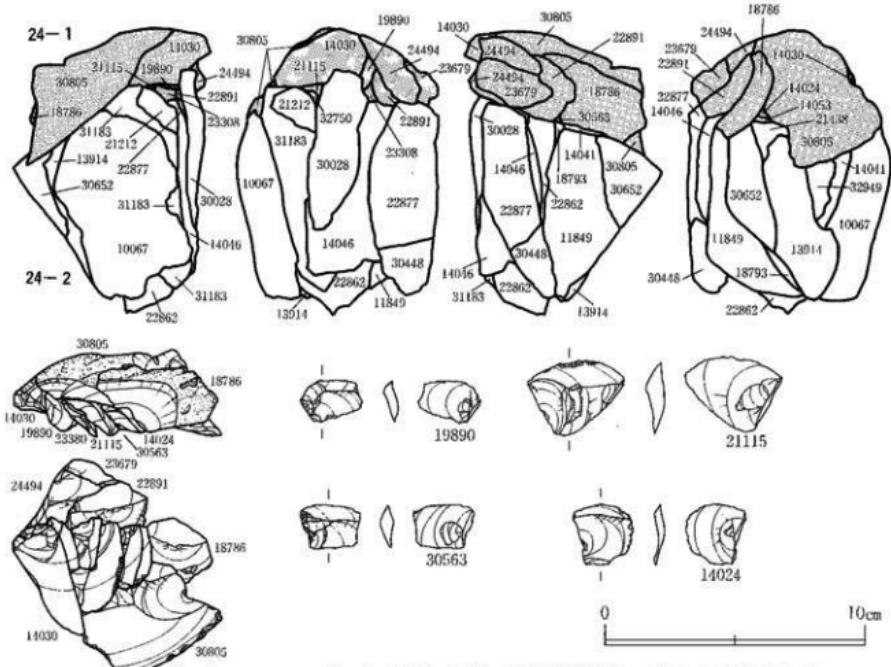


個体24-2

24 : 24-1 (115.1g)
24-2 (299.6g)



打面



24-1 : 23679→24494→22891(打面作出)→14030→19890(KBOF-2)
→○→23308(KBOF-1)→21115(KBOF-1)→30563(KBOF-2)→14024
(KBOF-1)→90° 転移→18786(打面作出)→○→○→30805(CO)

第142図 個体別資料 (109) 個体24 (1)

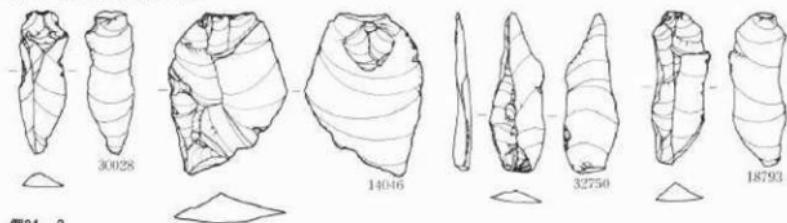
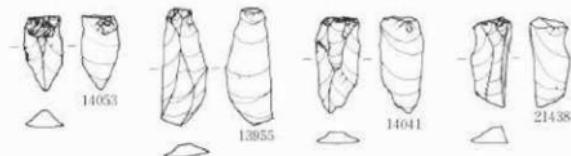
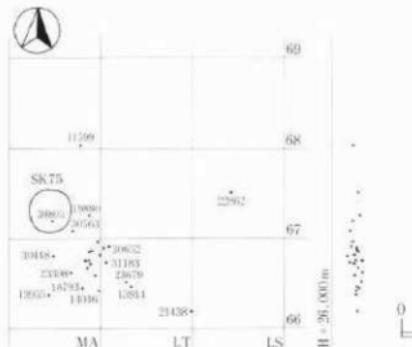
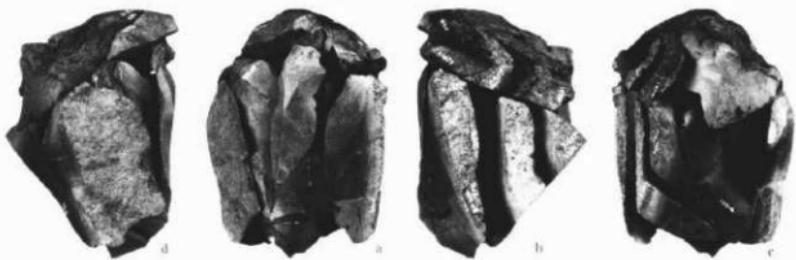


図24-2

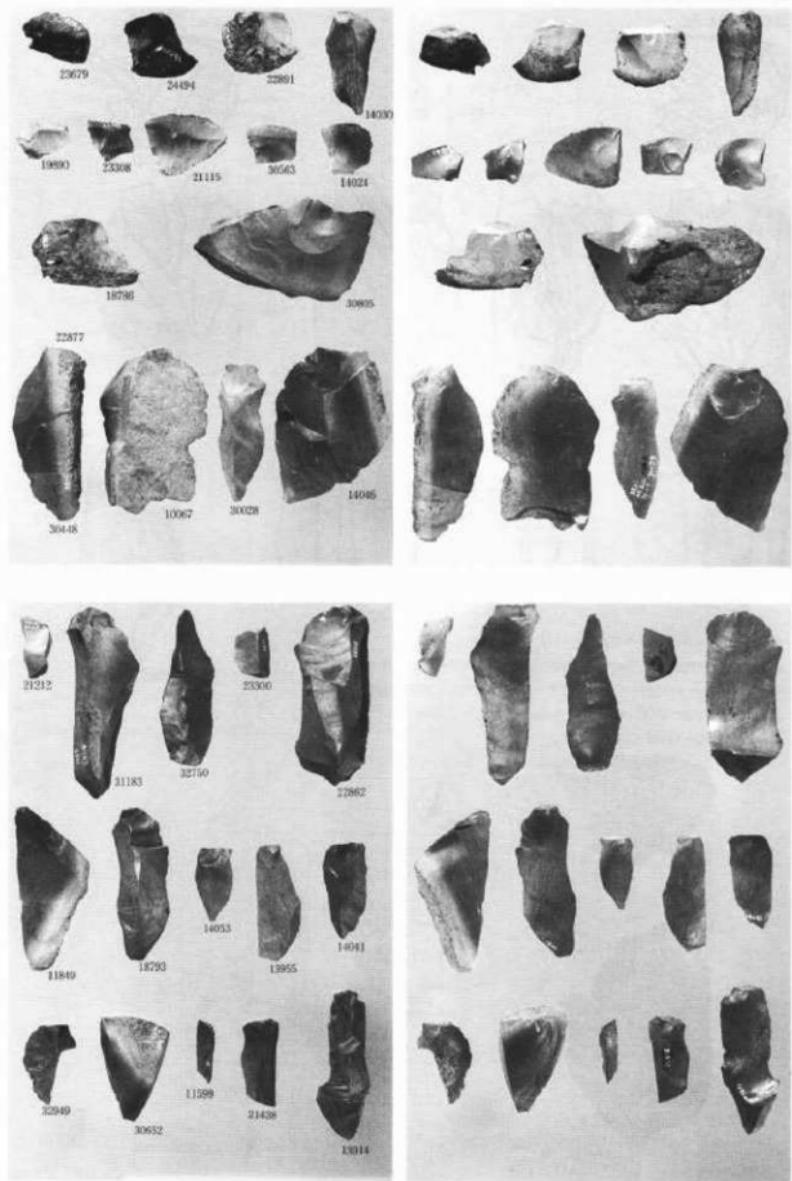


24-2 : 22827→30448→10067→30028(NO)→○→14046→21212→31183
 (B-A)→32750(KA-Ib)→2330→22862→11849→18793(B-A)→
 14053→13955(B-A)→14041(B-A)→32919→30652→11599→
 21438→13914→(COなし)

0 10cm



第143図 個体別資料 (110) 個体24 (2)

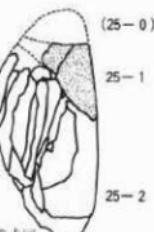
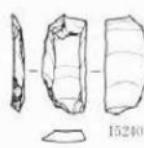
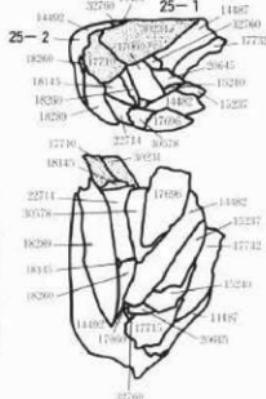


第144図 個体別資料 (111) 個体24 (3) 写真

個体25(278.9g)



25 : 25-1 (16.3g)
25-2 (262.6g)



(25-1)

25-1

25-2

b面での分割模式図

0 10cm

25-1 : 17710→30231→(COなし)

25-2 : 14492(雑皮面除去)→18289→17696→30578→22714(B-B)
→18145(B-A)→18260→○→14482(B-A)→15237(KA-3b)→15240
(KA-3b)→17060(B-A)→20645(KA-3c)→○→○→32760→
17715→17732→14487(CO)



72

180578

17696

17732

30231

SK72

14492

11492

11465

20645

15237

13240

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

14487

32760

17732

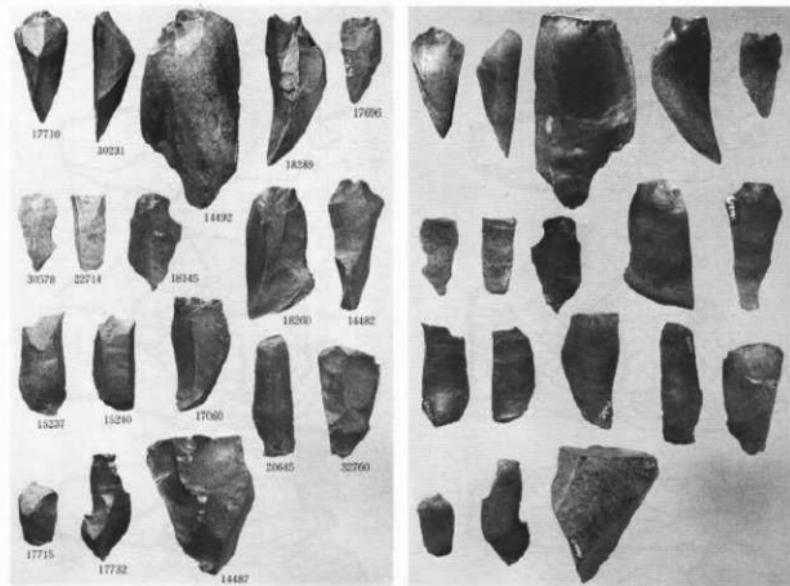
14487

32760

17732
SK72



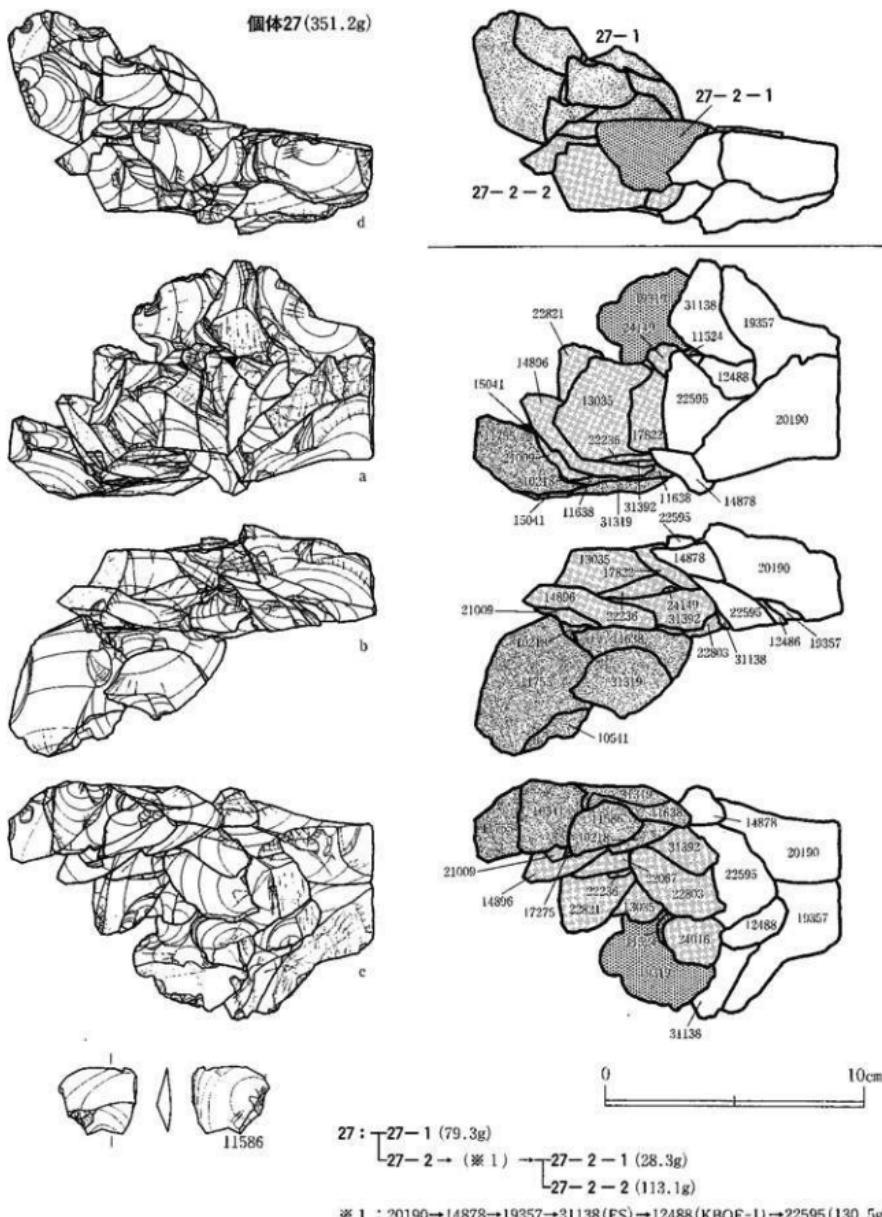
第145図 個体別資料 (112) 個体25 (1)



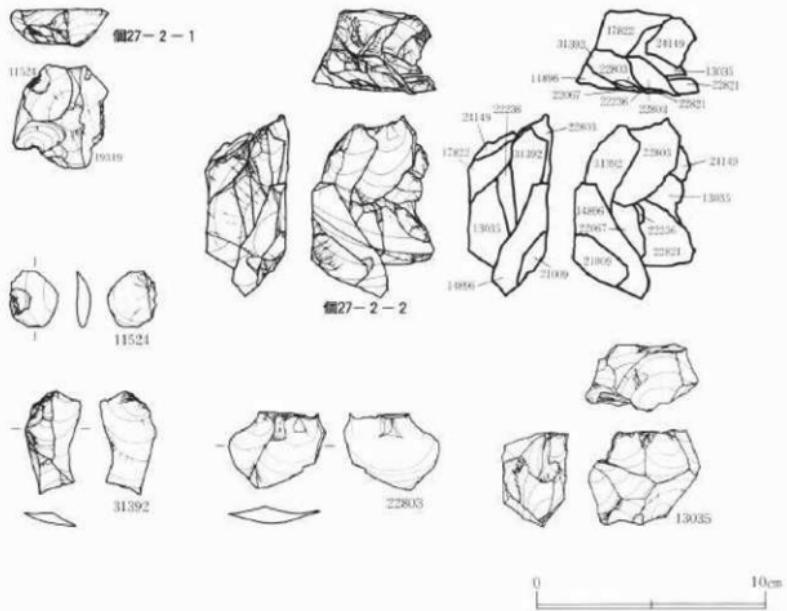
第146図 個体別資料 (113) 個体25 (2)



写真12 調査風景 (D ブロック周辺、北東→)

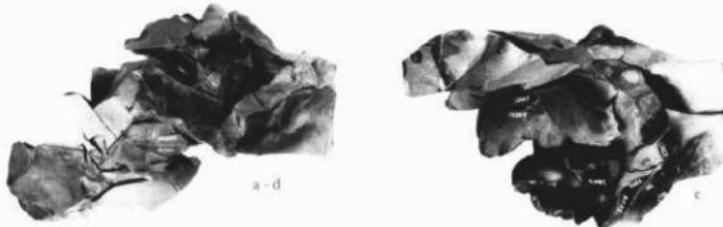


第147図 個体別資料 (114) 個体27 (1)



27-2-1 : 11524 (KBOF-1) → 130° 転移 → ○ (打面作出) → ○ (KBOF) → 19319 (CO)

27-2-2 : 24016 → 21009 → 14896 → 31392 → 22803 → 22067 → 90° 転移 → 21149 → 17822 → 90° 転移 → 22236 → 90° 転移 → 22821 (RF) → ○ → ○ → 13035 (CO)



第148図 個体別資料 (115) 個体27 (2)